

青森県埋蔵文化財調査報告書 第346集

笹ノ沢(3)遺跡Ⅲ

—八戸環状道路建設事業に伴う遺跡発掘調査報告—

2003年3月

青森県教育委員会

笹ノ沢(3)遺跡Ⅲ 正誤表

ページ	行	誤	正
1	6	解析	開析
3	5	日本測地系における	日本測地系第Ⅹ系における
26	31	第5層から5点(87.4g)が出土し、	第5層から5点(87.4g)、層位不明10点(268.4g)が出土し、
32	3	自然礫が1点	自然礫が3点
144	キャプション	図115 第281・282・283号土坑出土遺物	図115 第281・282・283・284号土坑出土遺物
165	16	1b	1
165	17	16	1
192	3	笹ノ沢遺跡は	笹ノ沢(3)遺跡は
220	4右	土層堆積状況	土層完掘状況

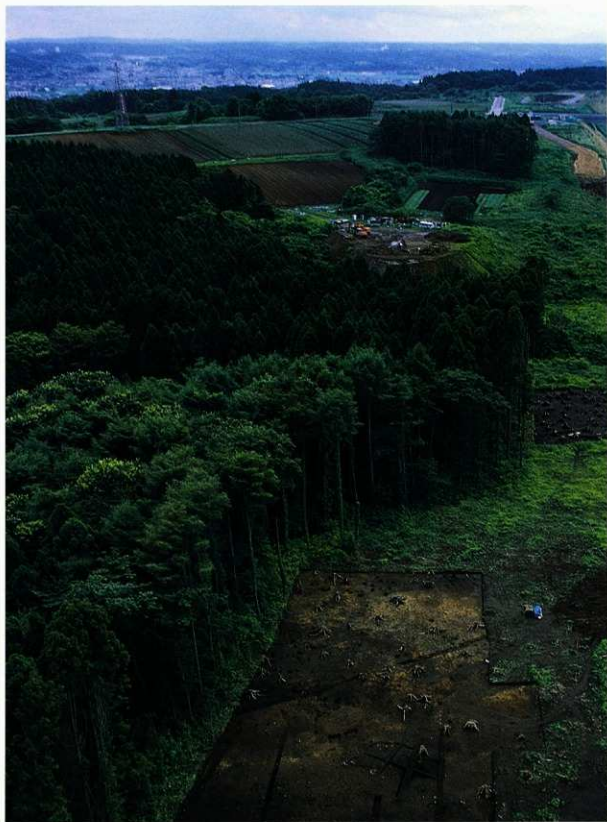
青森県埋蔵文化財調査報告書 第346集

笹ノ沢(3)遺跡Ⅲ

—八戸環状道路建設事業に伴う遺跡発掘調査報告—

2003年3月

青森県教育委員会



遺跡付近の地形

(遺跡上空から八戸市街地方向を望む)



第257号土坑·第261号土坑出土土器 (左:第257号土坑出土、右:第261号土坑出土)

序

八戸市笹ノ沢（3）遺跡は、東北縦貫自動車道八戸－八戸線及び県道八戸環状道路の建設に先立ち、平成10年度から当センターが調査を行っています。

平成13年度の調査では、平成10・11年度に縄文時代中期初頭の集落跡が発見された場所の東側を調査しました。その結果、そこから続く尾根筋に同時期の竪穴住居跡や土坑などが発見され、当時の集落が東側に続くことが明らかになりました。また尾根南側の土坑からは、古墳時代のもと考えられる土器が黒曜石とともに発見されました。この時代の遺構・遺物は県内では発見例が少なく、当時の人の動きを知る上で貴重な資料です。

この報告書は、平成13年度の調査結果をまとめたものです。今回発見された資料を今後この地域の埋蔵文化財の調査・研究、文化財の保護・活用に役立てていただければ幸いです。

最後に、調査の実施から報告書の刊行に至るまで、種々ご指導・ご協力くださった関係各位に対し、厚くお礼を申し上げます。次第です。

平成15年3月

青森県埋蔵文化財調査センター
所長 佐藤 良治

例 言

- 1 本報告書は、八戸環状道路建設事業に伴い、青森県埋蔵文化財調査センターが平成13年度に発掘調査を実施した八戸市笹ノ沢（3）遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 執筆者の氏名は文末に記し、自然科学分析等の依頼原稿については文頭に記した。また、出土した石器の石質鑑定は佐々木辰雄（県立八戸南高等学校教諭）氏に依頼した。
- 3 遺物写真撮影は、田中義道（シルバーフォト）に委託した。
- 4 出土遺物のうち、土器復元個体84点の実測は株式会社アイシン精機、剥片石器176点の実測は株式会社アルカにそれぞれ委託した。
- 5 調査区内に新設した4級測量基準点の測量業務は、株式会社コサカ技研に委託した。
- 6 本報告書に掲載した遺跡位置図には、国土交通省国土地理院発行の5万分の1地形図『八戸』・『三戸』を使用した。
- 7 基本層序及び遺構の土層注記には、小山忠正・竹原秀雄『新版標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修 1997・1998年）を使用した。
- 8 本書を編集するにあたり、下記の機関及び諸氏にお世話になった（順不同 敬称略）。
今村峯雄、宇部則保、大野亨、小林謙一、高橋與右エ門、谷口康浩、西沢正晴、高木晃、井上雅孝、吾妻俊典、高橋誠明

凡 例

- 1 遺構の表記は、青森県埋蔵文化財調査センターで定めた下記の略号を使用している。

SB 掘立柱建物跡	SD 溝跡	SE 井戸跡	SI 住居跡
SK 土坑	SN 焼土遺構	SQ 配石・集石遺構	SR 土器埋設遺構
ST 捨て場	SV 溝状土坑	SX その他の遺構	
- 2 挿図中の北方位は、座標北である。
- 3 測量法の改正により経緯度の記載方法が旧日本測地系から日本測地系2000に変更となったため、抄録では両者の数値を併記しているが、挿図・本文は全て旧日本測地系を使用している。
- 4 挿図の縮尺は、各挿図にスケールとともに示した。ただし、座標の表示のあるものについてはスケールを示していない場合がある。
- 5 挿図中で用いたスクリーントーンは次のとおりである。



- 6 縄文原体の基本的な分類は『日本先史土器の縄文』（山内清男、1979年）に従ったが、観察表中ではその名称を略記した場合がある。
- 7 遺物写真の縮尺は、特に断りのない場合以下のとおりである。
土器・礫石器：1/3 土偶・土製品・剥片石器：1/2

目 次

序

例言・凡例

目次

第1章 調査の概要	1
第1節 既往の調査	1
第2節 調査要項	1
第3節 平成13年度調査の概要	3
第2章 遺跡の層序	6
第3章 検出遺構とその出土遺物	8
第1節 検出遺構の概要	8
第2節 検出遺構と出土遺物	16
第4章 自然科学的分析	166
第5章 まとめ	192
引用・参考文献	197
写真図版	199
抄録	
奥付	

図 版 目 次

図1 遺跡位置図	2	図17 第220・221・222・223・224号土坑	29
図2 遺構周辺地形図及び路線図	5	図18 第224・225号土坑	31
図3 基本層序	7	図19 第226・227・228・229号土坑	33
図4 遺構配置図 (S=1/800)	9・10	図20 第231号土坑	34
図5 遺構配置部分図 (S=1/250)	13	図21 第230・232・233号土坑	35
図6 第16号竪穴住居跡 (1)	17	図22 第235・236・237号土坑	37
図7 第16号竪穴住居跡 (2)	18	図23 第238・240A・240B号土坑	39
図8 第16号竪穴住居跡 (3)	19	図24 第239・241・251・252号土坑	40
図9 第16号竪穴住居跡 (4)	20	図25 第242・243・244・245号土坑	42
図10 第17号竪穴住居跡 (1)	21	図26 第246・249号土坑	43
図11 第17号竪穴住居跡 (2)	22	図27 第247号土坑	44
図12 第17号竪穴住居跡 (3)	23	図28 第250・254・255号土坑	46
図13 第20号竪穴住居跡	24	図29 第256・257・258・259・260・261・262・ 263・264号土坑	47
図14 第21号竪穴住居跡	25	図30 第265・266・267号土坑	50
図15 第22号竪穴住居跡 (1)	27	図31 第267・268号土坑	51
図16 第22号竪穴住居跡 (2)	28		

図32	第270・277号土坑	52	図82	第22号竪穴住居跡出土遺物 (10)	111
図33	第271・272・273・274号土坑	54	図83	第22号竪穴住居跡出土遺物 (11)	112
図34	第276・278・279号土坑	56	図84	第22号竪穴住居跡出土遺物 (12)	113
図35	第280・281号土坑	57	図85	第22号竪穴住居跡出土遺物 (13)	114
図36	第282・284・289号土坑	59	図86	第22号竪穴住居跡出土遺物 (14)	115
図37	第283号土坑	60	図87	第22号竪穴住居跡出土遺物 (15)	116
図38	第285・288・290号土坑	61	図88	第22号竪穴住居跡出土遺物 (16)	117
図39	第286・287号土坑	63	図89	第22号竪穴住居跡出土遺物 (17)	118
図40	第286・287・291号土坑	64	図90	第22号竪穴住居跡出土遺物 (18)	119
図41	第291・292号土坑	65	図91	第22号竪穴住居跡出土遺物 (19)	120
図42	第293・296号土坑	66	図92	第221・224・225・229・230号 土坑出土遺物	121
図43	第295・297号土坑	68	図93	第230・231号土坑出土遺物	122
図44	第295・297・298号土坑	69	図94	第231・232・233号土坑出土遺物	123
図45	第299・300・301・302号土坑	70	図95	第234・235・236・237・239号 土坑出土遺物	124
図46	第303・304・305号土坑	72	図96	第240A・241・242・243・244号 土坑出土遺物	125
図47	第306・307・308・309・310号土坑	74	図97	第244・245号土坑出土遺物	126
図48	土器埋設遺構	76	図98	第245・246・247号出土遺物	127
図49	溝状土坑	78	図99	第247号土坑出土遺物 (1)	128
図50	溝跡	79	図100	第247号土坑出土遺物 (2)	129
図51	第16号竪穴住居跡出土遺物 (1)	80	図101	第247号土坑出土遺物 (3)	130
図52	第16号竪穴住居跡出土遺物 (2)	81	図102	第247号土坑出土遺物 (4)	131
図53	第16号竪穴住居跡出土遺物 (3)	82	図103	第247号土坑出土遺物 (5)	132
図54	第16号竪穴住居跡出土遺物 (4)	83	図104	第247・249・251・252・253・254・ 255・256号土坑出土遺物	133
図55	第16号竪穴住居跡出土遺物 (5)	84	図105	第256・257・260・261号土坑出土遺物	134
図56	第16号竪穴住居跡出土遺物 (6)	85	図106	第263・265・266・267号土坑出土遺物	135
図57	第16号竪穴住居跡出土遺物 (7)	86	図107	第268・270・272~274号土坑出土遺物	136
図58	第16号竪穴住居跡出土遺物 (8)	87	図108	第274・277・278号土坑出土遺物	137
図59	第16号竪穴住居跡出土遺物 (9)	88	図109	第278号土坑出土遺物	138
図60	第16号竪穴住居跡出土遺物 (10)	89	図110	第278号・279号土坑出土遺物	139
図61	第16号竪穴住居跡出土遺物 (11)	90	図111	第280・281号土坑出土遺物	140
図62	第16号竪穴住居跡出土遺物 (12)	91	図112	第281号土坑出土遺物 (1)	141
図63	第17号竪穴住居跡出土遺物 (1)	92	図113	第281号土坑出土遺物 (2)	142
図64	第17号竪穴住居跡出土遺物 (2)	93	図114	第281号土坑出土遺物 (3)	143
図65	第17号竪穴住居跡出土遺物 (3)	94	図115	第281・282・283号土坑出土遺物	144
図66	第17号竪穴住居跡出土遺物 (4)	95	図116	第284・285・286号土坑出土遺物	145
図67	第17号竪穴住居跡出土遺物 (5)	96	図117	第286号出土遺物 (1)	146
図68	第17号竪穴住居跡出土遺物 (6)	97	図118	第286号出土遺物 (2)	147
図69	第17号竪穴住居跡出土遺物 (7)	98	図119	第286号出土遺物 (3)	148
図70	第20号竪穴住居跡出土遺物	99	図120	黒曜石原産地	180
図71	第21号竪穴住居跡出土遺物 (1)	100	図121	笹ノ沢(3)遺跡出土黒曜石剥片 (8507) の 非破壊分析水和層の干渉波スペクトル (A)	181
図72	第21号竪穴住居跡出土遺物 (2)	101	図122	放射性炭素年代の暦年校正グラフ	184
図73	第22号竪穴住居跡出土遺物 (1)	102	図123	脂肪酸・ステロール組成	188
図74	第22号竪穴住居跡出土遺物 (2)	103	図124	調査区南側遺構配図	194
図75	第22号竪穴住居跡出土遺物 (3)	104	図125	古墳時代土器集成	196
図76	第22号竪穴住居跡出土遺物 (4)	105			
図77	第22号竪穴住居跡出土遺物 (5)	106			
図78	第22号竪穴住居跡出土遺物 (6)	107			
図79	第22号竪穴住居跡出土遺物 (7)	108			
図80	第22号竪穴住居跡出土遺物 (8)	109			
図81	第22号竪穴住居跡出土遺物 (9)	110			

第1章 調査の概要

第1節 既往の調査

笹ノ沢（3）遺跡の調査は、平成10・11年度に東北自動車道八戸線（八戸～八戸）建設事業、平成12年に県道八戸環状道路建設事業にそれぞれ先立ち、青森県埋蔵文化財調査センターによって実施されている（図1・2）。その成果（青森県教育委員会2001・2002）を参照すると、遺跡は解析の進んだ段丘上に位置する浅い谷地形を挟んで、北側の尾根に溝状土坑が位置し、狩猟場と考えられる。南側の尾根では縄文時代中期初頭の集落跡が検出された。この集落の大部分は円筒上層a式期という限定された期間に営まれていたことが判明し、当該期の集落の構成・時期的な変遷を考える上で貴重な資料となった。平成12年度の調査では、北側尾根の斜面裾部に縄文時代前期末～中期初頭のプラスチック状土坑が検出され、集落の開始時期が若干遡る可能性が指摘された。

第2節 調査要項

- | | | | |
|----------------|---|-------------------------|-------------------------|
| 1 調査目的 | 八戸環状道路建設事業の実施に先立ち、当該区域に所在する笹ノ沢（3）遺跡の発掘調査を行い、その記録を保存し、地域社会の文化財の活用に資する。 | | |
| 2 調査期間 | 平成13年6月18日から同年11月9日まで | | |
| 3 遺跡名及び
所在地 | 笹ノ沢（3）遺跡（青森県遺跡台帳番号 03042）
八戸市大字尻内町字下毛合清水7-10、外 | | |
| 4 調査対象面積 | 4,200㎡ | | |
| 5 調査委託者 | 青森県県土整備部 | | |
| 6 調査受託者 | 青森県教育委員会 | | |
| 7 調査担当機関 | 青森県埋蔵文化財調査センター | | |
| 8 調査体制 | 調査指導員 | 村越 潔 | （考古学 青森大学教授） |
| | 調査員 | 七崎 修 | （地質学 元青森県立八戸北高等学校教諭） |
| | | 工藤 竹久 | （考古学 八戸市教育委員会文化課副参事） |
| | 調査担当者 | 青森県埋蔵文化財調査センター | |
| | 所長 | 中島 邦夫 | （現青森県立郷土館長） |
| | 次長 | 成田 誠治 | （平成14年3月退職） |
| | 総務課長 | 西口 良一 | （現商工観光労働部 労政・能力開発課総括主幹） |
| | 調査第二課長 | 福田 友之 | （現次長） |
| | 文化財保護主事 | 中村 哲也 | （6月18日～11月9日） |
| | | 葛城 和穂 | （7月3日～11月9日） |
| | | 浅田 智晴 | （9月3日～10月31日） |
| | 調査補助員 | 秋田谷恵美 神 健太郎 工藤 百恵 泉山 弥生 | （6月18日～11月9日） |
| | | 工藤美奈子 細川志穂子 | （9月1日～10月31日） |

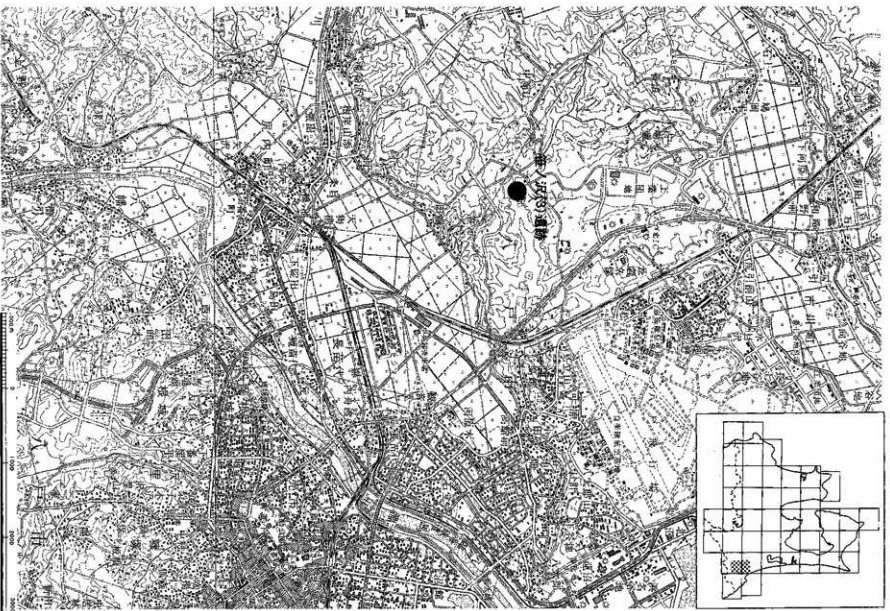


图 1 遺跡位置图 (S=1/50,000)

第3節 平成13年度調査の概要

調査の方法

調査はグリッド法を基本とした。グリッドの原点・規模（4×4m）・呼称等は平成10・11年度調査時のもの（青森県教育委員会 2002）を踏襲した。日本測地系における公共座標値（X=59,900m Y=50,880m）を原点とし、東から西に向かってアルファベット（A・B・C……）、北から南に向かって算用数字（0・1・2……）を付した。ただし、東西軸のAラインより東側については0とアルファベットの小文字の組み合わせ（0a・0b・……0y）で表した。グリッドの呼称は北東隅の交点をあてた。

グリッド杭は、路線杭設置のため遺跡内に設置されていた4級測量基準点をもとに、新たに8ヶ所の基準点を結合多角方式により設置し、これを用いて打設した。

標高値は、前年度に設置したB.M.から移設した。

表土の除去及び排土の移動は重機を用い、それ以外は人力での掘り下げを基本としたが、一部人力で表土から掘り下げたところもある。

遺構は種別ごと・検出順に名称を付した。遺構ごとの略号については凡例を参照されたい。なお調査後に遺構ではないと認定されたものについては整理作業の段階で欠番とした。

遺構の精査には各遺構の規模・形状に合わせて、四分法と二分法を適宜採用した。

遺構外出土遺物の取り上げについては、精査中に原位置を失ったものや大きさが1cmに満たないような土器の小片を除き、光波トランシットを用い基本的に全ての遺物の位置と層位を記録した。また、必要に応じて微細図を作成した。遺構内出土遺物の取り上げは、堆積土を分層し層位ごとに取り上げた。帰属層位は土層観察用のベルトを残して水平に掘り下げ、遺物が出土した段階で掘り下げを止め土層断面を分層し、同時に水平方向の堆積土も分層し、双方を対比させて決定した。しかし全ての遺構で実施できたわけではない。

層序については、遺構堆積土は算用数字、調査区全体の自然堆積層はローマ数字で表記した。なお、多量の遺物を伴う人為堆積層については個別に層番号を付している。

遺構実測図は縮尺1/20を基本としたが、遺構・遺物の検出状況によって適宜変更し作成した。

写真撮影は、35mmカメラを主体とし、カラーリバーサルフィルム・モノクロフィルム・カラーネガフィルムを用いて撮影した。また、メモ写真用としてポラロイドカメラも使用した。これは、主に遺構精査時のメモ用として使用した。

調査経過

6月18日に機材を搬入し、調査員1人、作業員23人の体制で調査を開始した。調査区内の環境整備後粗掘を開始し、当初、尾根の頂部から北側斜面にかけての調査を進めたが、斜面に広がる人為堆積層から出土する遺物量が多く、掘り下げ及び遺構確認作業は難航した。7月上旬からは作業員52人・調査員2人、調査補助員4人の体制で調査を開始した。比較的遺構・遺物の分布が希薄と考えられたグリッド65ライン以南の調査を排土置き場の確保も兼ねて行うこととし、調査区を東西に2分割し東側の粗掘を開始した。また、取り付け道路建設に伴う優先調査区の当初の引き渡し期日が8月上旬であったことから、該当する部分の調査を優先して行うこととした。おおよそグリッドAライン

から東側がこの優先範囲にはいるため、Aラインから西側の調査を中断し東側の調査を行った。7月下旬には第16号竪穴住居跡の精査を開始したが、堆積土から多量の遺物が出土し調査は難航した。9月には職員・作業員を増員し、遺構の精査を本格的に開始した。調査区南側の調査も、残っていた西半分の調査が9月で終了し、古墳時代のもと考えられる土師器とそれに伴うと考えられる黒曜石が土坑内から出土した。10月中旬には遺構の精査と並行して、次年度に持ち越す調査区の保護を行った。当初10月末までの予定であったが、遺物の密度が想像以上であったため、予定を延長し11月9日に全ての遺構の精査を終え、調査を終了した。

整理の方法

遺物が多量に出土したため、報告書450p相当の整理作業を計画し、そのうち278p分を報告することとした。そのため、遺構の一部とその出土遺物、および遺構外で出土した遺物の出土状況や遺物実測図は平成15年度に報告することとなった。

遺物については、光波トランシットを用いて記録した遺物の出土位置を、アイシン精機株式会社の遺構実測支援システム「遺構くん」を用い、三次元の座標に変換した。この段階で、一部のB.Mの標高に誤りがあることが判明し、平成14年度の発掘調査において再計測を行い、座標の再計算を行った。その際、一部のデータの取扱いを誤りデータが消失したものがある。

水洗・注記の終了した全ての遺物の重量・層位をコンピューターに登録した。遺物の登録番号は、現場での取り上げ番号を用いた。取り上げ時に同一個体として扱ったものでも、接合しない例があり、これらはP1-1のように、枝番号を付して登録した。

並行して遺物の接合を行った。土器の復元の際、異なる登録番号同士が接合した場合、あるいは異なる登録番号同士でも明らかに同一個体であるものは個体番号を付した。しかし、後に登録番号が単一で復元できた個体の一部にも実測時の管理上の都合で個体番号を付した。その数は個体番号の一部にとどまるが、個体番号のすべてが接合・同一個体を表すわけではない。

これらの作業が終了した後、遺物出土位置の座標と重量・層位等のデータを組み合わせた。

接合終了後に掲載遺物の選別を行った後、写真撮影・実測・拓本・トレースの順に作業を進め、図版作成を行った。土器に関しては、完形品及び径を復元できるものを中心に実測を行った。それ以外の土器片については必要に応じ採拓した。石器は剥片石器を優先し、礫石器は完形及び略完形のもの優先し実測を行った。

遺構図は、原図をスキャナーでコンピューター上に取り込み、アイシン精機株式会社の遺構実測支援システム「遺構くん」上でトレースした。これに先の遺物のデータを加え、1/20で出力し、完成図版とした。

(葛城)

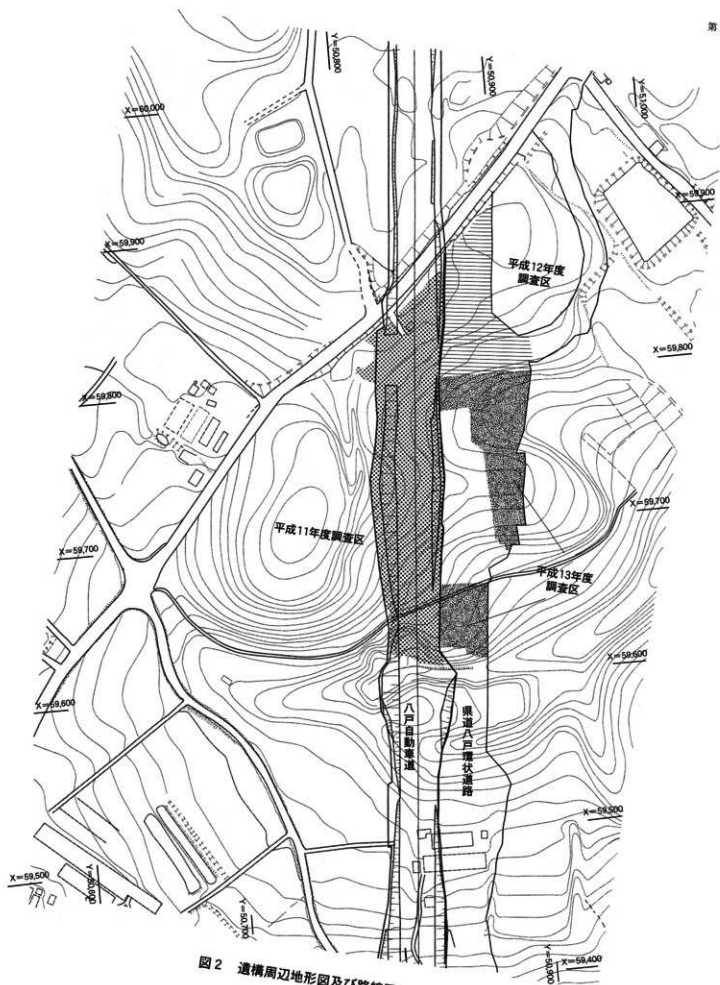


図2 遺構周辺地形図及び路線図

第2章 遺跡の層序

平成13年度の調査区域は、遺跡の南側尾根とその両側斜面に及んでいたが、平成10年度～12年度年度の調査で層序はほぼ把握されており、大きな相違は無いものと予想された。そこで、基本的な土層名は平成12年度調査のものを使用することとし、当初から土層把握用のトレンチを設けることはせず、尾根頂部の黒色土の堆積が薄い部分では、土坑の壁面を層序の確認に利用した。結果的に黒色土と降下火山灰の関係を連続した図上で表現できないこととなった。また、遺跡全面には広がらない土層が斜面部で検出されたため、一部に土層観察用ベルト・トレンチを設けて層序を観察することとした。以下に各土層の特徴を記述する。

第Ⅰ層 10YR2/1 黒褐色シルト 草木根を多く含みあまりしまっていない。

第Ⅱ層 やや砂質の黒色シルトで、堆積状況の良好な部分では、2層に分層可能である。

第Ⅱa層 10YR1.7/1 黒色砂質シルト ϕ 3mmの硬質な軽石（十和田b降下軽石：To-b）を含む。軽石の表面は黒色を呈するが、断面は白色である。下層よりやや砂が少ない。

第Ⅱb層 10YR2/1黒色砂質シルト 上層にみられる十和田b軽石（To-b）を含まず、砂が多い。中振浮石が母材の一部と考えられ、黄褐色微細粒を含んでいる。

第Ⅲ層 10YR3/1～3/2黒褐色砂質シルト 中振浮石起源と思われる ϕ 1mmの微細粒子を多量含む。中振浮石が ϕ 10cm程度の範囲に集中する部分がある。

第Ⅳ層 10YR4/4褐色シルト 粒径が細かく、粘性の強いシルト。今回の調査では斜面北側の東端トレンチ・SK-284付近で確認した。

第Ⅴ層 褐色～黄褐色の堅くしまった火山灰土で、八戸火山灰上部に相当すると思われる。

第Ⅵ層 八戸火山灰層下部

第Ⅵa層 10YR7/8黄褐色砂質火山灰層 堅くしまっている。八戸火山灰Ⅴ層。

第Ⅵb層 10YR6/6明黄褐色浮石層 ϕ 3mm。八戸火山灰第Ⅳ層。

第Ⅵc層 10YR5/4黄褐色粘土質火山灰層～10YR6/6明黄褐色浮石層 八戸火山灰第Ⅲ層。

第Ⅵd層 10YR7/6明黄褐色浮石層 八戸火山灰第Ⅱ層。

第Ⅵe層 10YR8/2 灰白色粘土質火山灰土 八戸火山灰第Ⅰ層上部。

第Ⅵf層 10YR8/2灰白色浮石層 八戸火山灰第Ⅰ層に含まれる浮石層。

第Ⅵg層 10YR8/2灰白色粘土質火山灰層 八戸火山灰第Ⅰ層下部。

第Ⅶ層 7.5YR4/4 褐色粘土質火山灰土。高嶺火山灰層上部。最上部は5YR4/1褐色粘土質火山灰土である。

尾根頂部では、表土直下に第Ⅴ層以下の土層が堆積している。そのため、欠如する土層も多く、土色も黄色みが強くなっており、当初は土層の認識を誤っていた。現場でデータを修正することができず、整理時に修正を行った。遺構の記載で「Ⅵc以下」「Ⅵd～Ⅵg」のような表現があるのは、そのような理由によるものである。

斜面部では、第Ⅱ層と第Ⅲ層の間に、多量の遺物を含む土層が認められた。土色や産状から判断して、人為的な要因で堆積したものと考えられ、これをA層と呼んだ。A層は平成13年度ですべての調

査を終えた訳ではないので、詳細は平成15年度刊行予定の笹ノ沢(3)遺跡IVで述べる予定である。

平成10・11年度調査(『笹ノ沢(2)・(3)遺跡』青森県教委2001)の土層と平成13年度調査の土層の対応関係は次の通りである。(中村)

平成10・11年度調査	平成13年度調査	平成10・11年度調査	平成13年度調査
I	I	VI	
II	II (IIa)	VII	VIa
IIIa	IIb	VIII	VIb
IIIb	III	IX	VIc~VI f
IVa	IV	X	VII (最上部)
IVb	IV	XI	VII
V	V		

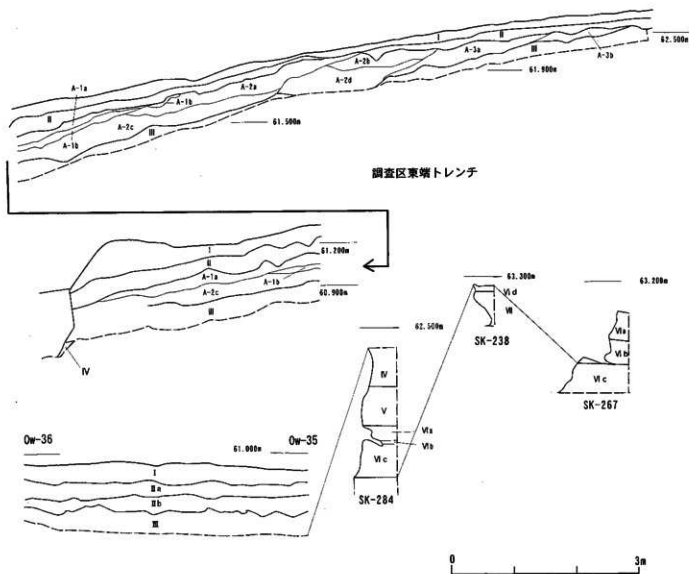


図3 基本層序

第3章 検出遺構とその出土遺物

第1節 検出遺構の概要

平成13年度の調査で精査を実施した遺構は住居跡5軒、土坑81基、土器埋設遺構11基、人為堆積層3カ所、溝状土坑6基、溝跡2条である。住居跡、土坑の大多数、土器埋設遺構、遺物包含層は縄文時代前期末から中期初頭のもので、集落を構成する要素である。溝状土坑はこれまでの調査では、縄文時代後期ないしそれ以降と考えられており、今回検出されたものも同様と考えられる。溝は少なくともこれらの遺構よりは新しい時期のものと考えられる。

住居跡は、全て縄文時代中期初頭と考えられ、6m程度の楕円形ないし卵形のもの、4m前後の不整円形のもの、地滑りによる変形と風倒木による攪乱で形状規模が不明なものがある。

土坑は81基中63基が縄文時代前期末～中期初頭のものと考えられ、そのほとんどは断面形状がフラスコ形、ピーカー形を呈するものである。

遺物包含層は、尾根の南北両斜面に形成されている。その形成期間は1軒の住居や1基の土坑の使用期間より長いと考えられ、これらの遺構との重複の仕方は複雑である。ほぼ1個体全部と考えられる土器、あるいは1個体に満たない土器が潰れた状態で出土する場合はしばしばある。一方で小型の土器は完形で出土する場合もあるし、大型の土器は、上半あるいは下半を欠くものが正立や倒立の状態で出土する場合がある。石器以外に礫が多量に含まれている。

土器埋設遺構は遺物包含層と重複しているものがある。遺物包含層は黒褐色～暗褐色を呈する場合が多く掘り方の確認は困難で、土器埋設遺構としたものが全て埋設されたものととらえてよいか疑問も残る。

これらの遺構は、相互に規則的な配置を示している(図5・6)。尾根頂部には土坑が、ここからやや下った斜面には土坑と住居が重複して構築されている。遺物包含層は斜面に形成されており、住居・土坑と重複している。土器埋設遺構はこれらの遺構の分布する区域に散在する。

以下の各節で各遺構について記述するが、位置・規模・検出面・重複関係等は表1中にまとめ、その他必要と考えられる属性について詳述することとした。

なお、本書に遺構・遺物の実測図を掲載できなかったものは、笹ノ沢(3)遺跡Ⅳ(平成16年3月刊行予定)に掲載する予定である。これらは遺構については表中の備考欄にその旨を、遺物については表中の「遺物掲載」の項目に「無」と記してある。(中村)

表1 遺構一覧

1. 一覧中の略号や記号の意味は次に示すとおりである。

<SK-O: SK-Oと重複しSK-Oより古い (): 発掘調査部分の数値 ドット: 出土遺物の位置記録

>SK-O: SK-Oと重複しSK-Oより新しい

2. 計画図のうち、壁穴住居跡・土坑・溝状土坑の平面規模は遺構下端の数値を用いた。縄文時代及びそれ以後の遺構は、一般に黒色土中から掘り込まれている。遺構内には火山灰土の崩落土も一般的に認められ、より上部の壁を構成する黒色系統の土層の崩落土が存在することは当然推定できる。従って、遺構の上端は、遺構の埋設過程において崩落により変形することが当然と考えられる。また、遺構検出面にお

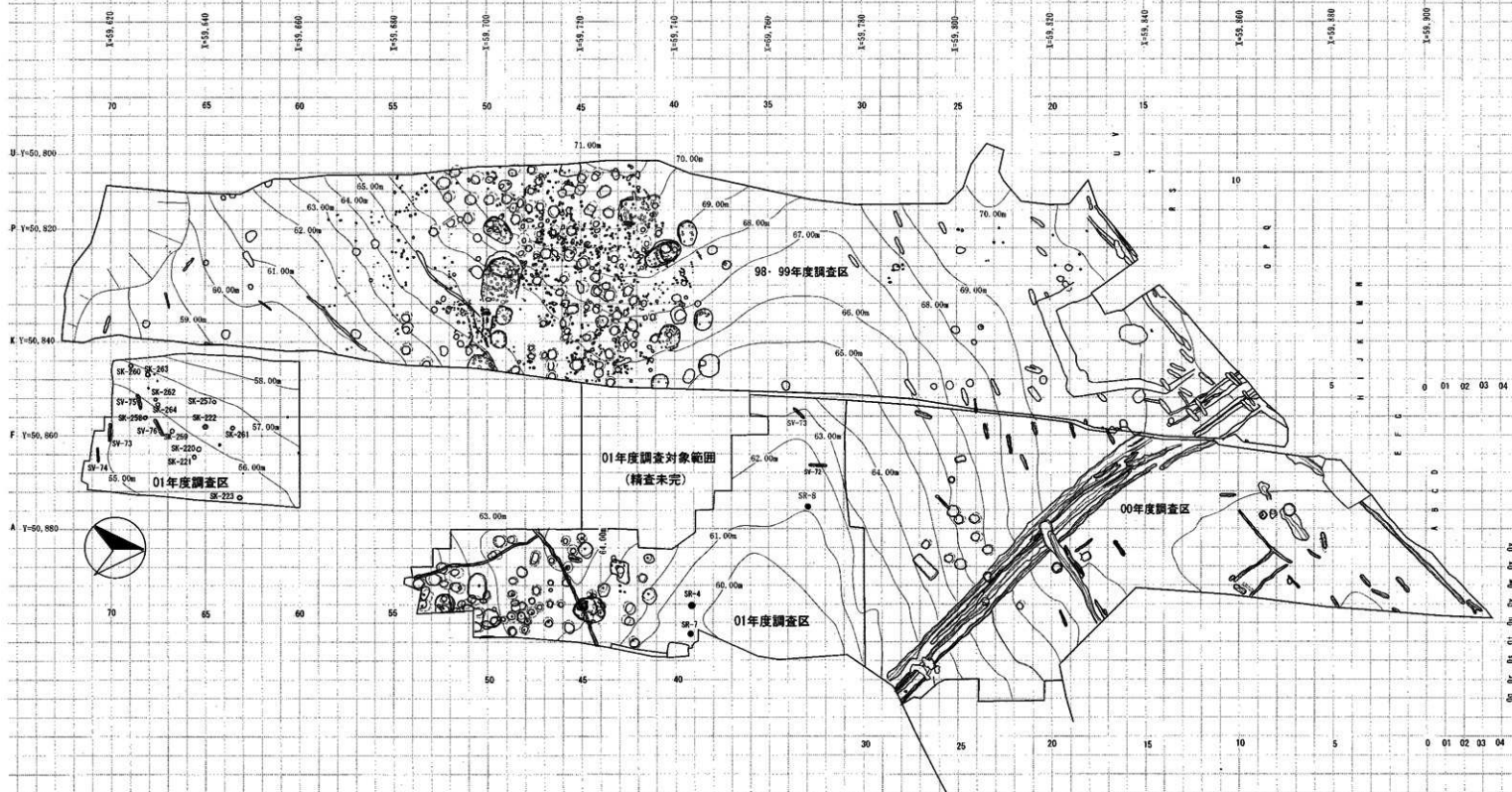


図4 遺構配置図 (S=1/800)

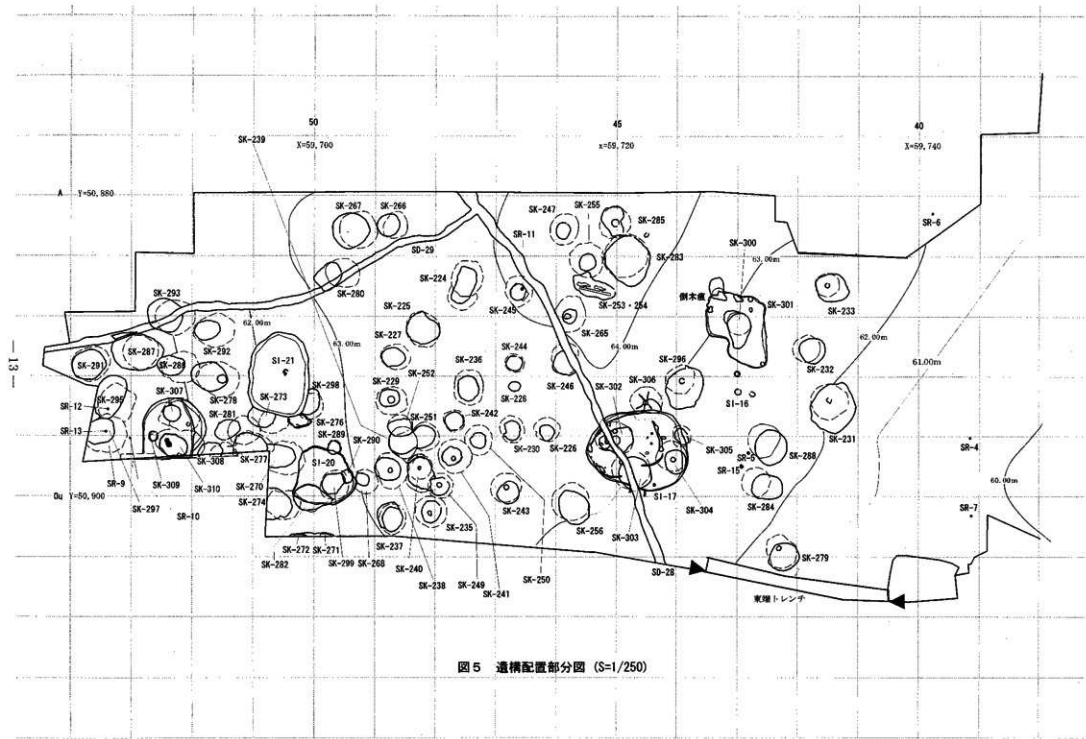


図5 遺構配置部分図 (S=1/250)

ける上端の計測値は周辺土層の厚さと掘り込み面のレベル、検出時の掘り下げの程度によって変化が生じる、遺構の垂直方向の任意の位置における数値であり、それが変化する要因も一定でない。遺構の法量を表す基準値として用いるのは不相当であると考えられる。下層はこのような要因に規定されないで、基準値として用いるのにより相当である。ただし、溝の下端は断面形状によっては幅を表すのに相当でない場合があるので、上端の値を採用した。

3. 計測値のうち、住居・土坑の深さはセクション図における最大値を採用した。

遺構名	位置	検出面	計測値 (m)			番 号	地湧り	遺物 取上	遺物 掲載	備 考
			長軸	単軸	深さ					
SI-16	Ow-x-43-44	V-A-2	地湧りによる変形と側本壁による攪乱のため規模不明			側本壁>SI-16-SK-300-301	有	ドット	有	
SI-17B	Ou-v-43~45	V-A-2~Vic	5.13	3.95	0.70	SD-28>SI-17>SK-302-303-304-305-306	有	ドット	有	
SI-17断	Ou-v-43~45	V-A-2~Vic	6.80	5.36	0.70	SD-28>SI-17>SK-302-303-304-305-306	有	ドット	有	
SI-20	Ot-u-49-50	Vic以下	3.63	3.63	0.42	SK-282-289-290<SI-20	無	ドット	有	
SI-21	Ov-w-50-51	V~Via	5.08	3.4	0.82	SK-273-276-298<SI-21	無	ドット	有	
SI-22	Ou-v-51-52	Ⅲ~Ⅳ	3.73	3.78	0.93	SK-307-308-309-310<SI-22	無	ドット	有	
SK-220	E-65	Ⅲ	0.92	0.78	0.27		無		有	
SK-221	D-65	Ⅲ	0.68	0.63	0.31		無		有	
SK-222	F-64-65	Ⅲ	1.00	0.85	0.63		無		有	
SK-223	B-63	Ⅲ	0.69	0.67	0.51		無		有	
SK-224A	Ox-47	Vic以下	1.67	1.98	0.89	SK-224A>SK-224B	無	ドット	有	
SK-224B	Ox-47	Vic以下	2.54	2.05	0.99	SK-224A>SK-224B	無	ドット	有	
SK-226	Ov-46	Vic以下	1.70	1.56	0.73		無	ドット	有	
SK-227	Oy-49	Vic以下	1.99	1.71	0.54		無	ドット	有	
SK-228	Ov-46	Vic以下	0.76	0.70	0.14		無		有	
SK-229	Ov-48	Vic以下	2.09	1.86	1.25		無	ドット	有	
SK-230	Ou-v-46	Vic以下	1.88	1.55	1.12		無	ドット	有	
SK-231	Ov-41	Ⅲ	2.62	2.40	1.93		無	ドット	有	
SK-232	Ow-41-42	Ⅲ	1.87	1.87	1.61		無	ドット	有	
SK-233	Ox-41	Ⅲ	1.62	1.50	1.49		有	ドット	有	
SK-235	Ox-47-48	Vic以下	2.11	2.11	1.16		無	ドット	有	
SK-236	Ov-w-47	Vic以下	2.35	1.80	0.93		無	ドット	有	
SK-237	Ox-48	Vic以下	2.03	1.76	0.86		無	ドット	有	
SK-238	Ou-48	Vic以下	2.42	1.96	1.06		無	ドット	有	
SK-239	Ou-v-48	Vic以下	2.17	1.75	1.01	SK-251-252>SK-239	無	ドット	有	
SK-240A	Ou-48	Vic以下	1.60	1.65	1.00	SK-240A-SK-240>SK-240B	無	ドット	有	
SK-240B	Ou-48	Vic以下	1.90	0.62	0.62	SK-240A-SK-249>SK-240B	無	ドット	有	
SK-241	Oo-47	Vic以下	2.28	2.25	1.18	SK-241>SK-250	無		有	
SK-242	Ov-47	Vic以下	1.43	1.31	0.41		無	ドット	有	
SK-243	Ot-u-46-47	Via	2.10	1.93	1.00		有	ドット	有	
SK-244	Ow-46	Vic以下	1.31	1.23	0.35		無	ドット	有	
SK-245	Ox-46	Vic以下	2.06	1.84	0.86		無	ドット	有	
SK-246	Ow-45-46	Via	2.03	1.79	1.01	SD-28>SK-246	有	ドット	有	
SK-247	Oy-46-47	Vic以下	2.09	1.89	0.78		無	ドット	有	
SK-249	Ot-u-47-48	Vic以下	1.64	1.52	0.98	SK-241>SK-249	無	ドット	有	
SK-250	Ou-v-47	Vic以下	2.00	1.84	1.31		無	ドット	有	
SK-251	Ou-v-47-48	Vic以下	1.92	1.44	0.52	SD-251>SK-239	無	ドット	有	

遺構名	位置	検出面	計測値(m)			重複	地溝り	遺物取上	遺物掲載	備考
			長軸	短軸	深さ					
SK-252	Ov-48	Vic以下	1.49	1.47	0.78	SK-252>SK-339	無	ドット	有	
SK-253・SK-254	Ot-47-48	Vic以下	2.47	0.57	0.62		無	ドット	有	
SK-255	Ox-y-45-46	Vic以下	2.39	2.36	1.41		無	ドット	有	
SK-256	Ot-u-45-46	V~Via	2.56	2.47	1.46		有	ドット	有	
SK-262	G-67	■	0.59	0.51	0.21		無	ドット	有	
SK-263	I-68	■	0.74	0.67	0.48		無	ドット	有	
SK-264	G-67	■	0.78	0.73	0.13		無	ドット	有	
SK-265	Ow-x-45-46	Vic以下	2.52	2.10	1.02		有	ドット	有	
SK-266	Oy-48	V~Via	1.78	1.62	1.05		有	ドット	有	
SK-267	Oy-49	V~Via	2.47	2.32	1.50		有	ドット	有	
SK-268	Ou-50	V~Via	1.71	1.54	1.02	SI-20>SK-268	有	ドット	有	
SK-270	Ou-50	V~Via	2.57	2.10	0.70	SK-277>SK-270	無	ドット	有	
SK-271	Ot-49-50	Vic以下	2.96	(0.35)	0.75	SK-272<SK-271	無	ドット	有	
SK-272	Ot-49-50	Vic以下	1.53	(0.27)	0.3	SK-271>SK-272	無	ドット	有	
SK-273	Ov-50-51	V~Via	2.13	1.85	0.96		有	ドット	有	
SK-274	Ot-49	V~Via	(1.89)	1.91	0.82		有	ドット	有	
SK-276	Ov-50	V~Via	(1.29)	0.71	0.53	SI-21>SK-276	有	ドット	有	
SK-277	Ov-51-52	V~Via	2.82	2.30	2.11	SK-270>SK-277	有	ドット	有	
SK-278	Ov-51	■	2.54	2.29	1.93		有	ドット	有	
SK-279	Ost-41-42	■~V	2.22	2.00	1.59		有	ドット	有	
SK-280	Ou-49	■~V	2.20	1.91	1.23		有	ドット	有	
SK-281	Ou-v-51	V	2.15	1.75	1.49		有	ドット	有	
SK-282	Ot-u-49-50	Vic以下	2.47	1.68	0.48	SI-20>SK-282	無	ドット	有	
SK-283	Ox-Oy-44-45	Via~Vic	3.03	2.81	1.27		有	ドット	有	
SK-284	Ot-u-42	■	1.96	1.75	2.09		有	ドット	有	
SK-285	Oy-45	Vic以下	2.17	2.17	1.07		無	ドット	有	
SK-286	Ow-52	■	2.53	2.08	2.02	SK-287>SK-286	有	ドット	有	
SK-287	Ow-52-53	■	2.28	2.18	2.14	SK-286>SK-287	有	ドット	無	
SK-288	Ou-v-42	■	2.27	2.12	1.89		有	ドット	無	
SK-289	Ou-49	Vic以下	0.95	0.87	0.43	SI-20>SK-289	無	ドット	無	
SK-290	Ou-49	Vic以下	0.88	0.38	0.15	SI-20>SK-290	無	ドット	無	
SK-291	Ow-53	■	2.58	2.24	1.70		有	ドット	無	
SK-292	Ow-51	■	2.64	2.17	1.86		有	ドット	無	
SK-293	Ov-x-52	■	2.71	2.40	1.95		有	ドット	無	
SK-295	Ov-53	■	2.34	(2.05)	2.13	SK-297>SK-295	有	ドット	無	
SK-296	Ov-w-43-44	V~Via	2.09	1.85	1.16	<人為埋没層目録>	有			
SK-297	Ou-v-53	■	2.58	(2.27)	1.67	SK-295<SK-297	有	ドット	無	
SK-298	Ov-50	Vic以下	1.80	1.61	0.82	SI-21>?有			無	
SK-299	Ou-49	Vic以下	2.08	1.86	0.51		無		無	
SK-300	Ow-x-42-43	Vic以下	1.63	1.50	1.00	樹木痕>SK-300	無		無	
SK-301	Ow-42-43	Vic以下	(0.88)	(0.78)	(0.35)	樹木痕>SK-301	無		無	
SK-302	Ou-v-45-46	Vic以下	2.59	2.31	1.04	SI-17>SK-302	無		無	
SK-303	Ou-44	Vic以下	2.58	2.52	1.05	SI-17>SK-303	無		無	
SK-304	Ou-43-44	V~Via	2.02	1.66	1.46	SI-17>SK-304	無		無	
SK-305	Ou-v-43-44	V~Via	1.20	1.49	0.51	SI-17>SK-305	無		無	
SK-306	Ov-44	V~Via	2.15	2.09	1.14	SI-17>SK-306	無		無	
SK-307	Ov-52	■~V	2.52	2.07	0.92	SI-22>SK-307	有		無	
SK-308	Ot-51	■	1.75	(1.01)	1.64	SI-22>SK-308	有		無	
SK-309	Ou-v-52	■~V	0.47	0.45	0.61	SI-22>SK-309	無		無	
SK-310	Ou-v-52	V~Via	3.22	(1.80)	0.81	SI-22>SK-310	有		無	
SR-4	Ou-v-39	■				正立	無		無	

遺構名	位置	検出面	計測値(m)			瓦 様	地階り	遺物 取上	遺物 掲載	備 考
			長軸	短軸	深さ					
SR-5	Ou-42	B・Ⅲ				正立	無	無		
SR-6	Oy-49	Ⅱ				倒立	無	無		
SR-7	Ozi-39	Ⅱ				正立	無	無		
SR-8	C-32	Ⅲ				倒立	無	無		
SR-9	Ov-53	Ⅲ				正立	無	無		
SR-10	Ou-53	Ⅲ				正立	無	無		
SR-11	Ox-46	SK-245 I層				正立	無	無		
SR-12	Ov-53	A-2				正立	無	無		
SR-13	Ov-53	SK-295覆土				倒立 <SK-295	無	無		
SR-15	Ou-43	Ⅱ				<人為堆積層B群 正立	無	無		
SV-72	D-32	Ⅲ	3.54	0.09	1.24		無	無		
SV-73	E-F-70	Ⅲ	3.75	0.08	0.94		無	無		
SV-74	D-E-70	Ⅲ	3.14	0.11	0.95		無	無		
SV-75	G-68	Ⅲ	2.95	0.12	1.31		無	無		
SV-76	F-67	Ⅲ	3.58	0.08	1.39		無	無		
SV-77	G-33	Ⅲ	3.30	0.08	1.16		無	無		
SD-28		Ⅲ	(28.6)	0.66	0.38	SD-28・29>	無	無		
SD-29		Ⅳ	(19.0)	0.56	0.43	SD-28・29>	無	無		
人為堆積層 B群	Ou~w-42~ 44								表ノ沢(3)遺跡Ⅱ報告 予定	

遺物分布図凡例

次節で示す遺物分布図の記号の意味は次の通りである。掲載遺物の個体番号は属性表を参照されたい。

●遺構内土器 ▲割片石器 △割片 □自然礫 ◇土偶 数字(()外)掲載番号 (()内)個体番号

第2節 検出遺構と出土遺物

第16号竪穴住居跡 [S1-16] (図6~9, 51~62)

[調査の経過] 当初、A・2・V層中で黒色・黒褐色土の楕円形の落ち込みを確認し、調査を開始した。黒色・黒褐色土の中に多量の遺物が認められ、住居と考えて調査を続けた。精査が進む過程で、黒色土の南側で遺物が全く出土しない層があり、倒木痕の可能性も考えられたが、黒色土の北側で遺物が集中することから、何らかの遺構があると考えてさらに精査を行ったところV層中で、炉の一部を検出した。床面は大きく傾き、また凹凸があり、地滑りにより変形したものと考えられた。また、土層の堆積状況や、遺物の出土状況からみて、堆積土中に倒木痕が形成されたものと考えられた。土層観察用のベルトを取り除いたところ、第300・301号土坑と重複していることが明らかとなった。しかし、土層の検討を行った際には倒木痕・地滑りによりちり込んでいるものと考えていたため、その先後関係を捉えられなかった。[炉] 炉は土器埋設炉で、口縁部を欠失しており、炉構築時に打ち欠かれたものと考えられる。土器内から自然礫が出土した。土器片は敷き詰められていなかった。[柱穴] 柱穴は炉付近に3基を確認した。それぞれの柱穴の規模は表の通りである。第300号土坑の西側にみられる不整形のくぼみは風倒木痕に伴う可能性が高いと判断した。[堆積土] 堆積土は風倒木による落ち込み形成後に堆積したと考えられるA層、風倒木による落ち込み形成時のB層、風倒木による落

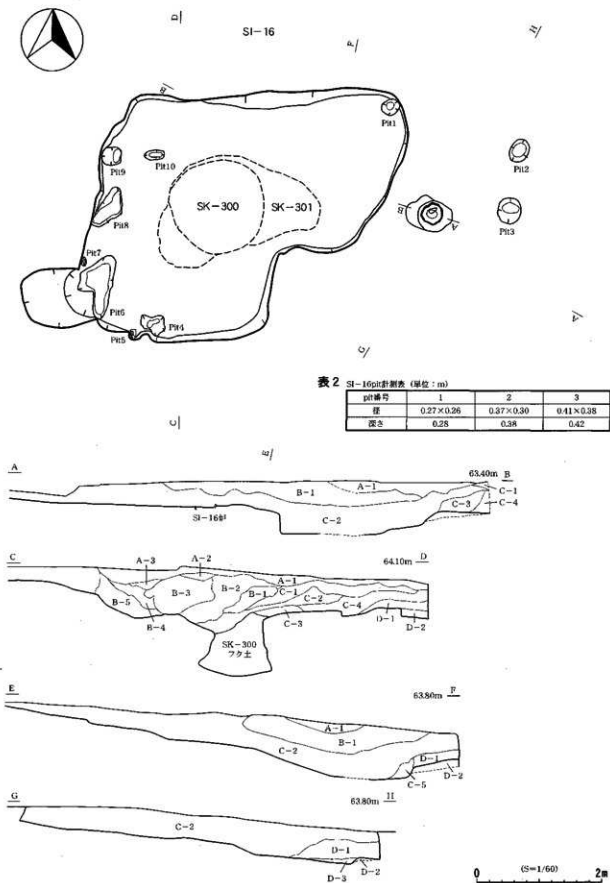


図6 第16号竪穴住居跡(1)



図7 第16号竪穴住居跡(2)

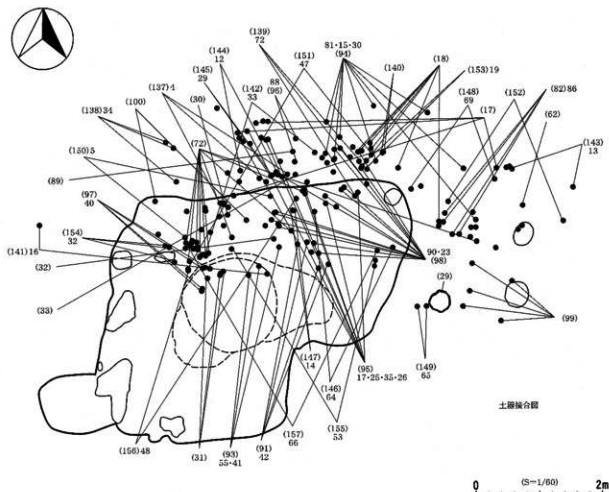


図8 第16号竪穴住居跡(3)

ち込み形成以前の堆積土C層、掘り込みに対する地山D層に大別した。ここでいうA層～D層は本遺構の堆積土にのみ用いるもので、遺物包含層とは関係無い。C層は浮石を含む量が多く、人為堆積層の可能性が高い。しかし、C-3層で斑状構造が認められ、堆積後自然営力が関与した可能性も考えられる。B層からは遺物はほとんど出土しなかった。なお、調査の過程で、一時精査を中断し、異なる調査者が精査を再開したため、土層の把握に、

表3 土層名対象表

中断前の層名	I	II	1	2	3	IIb	IIIc
中断後の層名	A	B、Cの一部	A	B	B	C	C

の前後で相違を生じてしまった。中断前の図は示していないが、中断前後の層位の対応関係は、

ほぼ次のとおりである。中断前に取り上げた遺物の注記は、中断前の層名をそのまま使用している。

[出土遺物] 第16号竪穴住居跡堆積土内で取り上げた土器・土製品は、60938.1gにのぼる。頸部区画は隆帯タイプのものがほとんどである。土偶片(89)が1点出土した。石類は石鏃5点、剥片7点、石棒1点、敲磨器類9点、自然礫122点が出土した。遺物はB層からはほとんど出土せず、A層・C層・D層に多い。[時期] 遺構の時期は、炉体で使用された土器と堆積土出土土器から考えて、円筒上層a式期である。

(中村)

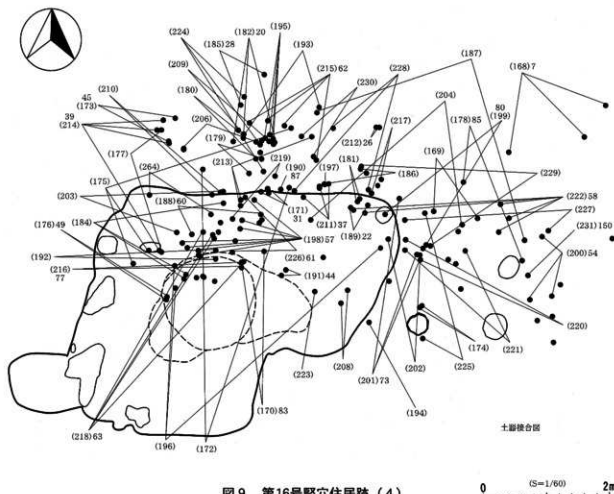
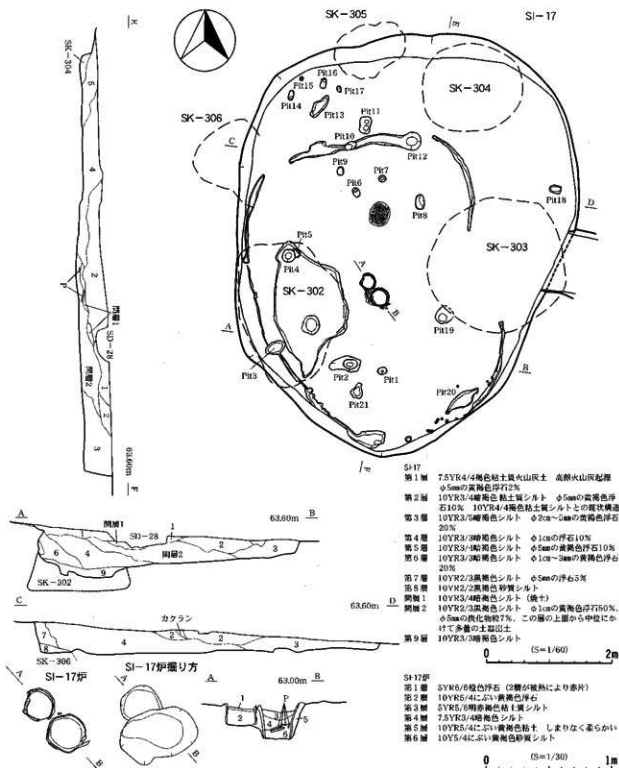


図9 第16号竅穴住居跡(4)

第17号竅穴住居跡 [SI-17] (図10~12, 63~69)

[堆積土] 第1層はやや腐植の集積した火山灰土である。その他の土層も基本層序には認められず、人為的に形成された土で、人為堆積の可能性が考えられる。しかし、第2層には斑状構造が認められ、自然営力が関与した可能性もある。[床・周溝・柱穴] V・Via層~Vie層と、重複する各土坑の堆積土を床面としている。第302号土坑の堆積土上には貼り床を施したと考えられるが、陥没した状態で検出された。第302号土坑堆積土の収縮に伴うものと考えられる。床面上に長軸4.88m、単軸3.57mの規模で溝を検出した。掘り方の南側から西側では壁直下に構築されているが、北側から東側では壁から離れており、立て替えがあったと考えられる。床面および重複する土坑の堆積土中で21基の小穴を確認した。pit4・5は重複しており、立て替えを示している。規模と配置からpit2・3・4・12・19が立て替え以前の主柱穴である可能性が考えられる。pit5は立て替え後の主柱穴である可能性が高いが、これに対応する柱穴は判然としない。[炉] 土器埋設炉を1基、地床炉を1基検出した。土器埋設炉は2個体の土器が隣接して埋められており、炉体1内には火床下に土器片が敷き詰められていた。一方、炉体2には土器片は認められなかった。口縁部・底部は炉体1・2とも欠失しており、炉構築時に打ち欠かれたものと考えられる。土層断面では新旧関係が認められず、同時に構築されたものと考えられる。地床炉との新旧関係は不明である。[地滑りによる変形の可能性] 第302号土坑南



- SI17
- 第1層 7.5YR4/4褐色粘土質火山灰土 高野火山灰起源
φ5mmの黄褐色浮石2%
 - 第2層 10YR3/4暗褐色粘土質シルト φ5mmの黄褐色浮石10% 10YR4/4暗褐色粘土質シルトとの層状構造
 - 第3層 10YR3/5暗褐色シルト φ2cm~3cmの黄褐色浮石20%
 - 第4層 10YR3/3暗褐色シルト φ1cmの浮石10%
 - 第5層 10YR3/4暗褐色シルト φ5mmの黄褐色浮石10%
 - 第6層 10YR3/3暗褐色シルト φ1cm~3mmの黄褐色浮石20%
 - 第7層 10YR2/3黄褐色シルト φ5mmの浮石5%
 - 第8層 10YR2/2黄褐色砂質シルト
 - 間壁1 10YR3/4暗褐色シルト (焼土)
 - 間壁2 10YR2/3黄褐色シルト φ1cmの黄褐色浮石75%, φ5mmの炭化米粒7%, この層の上層から中位にかけて多量の土器出土
 - 第9層 10YR3/3暗褐色シルト
- 0 (S=1/60) 2m
- SI17P
- 第1層 5YR6/6暗褐色浮石 (3層が焼土により赤片)
 - 第2層 10YR5/4にぶい黄褐色シルト
 - 第3層 5YR5/6暗褐色粘土質シルト
 - 第4層 7.5YR3/4暗褐色シルト
 - 第5層 10YR5/4にぶい黄褐色粘土 しまりなく柔らかい
 - 第6層 10Y5/4にぶい黄褐色砂質シルト
- 0 (S=1/30) 1m

表4 SI-17P11計測表 (単位:m)

計測番号	1	2	3	4	5	6	7	8
径	0.12×0.15	0.50×0.24	0.30×0.26	0.21×0.20	0.16×-	0.15×0.10	0.13×0.10	0.22×0.14
深さ	0.12	0.42	0.60	0.30	0.39	0.12	0.10	0.05
計測番号	9	10	11	12	13	14	15	16
径	0.15×0.11	0.20×0.13	0.23×0.17	0.28×0.28	0.42×0.17	0.27×0.08	0.06×0.05	0.17×0.90
深さ	0.07	0.26	0.20	0.34	0.14	0.16	0.30	0.70
計測番号	17	18	19	20	21			
径	0.10×0.05	0.19×0.12	0.29×0.12	0.29×0.25	0.08×0.10			
深さ	0.13	0.10	0.73	0.13	0.90			

図10 第17号竪穴住居跡(1)



図11 第17号竪穴住居跡(2)

端と第303号土坑中央部付近を結んだ線から以北は基本層序第VIb層以上を、以南は第VIc層以下を床面とするようになる。地滑りは第VIb層の浮石層と第VIc層の降下火山灰の層理面で発生している。このため、掘り方北東部は地滑りの影響を受けて変形している可能性が高い。[出土遺物] 土器は堆積土中から28575.4gが出土した。第2～4層、間層1・2から多く出土し、間層2からは全出土量の約1/2に当たる14249.7gが出土した。すべてが縄文時代中期に属するもので、胴部や底部のみの破片以外はすべて円筒上層a式に比定される。頸部区画の形状は隆帯のものと段差のものがあるが後者はほとんどみられない。石類は石鏃5点、剥片6点、敲磨器1点、自然礫82点が出土した。分布傾向は土器と同様である。[時期] 炉体土器と堆積土出土土器から円筒上層a式期と考えられる。(中村)

第20号竪穴住居跡(SI-20)(図13、70)

[壁・床面] 南壁は明確には確認できなかったが、その他は緩やかに外傾しながら立ち上がる。床面

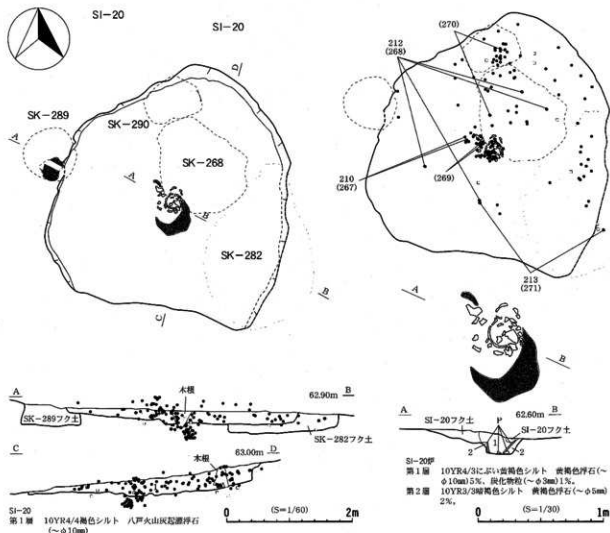
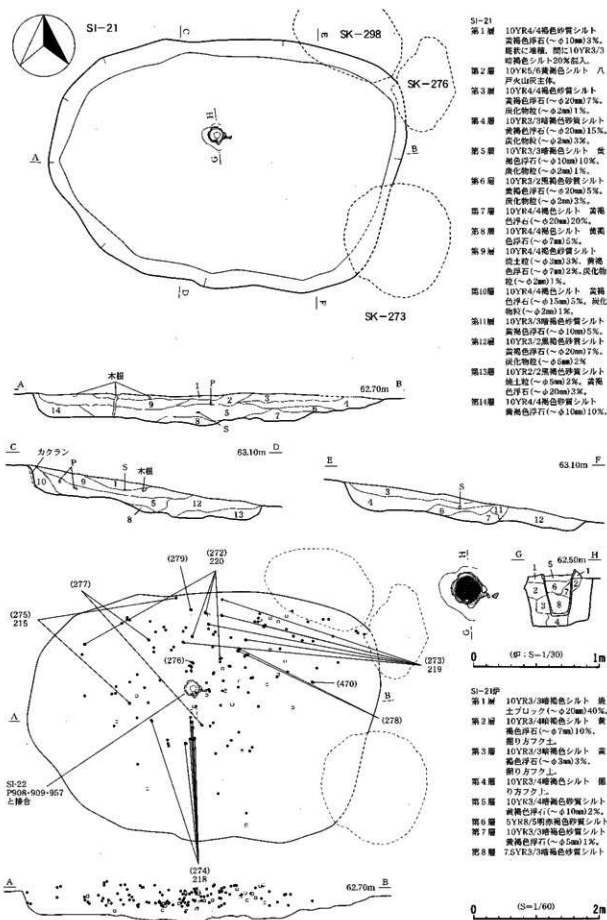


図13 第20号竪穴住居跡

には若干凹凸があり、中央がやや低くなっている。〔柱穴〕検出されなかった。〔炉〕床面ほぼ中央に土器埋設炉を検出した。堆積土は掘り方を含め2層に分層した。第1層はにぶい黄褐色土でわずかに炭化物粒を含むが、炉の周辺の焼土を除き明確な火床面は検出されなかった。また、炉体の土器は底部を欠いた状態で検出されたが、炉内部及びその周辺から多量の土器片が出土している。〔堆積土〕褐色シルトを主体とする層である。第Ⅲ層のようにTo-Cuを母材とする砂質シルトではなく、八戸火山灰起源と考えられる浮石を多く含むことから人為堆積の可能性が高い。〔出土遺物〕堆積土第1層中から61点(1135.0g)の土器が出土した。縄文時代中期初頭のものと考えられる。また、堆積土中から2次加工のない剥片及び自然礫が9点出土した。総重量は1997.0gである。〔時期〕炉体土器と堆積土出土土器から縄文時代中期初頭と考えられる。(浅田・葛城)

第21号竪穴住居跡〔SI-21〕(図14、71、72)

〔壁・床面〕壁は東壁を除き緩やかに外傾して立ち上がる。東壁は土坑との重複が激しく、詳細は不明である。〔柱穴〕検出されなかった。〔炉〕床面中央やや北寄りから土器埋設炉を検出した。炉内の堆積土は掘り方を含め8層に分層した。第2層が火床面と考えられ、土器の周囲にも焼土が堆積して



- SI-21
- 第1層 10YR4/4褐色砂質シルト 黄褐色浮石(φ10mm)3%。底状に堆積。間に10YR3/3暗褐色シルト20%混入。
- 第2層 10YR5/6黄褐色シルト 八戸火山灰主体。
- 第3層 10YR4/4褐色砂質シルト 黄褐色浮石(φ20mm)7%。炭化物粒(φ2mm)1%。
- 第4層 10YR3/3暗褐色砂質シルト 黄褐色浮石(φ20mm)15%。炭化物粒(φ2mm)3%。
- 第5層 10YR3/3暗褐色シルト 黄褐色浮石(φ10mm)10%。炭化物粒(φ2mm)1%。
- 第6層 10YR3/2黒褐色砂質シルト 黄褐色浮石(φ20mm)5%。炭化物粒(φ2mm)3%。
- 第7層 10YR4/4褐色シルト 黄褐色浮石(φ20mm)20%。
- 第8層 10YR4/4褐色シルト 黄褐色浮石(φ7mm)5%。
- 第9層 10YR4/4褐色砂質シルト 粘土粒(φ3mm)3%。黄褐色浮石(φ7mm)2%。炭化物粒(φ2mm)1%。
- 第10層 10YR4/4褐色シルト 黄褐色浮石(φ15mm)5%。炭化物粒(φ2mm)1%。
- 第11層 10YR3/3暗褐色砂質シルト 黄褐色浮石(φ10mm)5%。
- 第12層 10YR3/2黒褐色砂質シルト 黄褐色浮石(φ20mm)7%。炭化物粒(φ5mm)2%。
- 第13層 10YR2/2黒褐色砂質シルト 粘土粒(φ5mm)2%。黄褐色浮石(φ20mm)3%。
- 第14層 10YR4/4褐色砂質シルト 黄褐色浮石(φ10mm)10%。

- SI-21P
- 第1層 10YR3/3暗褐色シルト 粘土ブロック(φ20mm)40%。
- 第2層 10YR3/4暗褐色シルト 黄褐色浮石(φ7mm)10%。張り方アケ土。
- 第3層 10YR3/3暗褐色シルト 黄褐色浮石(φ3mm)3%。張り方アケ土。
- 第4層 10YR3/4暗褐色シルト 張り方アケ土。
- 第5層 10YR3/4暗褐色砂質シルト 黄褐色浮石(φ10mm)2%。
- 第6層 5YR8/5明褐色砂質シルト
- 第7層 10YR3/3暗褐色砂質シルト 黄褐色浮石(φ5mm)1%。
- 第8層 7.5YR3/3暗褐色砂質シルト

図14 第21号壁穴住居跡

いる。炉体土器は口縁部を欠失しており、埋設時に打ち欠かれたと考えられる。土器内に土器片は敷き詰められていなかった。炉体土器は第22号住居跡から出土した口縁部破片3点と接合した。[堆積土]14層に分層した。いずれも八戸火山灰起源と考えられる浮石粒を含んでおり、人為堆積と考えられる。[出土遺物]床面直上、第1・2・3・4・5・9・10・12層から145点(2331.6g)の土器が出土した。石器は第5層から有茎の石鏃が1点出土した。また、2次加工のない剥片及び自然礫は22点で、第1層から第5層までの出土量が全体の約8割を占める。総重量は2160.5gである。[時期]炉体土器と堆積土出土器から、縄文時代中期初頭と考えられる。また、炉体土器の接合関係により、第22号竪穴住居跡より新しい。

(浅田・葛城)

第22号竪穴住居跡【SI-22】(図15・16・73~91)

[平面形]平面形は隅丸長方形と考えられるが、東側が調査区域外に広がるため詳細は不明である。また、北側に半円状の張り出しを検出した。重複する遺構の可能性もあるが、柱穴及び周溝は検出されなかったため詳細は不明である。[壁・床面]確認できる壁は緩やかに外傾して立ち上がる。床面はほぼ平坦である。[重複]第307・308・309・310号土坑と重複し、本住居跡が新しい。なお、第308号土坑との重複は、調査区境界の壁面での確認であり、平面形では確認できなかった。[柱穴]3基確認した。柱穴配置等詳細は不明である。[炉]床面中央東寄りから新旧2基の土器埋設炉を検出した。いずれも第310号土坑を掘り込んで構築されている。炉1は口縁部を欠いている。堆積土は掘り方を含め5層に分層した。第2層が火床面であり、その直下の第3層には多量の土器片が敷かれている。炉2は当初炉1の掘り方内の土器片と考えていたが、精査の過程で炉1に先行する土器埋設炉であることが判明した。前述のように炉1を精査中に検出したため、確認できた炉内の堆積土はわずかであり詳細は不明であるが、層中には焼土粒を含んでいる。また、炉1の精査中に炉1の火床面とは別の焼土を検出した。この時点では炉が複数あると考えていなかったが、結果的にこれが炉2の火床面と考えられる。炉体土器はいずれも中期初頭のものと考えられる。[堆積土]16層に分層した。この内、初期に堆積した第11~14層は浮石粒をほとんど含まず自然堆積と考えられるが、その後に堆積したものは層中に八戸火山灰起源の浮石を含むものが多く、また廃棄と考えられる土器・石器が多量に出土することなどから人為堆積と考えられる。[出土遺物]遺物の取り上げに際しては、掘り下げの途中で住居跡堆積土のすべての土層の関係を整合的に把握するのが難しかったため複数層を一括して取り扱い、上記の層位の第1・2層を第1層、第3・4層を第2層、第5・6層を第3層、第7・8・9層を第4層、第10層以下を第5層とした。以下の事実記載では取り上げ時の層位を用いる。土器は堆積土中から合計1682点(83801.1g)出土した。層毎にみると、第1層から891点(30261.3g)、第2層から133点(3834.7)、第3層から518点(39080.8g)、第4層から125点(10268.5g)、第5層から5点(87.4g)が出土し、第1層と第3層に集中している。石器は2次加工のない剥片及び自然礫も含めて222点出土している。これらは第1層から第3層を中心に出土しており、全体の約9割を占める。総重量は27030.0gである。この内、石器と認められるものは石鏃・蔽磨器類など15点出土しているが、これらも第1・3層を中心としている。これは本住居跡の埋没過程で生じたくぼ地に遺物が大量に廃棄された結果と考えられる。土器は頸部区画が隆帯タイプのものがほとんどだが、段差タイプのもものが少量混じる。土器型式の上ではほとんどが円筒上層a式と考えられるが、1点円筒下層d式の復元個体が含まれている。古い遺構や包含層を掘り込んだ際に出た遺

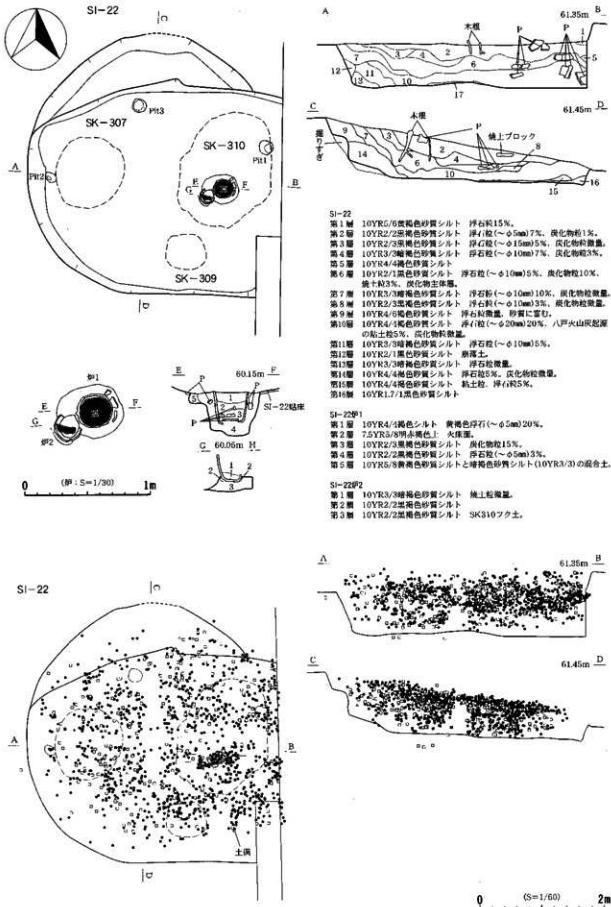


図15 第22号竪穴住居跡(1)



SI-22

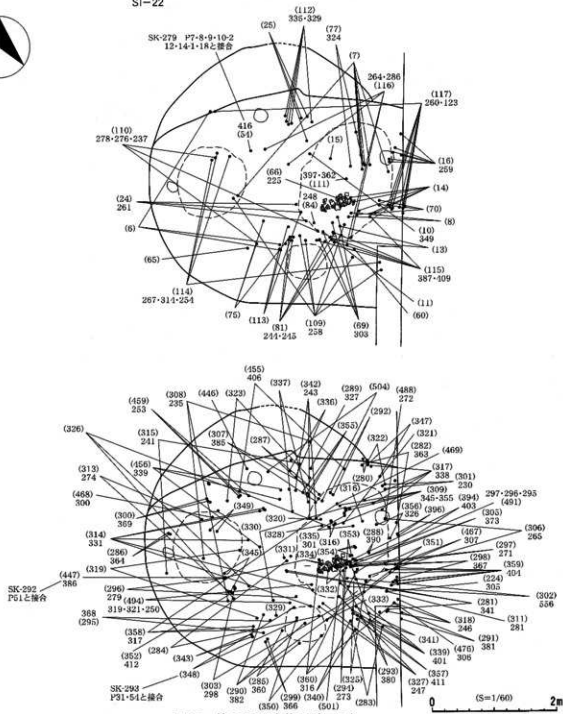


図16 第22号竪穴住居跡(2)

物を二次的に廃棄した可能性が考えられる。堆積土中から出土した口縁部破片が第21号住居跡の炉体土器と接合した。また、図88-379は第270号土坑から出土した破片(図107-651)と同一個体の可能性がある。[時期] 炉体土器と堆積土出土土器から円筒上層a式期と考えられる。また、土器の接合関係から第21号住居跡より古い。(葛城)

第220号土坑 [SK-220] (図17)

[堆積土] 黒色シルトの単層で、十和山b降下軽石を含んでいる。周辺土層の基本層序第Ⅱ層に類似する。[出土遺物] 堆積土中から15cm大の、角のとれた角礫が出土した。[時期] 時期決定できる遺

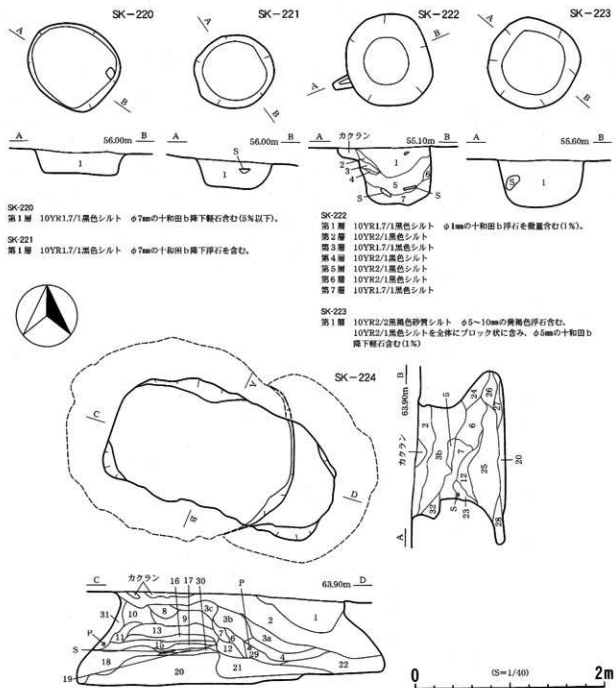


図17 第220・221・222・223・224号土坑

物は無いが、規模、形態、礫が出土したことから、後述の第257・261号土坑と同時期の可能性が考えられる。(中村)

第221号土坑 (SK-221) (図17、92)

[堆積土] 黒色シルトの単層で、十和田b降下軽石を含んでいる。周辺土層の基本層序第II層に類似する。[出土遺物] 堆積土中から土師器片と15cm大の扁平な川原石が出土した。[時期] 直接的に時期決定できる遺物は無いが、規模や形態、土師器・礫が出土したことから、後述の第257・261号土坑と同時期の可能性が考えられる。(中村)

第222号土坑 (SK-222) (図17)

[堆積土] 黒色シルトを主体とし、周辺土層の基本層序Ⅱ層に類似する。7層に分層した。第1層は十和田b降下軽石を含んでいる。[出土遺物] 堆積土中からは、川原石が出土した。[時期] 直接的に時期決定できる遺物は無いが、規模・形態、礫が出土したことから、後述の第257・261号土坑と同時期の可能性が考えられる。(中村)

第223号土坑 (SK-223) (図17)

[堆積土] 黒色シルトの単層で、十和田b降下軽石を含んでいる。周辺土層の基本層序Ⅱ層に類似する。[出土遺物] 堆積土中から川原石が出土した。[時期] 直接的に時期決定できる遺物は無いが、規模、形態、礫が出土したことから、後述の第257・261号土坑と同時期の可能性が考えられる。(中村)

第224A・B号土坑 (SK-224A・B) (図17、18、92)

[検出と調査過程・遺物取り上げ方法] 当初、長方形の土坑として調査を開始し、土層観察用のベルトを残して、分層・遺物取り上げを平行して進めながら床面まで掘り下げた。この過程で、2つの土坑の重複であることを確認したが、土層番号は既に両方にまたがって割り振っていたため、両者共通の通し番号を用いた。遺物は、当初は224号土坑として取り上げたが、両者の分離ができた段階で、それぞれ1番から用いることとした。[堆積土] A号は10層に、B号は15層に分層した。いずれも火山灰土や、火山灰土ブロックと黒色系統のシルトの混合土が多量に認められ、人為堆積と考えられる。[出土遺物] 縄文土器の小片と礫が出土した。土器は第2・3・4・7・10・15・18・20・21層から出土した。縄文時代中期初頭のもので主体と考えられ、明らかに円筒下層d式と考えられる破片は含まない。総重量275.6gである。石器は石筥1点、敲磨器1点、自然礫14点が出土した。下層に多く分布する。[時期] 本遺構に明確に伴いかつ時期決定できる遺物がないため、詳細な時期は不明だが、縄文時代中期初頭の可能性が高い。(中村)

第225号土坑 (SK-225) (図18、92)

[堆積土] 軽石を多量に含む黒色系のシルトが多く、人為的に攪拌された土壌が主体であると考えられる。火山灰土は壁際に認められ、中央部には認められないため、崩落土と考えられる。第2・3層には斑状構造が認められる。これらのことから、堆積土の形成に一定の時間を要した可能性も考えられる。[出土遺物] 第1層から、榎林式～最花式と思われる土器の小片が、第2層から縄文時代中期初頭のものであると思われる土器の小片が出土した。いずれも図化できる程度の大きさではなく、また、本遺構の位置する尾根頂部は黒色土の堆積が薄く、火山灰土との漸移的な層も見あたらない。土壌の流出や人為的な削平に起因する可能性が考えられ、最上部で出土した遺物も本遺構に伴わない可能性がある。第1・2・6層・第27層から縄文土器片が出土した。石類は出土しなかった。出土遺物の総重量は88.8gである。[時期] 本遺構に明確に伴いかつ時期決定できる遺物がないため、詳細な時期は不明であるが、本遺跡の主体的な時期である縄文時代前期末から中期初頭に属する可能性が高い。(中村)

第226号土坑 (SK-226) (図19)

[堆積土] 黒色系統の砂質シルトを主体とする。13層に分層した。壁際の崩落土は認められない。人為堆積か自然堆積かの判断は難しい。[出土遺物] 第4層から自然礫が1点出土した。[時期] 本遺構に明確に伴いかつ時期決定できる遺物がないため、詳細な時期は不明であるが、本遺跡の主体的な時期である縄文時代前期末から中期初頭に属する可能性が高い。(中村)

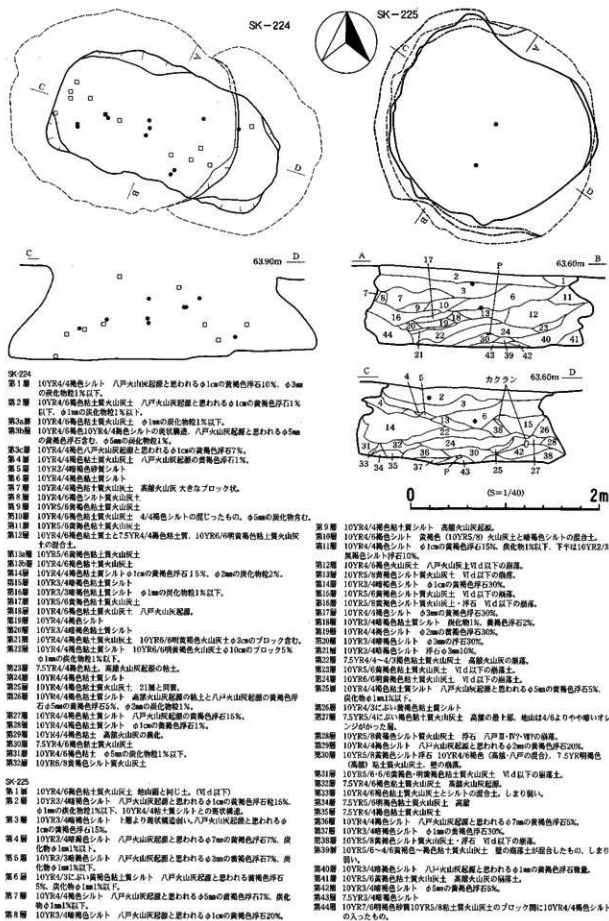


図18 第224・225号土坑

第227号土坑〔SK-227〕(図19)

〔堆積土〕11層に分層した。火山灰土や火山灰土とシルトの混合土層が認められ、人為堆積と考えられる。〔出土遺物〕第6層から自然礫が1点出土した。〔時期〕本遺構に明確に伴いかつ時期決定できる遺物がないため、詳細な時期は不明であるが、本遺跡の主体的な時期である縄文時代前期末から中期初頭に属する可能性が高い。(中村)

第228号土坑〔SK-228〕(図19)

〔形状〕浅い皿形を呈する。〔堆積土〕八戸火山灰起源と考えられる黄褐色軽石を多量に含む黒色シルトの単層である。通常、黒色土中に黄褐色軽石が多量に含まれることはないので、人為堆積と考えられる。〔出土遺物〕出土しなかった。〔時期〕不明。(中村)

第229号土坑〔SK-229〕(図19、92)

〔堆積土〕20層に分層した。壁際に崩落土と考えられる堆積土が認められず、人為堆積の可能性が高い。〔出土遺物〕第6・7・9層から縄文土器片が各1点ずつ出土した。縄文時代中期初頭のものと思われる。第7層からはスクレーパー類と自然礫が1点出土した。〔時期〕本遺構に明確に伴いかつ時期決定できる遺物がないため、本遺跡の主体的な時期である縄文時代前期末から中期初頭に属する可能性が高い。(中村)

第230号土坑〔SK-230〕(図21、92、93)

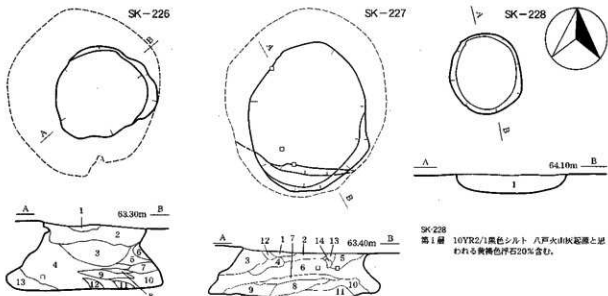
〔堆積土〕9層に分層した。大半が粘土質の火山灰土で、人為堆積と考えられる。〔出土遺物〕第6・9層から5点の土器が出土した。総重量は992.9gである。〔時期〕遺物の出土層は人為的に埋め戻されたもので、遺物はこれに紛れ込んだ可能性や、周辺に廃棄された遺物を再度廃棄した可能性も否定できない。本遺構に明確に伴う遺物が無く、詳細な時期は不明であるが、縄文時代中期初頭に属する可能性が高い。(中村)

第231号土坑〔SK-231〕(図20、93、94)

〔壁面及び底面の状況〕壁面はやや凹凸があるもののおおよそ底面から屈曲部にかけて内傾し、そこから開口部にかけて大きく外傾しながら立ち上がる。底面はほぼ平坦であるが、中央に直径37cm、深さ17cmのピットを検出した。柱痕は確認できなかった。〔堆積土〕16層に分層した。層中に壁面の崩落土が見られる他は、八戸火山灰起源と考えられるローム粒を多く含み、また第1・2・3・7層は人為堆積層である第A-2層に相当することから人為堆積の可能性が高い。〔出土遺物〕土器は第1層から34点(868.7g)、第2層から1点(35.9g)出土した。ほとんどが円筒下層d式であるが、1点だけ円筒上層a式が含まれている。石器は第1層を中心に自然礫も含めて7点出土しており、総重量は1350.4gである。この内石器は、第1・2・6層からそれぞれ1点ずつ出土している。〔時期〕堆積土第1層は円筒上層a式期かそれ以降の堆積と考えられるが、それより下層については前期まで遡る可能性を否定できない。縄文時代前期末～中期初頭の可能性が高い。(葛城)

第232号土坑〔SK-232〕(図21、94)

〔堆積土〕30層に分層した。第20・26層のように壁際に堆積し、黄褐色火山灰土を主体とする層は壁面の崩落土と考えられる。また、開口部付近の壁面は八戸火山灰ではなく第Ⅲ層であることから、同様の土質である第8層も壁面の崩落土と考えられる。そのほかの土層では、黒褐色や暗褐色の砂質シルト及びシルトを主体とし層中に浮石を含むもの、第6・9層のように遺構の掘り返し土と考えら



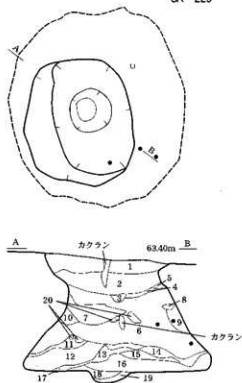
SK-226

- 第1層 10YR2/2黄褐色シルト
 第2層 10YR2/3黄褐色シルト 粗砂混量φ1cmの浮石7%
 第3層 10YR3/3黄褐色粗粒砂質シルト φ1cmの浮石7%
 第4層 10YR3/2黄褐色粗粒砂質シルト φ1cmの浮石7%
 第5層 10YR3/2黄褐色粗粒砂質シルト
 第6層 10YR4/4褐色粘土質火山灰土
 第7層 10YR4/3いり黄褐色粗粒砂質シルト
 第8層 10YR3/3黄褐色粗粒砂質シルト
 第9層 10YR5/4いり黄褐色粘土質火山灰土
 第10層 10YR3/4黄褐色シルト φ1cmの浮石7%
 第11層 10YR3/3いり黄褐色シルト
 第12層 10YR2/2黄褐色粗粒砂質シルト
 第13層 10YR5/6黄褐色粘土質火山灰土

SK-227

- 第1層 10YR3/3黄褐色砂質シルト
 第2層 10YR4/4褐色砂質シルト
 第3層 10YR3/3黄褐色砂質シルト
 第4層 10YR4/4褐色粘土質火山灰土
 第5層 10YR3/4黄褐色粘土質火山灰土とシルトの混合土
 第6層 10YR2/2黄褐色砂質シルト
 第7層 10YR4/4褐色粘土質火山灰土 粒状砂含む
 第8層 10YR3/4黄褐色砂質シルト
 第9層 10YR3/4黄褐色粘土質シルト 粒状砂含む
 第10層 10YR3/4黄褐色粘土質シルト 粒状砂含む
 第11層 10YR4/6褐色粘土質火山灰土(高嶺火山灰起源)
 第12層 10YR2/2黄褐色泥炭
 第13層 10YR3/3黄褐色泥炭
 第14層 10YR3/3黄褐色泥炭

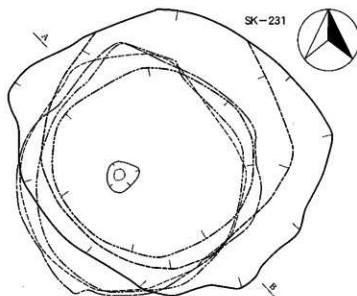
SK-229



SK-229

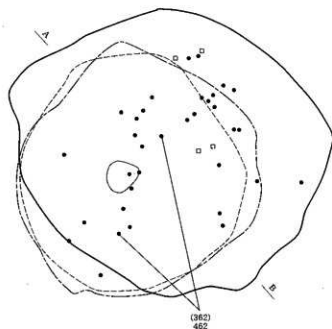
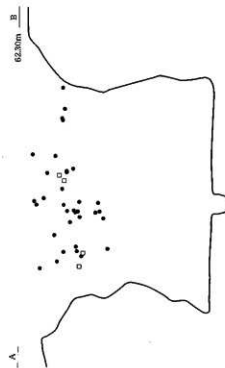
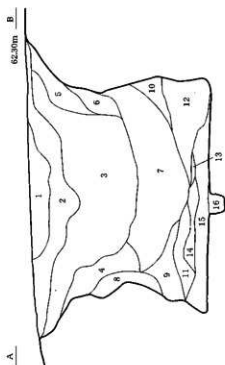
- 第1層 10YR4/6褐色粘土質火山灰土
 第2層 10YR4/4褐色砂質シルトと火山灰土の混合土。薄い粒状構造を示す。
 φ1mmのV字以下起源の火山灰土が約含む(5%)
 第3層 10YR3/4黄褐色砂質シルト
 第4層 10YR4/6褐色粘土質シルトと黄褐色砂質シルトの混合土
 第5層 10YR4/4褐色シルト 砂粒分選
 第6層 10YR3/3黄褐色砂質シルト φ5mmの八戸火山灰起源と思われる黄褐色浮石2%
 φ3.5cmの高嶺火山灰起源と思われる粘土質火山灰土の弱い塊状構造
 第7層 10YR2/3黄褐色砂質シルト 炭化物2%
 第8層 10YR4/6褐色粘土質シルト質火山灰土
 第9層 10YR3/4黄褐色砂質シルト
 第10層 10YR3/4黄褐色砂質シルト
 第11層 10YR2/3黄褐色砂質シルト
 第12層 10YR2/2黄褐色砂質シルト φ3mmの八戸火山灰起源と思われる黄褐色浮石含む(2%)
 第13層 10YR5/3黄褐色シルト質火山灰土
 第14層 10YR2/3黄褐色砂質シルト
 第15層 10YR3/4黄褐色砂質シルト 炭化物2%
 第16層 10YR2/3黄褐色シルト φ5mmの八戸火山灰起源と思われる黄褐色浮石含む(15%)。炭化物少量含む。
 第17層 10YR2/3黄褐色シルト 砂粒分選
 第18層 10YR4/6褐色粘土質火山灰土
 第19層 10YR4/4褐色砂質シルト
 第20層 10YR4/6褐色粘土質火山灰土(高嶺火山灰起源)

図19 第226・227・228・229号土坑



SK-231

- 第1層 10YR2/2黒褐色砂質シルト 八戸火山灰起源と考えられる。浮石粒(30%)、炭化物の混入。人為堆積層A-2層に相当。
- 第2層 10YR2/3黒褐色砂質シルト 1層とはほぼ同質であるが若干細かい。
- 第3層 10YR3/4暗褐色砂質シルト 八戸火山灰浮石粒(40%)。
- 第4層 10YR2/2黒褐色砂質シルト 中量浮石母材。八戸火山灰浮石粒(7%)。
- 第5層 10YR2/2黒褐色砂質シルト 4層と同質であるが浮石の混入が多く、若干明るい。
- 第6層 10YR2/1黒色砂質シルト 中量浮石母材。浮石混入。熟成土。
- 第7層 10YR3/3暗褐色砂質シルト 土質は5層とはほぼ同質。人為堆積層A-2層に相当。
- 第8層 10YR2/2黒褐色シルト ロームを含む熟成土。浮石混入。
- 第9層 10YR2/2黒褐色シルト10YR4/6褐色ロームの混合土
- 第10層 10YR2/3暗褐色砂質シルトと10YR4/6褐色ロームの混合土
- 第11層 10YR2/2黒褐色砂質シルト 浮石混入。ロームを塊状に含む。
- 第12層 八戸火山灰の崩落土。層中に10YR2/1黒色シルトをブロック状に含む。
- 第13層 10YR2/2黒褐色砂質シルト 浮石粒5%。土質は7・11層に類似する。
- 第14層 10YR2/1黒色シルト 浮石混入。粘性に富む。中量浮石混入。
- 第15層 10YR2/2黒褐色砂質シルト ロームを塊状に含む。11層より若干細かい。浮石混入
- 第16層 10YR3/3暗褐色砂質シルト 底面層の返し土(八戸火山灰15%含む)。ビット層土。



0 (S=1/40) 2m

図20 第231号土坑

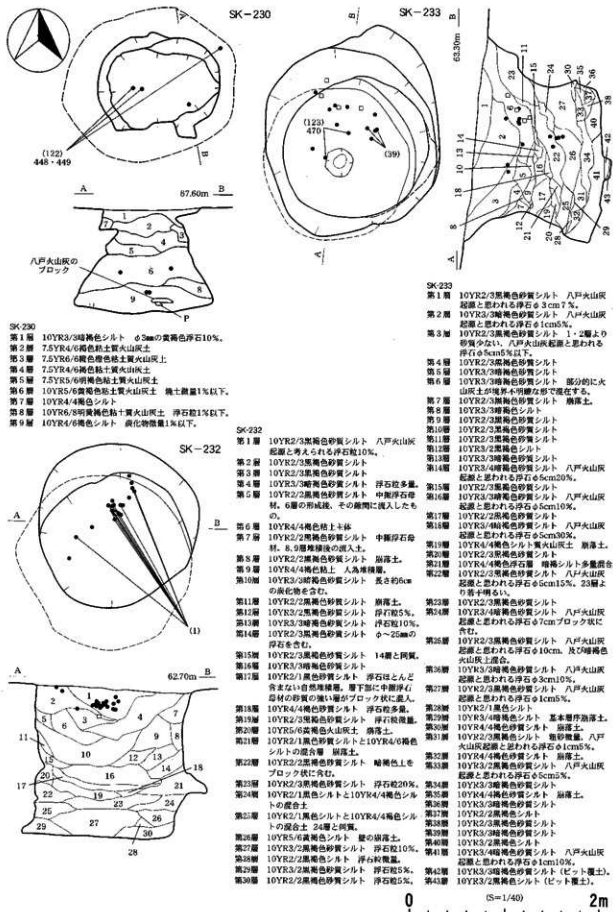


図21 第230・232・233号土坑

れる白色粘土を主体とするものがあり、これらは人為堆積と考えられる。一方、第17層のように層中に浮石をほとんど含まず比較的薄く堆積するものは、自然堆積と考えられる。[出土遺物] 第1層から土器が26点(1294.0g)、自然礫が1点(637.8g)出土している。土器は円筒下層d式である。[時期] 出土した土器が、古い遺構などの遺物を再廃棄したものである可能性を完全には否定できないが、縄文時代前期末の可能性が高い。(葛城)

第233号土坑 (SK-233) (図21、94)

[堆積土] 43層に分層した。砂質シルトを主体とするため、土質だけで堆積要因が人為的なものか自然営力によるものか判定できない。第1・2層中には、基本層序第Ⅱ・Ⅲ層には通常含まれない量の軽石を含んでいる。第6層中に認められる火山灰土は、壁面の黒色土と同レベルかつ土坑中央部に認められ、崩落土とは考えにくい。その一方で、第29・30・32・35層は崩落土の可能性が考えられる。従って本土坑は最終的には人為的な要因により埋没したと考えられる。それ以前は、堆積要因が人為的なものと自然営力によるものと両者の可能性が考えられるが、いずれにしても多少の堆積間隙があったと考えられる。[出土遺物] 第1層から880.2g、第3層から868.7gの土器が出土した。すべて円筒下層d式土器である。図94-476は略完形である。[時期] 出土した土器が、古い遺構の遺物を再廃棄したものである可能性を完全には否定できないが、縄文時代前期末の可能性が高い。(中村)

第235号土坑 (SK-235) (図22、95)

[堆積土] 13層に分層した。堆積土中に崩落土とみられる火山灰土が無く、シルト質土も火山灰土粒・ブロック・軽石を多く含むため、人為堆積と考えられる。[出土遺物] 第1・3・4・6・12・13層から土器が、27点(564.9g)出土した。第4・6・8・11・12・13層から自然礫が13点(3590g)出土した。[時期] 本遺構に明確に伴う遺物がないため、詳細な時期は不明だが、本遺跡の主体的な時期である中期初頭に属する可能性が高い。(中村)

第236号土坑 (SK-236) (図22、95)

[堆積土] 11層に分層した。ほとんどが火山灰土であることから、人為堆積であると思われる。[出土遺物] 第1・2・3・5・11・12層から土器が40点(1021.8g)出土した。第3・4層から自然礫が4点(1315.0g)、第3層から石棒が1点(3747.1g)出土した。土器は縄文時代中期初頭のものと考えられる。[時期] 本遺構に明確に伴う遺物がないため、詳細な時期は不明だが、本遺跡の主体的な時期である中期初頭に属する可能性が高い。(中村)

第237号土坑 (SK-237) (図22、95)

[堆積土] 13層に分層した。ほとんどが火山灰土であることから、人為堆積と考えられる。[出土遺物] 第1・8・10層および堆積土から土器が24点(644.6g)、第10層および堆積土から自然礫が2点(558.4g)出土した。土器は縄文時代中期初頭のものと考えられる。[時期] 本遺構に明確に伴う遺物がないため、詳細な時期は不明だが、本遺跡の主体的な時期である中期初頭に属する可能性が高い。(中村)

第238号土坑 (SK-238) (図23)

[堆積土] 24層に分層した。ほとんどが、火山灰土層や粘土分を含んだシルト層で、人為堆積と考えられる。ただし、第11層は壁の八戸火山灰の崩落の可能性も考えられ、堆積に若干の時間幅があった可能性も考えられる。[出土遺物] 第1・2・5・8層から土器が7点(62.8g)、第1・2・8層から自然礫

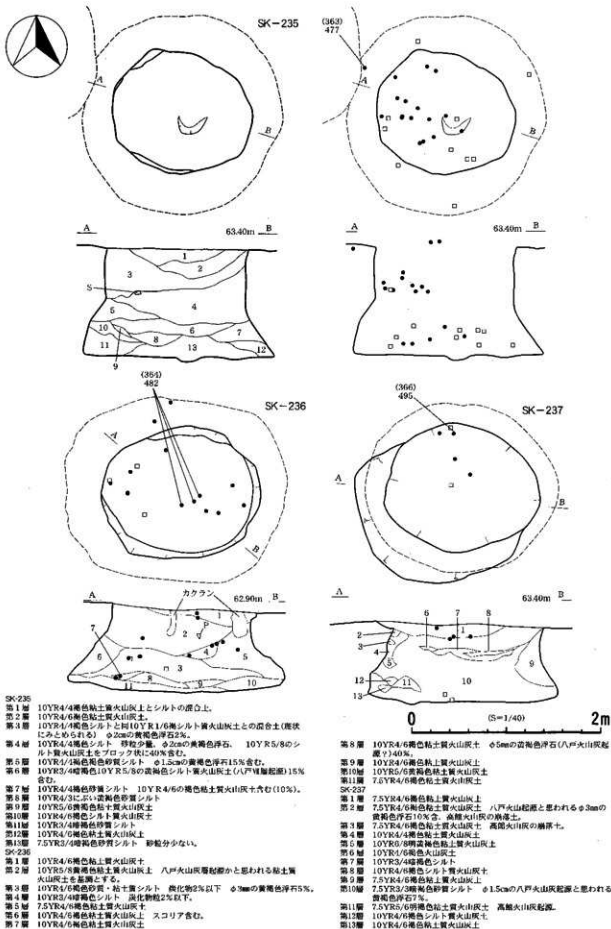


図22 第235・236・237号土坑

が7点(7.1g:うち5点不明)出土した。土器は縄文時代中期初頭のものと考えられる。[時期]本遺構に明確に伴う遺物がないため、詳細な時期は不明だが、本遺跡の主体的な時期である中期初頭に属する可能性が高い。(中村)

第239号土坑・251号土坑・252号土坑〔SK-239-SK-251-SK-252〕(図24、95、104)

本遺構群は遺物取り上げの際、相互の遺構名に混乱を来し、誤った遺構名で取り上げたものがある。そのため、本来存在しない層位番号の遺物が生じてしまった。すべての遺物を本来の帰属遺構に訂正するのは困難なので、実測図は注記の帰属に従って掲載し、評価はこれらの遺構をまとめて扱うこととする。

SK-239 [堆積土] 35層に分層した。粘土質の火山灰土が主体で、人為堆積と考えられる。

SK-251 [堆積土] 14層に分層した。砂粒を含まないシルトが主体で、一部に高館火山灰層(基本層序第VII層)起源と考えられる土層が認められる。人為堆積の可能性が考えられる。

SK-252 [堆積土] 6層に分層した。上部には基本層序第VII層起源の土層が認められ、人為堆積と考えられる。

[出土遺物] 本遺構群の堆積土から38点(1206.3g)の土器、9点の自然礫が出土した。ほとんどが縄文時代中期初頭のものと考えられる。[時期]本遺構に明確に伴う遺物がないため、詳細な時期は不明だが、本遺跡の主体的な時期である中期初頭に属する可能性が高い。(中村)

第240号土坑〔SK-240A〕(図23、96)

[堆積土] 32層に分層した。砂粒分がほとんど無く、黒みの強いシルト質土が主体である。壁際に八戸火山灰の堆積が複数層みられることから、自然堆積の可能性が高い。[出土遺物] 第5・9・18層から4点(71.7g)の土器が出土した。縄文時代中期初頭のものを含むと考えられる。底面ビットから自然礫が1点、堆積土中から自然礫2点、敲磨器1点が出土した。[時期]本遺構に明確に伴う遺物がないため、詳細な時期は不明だが、本遺跡の主体的な時期である中期初頭に属する可能性が高い。(中村)

第240B号土坑〔SK-240B〕(図23)

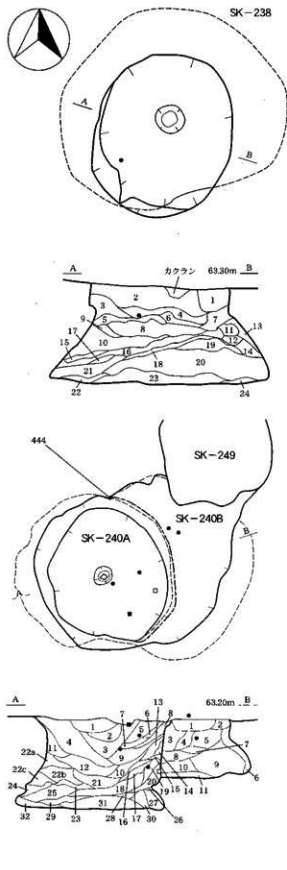
[堆積土] 11層に分層した。粘土質・シルト質の土層が多く、土色も黒みが弱いものが多い。黒みの弱いシルトは火山灰土と黒色系統のシルトが混合したものと思われ、人為堆積の可能性が高い。[出土遺物] 堆積土中から4点(97.7g)の土器が出土した。[時期]本遺構に明確に伴う遺物がないため、詳細な時期は不明だが、本遺跡の主体的な時期である中期初頭に属する可能性が高い。(中村)

第241号土坑(SK-241)(図24、96)

[堆積土] 7層に分層した。黒みの弱いシルト、砂質シルトが主体で、火山灰土と黒色系統のシルトが混合したものと思われ、人為堆積の可能性が高い。[出土遺物] 第1・2・4・6・7層から土器が16点(300g)、第2・4層から自然礫が2点(13.3g)、第7層から石鏃が1点(4.1g)出土した。[時期]本遺構に明確に伴う遺物がないため、詳細な時期は不明だが、本遺跡の主体的な時期である中期初頭に属する可能性が高い。(中村)

第242号土坑〔SK-242〕(図25、96)

[堆積土] 2層に分層した。砂粒のない土層が主体で、人為堆積と考えられる。[出土遺物] 第1・2層から土器が4片(45.8g)、自然礫が2点(1817.8g)出土した。[時期]本遺構に明確に伴う遺物がないため、詳細な時期は不明だが、本遺跡の主体的な時期である中期初頭に属する可能性が高い。(中村)



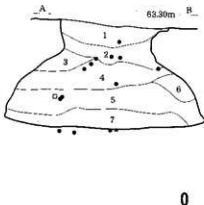
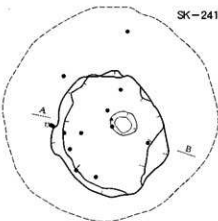
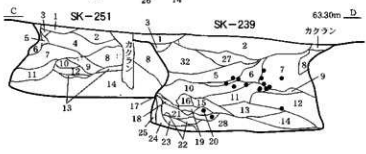
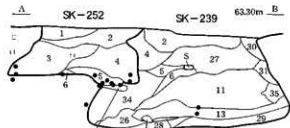
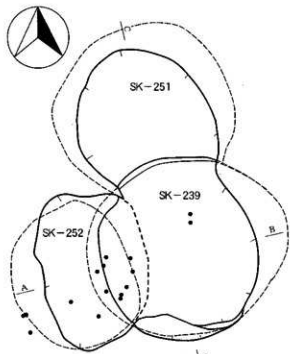
- SK-238
- 第1層 10YR3/4暗褐色砂質シルト 八戸火山灰起源と思われる ϕ 6.5mmの黄褐色浮石5%。
- 第2層 10YR4/6暗褐色粘土質火山灰土 高純度火山灰起源。 ϕ 1mmの粘土粒少量。
- 第3層 10YR4/4暗褐色粘土質火山灰土 高純度火山灰起源。やや腐食が盛ん。
- 第4層 10YR4/4暗褐色シルト(火山灰土が基質で、風化土層化したもの)
- 第5層 10YR4/6暗褐色シルト質火山灰土 八戸火山灰起源の粘土質火山灰土。
- 第6層 10YR5/8黄褐色粘土質火山灰土 上に同じ やや腐食盛ん。
- 第7層 10YR4/4暗褐色シルト 八戸火山灰起源と思われる ϕ 1cmの黄褐色浮石含む5%。
- 第8層 10Y2/3灰褐色砂質シルト 八戸火山灰起源と思われる ϕ 1cmの黄褐色浮石5%。
- 第9層 10YR3/4暗褐色シルト
- 第10層 10YR3/4暗褐色シルト ϕ 1cmの八戸火山灰起源の黄褐色浮石(20%)。
- 第11層 10YR5/6黄褐色浮石 壁の八戸火山灰の起源。
- 第12層 10YR3/4暗褐色シルト
- 第13層 10YR3/4暗褐色シルト
- 第14層 7.5YR3/4暗褐色砂質シルト 八戸火山灰起源と思われる ϕ 8mmの浮石含む。
- 第15層 10YR3/4暗褐色シルト 瓦葺起源。
- 第17層 10YR5/6黄褐色シルト質火山灰土
- 第18層 10YR3/3暗褐色砂質シルト
- 第19層 10YR4/2灰褐色シルト(4/4よりややや腐食強い)
- 第20層 10YR4/4褐色シルト 八戸火山灰起源の浮石5%。
- 第21層 7.5YR4/4褐色砂質シルト
- 第22層 10YR5/8黄褐色粘土質火山灰土
- 第23層 10YR3/3暗褐色砂質シルト 炭化物約1%以下。
- 第24層 10YR4/4褐色砂質シルト 高純度火山灰と砂質シルトの混じり合ったものか?

- SK-240A
- 第1層 10YR1.7/1黒色シルト 八戸火山灰起源と思われる ϕ 5mmの黄褐色浮石2%。
- 第2層 10YR2/2暗褐色シルト 八戸火山灰起源と思われる ϕ 3mmの黄褐色浮石7%。
- 第3層 10YR1.7/1黒色シルト 八戸火山灰起源と思われる ϕ 1cmの黄褐色浮石5%。
- 第4層 10YR2/3黄褐色シルト 八戸火山灰起源と思われる ϕ 5mmの黄褐色浮石7%。
- 第5層 10YR2/3黄褐色シルト 八戸火山灰起源と思われる ϕ 1cmの黄褐色浮石1%。
- 第6層 10YR4/4褐色シルト SK-240Bの崩落。
- 第7層 10YR2/3灰褐色シルト
- 第8層 10YR3/4暗褐色シルト
- 第9層 10YR2/3黄褐色シルト SK-240Bの崩落と考えられる6~8層に比べ、粘土強い。 ϕ 1cmの黄褐色火山灰(5%)。
- 第10層 10YR3/3暗褐色シルト ϕ 5mmの黄褐色浮石2%。
- 第11層 10YR5/8黄褐色粘土質火山灰土・浮石 八戸火山灰の崩落。
- 第12層 10YR2/2黄褐色シルト ϕ 7mmの黄褐色浮石20%。
- 第13層 10YR3/4暗褐色シルト
- 第14層 10YR4/4褐色シルト
- 第15層 10YR3/3暗褐色シルト
- 第16層 10YR3/3暗褐色シルト
- 第17層 10YR2/3暗褐色シルト 炭化物約3mm以下。
- 第18層 10YR3/3暗褐色シルト ϕ 5mmの黄褐色赤石少量(2%)。
- 第19層 10YR3/4暗褐色シルト
- 第20層 10YR3/3暗褐色シルト
- 第21層 10YR2/3黄褐色シルト ϕ 2cmの黄褐色浮石(10%)。
- 第22層 a 10YR5/8黄褐色粘土質火山灰土・浮石 八戸火山灰の崩落。
- 第22層 b 10YR2/3黄褐色シルト ϕ 1cmの黄褐色浮石20%。
- 第23層 c 10YR5/8黄褐色粘土質火山灰土・浮石 八戸火山灰の崩落。
- 第24層 10YR2/2黄褐色シルト
- 第25層 10YR5/8黄褐色粘土質火山灰土・浮石 八戸火山灰の崩落。
- 第26層 10YR5/8黄褐色粘土質火山灰土・浮石 八戸火山灰の崩落。
- 第27層 10YR3/4暗褐色砂質シルト。
- 第28層 10YR3/3暗褐色シルト。
- 第29層 10YR5/8黄褐色粘土質・火山灰・浮石 八戸火山灰の崩落。
- 第30層 10YR4/4褐色シルト
- 第31層 10YR2/3暗褐色シルト ϕ 3mmの黄褐色浮石5%。
- 第32層 10YR3/4暗褐色シルト

- SK-240B
- 第1層 10YR4/6暗褐色シルト ϕ 5mmの黄褐色浮石3%。
- 第2層 10YR5/6黄褐色粘土質火山灰土 八戸火山灰の崩落。
- 第3層 10YR4/6暗褐色粘土質・シルト質火山灰土 ϕ 2mmの粘土粒1%以下。
- 第4層 10YR4/4暗褐色シルト質 粘土質火山灰土 ϕ 2mmの黄褐色浮石2%。
- 第5層 10YR4/4暗褐色シルト質 粘土質火山灰土 4層より明るい ϕ 1mmの炭化物約1%以下 炭化の痕跡と ϕ 1cmの黄褐色浮石(16%)。
- 第6層 10YR4/6暗褐色粘土質火山灰土
- 第7層 10YR4/6暗褐色粘土質シルト(火山灰土が基質となっていると思われる)。
- 第8層 10YR3/4暗褐色砂質シルト
- 第9層 10YR4/4暗褐色粘土質・シルト質(火山灰土 ϕ 1cmの黄褐色浮石15%が基質となっていると思われる)。
- 第10層 10YR4/6暗褐色粘土質火山灰土
- 第11層 10YR3/4暗褐色粘土質シルト

0 (IS=1/40) 2m

図23 第238・240A・240B号土坑



- SK-239
- 第1層 10YR3/3暗褐色シルト
 - 第2層 10YR4/4褐色粘土質火山灰土
 - 第3層 10YR3/4暗褐色シルト
 - 第4層 10YR3/4暗褐色シルト φ5mmの黄褐色浮石10%、10YR4/6褐色粘土の覆状構造
 - 第5層 10YR3/7暗褐色シルト 上部に10YR5/6黄褐色粘土質火山灰土上ブロック含む。(φ1cm)の黄褐色浮石1%以下
 - 第6層 10YR3/4暗褐色シルト 10YR4/4暗褐色粘土の覆状構造、φ3mmの黄褐色浮石3%
 - 第7層 10YR3/4暗褐色シルト 上部に10YR5/8黄褐色粘土質火山灰土上ブロック状を含む。φ5mmの黄褐色浮石5%
 - 第8層 10YR6/6明黄褐色粘土質火山灰土、10YR4/6褐色粘土の混合 壁の構造
 - 第9層 10YR6/6明黄褐色粘土質火山灰土(VI以下) 高断面土層の崩落
 - 第10層 10YR3/4暗褐色シルト 上部よりやや暗い
 - 第11層 10YR3/4暗褐色シルト φ5mmの黄褐色浮石5%
 - 第12層 10YR3/7暗褐色砂質シルト φ3mmの黄褐色浮石3%
 - 第13層 10YR3/4暗褐色シルト 10YR2/2黒褐色砂質シルト・10YR4/6褐色粘土質火山灰土・10YR6/6明黄褐色粘土質火山灰土の互層
 - 第14層 10YR6/6明黄褐色火山灰土と7.5YR4/4粘土質火山灰土が混在している崩落土と思われる
 - 第15層 10YR6/6明黄褐色砂質火山灰土
 - 第16層 10YR4/4褐色粘土質火山灰土 高断面土層のブロック
 - 第17層 10YR5/6黄褐色粘土質火山灰土(VI/VII層)
 - 第18層 10YR3/3暗褐色砂質シルト
 - 第19層 10YR3/3暗褐色砂質シルト
 - 第20層 10YR4/4褐色粘土質火山灰土 高断面土層のブロック
 - 第21層 10YR3/3暗褐色砂質シルト
 - 第22層 10YR4/4褐色粘土質火山灰土 高断面土層のブロック
 - 第23層 10YR3/3暗褐色砂質シルト
 - 第24層 10YR3/4暗褐色砂質シルト
 - 第25層 10YR3/3暗褐色砂質シルト
 - 第26層 10YR4/4褐色粘土質火山灰土 高断面土層のブロック
 - 第27層 10YR4/4褐色シルト 10YR4/6土の覆状構造
 - 第28層 10YR3/4暗褐色砂質シルト
 - 第29層 10YR3/4暗褐色粘土質シルト
 - 第30層 10YR6/6明黄褐色粘土質シルト φ3mmの黄褐色浮石30%
 - 第31層 10YR4/4褐色シルト φ3mmの黄褐色浮石33%、砂を含むが粘土成分多い
 - 第32層 10YR3/4暗褐色シルト 壁以下ブロック状
 - 第33層 10YR6/6明黄褐色粘土質火山灰土 (VI以下)
 - 第34層 10YR3/4暗褐色砂質シルト φ3mmの黄褐色浮石10%含む
 - 第35層 7.5YR4/4褐色粘土質火山灰土 高断面土層のブロック

- SK-251
- 第1層 10YR3/4暗褐色シルト
 - 第2層 10YR3/4暗褐色シルト φ5mmの黄褐色浮石1%以下
 - 第3層 10YR4/6褐色シルト
 - 第4層 10YR3/3暗褐色砂質シルト φ5mmの黄褐色浮石5%
 - 第5層 10YR3/4暗褐色シルト
 - 第6層 10YR3/4暗褐色シルト φ1cmの黄褐色浮石7%
 - 第7層 10YR3/3暗褐色シルト φ8mmの黄褐色浮石5%
 - 第8層 10YR3/3暗褐色シルト
 - 第9層 10YR3/3暗褐色シルト
 - 第10層 10YR4/6褐色粘土質火山灰土
 - 第11層 10YR3/4暗褐色シルト
 - 第12層 10YR3/3暗褐色砂質シルト
 - 第13層 10YR2/3黒褐色砂質シルト
 - 第14層 10YR2/3暗褐色砂質シルト

- SK-252
- 第1層 10YR4/4褐色粘土質火山灰土 高断面土層起源
 - 第2層 7.5YR4/3褐色粘土質火山灰土 高断面土層起源
 - 第3層 10YR4/3褐色粘土質火山灰土 高断面土層起源
 - 第4層 10YR4/4褐色シルト 10YR5/6黄褐色シルト質火山灰土 上下下層にブロック状を含む
 - 第5層 10YR3/3暗褐色八戸火山灰起源と思われる φ5mmの黄褐色浮石1%以下に10%
 - 第6層 10YR3/3暗褐色八戸火山灰起源と思われる φ5mmの黄褐色浮石15%

- SK-241
- 第1層 10YR4/6褐色シルト φ1cmの八戸火山灰起源と思われる黄褐色浮石5%
 - 第2層 10YR4/6褐色シルト φ20cmの八戸火山灰起源と思われる黄褐色浮石10%
 - 第3層 10YR4/6褐色砂質シルト φ1cmの八戸火山灰起源と思われる黄褐色浮石5%
 - 第4層 10YR4/4褐色シルト 上部より黒褐色強い
 - 第5層 10YR6/6明黄褐色火山灰土上シルトの混合土
 - 第6層 7.5YR4/6褐色粘土質火山灰土 高断面土層起源
 - 第7層 7.5YR3/4暗褐色粘土質シルト 高断面土層起源

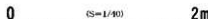


図24 第239・241・251・252号土坑

第243号土坑〔SK-243〕(図25、96)

〔堆積土〕20層に分層した。砂質シルトを主体とし、第2層・第3層には斑状構造が認められる。第8層・第10層は壁の火山灰土の崩落の可能性が高い。これらのことから、本土坑は自然堆積か、一部が人為堆積であっても堆積に一定の時間を要したものと考えられる。〔出土遺物〕第11・12・15・17層から土器が7点(612.8g)出土した。〔時期〕本遺構に明確に伴う遺物がないため、詳細な時期は不明だが、本遺跡の主体的な時期である中期初頭に属する可能性が高い。(中村)

第244号土坑〔SK-244〕(図25、96、97)

〔堆積土〕5層に分層した。ほとんどが褐色ないし、黄褐色の土層で、人為堆積と考えられる。〔出土遺物〕第1・2・4・5層から16点(992.3g)の土器が、第4・5層および堆積土から自然礫が3点(386g)、第5層から敲磨器が1点(334.2g)出土した。〔時期〕本遺構に明確に伴う遺物がないため、詳細な時期は不明だが、本遺跡の主体的な時期である中期初頭に属する可能性が高い。(中村)

第245号土坑〔SK-245〕(図25、97、98)

〔堆積土〕7層に分層した。粘土質の土層が主体で、炭化物層も認められる。人為堆積と考えられる。第1層中に土器が埋設されていた(第11号埋設土器)。〔出土遺物〕第1・2・6・7層から79点(3130.8g)の土器が、第1・2・6・7層から10点(3406.2g)の自然礫が出土した。〔時期〕出土した土器が、古い遺構の遺物を再度棄したものである可能性を完全には否定できないが、縄文時代中期初頭の可能性が高い。(中村)

第246号土坑〔SK-246〕(図26、98)

〔堆積土〕24層に分層した。土色は褐色・黄褐色・鈍い黄褐色などが多く、人為堆積の可能性が高い。しかし、9層・11層・19層・20層は壁の火山灰土が崩落した可能性が考えられ、人為堆積であっても堆積に一定の時間を要した可能性もある。〔出土遺物〕第1・2・3・4・5・7・15層から55点(884.6g)の土器が出土した。縄文時代中期初頭のものである。第1・2・7・8・23層から自然礫が6点、第4層から敲磨器が1点、第13・15・22・24層から石礫が5点出土した。〔時期〕本遺構に明確に伴う遺物がないため、詳細な時期は不明だが、本遺跡の主体的な時期である中期初頭に属する可能性が高い。(中村)

第247号土坑〔SK-247〕(図27、28、98~104)

〔堆積土〕10層に分層した。いずれも火山灰土や火山灰土に黒色シルトその他が混じったものと考えられ、人為堆積と考えられる。〔出土遺物〕435点(18035.9g)の土器が出土した。重量比で98.6%が5層以下から出土した。第4層から剥片が、第5層から敲磨器が、第7層から石冠が各1点、第4・5・7・8層から自然礫が14点(494.3g)出土した。図104-591は堆積土中から倒立状態で出土した。この土器の口縁部と同じレベルで図102-589が横転した状態で出土した。これらの土器の下位には焼土が存在し、坑内一面に遺物が出土しており、単なる廃棄とは考えがたい。〔時期〕遺物の出土状況から遺構の廃絶と遺物の時期が極めて近い、または同時と考えられ、出土した土器から縄文時代中期初頭と考えられる。〔脂質・リン酸等分析〕第7層と図104-591内の土壌からサンプルを採取し、リン酸・ステロール・脂肪酸の分析を実施したが、埋葬を積極的に指示する結果は得られなかった。(中村)

第249号土坑〔SK-249〕(図26、104)

〔堆積土〕15層に分層した。全体に粘土分の多いシルトが堆積しており、人為堆積と考えられる。〔出土遺物〕第1・2・9・14層から6点(110.7g)の土器が出土した。593は縄文時代中期初頭のもとの

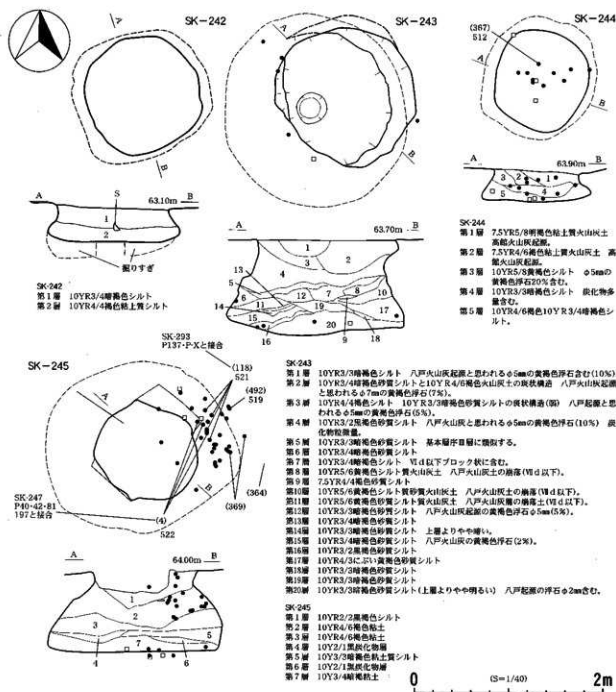


図25 第242・243・244・245号土坑

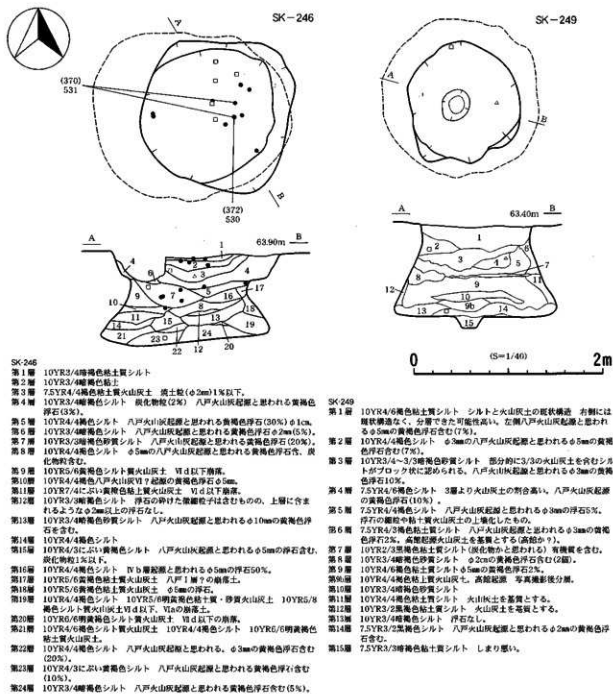
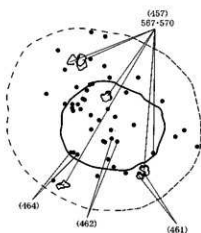
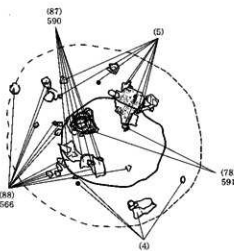
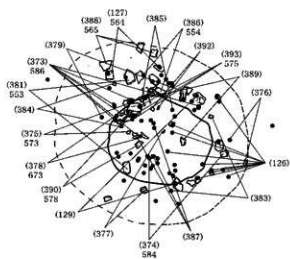
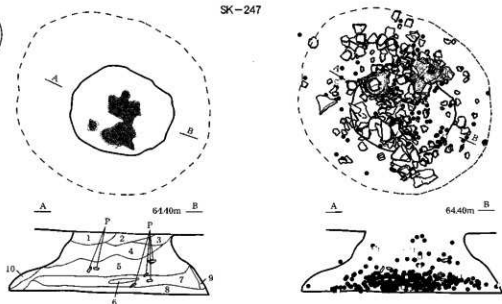


図26 第246・249号土坑



SK-247



SK-247

- 第1層 10YR4/6褐色シルト 八戸火山灰起源と思われるφ1cmの黄褐色浮石1%以下。
- 第2層 10YR4/4褐色シルト 八戸火山灰起源と思われるφ5mmの黄褐色浮石2%。
- 第3層 10YR3/4暗褐色シルト 八戸火山灰起源と思われるφ5mmの黄褐色浮石2%。
- 第4層 10YR3/4暗褐色シルト 八戸火山灰起源と思われるφ1cmの黄褐色浮石30%。
- 第5層 10YR3/2暗褐色シルト 八戸火山灰起源と思われるφ1cmの黄褐色浮石15%。
炭化物(最大径φ3cm)5%。
- 第6層 2.5YR4/6赤褐色土
- 第7層 10YR3/2暗褐色シルト φ5mmの黄褐色浮石30%、φ5mmの炭化物粒15%。
- 第8層 10YR4/6褐色シルト φ5mmの黄褐色浮石10%。
- 第9層 10YR5/6黄褐色粘土質火山灰土 高嶺火山灰起源。
- 第10層 7.5YR5/6明褐色粘土質火山灰土 高嶺火山灰起源。

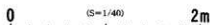


図27 第247号土坑

考えられる。第2・14層から自然礫が3点、第4層から剥片が1点出土した。[時期] 本遺構に明確に伴う遺物がないため、詳細な時期は不明だが、本遺跡の主体的な時期である中期初頭に属する可能性が高い。

(中村)

第250号土坑〔SK-250〕(図28)

[堆積土] 18層に分層した。ほとんどが火山灰土で、人為堆積と考えられる。[出土遺物] 第10・15層から土器が2点(24.1g)出土した。石類は第12層から石匙が1点、第15層から自然礫が1点(326g)出土した。[時期] 本遺構に明確に伴う遺物がないため、詳細な時期は不明だが、本遺跡の主体的な時期である中期初頭に属する可能性が高い。

(中村)

第253・254号土坑〔SK-253・254〕(図28)

[確認と調査過程] 当初二つの土坑の重複と考えて調査を開始した。[堆積土] 6層に分層した。第1・2・3層は粘土、第4～6層はシルトである。粘土層は堅くしまっている。[底面形状] 不整な凹凸が認められる。[時期・性格等] 本遺構は、底面形状などから、木根等による攪乱と思われ、火山灰土を用いて埋め戻したものと思われる。時期は不明である。

(中村)

第255号土坑〔SK-255〕(図28)

[調査過程等] 周辺の黄褐色火山灰土とは異なる火山灰土を落ち込みと考え精査を開始したが、第5層を地山の高嶺火山灰と誤認し、精査を中断した。その後、トレンチを設定するなどして、掘り足りないことがわかり、精査を再開したが、作業員への指示にミスがあり、一部を土層断面図を作成しないまま掘り下げてしまった。[堆積土] 残存部で22層に分層した。粘土質の土層が多く、人為堆積と考えられる。[出土遺物] 堆積土中から35点(412.7g)の土器、4点(2597.9g)の自然礫が出土した。土器は縄文時代中期のものと考えられる。[時期] 本遺構に明確に伴う遺物がないため、詳細な時期は不明だが、本遺跡の主体的な時期である中期初頭に属する可能性が高い。

(中村)

第256号土坑〔SK-256〕(図29、104、105)

[堆積土] 26層に細分した。上部は八戸火山灰起源と考えられる白色・黄褐色の軽石を多く含むシルト、下部は火山灰土と黒色系統のシルトの混合土からなる。ほとんどは人為堆積土と考えられるが、第19層のように、崩落土の可能性が考えられる土層が認められ、第20層とともに自然堆積の可能性が考えられる。[出土遺物] 第2・3・4・21・25層から土器が16点(256.8g)、第1層から磨器が1点、第1・2・3・14・18・25層から自然礫が7点(1913.1g)出土している。土器は縄文時代中期のものを含んでいる。[時期] 本遺構に明確に伴う遺物がないため、詳細な時期は不明だが、本遺跡の主体的な時期である中期初頭に属する可能性が高い。

(中村)

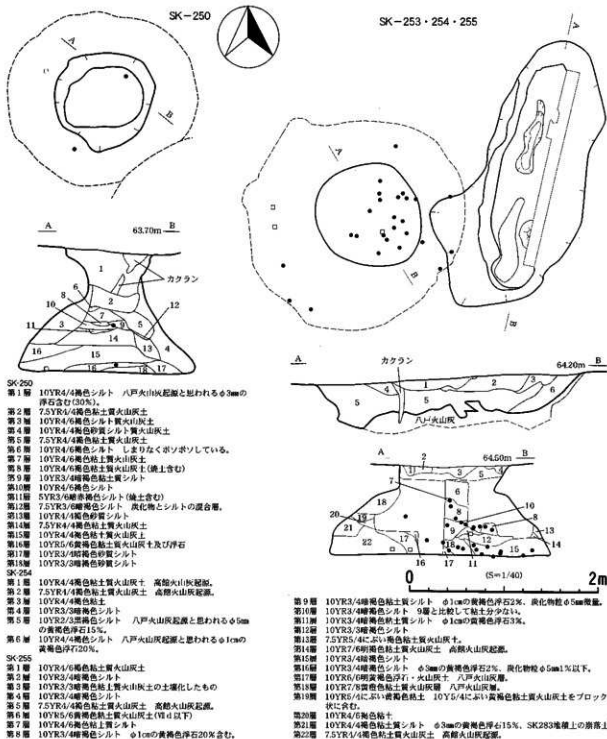
第257号土坑〔SK-257〕(図29、105)

[堆積土] 2層に分層した。第1層は基本層序第Ⅱ層に類似する。層中に焼土粒を含むことから人為堆積の可能性も考えられるが、詳細は不明である。第2層は西側のみ堆積する。[出土遺物] 第1層から重量約1.9kgの板状の自然礫が1点、黒曜石のフレイクが2点出土している。板状の礫は黒曜石と隣接して出土している。[時期] 出土した土器の年代が本遺構の年代を示している。土器の年代観等は第5章第2節を参照されたい。

(葛城)

第258号土坑〔SK-258〕(図29)

[堆積土] 2層に分層した。第1層は層中にTo-bを含み、基本層序第Ⅱ層に類似する。本層はシルト



SK-250

- 第1層 10YR4/4褐色シルト 八戸火山灰起源と思われるφ3mmの浮石含む(30%)。
- 第2層 7.5YR6/4褐色粘土質火山灰土
- 第3層 10YR4/6褐色粘土質火山灰土
- 第4層 10YR4/4褐色砂質シルト質火山灰土
- 第5層 7.5YR4/4褐色粘土質火山灰土
- 第6層 10YR4/6褐色シルト しまりなくボソボソしている。
- 第7層 10YR4/6褐色粘土質火山灰土
- 第8層 10YR4/6褐色粘土質火山灰土(粘土含む)
- 第9層 10YR3/4暗褐色粘土質シルト
- 第10層 10YR4/6褐色シルト
- 第11層 5YR3/6暗褐色シルト(粘土含む)
- 第12層 7.5YR3/6暗褐色シルト 炭化物とシルトの混合層。
- 第13層 10YR4/4褐色砂質シルト
- 第14層 7.5YR4/4褐色粘土質火山灰土
- 第15層 10YR2/4暗褐色粘土質火山灰土
- 第16層 10YR6/6黄褐色粘土質火山灰土及び浮石の黄褐色浮石15%。
- 第17層 10YR3/4暗褐色砂質シルト
- 第18層 10YR3/3暗褐色砂質シルト

SK-254

- 第1層 10YR4/4褐色粘土質火山灰土 高嶺火山灰起源。
- 第2層 7.5YR4/4褐色粘土質火山灰土 高嶺火山灰起源。
- 第3層 10YR4/4褐色粘土
- 第4層 10YR3/3暗褐色シルト
- 第5層 10YR2/3暗褐色シルト 八戸火山灰起源と思われるφ5mmの黄褐色浮石15%。
- 第6層 10YR4/4褐色シルト 八戸火山灰起源と思われるφ1cmの黄褐色浮石20%。

SK-255

- 第1層 10YR4/4褐色粘土質火山灰土
- 第2層 10YR3/4暗褐色シルト
- 第3層 10YR3/3暗褐色粘土質火山灰土の土壌化したもの
- 第4層 10YR3/3暗褐色シルト
- 第5層 7.5YR4/4褐色粘土質火山灰土 高嶺火山灰起源。
- 第6層 10YR6/6黄褐色粘土質火山灰土(VI以下)
- 第7層 10YR4/4褐色粘土質火山灰土
- 第8層 10YR3/4暗褐色シルト φ1cmの黄褐色浮石20%含む。

A

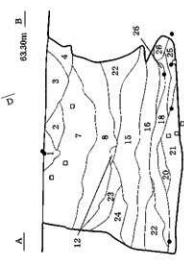
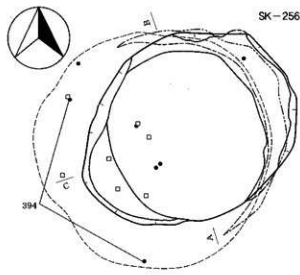


A

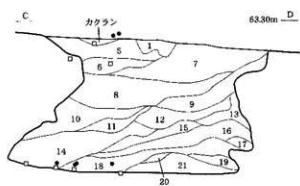


- 第9層 10YR3/4暗褐色粘土質シルト φ1cmの黄褐色浮石2%。炭化物粒φ5mm程度。
- 第10層 10YR3/4暗褐色シルト 9層と比較して粘土分少ない。
- 第11層 10YR3/4暗褐色粘土質シルト φ1cmの黄褐色浮石3%。
- 第12層 10YR3/3暗褐色シルト
- 第13層 7.5YR5/4Cに多い褐色粘土質火山灰土。
- 第14層 10YR7/6明褐色粘土質火山灰土 高嶺火山灰起源。
- 第15層 10YR3/4暗褐色シルト
- 第16層 10YR3/3暗褐色シルト φ3mmの黄褐色浮石2%。炭化物粒φ5mm以下。
- 第17層 10YR6/6明黄褐色浮石、火山灰土 八戸火山灰源。
- 第18層 10YR7/8黄褐色粘土質火山灰土 八戸火山灰源。
- 第19層 10YR6/4に多い暗褐色粘土 10Y5/4に多い黄褐色粘土質火山灰土をブロック状に含む。
- 第20層 10YR4/6褐色粘土
- 第21層 10YR4/4褐色粘土質シルト φ3mmの黄褐色浮石15%、SK283堆積上の遺骨上。
- 第22層 7.5YR1/4褐色粘土質火山灰土 高嶺火山灰起源。

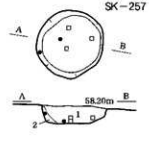
図28 第250・254・255号土坑



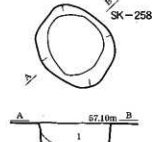
- SK-256
- 第1層 10YR3/3暗褐色シルト
φ3mmの白色浮石10%
 - 第2層 10YR3/4暗褐色シルト
φ1cmの白色浮石5%
 - 第3層 10YR2/3暗褐色シルト
φ5mmの白色・黄褐色
浮石10%
 - 第4層 10YR2/3暗褐色シルト
φ5mmの白色・黄褐色
浮石10%。上部より細かい、
10YR3/3暗褐色シルト
φ3mmの白色・黄褐色
浮石30%
 - 第5層 10YR3/3暗褐色シルト
上部より細かい、
φ5mmの白色浮石55%
 - 第6層 10YR3/3暗褐色シルト
上部より細かい、
φ5mmの白色浮石55%
 - 第7層 10YR3/4暗褐色シルト
φ2mm~5mmの白色・
黄褐色浮石30%
 - 第8層 10YR2/3暗褐色シルト
10YR3/4褐色粘土質火山
灰土・浮石が互層を
為す。
 - 第9層 10YR3/4暗褐色シルト
φ2mmの白色浮石20%
 - 第10層 10YR6/4にぶい黄褐色
粘土質火山灰土(風化した
浮石)と10YR3/3暗
褐色シルトの互層。



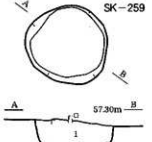
- 第11層 10YR3/4暗褐色4/4褐色シルトの混合土 φ5mmの褐色浮石15%
- 第12層 10YR4/4褐色粘土質シルト 風化した白色火山灰と暗褐色シルトの混合土
- 第13層 10YR4/3にぶい黄褐色シルト φ1cmの黄褐色浮石15%
- 第14層 10YR7/4にぶい黄褐色砂質火山灰土と10YR4/3にぶい黄褐色シルト質火山
灰土。
- 第15層 10YR4/4褐色粘土質火山灰土
- 第16層 10YR7/4にぶい黄褐色浮石と10YR3/3暗褐色シルトの混合土
- 第17層 10YR5/8黄褐色浮石
- 第18層 10YR4/3にぶい黄褐色シルト 風化した白色浮石多量(50%)を含む。
- 第19層 10YR6/4にぶい黄褐色砂質火山灰土 10YR5/6黄褐色浮石・腐降土。
- 第20層 10YR3/3暗褐色シルト φ3mmの風化した白色浮石含む。
- 第21層 10YR3/3暗褐色シルト
- 第22層 10YR3/3暗褐色シルト φ1cmの白色浮石10%
- 第23層 10YR3/4暗褐色シルト
- 第24層 10YR3/4暗褐色シルトと暗褐色シルトの互層。
- 第25層 10YR7/4にぶい黄褐色浮石。Vdの一部分(層厚φ2mm)の腐降土。
- 第26層 10YR6/6~6/8黄褐色浮石層。八戸Vbの腐降。



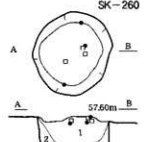
- SK-257
- 第1層 10YR2/1黒色シルト 織土
粒(φ3mm)1%。
 - 第2層 10Y2/2黄褐色砂質シルト
藍褐色土と表土が混合?



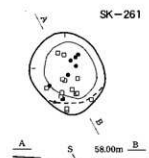
- SK-258
- 第1層 10YR2/1黒色シルト To-bと
恐われる白色浮石(~φ5mm)1%。
 - 第2層 10YR2/3暗褐色シルト 粘土
質シルトに近い。



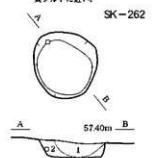
- SK-259
- 第1層 10YR2/1黒色シルト



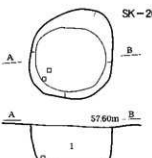
- SK-260
- 第1層 10YR2/1黒色シルト
 - 第2層 10YR2/2黄褐色砂質シルト



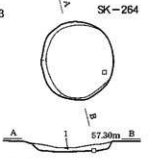
- SK-261
- 第1層 10YR2/1黒色シルト 白色
浮石(φ5mm)1%混入。



- SK-262
- 第1層 10YR2/1黒色シルト
 - 第2層 10YR3/2黄褐色砂質シルト



- SK-263
- 第1層 10YR2/3黒色シルト 黄褐色
10YR3/2砂質シルトを後装した
20%混入。



- SK-264
- 第1層 10YR2/1黒色シルト 白色
浮石(φ2mm)2%混入。

図29 第256・257・258・259・260・261・262・263・264号土坑

であるが底面付近では粘土質シルトに近い。[出土遺物] 縄文土器片が2点(20.1g)出土した。石器は出土しなかった。[時期] 直接的に時期決定できる遺物は無いが、規模や形態、位置から第257・261号土坑と同時期の可能性が考えられる。(葛城)

第259号土坑〔SK-259〕(図29)

[堆積土] 黒褐色シルトを主体とし、基本層序第Ⅱ層に類似する。[出土遺物] 重量が1kgを超えるものを含む自然礫が6点出土している。総重量は19257.2gである。[時期] 直接的に時期決定できる遺物は無いが、規模や形態、礫が出土したことから、第257・261号土坑と同時期の可能性が考えられる。(葛城)

第260号土坑〔SK-260〕(図29、105)

[堆積土] 2層に分層した。第257号土坑の堆積状況と極めて類似する。[出土遺物] 縄文土器片が3点(33.3g)出土した。小型の自然礫が3点出土している。総重量は20.1gで比較的まとまった出土状況を呈する。[時期] 直接的に時期決定できる遺物は無いが、規模や形態、土器・礫が出土したことから、後述の第257・261号土坑と同時期の可能性が考えられる。(葛城)

第261号土坑〔SK-261〕(図29、104)

[堆積土] 黒色シルトを主体とし、基本層序第Ⅱ層に類似する。[出土遺物] 堆積土中から土器片、石礫1点、及び自然礫が13点出土している。この他に黒曜石のフレイクが2点出土している。総重量は10863.0gである。堆積土下位に小型の自然礫が廃棄され、その上位に黒曜石と大型の自然礫がまとまって出土する。このような黒曜石と礫との関係は第257号土坑でも同様である。なお、石礫は後世の混入と考えられる。[時期] 出土した土器の年代が本遺構の年代を示している。土器の年代観は第5章第2節を参照されたい。(葛城)

第262号土坑〔SK-262〕(図29)

[堆積土] 2層に分層した。第1層は黒色シルトで、基本層序第Ⅱ層に類似する。[出土遺物] 第2層から重量51.7gの自然礫が1点出土している。[時期] 直接的に時期決定できる遺物は無いが、規模や形態、礫が出土したことから、第257・261号土坑と同時期の可能性が考えられる。(葛城)

第263号土坑〔SK-263〕(図29、106)

[堆積土] 黒色シルトを主体とし、黒褐色砂質シルトを斑状に含む。[出土遺物] 縄文土器片が2点(22.6g)出土した。接合する自然礫が2点出土している。総重量は38.1gである。[時期] 直接的に時期決定できる遺物は無いが、規模や形態、礫が出土したことから、第257・261号土坑と同時期の可能性が考えられる。(葛城)

第264号土坑〔SK-264〕(図29)

[堆積土] 基本層序第Ⅱ層に類似する黒色シルト層である。[出土遺物] 重150.3gの自然礫が1点出土している。[時期] 直接的に時期決定できる遺物は無いが、位置、規模や形態から、第257・261号土坑と同時期の可能性が考えられる。(葛城)

第265号土坑〔SK-265〕(図30、106)

[堆積土] 3層に分層した。すべて火山灰土で人為堆積と考えられる。[出土遺物] 土器が3点(2点は位置の記録ミス)、自然礫が各1点出土している。[時期] 本遺構に明確に伴う遺物が無いため、詳細な時期は不明だが、前期末～中期初頭に属する可能性が高い。(中村)

第266号土坑 (SK-266) (図30、106)

[堆積土] 42層に分層した。砂質シルトを主体とする。壁際には火山灰土が認められ、崩落土の可能性が高い。したがって、自然堆積の可能性が考えられる。[出土遺物] 第1・10・11・16・23・24・35・36層から土器が18点 (271.9g)、自然礫が床面・1層から3点 (509.8g) 出土した。土器は縄文時代中期初頭のものと考えられる。[時期] 本遺構に明確に伴う遺物がないため、詳細な時期は不明だが、本遺跡の主体的な時期である中期初頭に属する可能性が高い。(中村)

第267号土坑 (SK-267) (図30、31、106)

[堆積土] 37層に分層した。砂質シルトを主体とする。上位から中位にかけて斑状構造が認められる。壁際に火山灰土が多く認められ、崩落土の可能性が考えられる。従って、自然堆積の可能性が高い。[出土遺物] 第1・2・3・7・10・11・12・16・25層および堆積土から58点 (1309.5g) の土器が、第11層から敲磨器が1点、第3層・堆積土中から剥片が各1点、第1・2・12層・堆積土中から自然礫が12点 (318.5g) 出土した。土器は縄文時代中期初頭のものを含んでいる。[時期] 本遺構に明確に伴う遺物がないため、詳細な時期は不明だが、本遺跡の主体的な時期である中期初頭に属する可能性が高い。(中村)

第268号土坑 (SK-268) (図31、107)

[堆積土] 9層に分層した。褐色の砂質シルト及びシルトを主体とする。壁面の崩落土と考えられる第1・5層を除き、八戸火山灰起源と考えられる黄褐色浮石を含んでいる。[出土遺物] 第1・2・4・5層から土器片が26点 (194.9g) 出土した。うち、第1層から20点 (161.2g) の土器が出土した。縄文時代中期初頭の土器を含む。第1～4層にかけて自然礫が4点出土している。総重量は755.7gである。[時期] 本遺構に明確に伴う遺物がないため、詳細な時期は不明だが、本遺跡の主体的な時期である中期初頭に属する可能性が高い。(葛城)

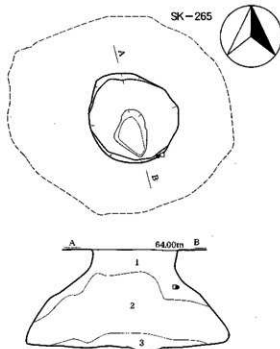
第270号土坑 (SK-270) (図32、107)

[堆積土] 16層に分層した。壁際ではなく、遺構中央部に八戸火山灰を主体とする黄褐色シルトが堆積することから人為堆積の可能性が高い。[出土遺物] 第1・2・3・6・8・12・13・14・15・16層から60点 (2533.6g) の土器が出土した。うち、第8層から24点 (302.0g)、第13層から12点 (1628.1g) が出土した。土器は円筒上層a式と考えられるものが多い。自然礫及び2次加工のない剥片が合わせて15点出土している。これらのほとんどは第8層及びその下層から出土した。総重量は4720.1gである。[時期] 本遺構に明確に伴う遺物がないため、詳細な時期は不明だが、本遺跡の主体的な時期である中期初頭に属する可能性が高い。(葛城)

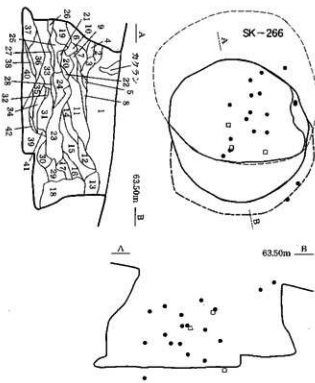
第271号土坑 (SK-271) (図33)

[位置と確認] 本遺構は竪穴住居跡の可能性もあるが、遺構の大半が調査区域外に広がり全体像が不明なため、ここでは土坑として報告する。[壁面及び底面の状況] 壁面は緩やかに外傾しながら立ち上がる。底面からは北側に長さ1 m 3 cm、深さ8 cmの浅い落ち込みが検出された。[堆積土] 5層に分層した。浅い掘り込みを埋めるように第4・5層が堆積している。[出土遺物] 第2・5層から土器が2点 (32.3g) 出土した。縄文時代中期初頭のものと思われる。石器は出土しなかった。[時期] 本遺構に明確に伴う遺物がないため、詳細な時期は不明だが、本遺跡の主体的な時期である中期初頭に属する可能性が高い。(葛城)

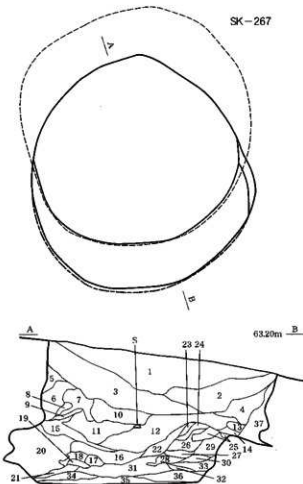
第272号土坑 (SK-272) (図33、107)



- SK-265
 第1層 10YR4/4褐色シルト
 第2層 7.5YR4/4褐色砂質シルト
 第3層 10YR3/4暗褐色砂質シルト



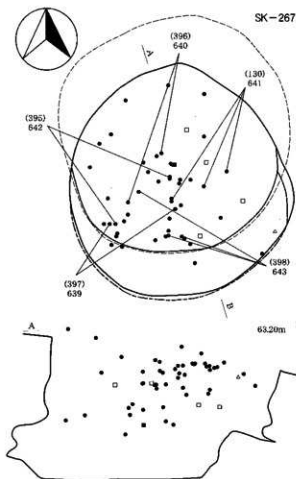
- SK-266
 第1層 10YR3/4暗褐色砂質シルトの表状構造φ5mmの黄褐色浮石2%。
 第2層 10YR3/4暗褐色シルト φ1cmの黄褐色浮石5%。
 第3層 10YR3/3暗褐色砂質シルト φ5mmの浮石1%。
 第4層 10YR3/4暗褐色シルト
 第5層 10YR3/2暗褐色砂質シルト
 第6層 10YR4/4褐色シルト
 第7層 10YR3/4暗褐色砂質シルト
 第8層 10YR3/3暗褐色砂質シルト
 第9層 10YR3/3暗褐色砂質シルト 上層よりやや明るい。
 第10層 10YR4/6褐色シルト
 第11層 10YR3/3暗褐色砂質シルト
 第12層 10YR3/4暗褐色砂質シルト φ2mmの浮石2%。
 第13層 10YR4/4褐色シルト 黄火山灰土 壁の崩落土。
 第14層 10YR3/3暗褐色砂質シルト φ5mmの黄褐色浮石2%。
 第15層 10YR3/3暗褐色砂質シルト φ5mmの浮石1%以下。
 第16層 10YR3/4暗褐色シルト
 第17層 10YR3/3暗褐色砂質シルト
 第18層 10YR4/4褐色シルト
 第19層 10YR3/4暗褐色シルト φ5mmの黄褐色浮石10%。
 第20層 10YR3/3暗褐色シルト
 第21層 10YR3/4暗褐色シルト 25層の崩落。
 第22層 10YR4/4褐色シルト
 第23層 10YR2/3黒褐色砂質シルト
 第24層 10YR3/3暗褐色砂質シルト φ5mmの黄褐色浮石2%。
 第25層 10YR5/6黄褐色シルト 黄火山灰土 VⅡaの崩落。
 第26層 10YR4/6~4/4褐色シルト 黄火山灰土 VⅡaの崩落。
 第27層 10Y4/4褐色シルト 黄火山灰土と暗褐色シルトの混合土。
 第28層 10YR2/3黒褐色砂質シルト
 第29層 10YR4/6褐色シルト 黄火山灰土
 第30層 10YR3/6暗褐色砂質シルト
 第31層 10YR2/3黒褐色砂質シルト φ5mmの黄褐色浮石42%。
 第32層 10YR2/3黒褐色砂質シルト 上層よりやや明るい。
 第33層 10YR5/6黄褐色シルト 黄火山灰土 VⅡaの崩落。
 第34層 10YR3/3暗褐色砂質シルト φ2mmの黄褐色浮石1%。
 第35層 10YR3/3暗褐色砂質シルト 粘性強い、φ2mmの黄褐色浮石5%。
 第36層 10YR3/3暗褐色砂質シルト
 第37層 10YR3/4暗褐色砂質シルト
 第38層 10YR3/4暗褐色シルト
 第39層 10YR3/3暗褐色シルト 30層との境界付近に黄褐色シルト(境界中不明)見られる。
 第40層 10YR2/3黒褐色砂質シルト
 第41層 10YR3/3暗褐色シルト
 第42層 10YR3/2黒褐色シルト



- SK-267
 第1層 10YR3/4暗褐色砂質シルトの表状構造φ5mmの黄褐色浮石2%。
 第2層 10YR3/4暗褐色シルト φ1cmの黄褐色浮石5%。
 第3層 10YR3/3暗褐色砂質シルト φ5mmの浮石1%。
 第4層 10YR3/4暗褐色シルト
 第5層 10YR3/2暗褐色砂質シルト
 第6層 10YR4/4褐色シルト
 第7層 10YR3/4暗褐色砂質シルト
 第8層 10YR3/3暗褐色砂質シルト
 第9層 10YR3/3暗褐色砂質シルト 上層よりやや明るい。
 第10層 10YR4/6褐色シルト
 第11層 10YR3/3暗褐色砂質シルト
 第12層 10YR3/4暗褐色砂質シルト φ2mmの浮石2%。
 第13層 10YR4/4褐色シルト 黄火山灰土 壁の崩落土。
 第14層 10YR3/3暗褐色砂質シルト φ5mmの黄褐色浮石2%。
 第15層 10YR3/3暗褐色砂質シルト φ5mmの浮石1%以下。
 第16層 10YR3/4暗褐色シルト
 第17層 10YR3/3暗褐色砂質シルト
 第18層 10YR4/4褐色シルト
 第19層 10YR3/4暗褐色シルト φ5mmの黄褐色浮石10%。
 第20層 10YR3/3暗褐色シルト
 第21層 10YR3/4暗褐色シルト 25層の崩落。
 第22層 10YR4/4褐色シルト
 第23層 10YR2/3黒褐色砂質シルト
 第24層 10YR3/3暗褐色砂質シルト φ5mmの黄褐色浮石2%。
 第25層 10YR5/6黄褐色シルト 黄火山灰土 VⅡaの崩落。
 第26層 10YR4/6~4/4褐色シルト 黄火山灰土 VⅡaの崩落。
 第27層 10Y4/4褐色シルト 黄火山灰土と暗褐色シルトの混合土。
 第28層 10YR2/3黒褐色砂質シルト
 第29層 10YR4/6褐色シルト 黄火山灰土
 第30層 10YR3/6暗褐色砂質シルト
 第31層 10YR2/3黒褐色砂質シルト φ5mmの黄褐色浮石42%。
 第32層 10YR2/3黒褐色砂質シルト 上層よりやや明るい。
 第33層 10YR5/6黄褐色シルト 黄火山灰土 VⅡaの崩落。
 第34層 10YR3/3暗褐色砂質シルト φ2mmの黄褐色浮石1%。
 第35層 10YR3/3暗褐色砂質シルト 粘性強い、φ2mmの黄褐色浮石5%。
 第36層 10YR3/3暗褐色砂質シルト
 第37層 10YR3/4暗褐色砂質シルト
 第38層 10YR3/4暗褐色シルト
 第39層 10YR3/3暗褐色シルト 30層との境界付近に黄褐色シルト(境界中不明)見られる。
 第40層 10YR2/3黒褐色砂質シルト
 第41層 10YR3/3暗褐色シルト
 第42層 10YR3/2黒褐色シルト

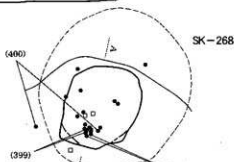
(S=1/40)

図30 第265・266・267号土坑



SK-267

- SK-267
- 第1層 10YR3/4暗褐色シルトと3/3暗褐色砂質シルトの混成構造。φ1cmの黄褐色浮石7%。
- 第2層 10YR2/3茶褐色10YR2/3黒褐色と10YR3/4暗褐色砂質シルトの混成構造。上層より厚み部分少ない。φ1cmの黄褐色浮石5%。
- 第3層 10YR3/3暗褐色砂質シルト10YR3/3黒褐色と10YR3/4暗褐色砂質シルトの混成構造。北壁部10YR4/4暗褐色シルト質火山灰土が痕跡に認められる。φ1cmの黄褐色浮石5%。
- 第4層 10YR2/3黒褐色10YR3/3暗褐色砂質シルトが部分的に痕跡に見られるが上層よりの割合は少ない。
- 第5層 10YR3/4暗褐色シルトと壁の火山灰土の崩落土と混合土。
- 第6層 10YR4/2灰褐色シルトと壁の火山灰土の崩落土と混合土。
- 第7層 10YR2/3黒褐色砂質シルト φ5mmの黄褐色浮石3%。
- 第8層 10YR4/4暗褐色シルト質火山灰土 V~Ⅴaの崩落。
- 第9層 10YR3/4暗褐色シルト質火山灰土 V~Ⅴaの崩落。
- 第10層 10YR2/3黒褐色砂質シルト φ5mmの黄褐色浮石2%。一部に10YR3/3砂質シルトの混成構造。
- 第11層 10YR2/3茶褐色砂質シルト φ5mmの黄褐色浮石3%。
- 第12層 10YR2/2黒褐色砂質シルト 一部に10YR3/3の混成構造。φ5mmの炭化物粒を含む。
- 第13層 10YR2/3黒褐色シルト
- 第14層 10YR2/2黒褐色砂質シルト
- 第15層 10YR2/3黒褐色シルト φ2mmの黄褐色浮石3%。
- 第16層 10YR3/4暗褐色砂質シルト φ2mmの黄褐色浮石2%。φ3mmの炭化物粒1%以下。
- 第17層 10YR3/3暗褐色砂質シルト φ2mmの黄褐色浮石1%。φ2mmの炭化物粒1%以下。
- 第18層 10YR2/3黒褐色シルト
- 第19層 10YR4/4褐色粘土質火山灰土
- 第20層 10YR5/6黄褐色粘土質シルト質火山灰土。黒色シルトを互層状に挟む。
- 第21層 10YR3/3暗褐色シルト
- 第22層 10YR2/3黒褐色砂質シルト φ3mmの黄褐色浮石を含む。
- 第23層 10YR2/3暗褐色シルト 砂粒分むが、22層よりやや少ない。
- 第24層 10YR3/3暗褐色シルト φ2mmの黄褐色浮石の混成10%。
- 第25層 10YR5/6黄褐色粘土質火山灰土(V~Ⅴaの崩落土)。
- 第26層 10YR2/3黒褐色砂質シルト φ3mmの黄褐色浮石10%。
- 第27層 10YR3/4暗褐色粘土質シルト
- 第28層 10YR4/6褐色粘土質火山灰土 Wd以下の崩落土。
- 第29層 10YR5/6黄褐色浮石 ⅧⅡVbの崩落土。
- 第30層 10YR2/2黒褐色シルト 砂粒分むが、粘土分の方が多し。
- 第31層 10YR2/3茶褐色シルト 砂粒分むが粘土分の方が多し。φ2mmの黄褐色浮石7%。
- 第32層 10YR2/2黒褐色シルト
- 第33層 10YR5/6黄褐色浮石 ⅧⅡVbの崩落。
- 第34層 10YR3/4暗褐色粘土質火山灰土と10YR2/3暗褐色砂質シルトの互層(V~Ⅴaの崩落)。
- 第35層 10YR2/3黒褐色砂質シルト φ7mmの黄褐色浮石10%。
- 第36層 10YR5/8黄褐色10YR7/4(おし)黄褐色土層はⅧⅡVb、下半はⅧⅡVcの崩落土。
- 第37層 10YR4/4暗褐色砂質シルト φ5mmの黄褐色浮石5%。



SK-268

- SK-268
- 第1層 10YR4/4暗褐色砂質シルト 黄褐色浮石(φ10mm)5%、炭化物粒(φ2mm)2%。
- 第2層 10YR3/3暗褐色シルト 暗褐色シルト(φ20mm)30%、黄褐色浮石(φ10mm)5%。
- 第3層 10YR4/4暗褐色砂質シルト 黄褐色浮石(φ10mm)5%。
- 第4層 10YR4/4暗褐色砂質シルト 黄褐色浮石(φ20mm)10%、炭化物粒(φ2mm)1%。
- 第5層 10YR4/4暗褐色砂質シルト 黄褐色浮石(φ5mm)5%。
- 第6層 10YR3/3暗褐色砂質シルト 黄褐色浮石(φ5mm)3%。
- 第7層 10YR4/4暗褐色シルト 暗褐色シルト20%混入。
- 第8層 10YR4/4暗褐色シルト
- 第9層 10YR4/4暗褐色シルト 黄褐色浮石(φ5mm)3%。

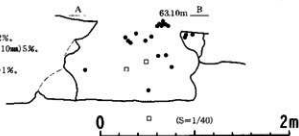
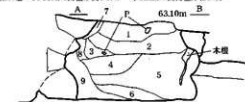


図31 第267・268号土坑

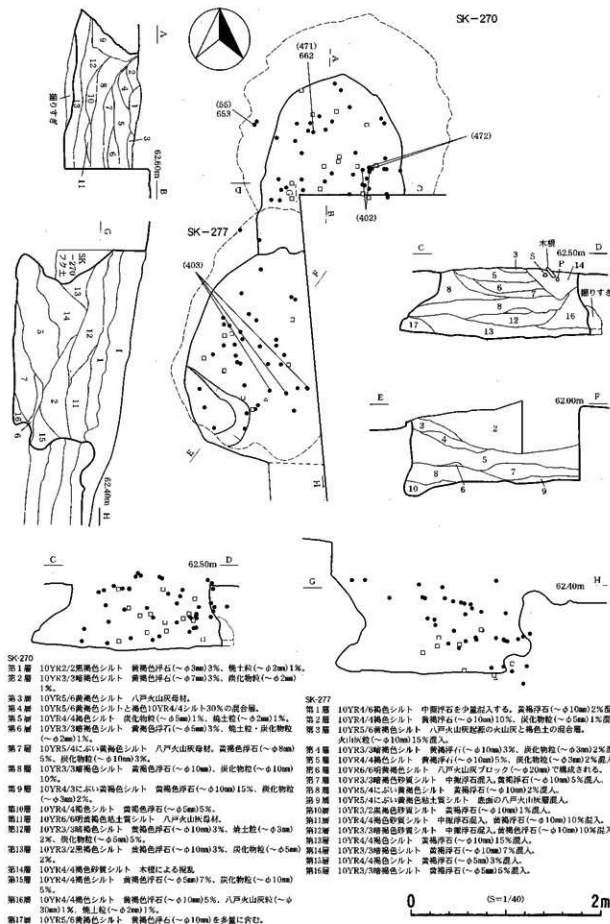


図32 第270・277号土坑

[平面形] 円形を呈すると考えられるが、遺構の大半が調査区域外に広がるため、詳細は不明である。
 [堆積土] 5層に分層した。褐色シルトを主体としており、八戸火山灰起源と考えられる明褐色火山灰粒を全ての層に含んでいる。[出土遺物] 第1層から円筒下層d式土器が1点(35.2g)出土した。石器は出土しなかった。[時期] 本遺構に明確に伴う遺物がないため、詳細な時期は不明だが、縄文時代前期末～中期初頭に属する可能性が高い。(葛城)

273号土坑〔SK-273〕(図33、107)

[壁面及び底面の状況] 地滑りの影響で屈曲部から開口部にかけての上半部が南西方向に滑り込むようにずれている。このため、底面には段差が生じている。また、壁面もこの影響で形状が変化しているが、底面から屈曲部にかけて内傾し、そこから開口部にかけてはほぼ垂直に立ち上がっていると考えられる。[堆積土] 17層に分層した。第2層は火山灰土であり、人為的に投げ込まれたものと考えられるが、壁際には第3・8層のような崩落土がみられることから、それ以下の層については自然堆積と考えられる。従って本遺構は自然堆積によって完全に埋没する直前に人為的に埋め戻されたと考えられる。[出土遺物] 第3層をのぞき、第1層から12層より44点(615.4g)の土器が出土した。円筒上層a式を含んでいる。石器は自然礫が8点、敵磨器類が第7層から1点出土している。総重量は1730.1gである。[時期] 本遺構に明確に伴う遺物がないため、詳細な時期は不明だが、第21号住居跡より古く、本遺跡の主体的な時期である中期初頭に属する可能性が高い。(葛城)

第274号土坑〔SK-274〕(図33、107、108)

[堆積土] 8層に分層した。第1層は八戸火山灰を主体とする人為堆積層と考えられるが、その他の層については人為堆積層か自然堆積かは判然としない。[出土遺物] 第1・2・3・4・6・7・8層から41点(4288.0g)の土器が出土した。第4層からは図108-676が出土した。すべて円筒上層a式と考えられる。第5層から自然礫と石鏃がそれぞれ1点ずつ出土している。総重量は13.9gである。[時期] 本遺構に明確に伴う遺物がないため、詳細な時期は不明だが、本遺跡の主体的な時期である中期初頭に属する可能性が高い。(葛城)

第276号土坑〔SK-276〕(図34)

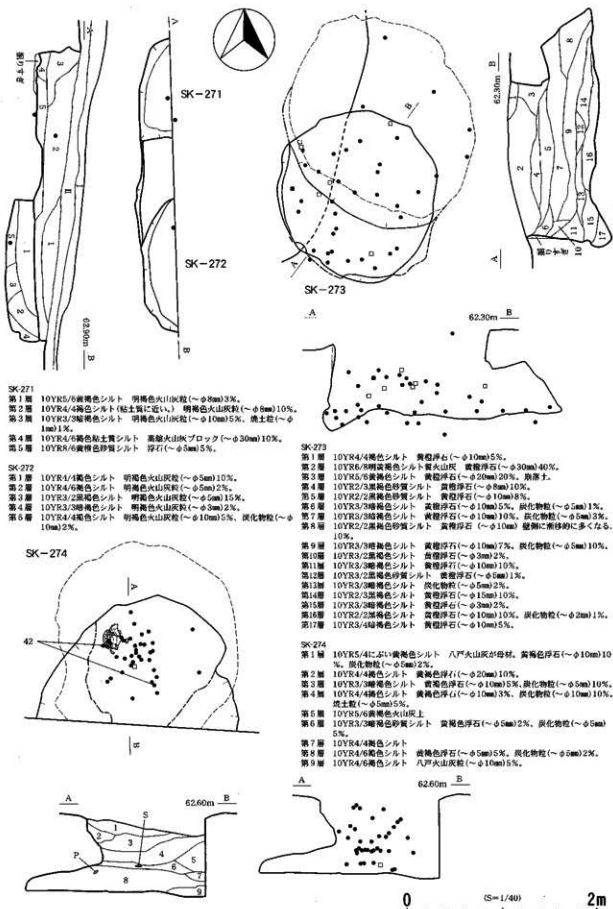
[堆積土] 10層に分層した。[出土遺物] 第1層から土器が2点(8.0g)出土した。石器は出土しなかった。[時期] 本遺構に明確に伴う遺物がないため、詳細な時期は不明だが、本遺跡の主体的な時期である中期初頭に属する可能性が高い。(葛城)

第277号土坑〔SK-277〕(図32、108)

[壁面及び底面の状況] 底面には地滑りの影響で、段差が生じている。[堆積土] 16層に分層した。層中に八戸火山灰起源と考えられる黄褐色浮石を含むものが多く、これらは遺構の掘り上げ土に由来すると考えられるが、人為的要因によるものか自然流入したものかは判然としない。[出土遺物] 第1・2・4・5・7・8・10層から43点(849.0g)の土器が出土した。第2層から13点(164.4g)、第5層から16点(517.6g)が出土し、この二つの層で土器出土量の1/2以上を占める。自然礫及び2次加工のない剥片が合わせて9点出土している。総重量は1232.8gである。[時期] 本遺構に明確に伴う遺物がないため、詳細な時期は不明だが、本遺跡の主体的な時期である中期初頭に属する可能性が高い。(葛城)

第278号土坑〔SK-278〕(図34、108、109)

[堆積土] 10層に分層した。第4・9層は壁面の崩落土と考えられ、自然堆積の可能性が高い。[その他



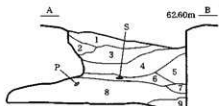
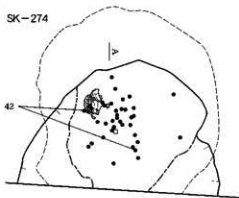
SK-271

- 第1層 10YR5/6黄褐色シルト 明褐色火山灰粒(〜φ5mm)3%,
- 第2層 10YR4/6褐色シルト(粘土質に乏しい) 明褐色火山灰粒(〜φ8mm)10%,
- 第3層 10YR3/3暗褐色シルト 明褐色火山灰粒(〜φ10mm)5%, 焼土粒(〜φ1mm)1%,
- 第4層 10YR4/6褐色粘土質シルト 高級火山灰ブロック(〜φ30mm)10%,
- 第5層 10YR8/4黄褐色砂質シルト 浮石(〜φ5mm)5%.

SK-272

- 第1層 10YR4/4褐色シルト 明褐色火山灰粒(〜φ5mm)10%,
- 第2層 10YR4/6褐色シルト 明褐色火山灰粒(〜φ5mm)2%,
- 第3層 10YR3/2暗褐色シルト 明褐色火山灰粒(〜φ5mm)15%,
- 第4層 10YR3/3暗褐色シルト 明褐色火山灰粒(〜φ5mm)2%,
- 第5層 10YR4/4褐色シルト 明褐色火山灰粒(〜φ10mm)5%, 炭化物粒(〜φ10mm)2%.

SK-274



SK-273

- 第1層 10YR4/4褐色シルト 黄褐色石(〜φ10mm)5%,
- 第2層 10YR6/8暗褐色シルト質火山灰 炭酸浮石(〜φ30mm)40%,
- 第3層 10YR5/6黄褐色シルト 炭酸浮石(〜φ20mm)20%, 崩落土,
- 第4層 10YR2/3黄褐色砂質シルト 炭酸浮石(〜φ8mm)10%,
- 第5層 10YR2/2黄褐色砂質シルト 炭酸浮石(〜φ10mm)8%,
- 第6層 10YR3/7暗褐色シルト 炭酸浮石(〜φ10mm)5%, 炭化物粒(〜φ5mm)1%,
- 第7層 10YR3/3暗褐色シルト 炭酸浮石(〜φ10mm)10%, 炭化物粒(〜φ5mm)3%,
- 第8層 10YR2/2黄褐色砂質シルト 炭酸浮石(〜φ10mm)5% 壁面に剥落の多くなる。
- 第9層 10YR3/3暗褐色シルト 炭酸浮石(〜φ10mm)7%, 炭化物粒(〜φ5mm)10%,
- 第10層 10YR3/2暗褐色シルト 炭酸浮石(〜φ3mm)2%,
- 第11層 10YR3/3暗褐色シルト 炭酸浮石(〜φ10mm)10%,
- 第12層 10YR3/2暗褐色砂質シルト 炭酸浮石(〜φ5mm)1%,
- 第13層 10YR3/3暗褐色シルト 炭化物粒(〜φ5mm)2%,
- 第14層 10YR2/3暗褐色シルト 炭酸浮石(〜φ15mm)10%,
- 第15層 10YR3/3暗褐色シルト 炭酸浮石(〜φ3mm)2%,
- 第16層 10YR2/2暗褐色シルト 炭酸浮石(〜φ10mm)10%, 炭化物粒(〜φ2mm)1%,
- 第17層 10YR3/4暗褐色シルト 炭酸浮石(〜φ10mm)5%.

SK-274

- 第1層 10YR5/4に乏しい黄褐色シルト 八戸火山灰が母材。黄褐色浮石(〜φ10mm)10%, 炭化物粒(〜φ5mm)3%,
- 第2層 10YR4/4褐色シルト 黄褐色浮石(〜φ20mm)10%,
- 第3層 10YR3/3暗褐色シルト 黄褐色浮石(〜φ10mm)5%, 炭化物粒(〜φ5mm)10%,
- 第4層 10YR4/4褐色シルト 黄褐色浮石(〜φ10mm)3%, 炭化物粒(〜φ10mm)10%, 焼土粒(〜φ5mm)5%,
- 第5層 10YR5/6黄褐色火山灰上
- 第6層 10YR3/3暗褐色砂質シルト 黄褐色浮石(〜φ5mm)2%, 炭化物粒(〜φ5mm)5%,
- 第7層 10YR4/4褐色シルト
- 第8層 10YR4/6褐色シルト 黄褐色浮石(〜φ5mm)5%, 炭化物粒(〜φ5mm)2%,
- 第9層 10YR4/6褐色シルト 八戸火山灰粒(〜φ15mm)5%.

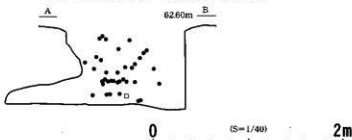


図33 第271・272・273・274号土坑

の施設] 底面中央やや北寄りからピットを検出した。深さは8cmで、柱痕は確認できなかった。[出土遺物] 第1・3・4・5・6・8・10・16層から176点(5007.8g)の土器が出土した。第3・4・10層に集中し、それぞれ29点(802.7g)、29点(1253.8g)、38点(1206.5g)が出土した。土偶が第3・10層から各1点(図110-718、719)、土器底部片を利用した土製品(図110-720)が第6層から1点出土した。石器は自然堆積と考えられる第3層から半円状扁平打製石器、蔽磨器類が1点ずつ出土している。自然礫は9点出土している。総重量は1302.7gである。[時期] 本遺構に明確に伴う遺物がないため、詳細な時期は不明だが、本遺跡の主体的な時期である中期初頭に属する可能性が高い。(葛城)

第279号土坑 (SK-279) (図34、110)

[堆積土] 27層に分層した。砂質シルトを主体とする。第1層・第3層は砂質シルトだが、白色の軽石を多量に含み、人為的に攪拌された土である。これに対して、第16～第20層、第22層～27層は軽石をほとんど含まない砂質シルト・シルトで、壁の黒色土が崩落した可能性が考えられる。本土坑は、壁際が開口部近くまで自然堆積によって土層が堆積した後、人為的な要因で埋没したものと考えられる。[出土遺物] 第2・3・21・27層から土器が30点、自然礫が第1・2・10・21・27層から出土した。土器はすべて円筒下層d式である。第2・3・4・8・10層から自然礫が、第3層から蔽磨器・半円状扁平打製石器が各1点出土した。[時期] 本遺構に明確に伴う遺物がないため、詳細な時期は不明だが、縄文時代前期末の可能性が高い。(中村)

第280号土坑 (SK-280) (図35、111)

[堆積土] 18層に分層した。底面直上に堆積する第18層は砂質シルトであるが、粒子は細かく水成堆積と考えられる。第16層は火山灰層と浮石層が互層になっており、壁面の崩落土と考えられる。第15層は浮石及び炭化物が主に層上半に混入しており人為堆積と考えられる。第3・9・10・11の各層も黄褐色浮石の混入量が多く、炭化物も含まれることから人為堆積の可能性が高い。[出土遺物] 第1・2・3・5・14層から8点(156.0g)の土器が出土した。石器は出土しなかった。[時期] 本遺構に明確に伴う遺物がないため、詳細な時期は不明だが、本遺跡の主体的な時期である中期初頭に属する可能性が高い。(葛城)

第281号土坑 (SK-281) (図35、111～115)

[堆積土] 本遺構は上半部の精査後に地滑りの痕跡を確認し、下半部の土層断面図は新たに作り直した。また、平面図作成までに一部が崩落したため平面図と断面図は必ずしも一致しない。土層は合わせて18層に分層した。第13層は炭化物粒の混入量及び遺物の出土量が多く人為堆積と考えられる。他の層については自然堆積の可能性が高い。[出土遺物] 366点(16393.5g)の土器が出土した。第1・3・10・13層に集中し、それぞれ113点(3525.4g)、30点(1405.7g)、25点(3623.1g)、15点(2995.5g)が出土した。すべて円筒上層a式と考えられ、頸部区画は隆帯タイプ・段差タイプ両者がある。自然礫及び2次加工のない剥片を含めて53点、石織が2点出土している。石織は第1・2層から出土している。総重量は9662.9gである。[時期] 本遺構に明確に伴う遺物がないため、詳細な時期は不明だが、本遺跡の主体的な時期である中期初頭に属する可能性が高い。(葛城)

第282号土坑 (SK-282) (図36、115)

[堆積土] 4層に分層した。底面直上に堆積する第4層は八戸火山灰起源と考えられる浮石を含む褐色シルトである。この上層に堆積する第3層～第1層も浮石を含むシルト及び粘土質シルトで形成さ

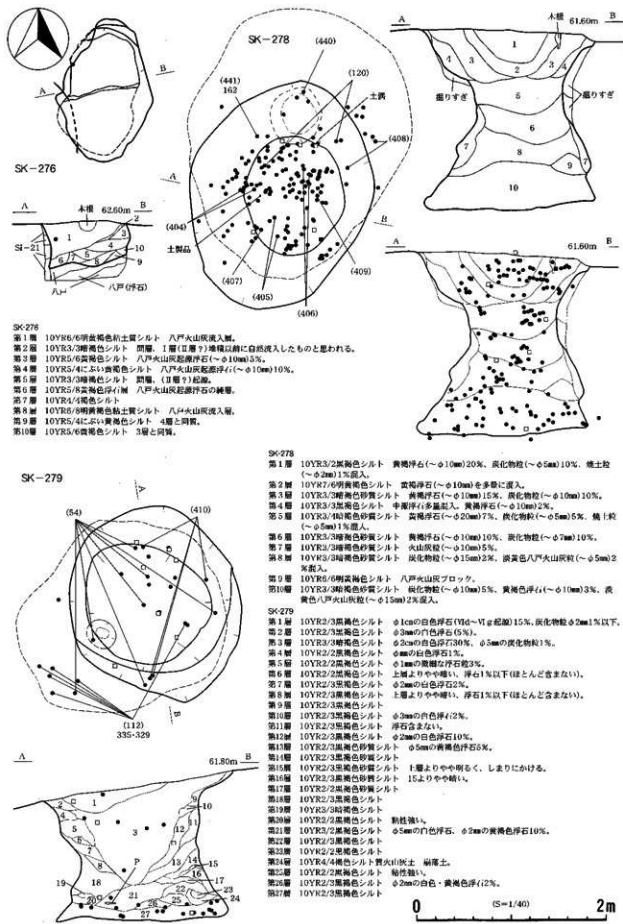


図34 第276・278・279号土坑

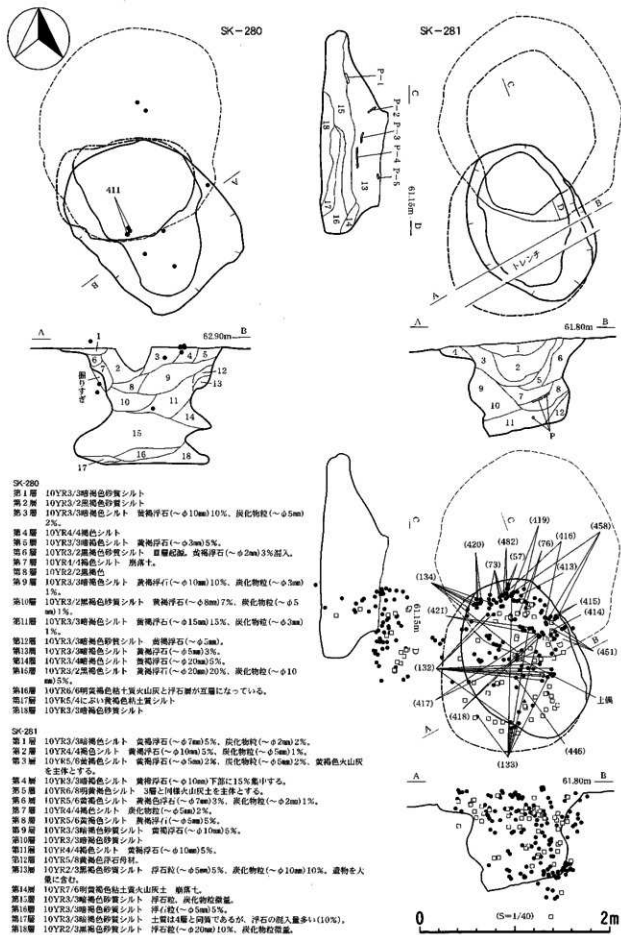


図35 第280・281号土坑

れていることから、人為堆積の可能性がある。[出土遺物] 4点 (66.9g) の土器が出土した。すべて円筒下層d式の小片と考えられる。石器は出土しなかった。[時期] 本遺構に明確に伴う遺物がないため、詳細な時期は不明だが、縄文時代前期から中期初頭のものと考えられる。(葛城)

第283号土坑 (SK-283) (図37、115)

[堆積土] 64層に分層した。褐色・黄褐色・鈍い黄褐色の土層が多く、また、第2層のように中央部に塊状の火山灰土が認められることから人為堆積と考えられる。[出土遺物] 第3・4・7・10層から土器が6点 (61.8g)、第1・10層から自然礫が5点 (461.7g) 出土した。土器は縄文時代中期初頭のものと考えられる。[時期] 本遺構に明確に伴う遺物がないため、詳細な時期は不明だが、本遺跡の主体的な時期である中期初頭に属する可能性が高い。(中村)

第284号土坑 (SK-284) (図36、116)

[堆積土] 32層に細分した。第1層は八戸火山灰に起源する白色の軽石を多量に含んでおり、人為堆積と考えられる。それ以外は、壁際に崩落土と考えられる土層が多量に認められ、自然堆積と考えられる。本土坑は大半が自然堆積により埋没した段階で、人為的に埋めもどされたものと考えられる。[出土遺物] 第1・7層から26点 (2189.1g) の土器が出土した。すべて円筒下層d式と考えられる。第1層から自然礫1点、敲磨器1点が出土した。[時期] 本遺構に明確に伴う遺物がないため、詳細な時期は不明だが、本遺跡の主体的な時期である縄文時代前期末に属する可能性が高い。(中村)

第285号土坑 (SK-285) (図38、116)

[堆積土] 31層に細分した。砂粒分の少ないシルトが主体である。土層断面左側は、壁の八戸火山灰の崩落と考えられる土層が複数認められ、自然堆積の様相を呈している。[出土遺物] 第2・5層・堆積土中から16点 (1071.3g: 14点位置記録ミス) の土器が出土した。堆積土から自然礫4点 (831.1g) が出土した。土器は円筒上層a式である。[時期] 本遺構に明確に伴う遺物がないため、詳細な時期は不明だが、本遺跡の主体的な時期である中期初頭に属する可能性が高い。(中村)

第286号土坑 (SK-286) (図39、116~119)

[堆積土] 堆積土は11層に分層した。黒褐色あるいは暗褐色砂質シルトを主体とする。第1層は浮石の混入量が多く、人為堆積と考えられる。また他の層についても少量の浮石粒の他に炭化物粒が含まれるものもあり、人為堆積の可能性が高い。[出土遺物] 第1・2・4・5・7・8・9・10・11・19層から416点 (12787.8g) の土器が出土した。層毎にみると、第1・9・10層に集中し、それぞれ99点 (2023.3g) 39点 (2074.1g) 114点 (5765.2g) が出土している。ほとんどが円筒上層a式と考えられる。第1層から敲磨器類が1点、第4・8層から石鏝がそれぞれ1点ずつ出土している。また、ほとんどの層から自然礫及び2次加工のない剥片が合わせて20点出土している。総重量は2477.2gである。[時期] 本遺構に明確に伴う遺物がないため、詳細な時期は不明だが、本遺跡の主体的な時期である中期初頭に属する可能性が高い。(葛城)

第287号土坑 (SK-287) (図39)

[堆積土] 30層に分層した。一部崩落土も見られるが、他の層の大半は八戸火山灰起源と考えられる火山灰土を主体としている。これらの中には第1・2層のように本来の八戸火山灰の位置より高いところに堆積しているものもある。これは人為的要因によるものと考えられ、この他の層についても人為堆積の可能性が高い。[出土遺物] 第6・7・8・10・11・18層から75点 (1942.5g) の土器が出土した。

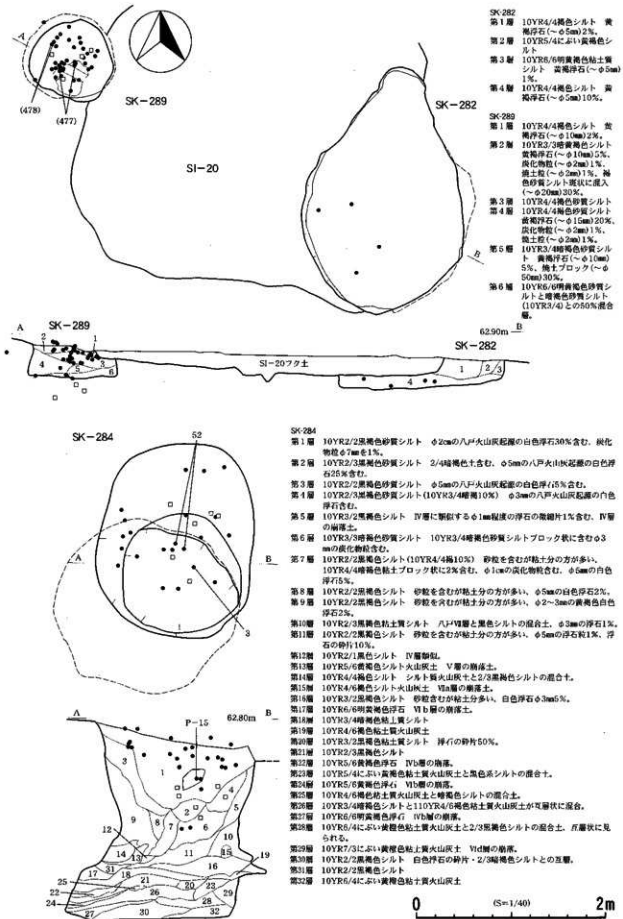
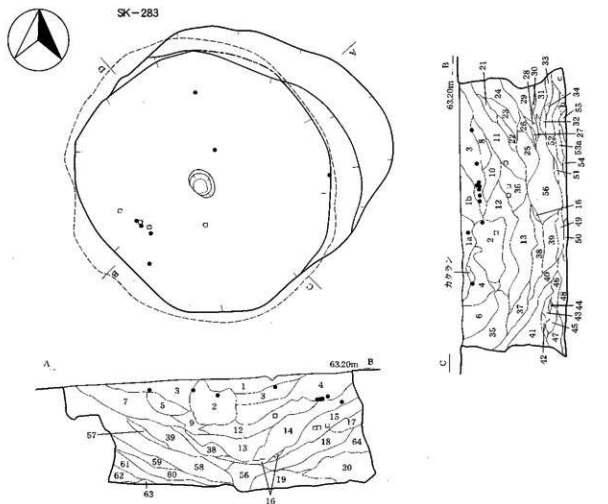


図36 第282・284・289号土坑

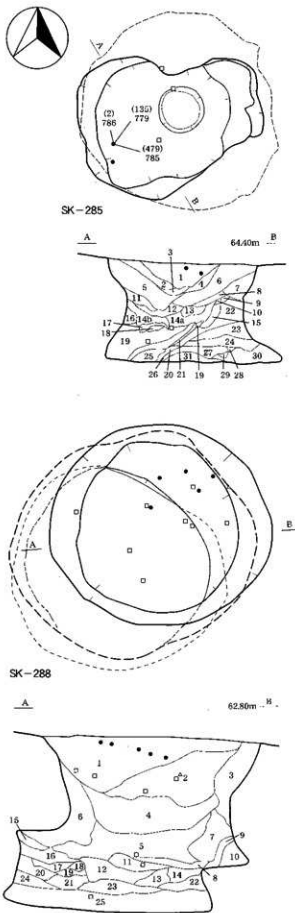


SK-283

- 第1層 10YR4/4褐色砂質シルト
- 第1a層 10YR4/4褐色砂質シルト
- 第2層 10YR5/8黄褐色砂質シルト(V~VIa層のブロック)
- 第3層 10YR4/4褐色シルト(火山灰多く含む)
- 第4層 10YR3/4暗褐色砂質シルト
- 第5層 10YR3/3暗褐色シルト
- 第6層 10YR4/6褐色粘土質火山灰土。φ1cmの浮石5%。
- 第7層 10YR3/3暗褐色砂質シルト。φ1cmの黄褐色浮石5%。
- 第8層 10YR4/4褐色粘土質シルト。φ3mmの黄褐色浮石3%。
- 第9層 10YR3/4暗褐色砂質シルト。φ1cmの黄褐色浮石2%。
- 第10層 10YR4/4褐色シルト。φ1cmの黄褐色浮石3%。
- 第11層 10YR4/4褐色シルト。φ5mmの黄褐色浮石5%。
- 第12層 10YR3/4暗褐色砂質シルト。φ1cmの黄褐色浮石10%。
- 第13層 10YR3/3暗褐色粘土質シルト。φ1mmの粘土1%。φ1cmの黄褐色浮石1%。φ2mmの黄褐色浮石5%。
- 第14層 10YR4/4褐色粘土
- 第15層 10YR3/4暗褐色砂質シルト
- 第16層 10YR3/3暗褐色砂質シルト
- 第17層 10YR5/6黄褐色砂質シルト。VIaの頂部。
- 第18層 10YR4/4褐色粘土
- 第19層 10YR3/3暗褐色シルト。φ1cmの黄褐色浮石30%。
- 第20層 10YR5/6黄褐色砂質シルト
- 第21層 10YR3/3暗褐色砂質シルト
- 第22層 10YR3/4暗褐色砂質シルト。φ1mmの黄褐色の浮石10%。
- 第23層 10YR4/4褐色粘土火山灰土
- 第24層 10YR3/3暗褐色10YR2/3黄褐色シルト、10YR3/4暗褐色砂質シルトの互層。φ1cmの黄褐色浮石1%。5mmの浮石20%。
- 第25層 10YR3/4暗褐色粘土質シルト。φ7mmの黄褐色浮石7%。
- 第26層 10YR4/4暗褐色粘土質シルト。φ5mmの黄褐色浮石15%。
- 第27層 10YR2/3黄褐色シルト
- 第28層 10YR4/4暗褐色粘土質シルト
- 第29層 10YR6/6暗褐色粘土質火山灰土(VI d ~ VI g の崩落)。
- 第30層 10YR3/4暗褐色粘土質シルト
- 第31層 10YR6/6暗褐色粘土10YR7/4に黄褐色粘土質火山灰土
- 第32層 10YR2/3黄褐色粘土質シルト
- 第33層 10YR2/3黄褐色粘土質シルト

- 第34層 10YR5/6黄褐色浮石
- 第35層 10YR4/4褐色粘土
- 第36層 10YR3/4暗褐色粘土質シルト。φ7mmの黄褐色浮石7%。
- 第37層 7.5YR4/4褐色粘土質火山灰土。高嶺火山灰。
- 第38層 10YR4/4褐色粘土。高嶺火山灰が主体と思われる。
- 第39層 10YR3/4暗褐色粘土
- 第40層 10YR3/3暗褐色粘土質シルト。φ1cmの黄褐色浮石5%。
- 第41層 10YR5/6黄褐色粘土質火山灰土
- 第42層 10YR2/3黄褐色砂質シルトと10YR5/6黄褐色浮石の混合土。
- 第43層 10YR5/6黄褐色粘土質火山灰土
- 第44層 10YR4/4褐色粘土質シルト
- 第45層 10YR5/6黄褐色粘土質火山灰土
- 第46層 10YR3/4暗褐色粘土質シルト
- 第47層 10YR7/6暗褐色10YR6/6粘土質火山灰土。壁の崩落。
- 第48層 10YR3/3暗褐色砂質シルト
- 第49層 10YR3/4暗褐色粘土質シルト。砂粒が少ない。
- 第50層 10YR3/4暗褐色粘土質シルト。φ7mmの白色浮石20%。61層と同一層。
- 第51層 10YR3/4暗褐色粘土質シルト
- 第52層 10YR7/6暗褐色浮石は風化が進んでいる
- 第53層 10YR5/6黄褐色浮石(a)と7.5YR4/4褐色粘土質火山灰土(b)。10YR7/4に(b)黄褐色粘土質火山灰土。崩落と思われる。(c)
- 第54層 10YR3/4暗褐色粘土質シルト
- 第55層 10YR5/6黄褐色浮石。φ1cm~2mm。
- 第56層 10YR3/3暗褐色粘土
- 第57層 10YR2/3黄褐色シルト
- 第58層 10YR3/3暗褐色粘土質シルト
- 第59層 10YR2/3黄褐色粘土質シルト。φ3mmの黄褐色浮石3%。
- 第60層 10YR4/6褐色浮石
- 第61層 10YR3/4暗褐色粘土と10YR2/3黄褐色シルト。50層と同一層。
- 第62層 10YR5/6黄褐色砂質火山灰土と10YR5/8黄褐色粘土土砂。
- 第63層 10YR3/4暗褐色粘土質シルト
- 第64層 10YR3/4暗褐色粘土

図37 第283号土坑



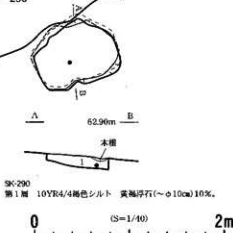
SK-285

- 第1層 10YR2/2黒褐色シルト φ1cmの黄褐色浮石5%。
 第2層 10YR3/4暗褐色シルト φ0.5cmの黄褐色浮石10%。
 第3層 10YR3/3暗褐色シルト φ1cmの黄褐色浮石15%。
 第4層 10YR3/4暗褐色シルト φ0.5cmの黄褐色浮石15%。
 第5層 10YR2/3黒褐色シルト φ1cmの黄褐色浮石3%。
 第6層 10YR3/4暗褐色シルト φ1cmの黄褐色浮石3%。
 第7層 10YR4/4褐色シルト φ1.5cmの黄褐色浮石20%。
 第8層 10YR3/3暗褐色シルト φ0.5cmの黄褐色浮石15%。
 第9層 10YR2/4暗褐色シルト
 第10層 10YR4/4褐色シルトと同一層
 第11層 10YR4/4褐色粘土質シルト Ⅷd以下の陥落土を主体に暗褐色シルトを含む。
 第12層 10YR2/3黒褐色シルト φ1cmの黄褐色浮石10%。
 第13層 10YR3/4暗褐色シルト
 第14層 10YR3/4暗褐色シルト
 第15層 10YR5/8黄褐色粘土質火山灰土
 第16層 10YR4/4褐色シルト
 第17層 10YR5/8黄褐色粘土質火山灰土
 第18層 10YR4/4褐色シルト
 第19層 10YR5/8黄褐色粘土質火山灰土 Ⅷd以下・表層の陥落土。
 第20層 10YR3/4暗褐色シルト
 第21層 10YR3/4暗褐色粘土質シルト 上層より浮石の碎片を含む。やや砂質。
 第22層 10YR3/4暗褐色 φ3mmの浮石の碎片20%
 第23層 10YR3/4暗褐色シルト
 第24層 10YR3/3暗褐色シルト
 第25層 10YR4/4褐色粘土質火山灰土(高層火山灰の?の?陥落土と思われ)。
 第26層 10YR3/4暗褐色シルト 浮石の碎片含む。
 第27層 10YR3/4暗褐色シルト φ0.5cmの黄褐色浮石5%。
 第28層 7.5YR4/4褐色粘土質火山灰土 高層。
 第29層 7.5YR4/4褐色粘土質火山灰土 高層。
 第30層 10YR3/4暗褐色シルト 10YR4/4粘土質ブロック含む。
 第31層 10YR3/3暗褐色シルト 浮石の碎片含む。

SK-288

- 第1層 10YR2/3黒褐色砂質シルト φ2cmの白色浮石15%。
 第2層 10YR2/3黒褐色砂質シルト 10YR3/4暗褐色砂質シルトを含む。
 第3層 10YR2/3黒褐色砂質シルト φ0.5cmの白色浮石15%。
 第4層 10YR2/3黒褐色砂質シルト φ0.2cmの白色浮石7%。
 第5層 10YR2/2黒褐色シルト φ1cmの白色浮石15%。
 第6層 10YR2/2黒褐色砂質シルト
 第7層 10YR2/3黒褐色砂質シルト
 第8層 10YR2/2黒褐色シルト
 第9層 10YR2/3黒褐色10YR3/3暗褐色1:1の混合土。
 第10層 10YR2/2黒褐色シルト 浮石ほとんど含まない。
 第11層 10YR2/3黒褐色シルト φ2cmの白色浮石2%。
 第12層 10YR3/3暗褐色砂質シルト φ1cmの白色・黄褐色浮石30%。
 第13層 10YR2/3黒褐色シルト 中央にφ1cmの10YR4/4褐色粘土質火山灰土を含む。
 第14層 10YR4/6褐色粘土質火山灰土 10YR5/6黄褐色浮石(八丁?)。
 第15層 10YR2/2黒褐色10YR2/2黒褐色シルトと10YR4/6褐色粘土質火山灰土。
 第16層 10YR2/1黒色砂質シルト
 第17層 10YR2/3黒褐色シルト 浮石含まない。
 第18層 10YR2/3黒褐色シルト φ2mmの黄褐色浮石とその碎片10%。
 第19層 10YR2/1黒色シルト
 第20層 10YR5/6黄褐色粘土質火山灰土 10YR6/6黄褐色浮石。
 第21層 10YR2/2黒褐色砂質シルト 浮石含まない。
 第22層 10YR3/3暗褐色シルト 10YR6/6褐色浮石の混合土。
 第23層 10YR2/3黒褐色砂質シルト φ2cmの白色浮石1%。
 第24層 10YR3/4暗褐色シルト 浮石含まない。
 第25層 10YR2/2黒褐色砂質シルト φ0.5cmの白色浮石2%。

SK-290



SK-290

- 第1層 10YR4/4褐色シルト 黄褐色浮石(φ10cm)10%。

図38 第285・288・290号土坑

第1・2・4層に集中し、それぞれ15点(505.1g)、14点(455.1g)、17点(449.1g)が出土した。石器は自然礫も含めて19点出土した。これらは第1～4層までで約8割を占める。2点の蔽磨器類も第4層からの出土である。第5層以下からの出土量は少ないが、第10層から蔽磨器類が1点出土している。総重量は6018.6gである。[時期]本遺構に明確に伴う遺物がないため、詳細な時期は不明だが、本遺跡の主体的な時期である中期初頭に属する可能性が高い。(葛城)

第288号土坑〔SK-288〕(図116)

[堆積土]25層に分層した。第1層は八戸火山灰に起源する白色の軽石を多量に含んでおり、人為堆積と考えられる。それ以外は、壁際に崩落土と考えられる土層が多量に認められ、自然堆積と考えられる。本土坑は大半が自然堆積により埋没した段階で、人為的に埋めもどされたものと考えられる。[出土遺物]第1・24・5層・堆積土中から31点(596.1g)の土器が出土した。31点中26点は記録ミスである。[時期]第11層から自然礫が8点(1732.3g)、第1層から剥片が1点出土した。いずれも出土位置は記録ミスである。土器はすべて円筒下層d式である。[時期]本遺構に明確に伴う遺物がないため、詳細な時期は不明だが、縄文時代前期末に属する可能性が高い。(中村)

第291号土坑〔SK-290〕(図40)

[堆積土]25層に分層した。壁際に堆積している第12・16・17・21・22層は壁面の崩落土と考えられる。この他にも第9層のように層中に壁面の土をブロック状に含むものもある。第12層から下層は崩落土を除けば層中に浮石をほとんど含まず自然堆積の可能性が高い。第11層から上層は、層中に主に八戸火山灰起源と考えられる浮石を多く含むことから、遺構の掘り上げ土による人為堆積と考えられる。[出土遺物]第1・2・4・5層中から63点(811.4g)の土器が出土した。縄文時代中期初頭と考えられるものが多い。第1層より石冠、第4層より蔽磨器類がそれぞれ1点ずつ出土している。自然礫及び2次加工のない剥片も第1層を中心に11点出土している。総重量は3197.4gである。[時期]本遺構に明確に伴う遺物がないため、詳細な時期は不明だが、本遺跡の主体的な時期である中期初頭に属する可能性が高い。(葛城)

第292号土坑〔SK-292〕(図41)

[堆積土]14層に分層した。黒褐色及び暗褐色砂質シルトを主体とする。この内、第8・10・12・14層は崩落土である。第4・7層は崩落土の可能性もある。他の層には浮石粒を含むものが多いが、総じて自然堆積の可能性が高い。[出土遺物]第1・2・3・5・6・7・8・9・10・11・12・14層中から224点(4727.8g)の土器が出土した。円筒上層a式と考えられるものが多い。堆積土中から2次加工のない剥片及び自然礫が16点出土しているものの、石器と認定できるものは出土しなかった。総重量は3611.9gである。[時期]本遺構に明確に伴う遺物がないため、詳細な時期は不明だが、本遺跡の主体的な時期である中期初頭に属する可能性が高い。(葛城)

第293号土坑〔SK-293〕(図42)

[堆積土]23層に分層した。全体に浮石の混入量が多く人為堆積と考えられる。[出土遺物]第1～9層、第14層、第21～23層から合計327点(9308.2g)の土器が出土した。第1・2・23層に集中し、それぞれ163点(3614.6g)42点(1306.3g)17点(1927.6g)が出土した。円筒下層d式、円筒上層a式の両者がある。第1層から石鏃と石匙が1点ずつ出土している。この他に2次加工のない剥片及び自然礫が第1層を中心に46点出土している。総重量は4007.3gである。[時期]本遺構に明確に伴う遺物がな

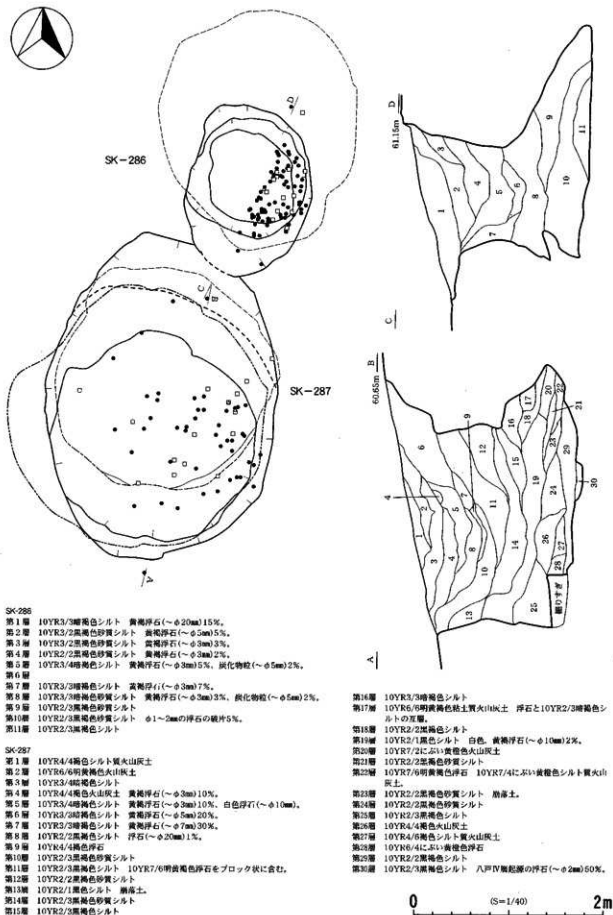


図39 第286・287号土坑

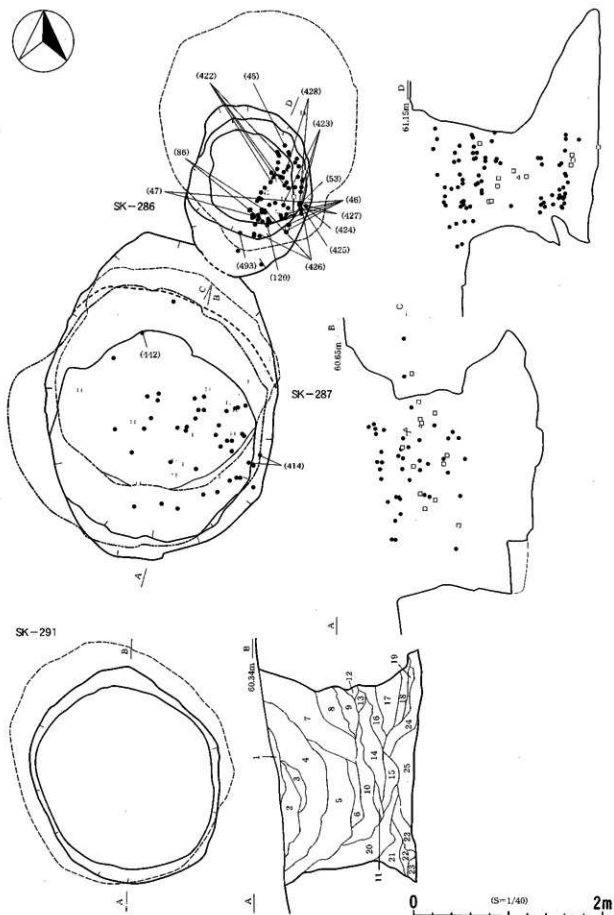


图40 第286・287・291号土坑

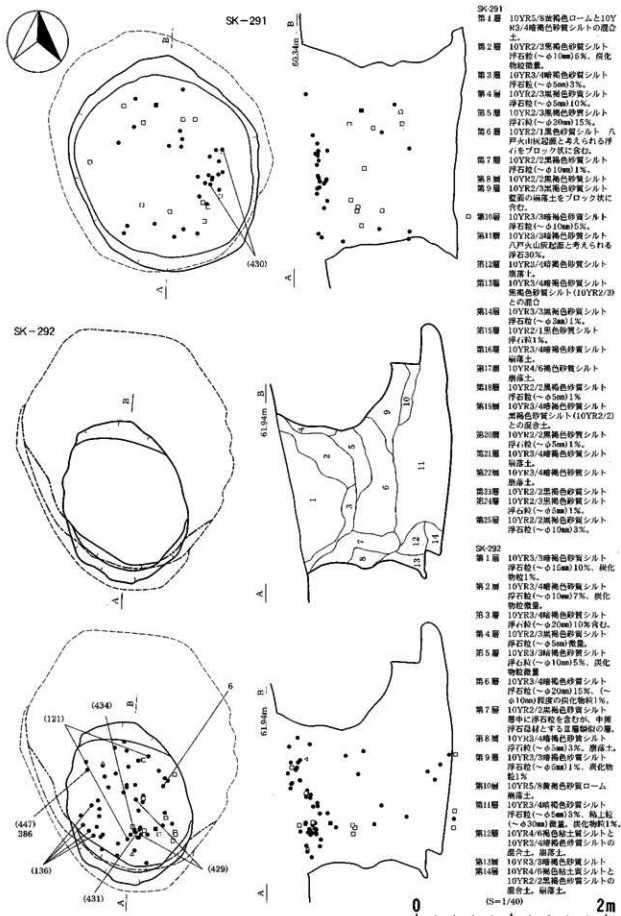
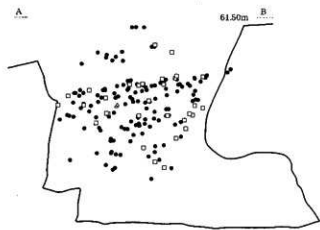
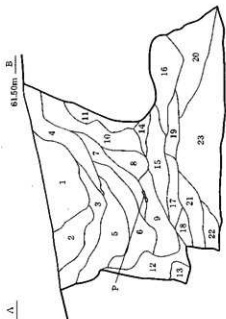
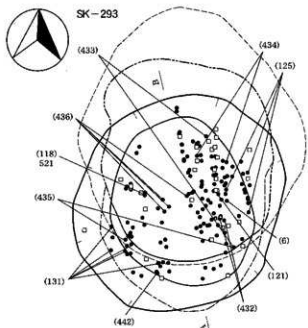
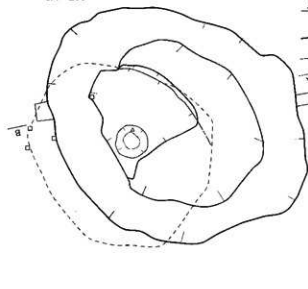


図41 第291・292号土坑



- SK-293
- 第1層 10YR2/3黄褐色砂質シルト 浮石粒(φ15mm)10%。炭化物微量。
 - 第2層 10YR4/4褐色シルト 浮石粒微量。
 - 第3層 10YR2/3黄褐色砂質シルト 浮石粒(φ10mm)5%。炭化物粒3%。
 - 第4層 10YR3/3暗褐色砂質シルト 浮石粒(φ5mm)10%。炭化物粒1%。
 - 第5層 10YR3/4暗褐色砂質シルト 浮石粒(φ5mm)7%。炭化物粒微量。
 - 第6層 10YR3/4暗褐色砂質シルト 土質は5層に類似するが、浮石の混入量少ない。
 - 第7層 10YR2/3黄褐色砂質シルト 浮石粒(φ10mm)10%。炭化物粒微量。
 - 第8層 10YR3/4暗褐色砂質シルト
 - 第9層 10YR3/4暗褐色砂質シルト
 - 第10層 10YR5/6黄褐色砂質シルトと10YR3/3暗褐色砂質シルトの混合土。浮石粒15%。
 - 第11層 10YR2/1黒色砂質シルト 腐落土。
 - 第12層 10YR2/2暗褐色砂質シルト 腐落土。
 - 第13層 10YR3/4暗褐色砂質シルト 腐落土。
 - 第14層 10YR2/1黒色砂質シルト 腐落土。
 - 第15層 10YR2/1黒色砂質シルトと10YR4/4褐色砂質シルトの混合土。浮石15%。
 - 第16層 10YR4/4褐色砂質シルト
 - 第17層 10YR4/4褐色砂質シルト
 - 第18層 10YR5/6黄褐色砂質シルト 腐落土。
 - 第19層 10YR2/2暗褐色砂質シルト
 - 第20層 10YR2/2暗褐色砂質シルトと10YR7/6明黄褐色土層が互層をなす。
 - 第21層 10YR2/1黒色砂質シルト 浮石粒微量。
 - 第22層 10YR8/6黄褐色火山灰土 腐落土。
 - 第23層 10YR3/3暗褐色砂質シルト 浮石粒(φ20mm)10%。

SK-296



- SK-296
- 第1層 10YR3/3暗褐色砂質シルト 腐乱層。
 - 第2層 10YR5/6黄褐色粘土質火山灰土
 - 第3層 10YR2/3暗褐色シルト φ1.5cm黄褐色浮石15%。
 - 第4層 10YR2/4暗褐色シルト 10YR4/6褐色火山灰土の底状構造。φ1cmの浮石15%。
 - 第5層 10YR2/3暗褐色シルト 10YR4/4褐色シルトとの底状構造。φ1cmの浮石15%。
 - 第6層 10YR2/3暗褐色砂質シルト φ1cmの浮石7%。
 - 第7層 10YR2/6黄褐色粘土質火山灰土
 - 第8層 10YR3/3暗褐色粘土質シルト
 - 第9層 10YR4/4褐色粘土質シルト 5/8黄褐色粘土質火山灰土腐乱。
 - 第10層 10YR5/6黄褐色浮石
 - 第11層 10YR4/3/5に黄褐色シルト φ1cmの黄褐色浮石2%。
 - 第12層 10YR2/2黄褐色砂質シルト φ7mmの黄褐色浮石2%。
 - 第13層 10YR2/3黄褐色砂質シルト φ1cmの黄褐色浮石7%。
 - 第14層 10YR2/3黄褐色砂質シルト φ5mmの黄褐色浮石3%。10YR3/4暗褐色シルトや浮石の碎片が、地層の影響でやや右にのびて層状にみられる。
 - 第15層 10YR2/3黄褐色砂質シルト φ1cmの浮石10%。
 - 第16層 10YR2/3黄褐色砂質シルト φ2cmの黄褐色浮石2%。

図42 第293・296号土坑

いため、詳細な時期は不明だが、本遺跡の主体的な時期である中期初頭に属する可能性が高い。(葛城)

第295号土坑 (SK-295) (図43、44)

[平面形] 楕円形を呈すると考えられるが、南側の一部が調査区域外に広がるため詳細は不明である。また、東側にテラス状の張り出しを持つが、別遺構との重複である可能性がある。[堆積土] 28層に分層した。層中に八戸火山灰起源と考えられる浮石を含むが、第15・16層は崩落土であり、自然堆積の可能性が高い。[出土遺物] 本遺構は、調査工程の都合で3層以下の遺物は出土層位を記録しないで取り上げた。堆積土中から203点(14188.7g)の土器が出土した。円筒上層a式と考えられるものが多い。頸部区画形状は隆帯タイプのもので段差タイプのものである。第1層及び堆積土中より石匙と磨製石斧が1点ずつ出土している。この他に2次加工のない剥片及び自然礫が合わせて16点出土している。総重量は4446.6gである。[時期] 本遺構に明確に伴う遺物がないため、詳細な時期は不明だが、本遺跡の主体的な時期である中期初頭に属する可能性が高い。(葛城)

第296号土坑 (SK-296) (図42)

[検出状況] 後述する人為堆積層B群を精査するためのトレンチを設定したところ、深い落ち込みが検出された。土坑と判断し、精査を開始した。本土坑の西側は遺構掘り込み面より上位から調査を行うこととなった。[堆積土] 14層に分層した。シルト・砂質シルトが主体で、下半部は水平な堆積状態を示し、壁の火山灰土の崩落も認められない。火山灰土粒や軽石の多い層は認められないものの、土層が水平に堆積すること、崩落土が認められないことにより、人為堆積の可能性が高い。[出土遺物] 第3・16層から土器が3点(72.4g)、第2・16層から自然礫が5点(1432.2g)、第3層から剥片が1点、第16層から半円状扁平打製石器が1点出土した。土器は縄文時代中期初頭のものと思われる。[時期] 本遺構に明確に伴う遺物がないため、詳細な時期は不明だが、本遺跡の主体的な時期である中期初頭に属する可能性が高い。(中村)

第297号土坑 (SK-297) (図43、44)

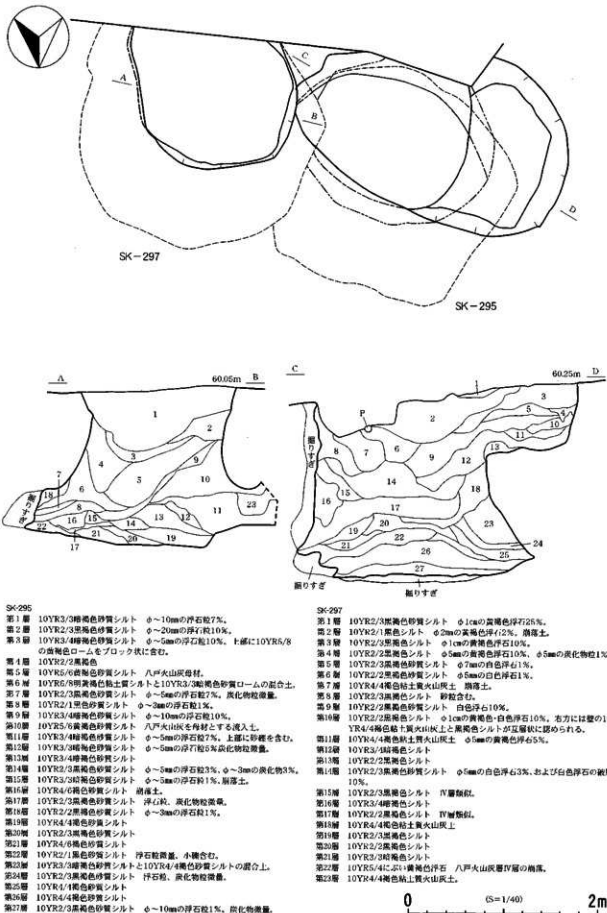
[堆積土] 第15層より下層は壁面の崩落土と考えられる第IV層類似の層がみられ、自然堆積の可能性が高い。上層は八戸火山灰起源と考えられる浮石を含むことから人為堆積と考えられる。[出土遺物] 第1層から260点(11757.0g)、第5層から123点(8714.4g)の土器が出土した。ほとんどが円筒上層a式と考えられ、頸部区画は段差タイプのは見あたらない。第1層より石礫が1点出土している。この他に2次加工のない剥片及び自然礫が19点出土しているが、第5層から出土している1点を除き全て第1層からの出土である。総重量は4970.1gである。[時期] 本遺構に明確に伴う遺物がないため、詳細な時期は不明だが、本遺跡の主体的な時期である中期初頭に属する可能性が高い。(葛城)

第298号土坑 (SK-298) (図44)

[堆積土] 第21号竪穴住居跡と重複しているため、南側の堆積状況は不明である。残存する土層は12層に分層した。暗褐色砂質シルトを主体とする。壁面の崩落土も見られるが、全体に炭化物を含み人為堆積の可能性が高い。[出土遺物] 第1層から重量7.7gの自然礫が1点出土している。[時期] 本遺構に明確に伴う遺物がないため、詳細な時期は不明だが、本遺跡の主体的な時期である中期初頭に属する可能性が高い。(葛城)

第299号土坑 (SK-299) (図45)

[堆積土] 9層に分層した。第1層は第20号竪穴住居跡の貼り床である。その他の層は暗褐色砂質シ



SK-295

- 第1層 10YR2/3黒褐色砂質シルト $\phi \sim 10\text{mm}$ の浮石粒7%。
- 第2層 10YR2/3黒褐色砂質シルト $\phi \sim 20\text{mm}$ の浮石粒10%。
- 第3層 10YR3/4暗褐色砂質シルト $\phi \sim 5\text{mm}$ の浮石粒10%。上部に10YR5/8の黄褐色ロームをブロック状に含む。
- 第4層 10YR2/2黒褐色
- 第5層 10YR5/6黄褐色砂質シルト 八戸火山灰母材。
- 第6層 10YR5/8黄褐色粘土質シルトと10YR3/3黒褐色砂質ロームの混合土。
- 第7層 10YR2/3黒褐色砂質シルト $\phi \sim 5\text{mm}$ の浮石粒7%。炭化物粒微量。
- 第8層 10YR2/1黒色砂質シルト $\phi \sim 3\text{mm}$ の浮石粒1%。
- 第9層 10YR3/4暗褐色砂質シルト $\phi \sim 10\text{mm}$ の浮石粒10%。
- 第10層 10YR5/6黄褐色砂質シルト 八戸火山灰を母材とする流入土。
- 第11層 10YR3/4暗褐色砂質シルト $\phi \sim 5\text{mm}$ の浮石粒7%。上部に砂粒を含む。
- 第12層 10YR3/3暗褐色砂質シルト $\phi \sim 5\text{mm}$ の浮石粒5%炭化物粒微量。
- 第13層 10YR3/4暗褐色砂質シルト
- 第14層 10YR2/3黒褐色砂質シルト $\phi \sim 3\text{mm}$ の浮石粒3%、 $\phi \sim 3\text{mm}$ の炭化物粒3%。
- 第15層 10YR2/3暗褐色砂質シルト $\phi \sim 3\text{mm}$ の浮石粒1%。崩落土。
- 第16層 10YR4/4暗褐色シルト 崩落土。
- 第17層 10YR2/3黒褐色砂質シルト 浮石粒。炭化物粒微量。
- 第18層 10YR2/2黒褐色砂質シルト $\phi \sim 3\text{mm}$ の浮石粒1%。
- 第19層 10YR4/4暗褐色砂質シルト
- 第20層 10YR2/3黒褐色砂質シルト
- 第21層 10YR4/6褐色砂質シルト
- 第22層 10YR2/1黒色砂質シルト 浮石粒微量。小礫を含む。
- 第23層 10YR3/3暗褐色砂質シルトと10YR4/4褐色砂質シルトの混合土。
- 第24層 10YR2/3黒褐色砂質シルト 浮石粒。炭化物粒微量。
- 第25層 10YR4/1褐色砂質シルト
- 第26層 10YR4/4暗褐色砂質シルト
- 第27層 10YR2/3黒褐色砂質シルト $\phi \sim 10\text{mm}$ の浮石粒1%。炭化物微量。

SK-297

- 第1層 10YR2/3黒褐色砂質シルト $\phi 1\text{cm}$ の黄褐色浮石26%。
- 第2層 10YR2/1黒色シルト $\phi 2\text{mm}$ の黄褐色浮石2%。崩落土。
- 第3層 10YR2/3黒褐色シルト $\phi 1\text{cm}$ の黄褐色浮石10%。
- 第4層 10YR2/2黒褐色シルト $\phi 5\text{mm}$ の黄褐色浮石10%、 $\phi 5\text{mm}$ の炭化物粒1%。
- 第5層 10YR2/3黒褐色砂質シルト $\phi 7\text{mm}$ の白色浮石1%。
- 第6層 10YR2/3黒褐色砂質シルト $\phi 5\text{mm}$ の白色浮石1%。
- 第7層 10YR4/4褐色粘土質火山灰土 崩落土。
- 第8層 10YR2/3黒褐色シルト 砂粒を含む。
- 第9層 10YR2/3黒褐色砂質シルト 白色浮石10%。
- 第10層 10YR2/3黒褐色シルト $\phi 1\text{cm}$ の黄褐色-白色浮石10%。右方には壁の10YR4/4褐色粘土質火山灰土と黄褐色シルトが互層状に認められる。
- 第11層 10YR4/4褐色粘土質火山灰土 $\phi 5\text{mm}$ の黄褐色浮石5%。
- 第12層 10YR3/3暗褐色シルト
- 第13層 10YR2/2黒褐色シルト
- 第14層 10YR2/3黒褐色砂質シルト $\phi 5\text{mm}$ の白色浮石3%。および白色浮石の崩落10%。
- 第15層 10YR2/3黒褐色シルト IV層傾斜。
- 第16層 10YR3/4暗褐色シルト
- 第17層 10YR2/2黒褐色シルト IV層傾斜。
- 第18層 10YR4/4褐色粘土質火山灰土
- 第19層 10YR2/3黒褐色シルト
- 第20層 10YR2/3黒褐色シルト
- 第21層 10YR3/3暗褐色シルト
- 第22層 10YR5/4(白)黄褐色浮石 八戸火山灰母材IV層の崩落。
- 第23層 10YR4/4褐色粘土質火山灰土。

図43 第295・297号土坑

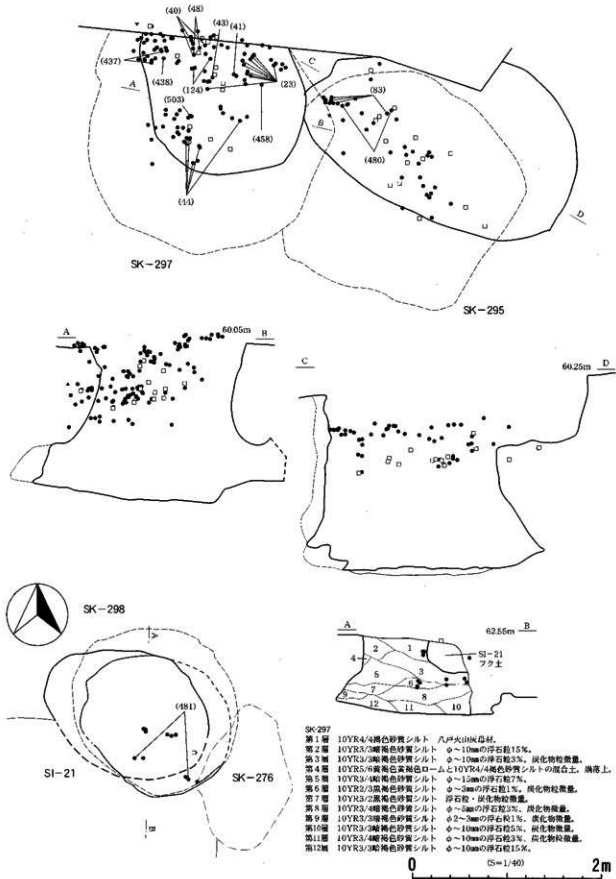


図44 第295・297・298号土坑

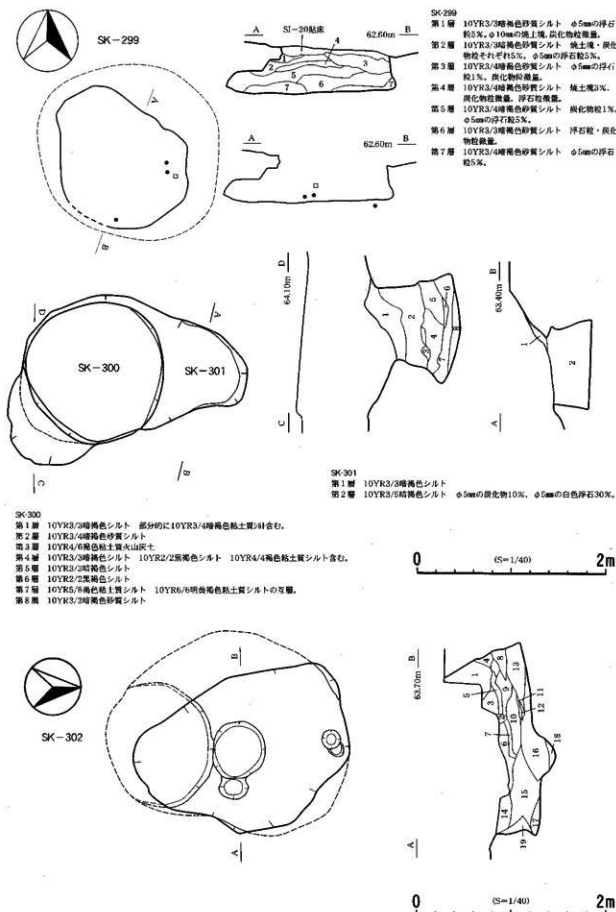


図45 第299・300・301・302号土坑

ルトを主体とし、ほとんどの層に炭化物粒を含む。また、第4・6層には焼土塊も含むことから人為堆積の可能性がある。[出土遺物] 土器は出土しなかった。第2層から重量402.6gの自然礫が1点出土している。[時期] 本遺構に明確に伴う遺物がないため、詳細な時期は不明だが、前期末から中期初頭に属する可能性が高い。

(葛城)

第300号土坑・第301号土坑〔SK-300・SK-301〕(図45)

第16号竪穴住居跡・倒木痕を精査中に倒木痕の下位から検出した。当初は倒木痕が地表下深くまで及んでいると考えていたため、第16号竪穴住居跡との新旧関係は捉えられなかった。遺物は出土しなかった。

(中村)

第302号土坑〔SK-302〕(図45)

[検出状況] 第17号竪穴住居跡精査中に床面から壁にかけて落ち込みを検出した。精査の結果、底面中央から北側にかけて、ピット4基、底面南半分で径約130cm、深さ約20cmの落ち込みを検出した。古い土坑が存在した可能性が考えられるが、土層断面は確認できなかった。[堆積土] 19層に細分した。火山灰土や火山灰土混じりのシルトが主体で人為堆積と考えられる。[出土遺物] 第16層から土器が1点(44.0g)出土した。縄文時代中期初頭のものと考えられる。[時期] 本遺構に明確に伴う遺物がないため、詳細な時期は不明だが、本遺跡の主体的な時期である中期初頭に属する可能性が高い。

(中村)

第303号土坑〔SK-303〕(図46)

[検出状況] 第17号竪穴住居跡精査中に、床面で黒色砂質シルトの落ち込みを検出した。土層断面では確認できなかったが、本土坑の最上層と住居堆積土は明らかに異なっており、本土坑が古いものと考えられる。[堆積土] 20層に分層した。第3層は、八戸火山灰起源の白色軽石を含む。ただし、第4・13・19層は黒色系統のシルトを交えない純粋な火山灰土で、崩落土と考えられる。4層以下は白色の軽石を交えるもの、交えないものがあり、この点から人為堆積の可能性を積極的に推せない。しかし、比較的水平的な堆積であることから、総合的に人為堆積の可能性が強いものと判断される。[出土遺物] 遺物は出土しなかった。[時期] 本遺構に明確に伴う遺物がないため、詳細な時期は不明だが、前期末～中期初頭に属する可能性が高い。

(中村)

第304号土坑〔SK-304〕(図46)

[検出状況] 第17号竪穴住居跡精査中に、床面で黒褐色シルトの落ち込みを検出した。住居堆積土は本土坑最上層とは明らかに異なり、本土坑が古い。[堆積土] 22層に分層した。砂質シルトを主体とする。軽石を多量に含む層は無く、人為堆積の可能性を積極的に推すことはできない。堆積土の断面形状からは人為堆積・自然堆積いずれの可能性も考えられる。崩落土と考えられる火山灰土が認められ、堆積に一定の時間幅があった可能性がある。[出土遺物] 第1・7・19層から5点(82.8g)の土器が出土した。縄文時代前期末のものと考えられる。[時期] 本遺構に明確に伴う遺物がないため、詳細な時期は不明だが、縄文時代前期末～中期初頭に属する可能性が高い。

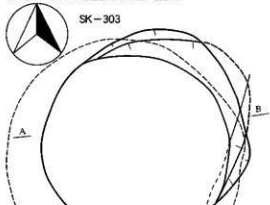
(中村)

第305号土坑〔SK-305〕(図46)

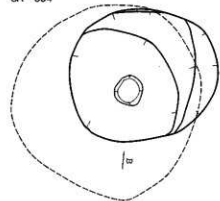
[検出状況] 第17号竪穴住居跡精査中に、土層断面と床面で黒褐色シルトの落ち込みを検出した。本土坑が古い。[堆積土] 3層に分層した。暗褐色～黒褐色シルトを主体とする。堆積要因の特定は難しい。[出土遺物] 第1層から7点(74.9g)の土器と1点の半円状扁平打製石器が出土した。土器は

SK-302

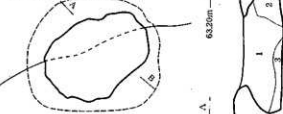
- 第1層 10YR3/3暗褐色シルト φ5mmの黄褐色浮石20%。
- 第2層 10YR3/4暗褐色シルト φ3mmの黄褐色浮石40%。
- 第3層 10YR7/6明褐色砂質シルト黄火山灰土。
- 第4層 10YR4/3にふい黄褐色浮石と暗褐色シルトの混合物。
- 第5層 10YR4/3にふい黄褐色浮石と暗褐色シルトの混合物。
- 第6層 10YR4/4褐色シルトと10YR4/3にふい黄褐色浮石の混合物。
- 第7層 10YR6/6明褐色浮石シルト黄火山灰土。
- 第8層 10YR4/6褐色粘土質火山灰土 φ3mmの白色浮石30%、煎落土。
- 第9層 10YR6/6明褐色シルト黄火山灰土。
- 第10層 10YR3/4暗褐色シルト φ1cmの白色浮石20%。
- 第11層 10YR3/3暗褐色シルト。
- 第12層 10YR6/4にふい黄褐色粘土質火山灰土。
- 第13層 10YR7/6明褐色粘土質火山灰土。
- 第14層 10YR2/3暗褐色シルト φ3mmの白色浮石10%。
- 第15層 10YR3/4暗褐色シルト 10YR2/3暗褐色シルト。
- 第16層 10YR4/4褐色粘土質火山灰土。 10YR4/4褐色粘土の混合物。
- 第17層 10YR4/4褐色シルト。
- 第18層 10YR4/4褐色シルト。
- 第19層 10YR4/6褐色粘土質火山灰土 煎落土。



SK-304



SK-305

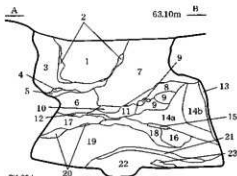
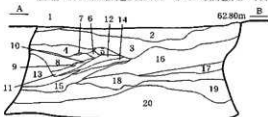


SK-303

- 第1層 10YR3/4暗褐色シルト
- 第2層 10YR2/3暗褐色シルト
- 第3層 10YR2/3暗褐色シルト

SK-303

- 第1層 10YR7/8黄褐色浮石(SI-17散り度)
- 第2層 10YR3/4暗褐色砂質シルト 固くしまっている。
- 第3層 10YR3/4暗褐色砂質シルト φ5mmの白色浮石10%。
- 第4層 10YR4/3にふい黄褐色粘土質火山灰土。
- 第5層 10YR2/3暗褐色シルト。
- 第6層 10YR4/4褐色粘土質火山灰土。
- 第7層 10YR2/3暗褐色シルト。
- 第8層 10YR4/6褐色粘土質火山灰土。
- 第9層 10YR3/4暗褐色シルト。
- 第10層 10YR4/4暗褐色シルト。
- 第11層 10YR4/6褐色粘土質火山灰土。
- 第12層 10YR3/4暗褐色シルト φ3mmの白色浮石10%。
- 第13層 10YR6/4にふい黄褐色砂質火山灰土・浮石。
- 第14層 10YR3/4暗褐色砂質シルト φ3mmの白色浮石20%。
- 第15層 10YR3/4暗褐色砂質シルト。
- 第16層 10YR2/3暗褐色シルト。
- 第17層 10YR3/4暗褐色シルトと10YR4/6褐色粘土質シルトの混合物。
- 第18層 10YR2/3暗褐色砂質シルト φ3mmの浮石15%。
- 第19層 10YR4/6褐色粘土質火山灰土・10YR6/4にふい黄褐色 粘土質火山灰土・浮石。
- 第20層 10YR3/3暗褐色砂質シルト φ1cmの黄褐色浮石・中央上部に20%。



SK-304

- 第1層 10YR2/3暗褐色シルト φ5mmの黄褐色浮石10%。
- 第2層 10YR7/6明褐色浮石。
- 第3層 10YR3/3暗褐色砂質シルト。
- 第4層 10YR5/6明褐色砂質火山灰土。
- 第5層 10YR2/2暗褐色シルト φ2~5mmの黄褐色浮石少量。
- 第6層 10YR3/4暗褐色シルト φ1~10mmの黄褐色浮石少量。
- 第7層 10YR2/4暗褐色シルト φ2mmの黄褐色浮石15%、φ2~10mmの黄褐色浮石少量。
- 第8層 10YR2/3暗褐色砂質シルト φ5mmの黄褐色浮石5%。
- 第9層 10YR4/4褐色粘土質火山灰土 φ1~3mmの黄褐色浮石少量。
- 第10層 10YR3/3暗褐色砂質シルト φ1~3mmの黄褐色浮石少量。
- 第11層 10YR2/3暗褐色砂質シルト φ3~10mmの黄褐色浮石少量。
- 第12層 10YR2/2暗褐色シルト壁の粉落土。
- 第13層 10YR6/6明褐色浮石 φ2~5mmの黄褐色浮石少量。
- 第14層a 10YR5/6黄褐色粘土質火山灰土 壁の粉落土。
- 第14層b 10YR7/3にふい黄褐色シルト質火山灰土。
- 第15層 10YR2/3暗褐色シルト壁の粉落土。
- 第16層 10YR3/3暗褐色砂質シルト。
- 第17層 10YR2/3暗褐色シルト。
- 第18層 10YR3/4暗褐色シルト。
- 第19層 10YR2/3暗褐色シルト。
- 第20層 10YR5/6黄褐色粘土質火山灰土 10YR6/3にふい黄褐色浮石煎落。
- 第21層 10YR3/3暗褐色シルト 浮石の煎落多く含むため、砂状。
- 第22層 10YR3/3暗褐色砂質シルト。
- 第23層 10YR5/3にふい黄褐色砂質火山灰土。

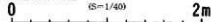


図46 第303・304・305号土坑

縄文時代中期初頭のものと考えられる。[時期] 本遺構は、出土した土器より新しく第17号竪穴住居跡より古いため、縄文時代中期初頭と考えられる。

(中村)

第306号土坑〔SK-306〕(図47)

[検出状況] 第17号竪穴住居跡精査中に、土層断面と床面で黒褐色砂質シルトの落ち込みを検出した。本土坑が古い。[堆積土] 4層に分層した。すべて砂質シルトで第2・3層は、高館火山灰、八戸火山灰のブロックを含んでおり、人為堆積と考えられる。[底面施設] 5本の溝が、坑底面中央部のピットから放射状にのびている。溝の深さは約2cmである。[出土遺物] 第3・4層から2点31.5gの土器が出土した。第1層から砥磨器が1点出土した。土器は縄文時代中期初頭のものと考えられる。[時期] 本遺構は出土した土器より新しく、第17号竪穴住居跡より古いので、縄文時代中期初頭のものと考えられる。

(中村)

第307号土坑〔SK-307〕(図47)

[壁面及び底面の状況] 地滑りの影響を受けており、底面には段差が見られる。[堆積土] 7層に分層した。図示していないが第1層上面には第22号竪穴住居跡の貼り床が一部検出されている。第6層のような崩落土を除けば黒褐色砂質シルトを主体とし、浮石粒を10%程度含むものが多い。また、第3層のように八戸火山灰と考えられる浮石を主体とするものもあり、人為堆積と考えられる。[出土遺物] 第1・2層中からそれぞれ、1点(7.7g)、1点(6.1g)の土器が出土した。いずれも縄文時代前期末のものと考えられる。第1層から重量11.2gの自然礫が1点出土している。[時期] 本遺構に明確に伴う遺物がいないため、詳細な時期は不明だが、縄文時代前期末～中期初頭に属する可能性が高い。

(葛城)

第308号土坑〔SK-308〕(図47)

[堆積土] 16層に分層した。本遺構は基本層序第IV層を掘り込んで構築されている。直上には基本層序第II層が堆積する。第4層は黄褐色粘土質シルトであり、明らかな人為堆積層である。第6・14層は壁面の崩落土である。その他の層は暗褐色及び黒褐色砂質シルトを主体とする。層中には炭化物を含むものもあり、人為堆積の可能性が高い。[出土遺物] 遺物は出土しなかった。[時期] 本遺構に明確に伴う遺物がいないため、詳細な時期は不明だが、第22号竪穴住居跡より古く、縄文時代前期末～中期初頭に属する可能性が高い。

(葛城)

第309号土坑〔SK-309〕(図47)

[堆積土] 2層に分層した。第1・2層ともに八戸火山灰起源と考えられる遺構掘り上げ土である。[出土遺物] 堆積土中から土器が9点(96.2g)、自然礫が1点(1149.6g)出土している。土器は縄文時代中期初頭のものがある。[時期] 出土した土器より新しく、第22号竪穴住居跡より古いので、縄文時代中期初頭と考えられる。

(葛城)

第310号土坑〔SK-310〕(図47)

[形態・規模] 平面形は不整形を呈する。底面東側は調査区域外、西側は第307号土坑と重複している。なお、断面図作成後に一部崩落したため、平面図と断面図は必ずしも一致しない。[堆積土] 11層に分層した。第1層は第22号竪穴住居跡の貼り床である。また、本遺構は土器埋設炉とも重複している。第9・11層は八戸火山灰を主体とする人為堆積層である。その他の層については、浮石粒を含むものもあるが、自然堆積か人為堆積かは判然としない。[出土遺物] 遺物は出土しなかった。[時

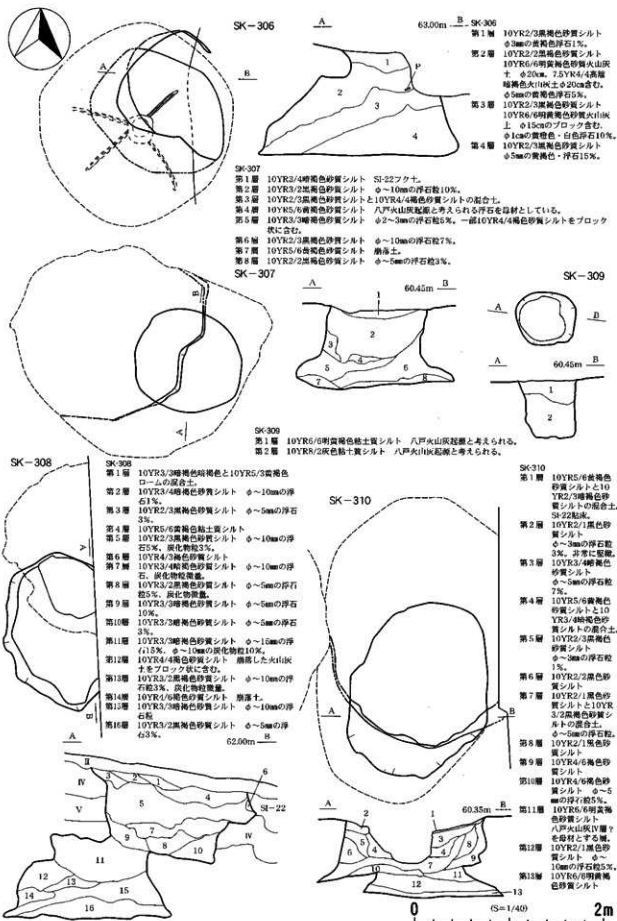


図47 第306・307・308・309・310号土坑

期] 第22号竪穴住居跡より古く、縄文時代前期末から中期初頭と考えられる。(葛城)

第4号土器埋設遺構 (SR-4) (図48)

[掘り方] 平面では確認できず断面で確認した。土器は正立した状態から東側に傾けて埋設されており、確認面では西側のみ露出していた。掘り方堆積土はTo-Cuを母材とする点では第Ⅲ層と類似するが、浮石の混入量が少ないため全体的に暗く、しまりも弱い。[堆積土] 埋設土器内の堆積土も第Ⅲ層に類似しているが、やや粘性に富むようである。[時期] 縄文時代中期初頭と考えられる。(葛城)

第5号土器埋設遺構 (SR-5) (図48)

[堆積土] 人為堆積層B層・基本層序第Ⅲ層を掘り込んで構築されていたが、基本層序第Ⅲ層を掘り込んだ部分以外は、明瞭な堀片を確認できなかった。土器内堆積土は褐色シルトの単層である。土器内外の土壌を柱状・ブロック状に採取し、脂肪酸分析を実施したが、埋葬を示す結果は得られなかった。[出土遺物] 自然礫が1点出土した。[時期] 縄文時代中期初頭と考えられる。(中村)

第6号土器埋設遺構 (SR-6) (図48)

[検出状況] Ⅲ層上面で検出した。周囲には遺物包含層のA層～Ⅲ層に遺物が広がっていた。[堆積土] 第1層はA-2層に、第2層は第Ⅲ層に類似する土質である。遺構内の土壌をブロック状に採取し、脂肪酸分析を実施したが、埋葬を示す結果は得られなかった。[時期] 縄文時代中期初頭と考えられる。[小結] 堆積土の状況や周辺の遺物の出土状況から、土器の胴部が倒立状態で廃棄された可能性を否定できない。(中村)

第7号土器埋設遺構 (SR-7) (図48)

[掘り方] 断面で確認した。掘り方堆積土は、第Ⅲ層に類似するが、浮石の混入量が少なく、しまりも弱いという特徴を持つ。[堆積土] 埋設土器内の堆積土は1層である。これも第Ⅲ層に類似するが、中層浮石の混入量も少なくやや粘性に富む。[時期] 縄文時代中期初頭と考えられる。(葛城)

第9号土器埋設遺構 (SR-9) (図48)

[掘り方] 北側の掘り方のみ確認できた。一部攪乱を受けているが、比較的固くしまっている。[堆積土] 埋設土器内の堆積土は第Ⅲ層に類似するが、炭化物粒を微量含み粘性に富んでいる。[時期] 縄文時代中期初頭と考えられる。(葛城)

第10号土器埋設遺構 (SR-10) (図48)

[掘り方] 確認できなかった。[堆積土] ある程度掘り進めてから埋設土器と認識したため、土器内の堆積土はわずかであるが、基本層序と比べ粘性に富み、しまりは弱い。[時期] 縄文時代中期初頭と考えられる。(葛城)

第11号土器埋設遺構 (SR-11) (図48)

[堆積土] 第245号土坑堆積土中に本遺構を確認した。堀方は確認できず、土器内の堆積土と周囲の堆積土は類似しており、第245号土坑最上部を埋め戻す際に同時に埋設した可能性も考えられる。土器内堆積土から柱状サンプルを採取し脂肪酸分析を実施したが、埋葬を示す結果は得られなかった。[時期] 縄文時代中期初頭と考えられる。(中村)

第12号土器埋設遺構 (SR-12) (図48)

[掘り方] 確認できなかった。[堆積土] 本遺構は人為堆積層であるA-2層を掘り込んで構築されている。第1層はやや粘性に富むものの基本的には第A-2層と同質である。従って本遺構は第A-2層

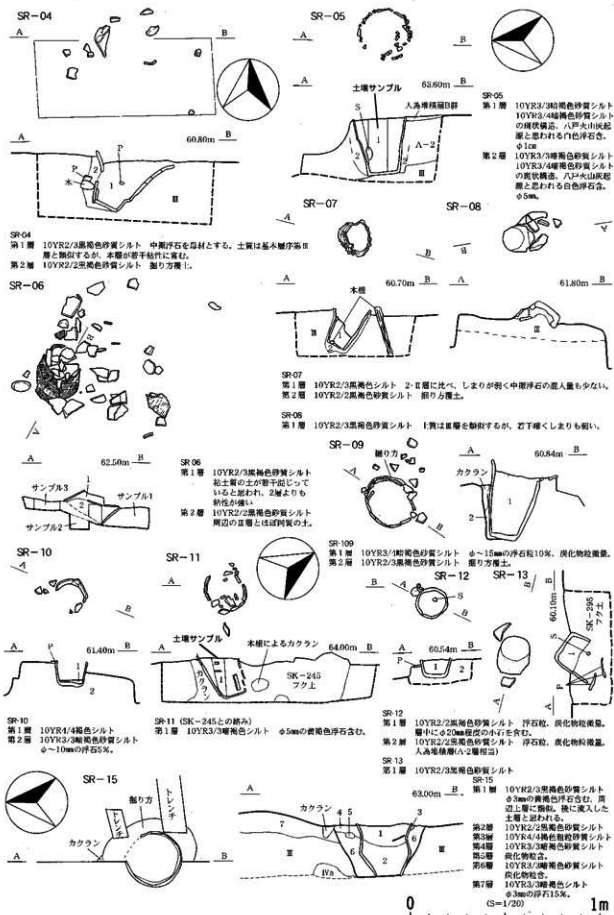


図48 土器埋設遺構

の堆積過程で廃棄された可能性もある。[時期] 縄文時代中期初頭と考えられる。(葛城)

第13号土器埋設遺構〔SR-13〕(図48)

[掘り方] 確認できなかった。[堆積土] 2層に分層したが、第2層は第295号土坑の堆積土である。

[時期] 縄文時代中期初頭と考えられる。

(葛城)

第15号土器埋設遺構〔SR-15〕(図48)

[検出状況] 人為堆積層B群の断り割り調査中に本遺構を検出した。人為堆積層B群の直下から検出された。そのため、掘り込み面が確定できた。図示した面が掘り込み面と考えられる。両者の先後関係を示す土層断面図は笹ノ沢(3)遺跡IVに掲載する予定である。[堆積土] 土器内堆積土は2層に分層した。土器外は3層に分層した。土器内堆積土は半截後、土器ごと室内に持ち帰った。土器内の土壌は、土器外でブロック状に採取した土壌とともに、そのままの状態で行酸・ステロール・脂肪酸分析に供したが、埋葬を積極的に指示する結果は得られなかった。[出土遺物] 土器内から土器片が22点(186.0g)出土したが、すべて本遺構に埋設されたものとは別個体の破片である。[時期] 円筒上層a式と考えられる。[土器埋設時の状況復元] 本遺構では、掘り込み面が確定できた。ただし、人為堆積層B群を廃棄土層と考えて調査を行っていたため、遺構の上部構造としてとらえるか否かの検討は行わなかったが、人為堆積層B群の土層断面から判断する限りその可能性は低いと考えられる。そのため、遺構構築時には土器口縁部はわずかに露出していた可能性が高い。(中村)

溝状土坑(図49)

溝状土坑は6基が検出された。表中で表記できなかった属性についてまとめて述べる。[堆積土] いずれも自然堆積と考えられる。十和田b浮石を含まない。[出土遺物] 第72号溝状土坑の第10層から重量232.5gの自然礫が1点、第75号土坑の第1層から重量1955.2gの自然礫が1点出土した。[時期] 十和田b浮石を含まないことから縄文時代のもと考えられる。(葛城)

第28・29号溝跡〔SD-28・29〕(図50)

[堆積土] 黒色系のシルトである。基本層序第Ⅱ層に比較した場合、粒径が不均一な印象で、基本層序第Ⅱ層とも異なると考えられる。[出土遺物] 縄文土器・石器などが出土したが、本遺構に伴うものとは考えられない。[時期] 確定することは難しいが、縄文時代以後のもと考えられる。(中村)

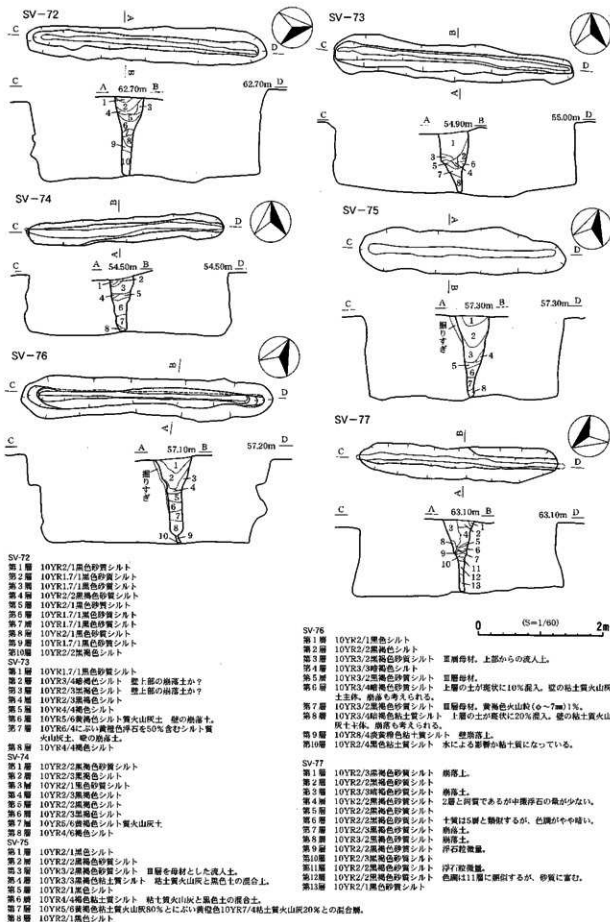


図49 溝状土坑

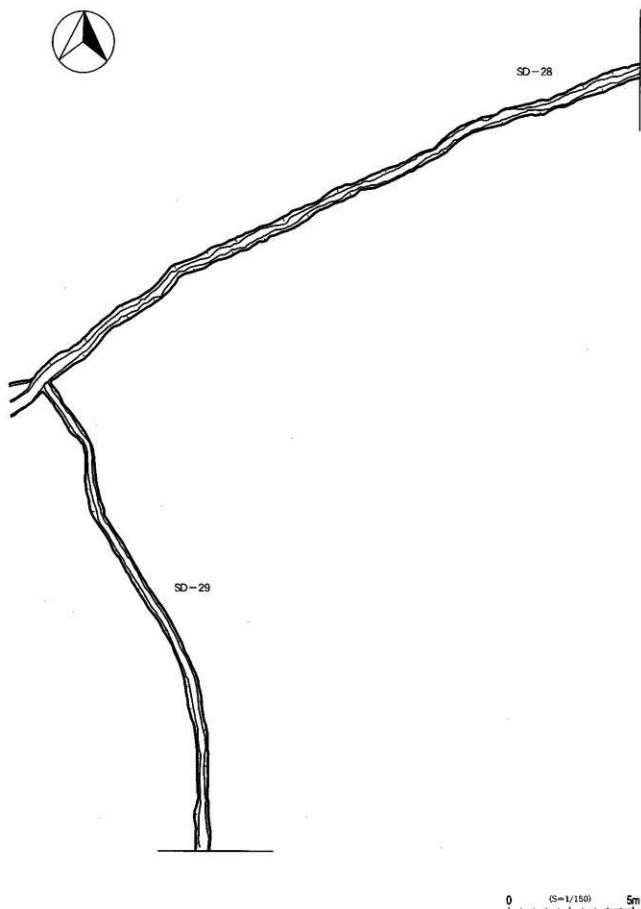


図50 溝跡

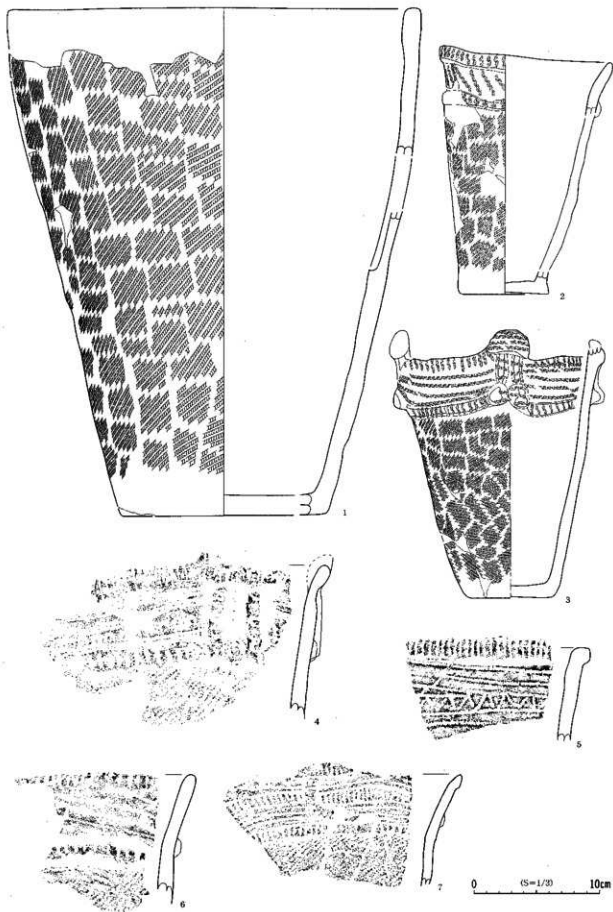


图51 第16号竖穴住居跡出土遺物(1)

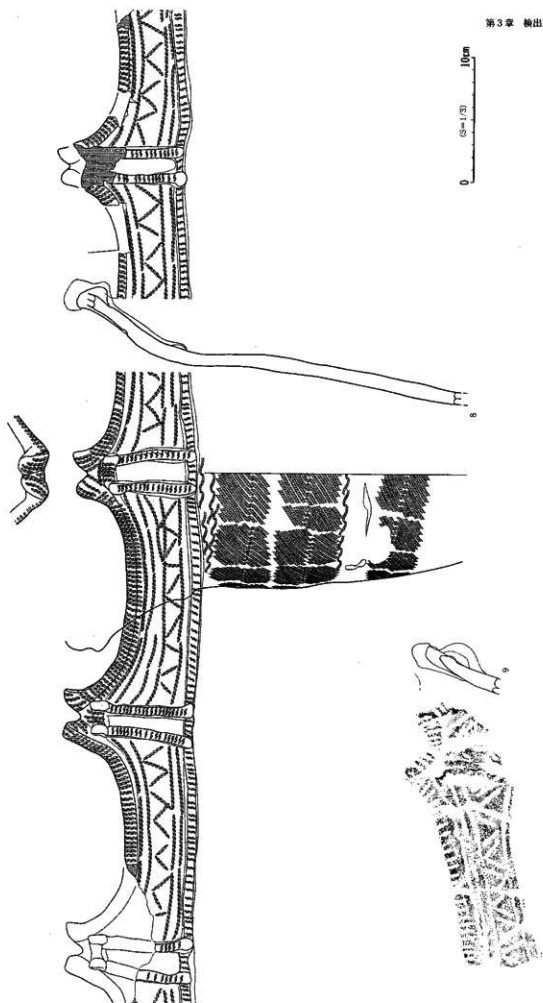


図52 第16号竪穴住居跡出土遺物(2)

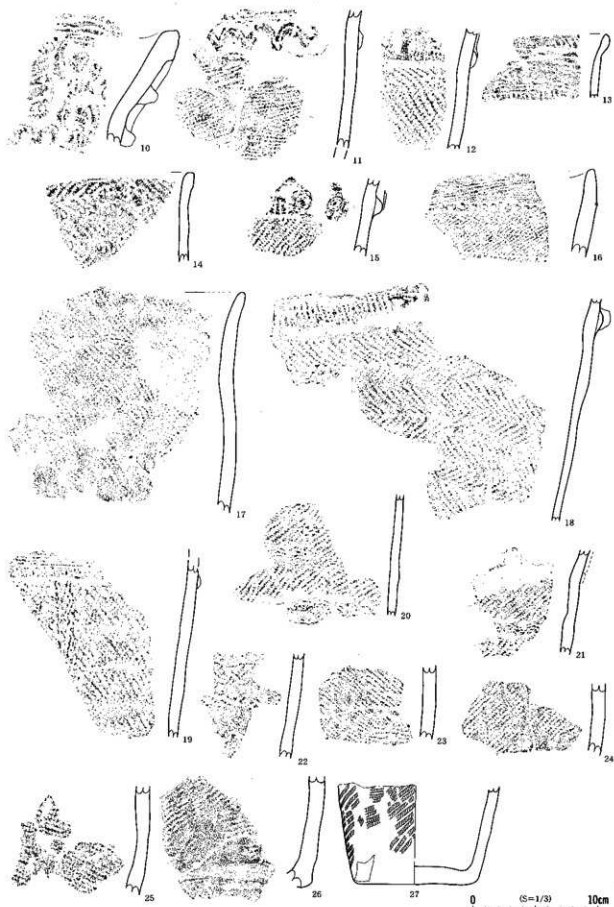


图53 第16号竖穴住居跡出土遺物(3)

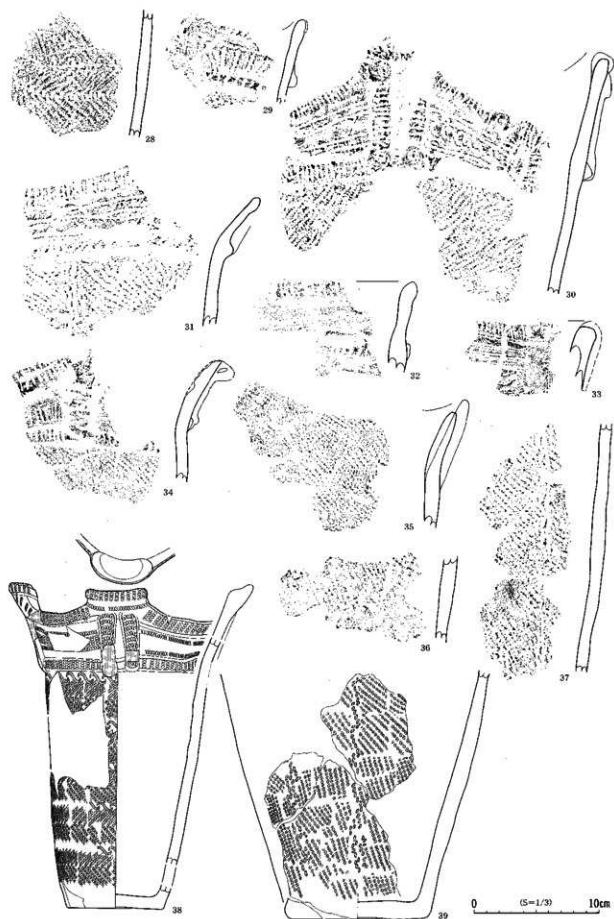


図54 第16号竪穴住居跡出土遺物(4)



図55 第16号竪穴住居跡出土遺物(5)

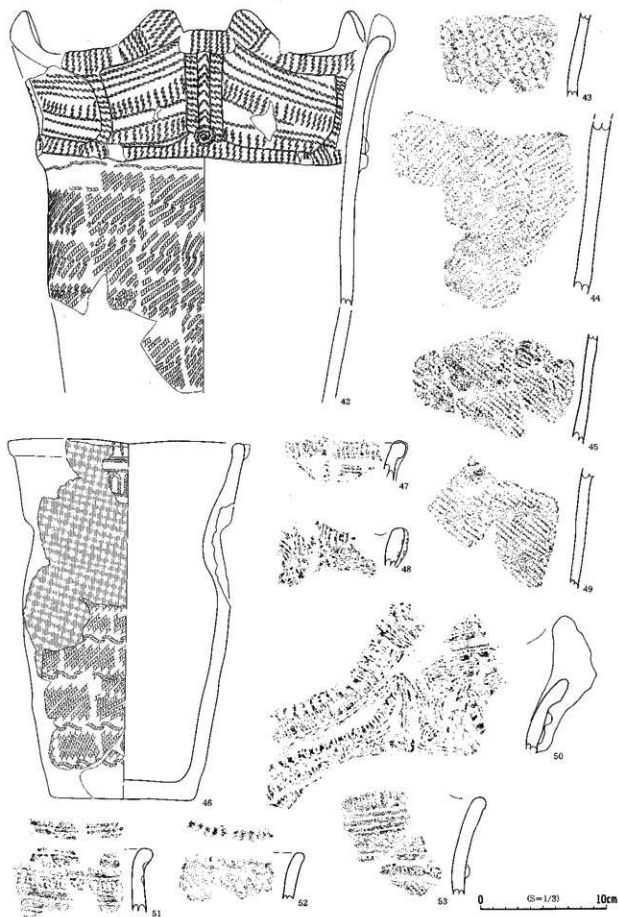


図56 第16号竪穴住居跡出土遺物(6)

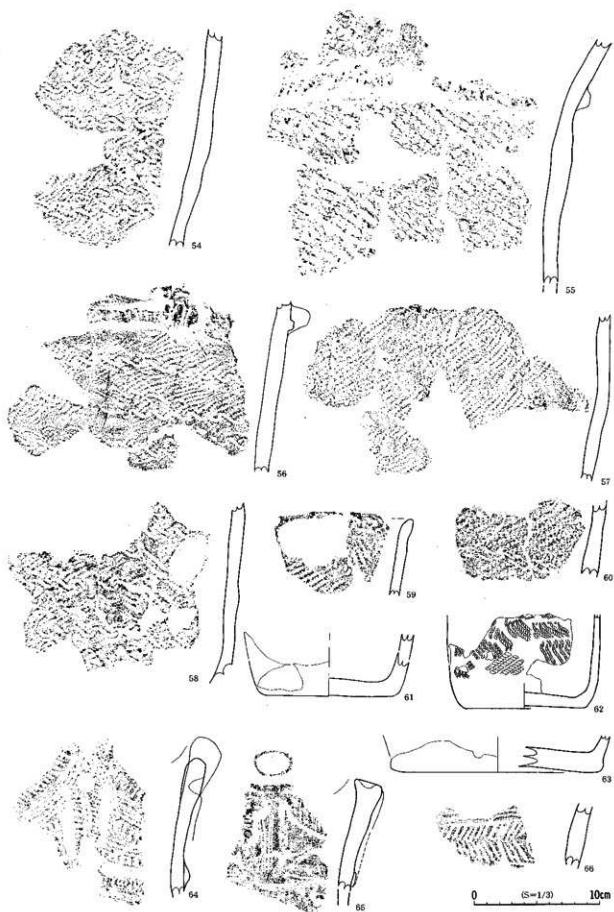


図57 第16号竪穴住居跡出土遺物(7)

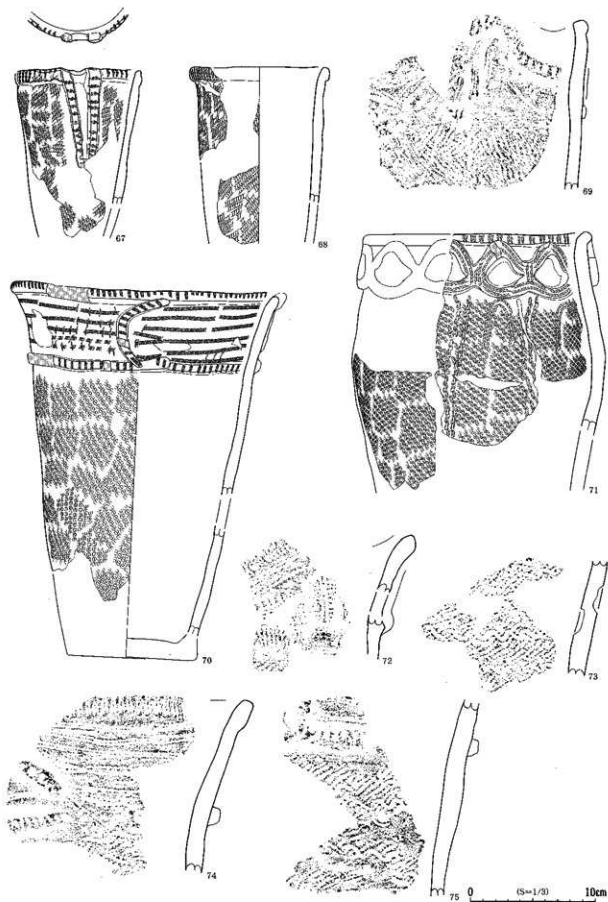


図58 第16号竪穴住居跡出土遺物（8）

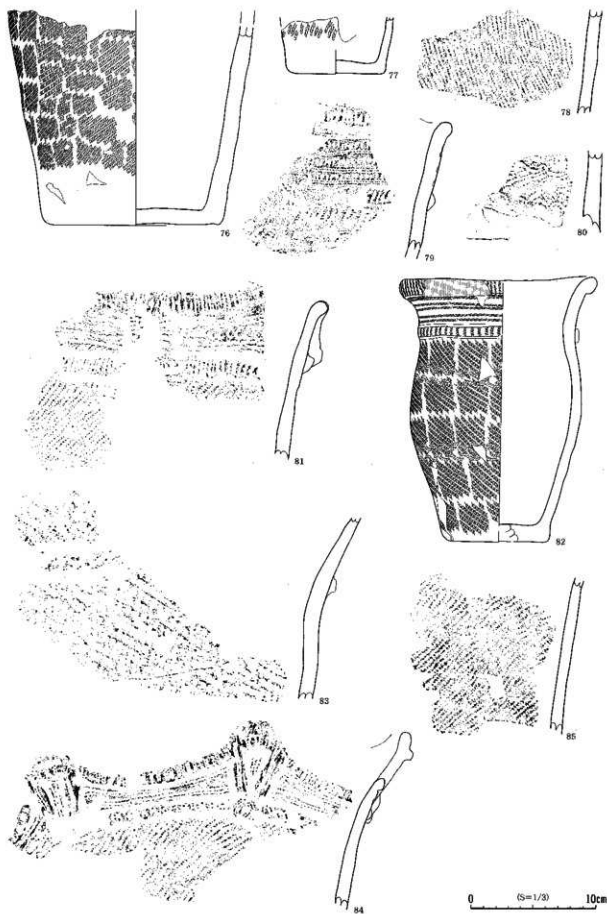


图59 第16号竖穴住居跡出土遺物(9)

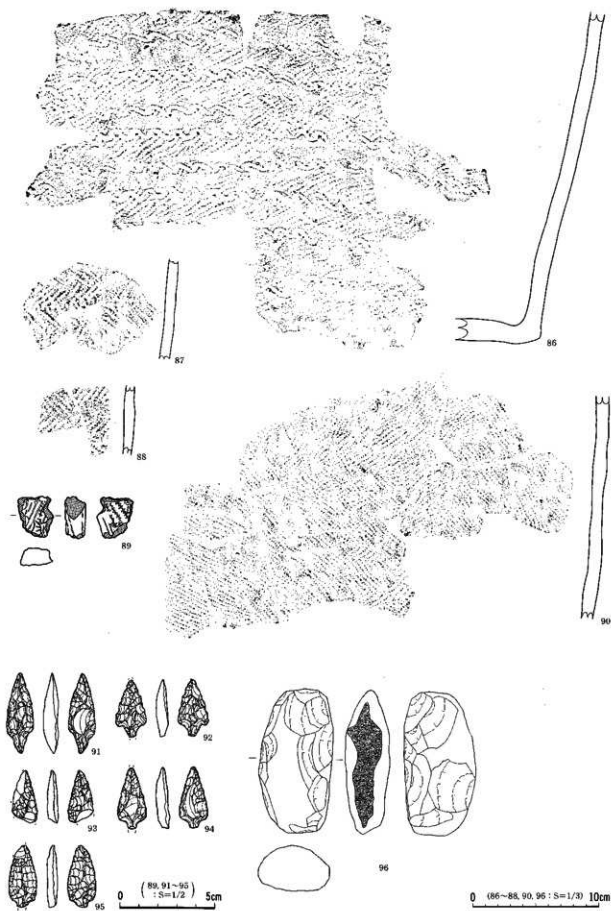


図60 第16号竪穴住居跡出土遺物 (10)

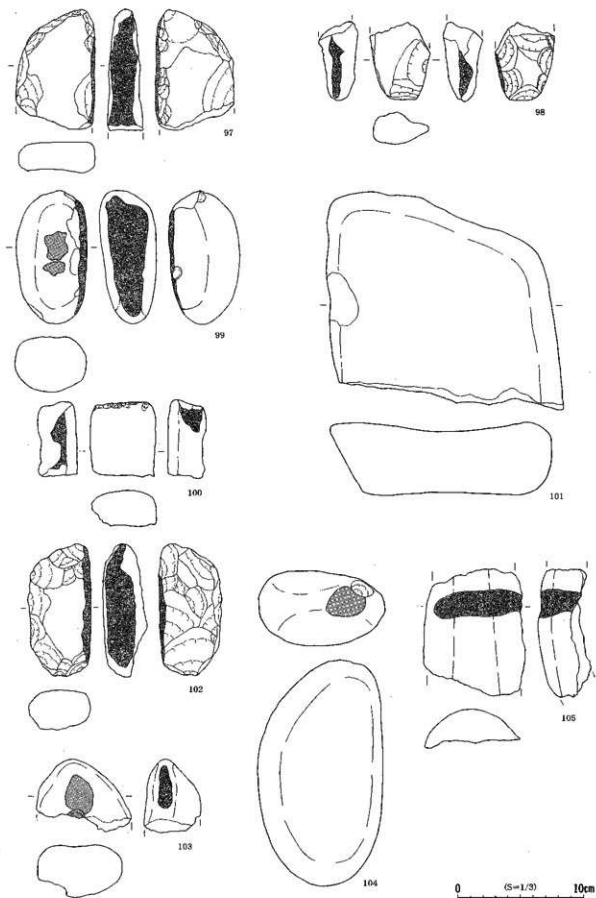
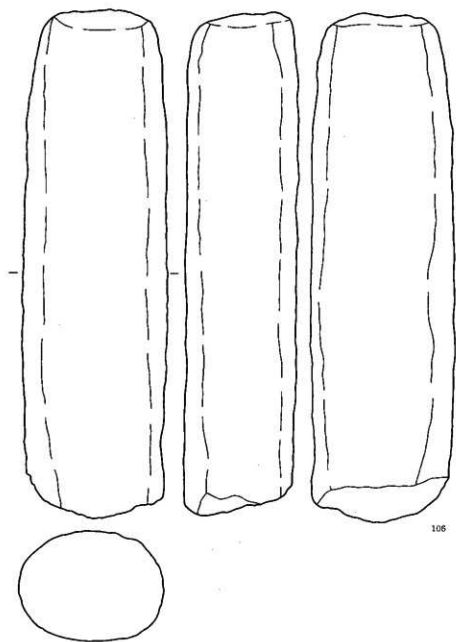


図61 第16号竪穴住居跡出土遺物(11)



0 (S=1/3) 10cm

図62 第16号竪穴住居跡出土遺物(12)

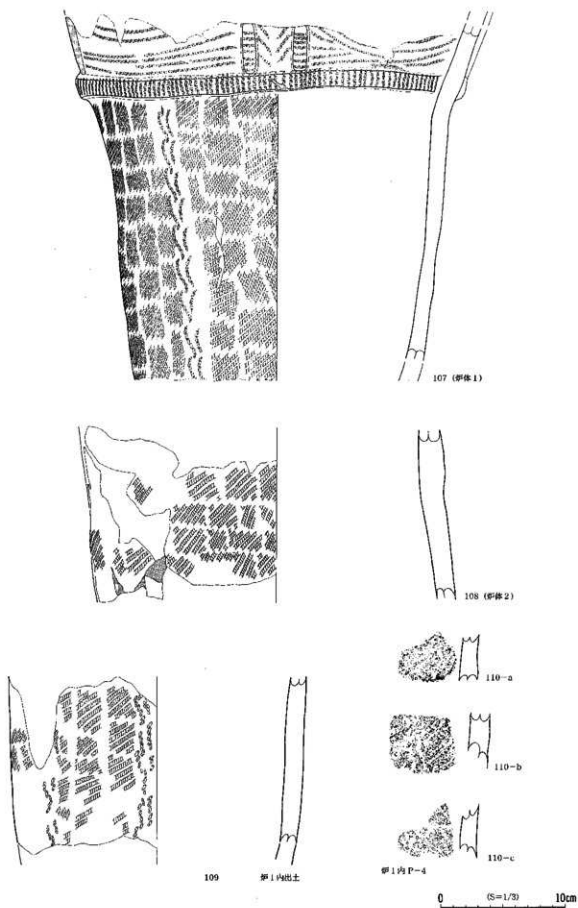


图63 第17号竖穴住居跡出土遺物(1)

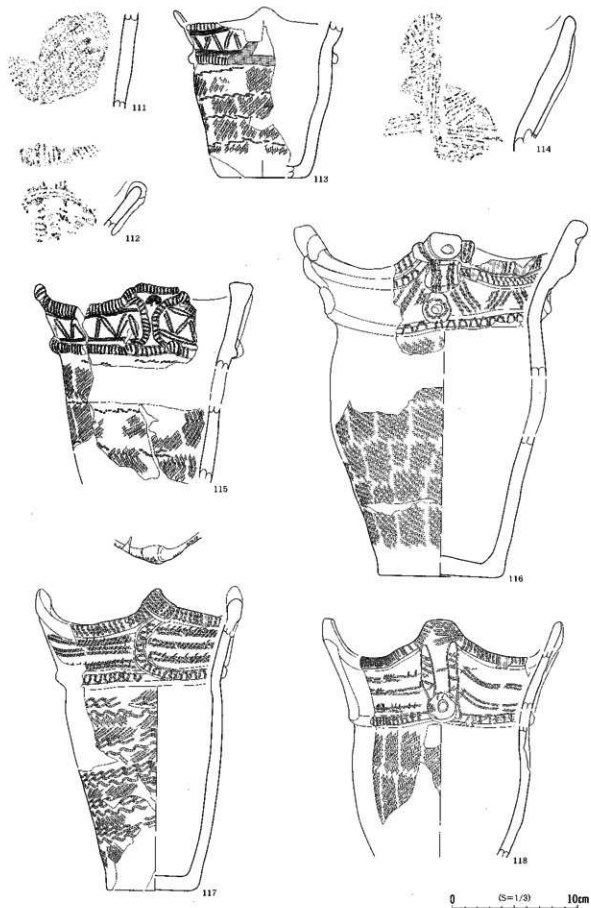


図64 第17号竪穴住居跡出土遺物(2)

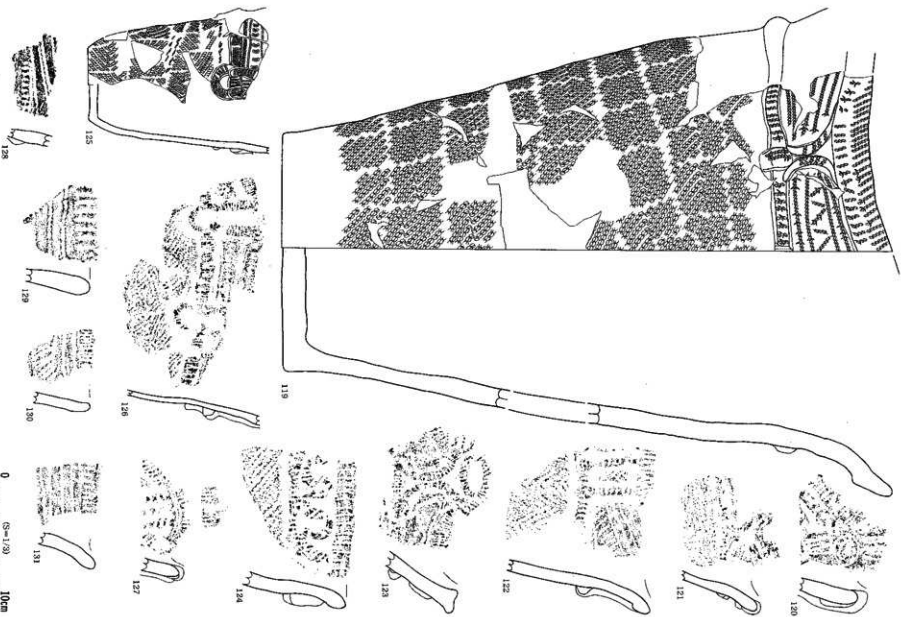


图65 第17号整穴住居跡出土遺物 (3)

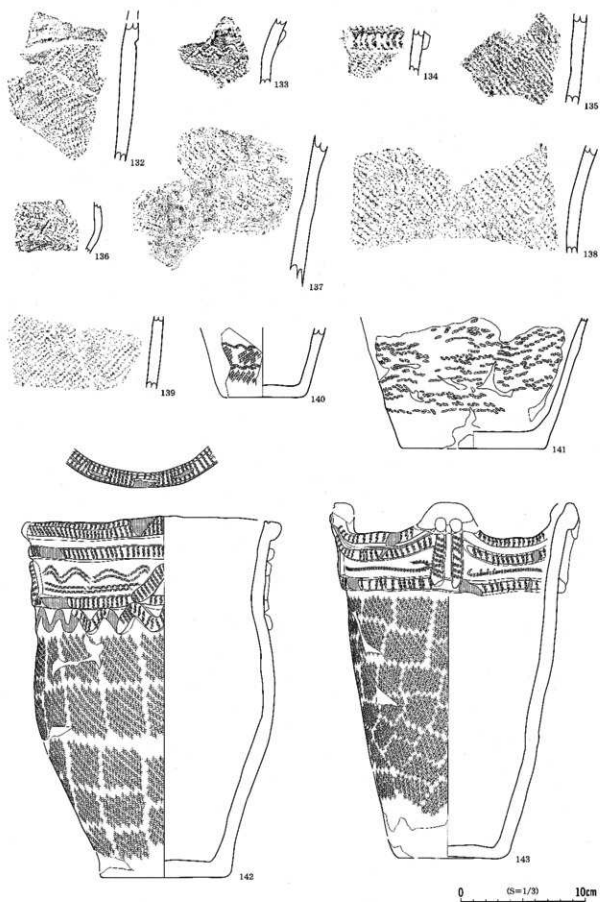


図66 第17号竪穴住居跡出土遺物(4)

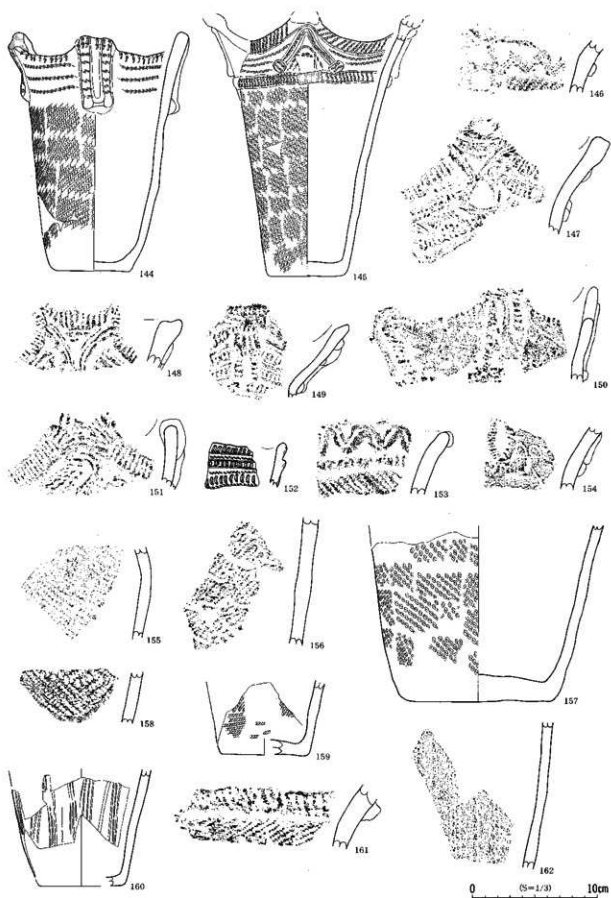


図67 第17号竪穴住居跡出土遺物(5)



図68 第17号竖穴住居跡出土遺物(6)

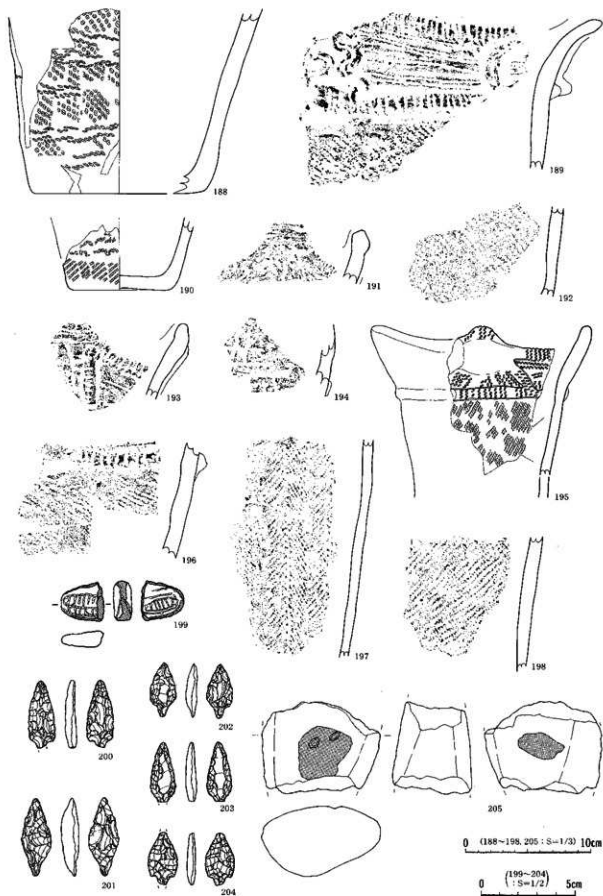


图69 第17号竖穴住居跡出土遺物(7)

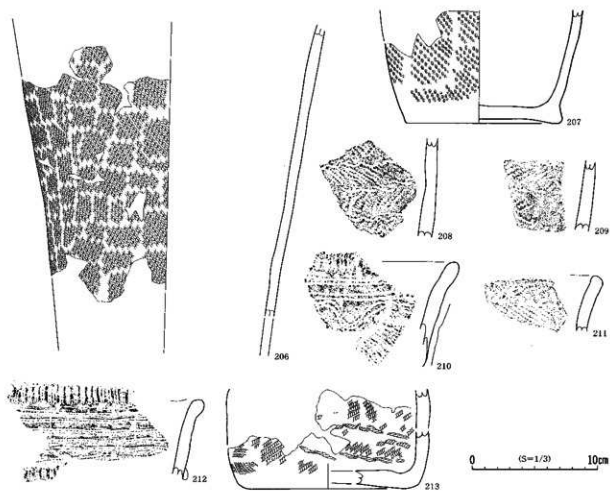


図70 第20号竪穴住居跡出土遺物

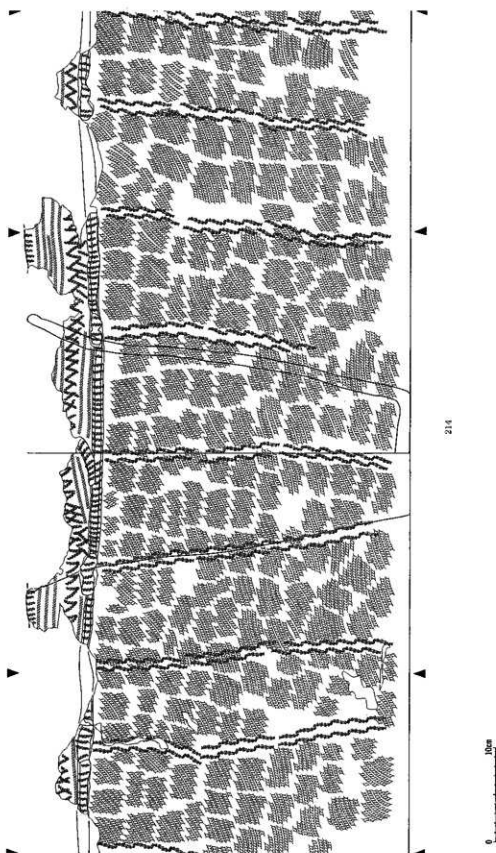


图71 第21号竖穴住居跡出土遺物(1)

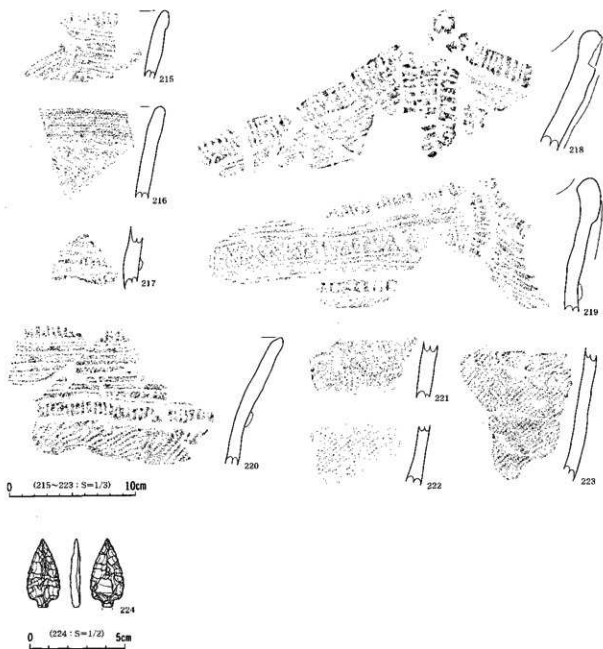


図72 第21号竪穴住居跡出土遺物(2)

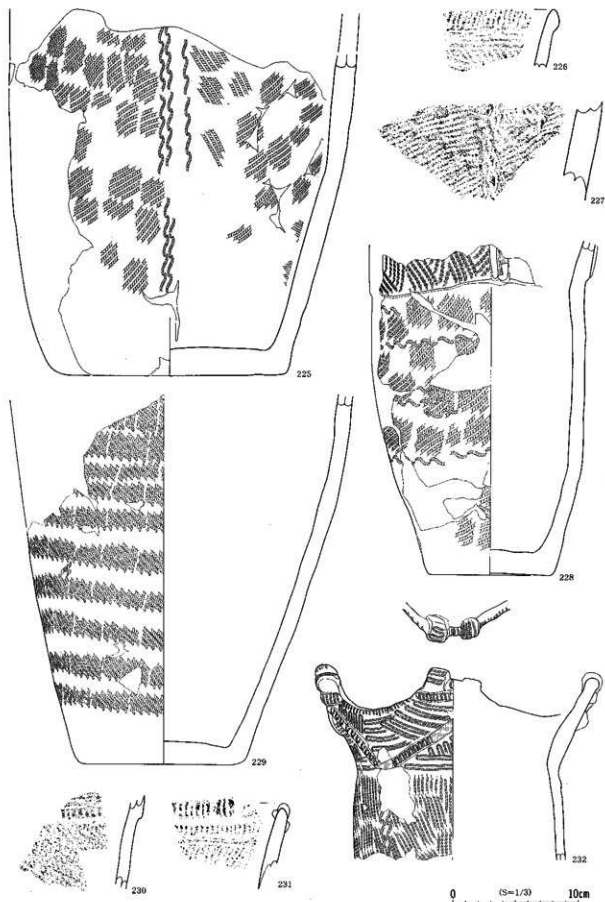


图73 第22号竖穴住居跡出土遺物(1)

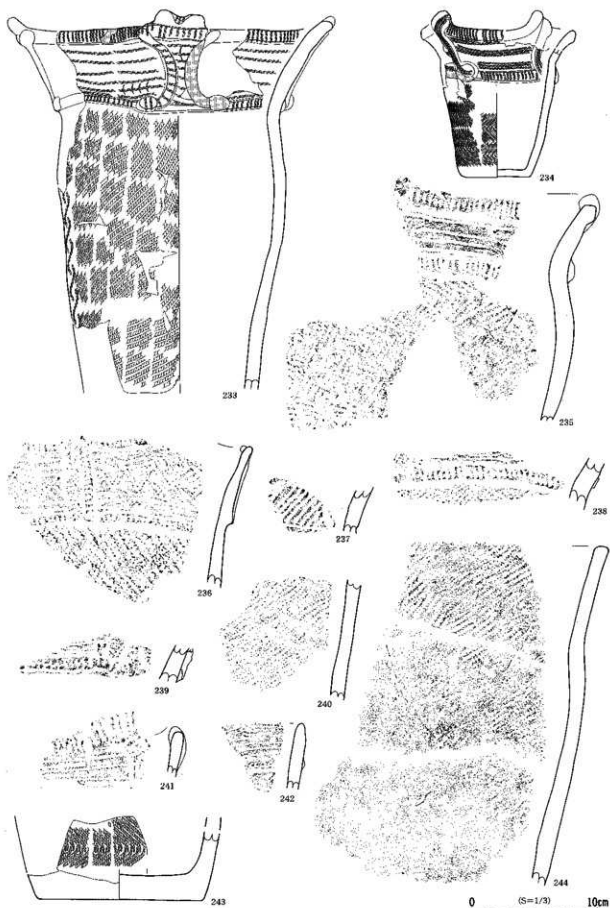


図74 第22号竪穴住居跡出土遺物(2)



图75 第22号竖穴住居跡出土遺物(3)

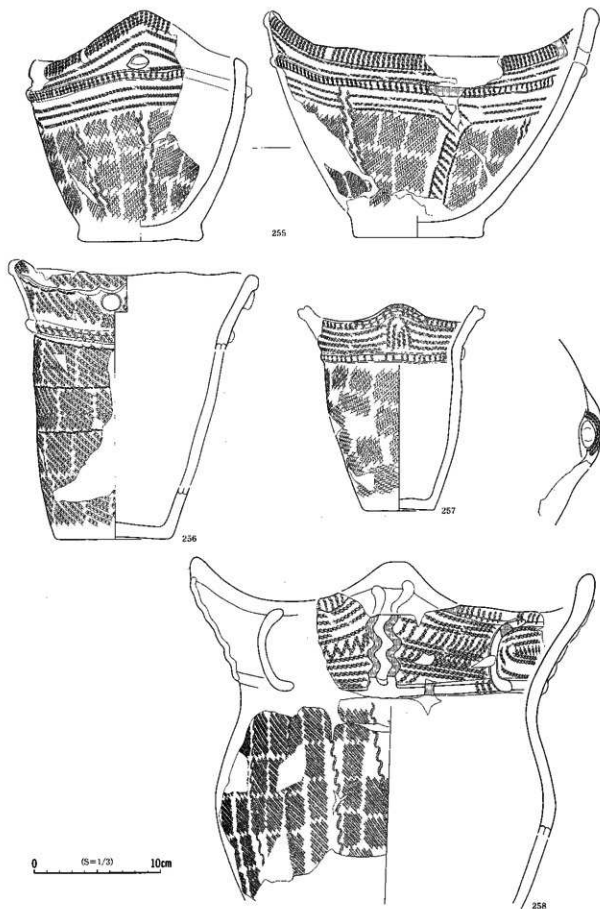
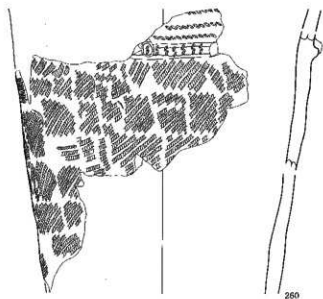
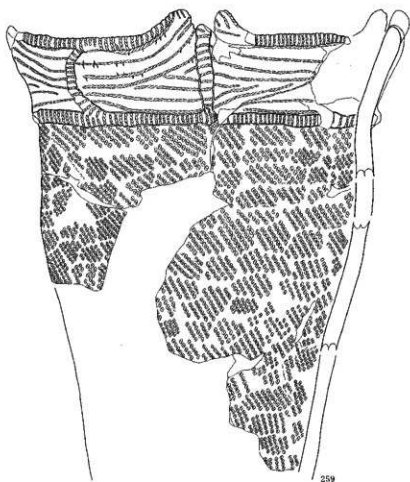


図76 第22号竪穴住居跡出土遺物(4)



0 (S=1/3) 10cm

図77 第22号竪穴住居跡出土遺物(5)

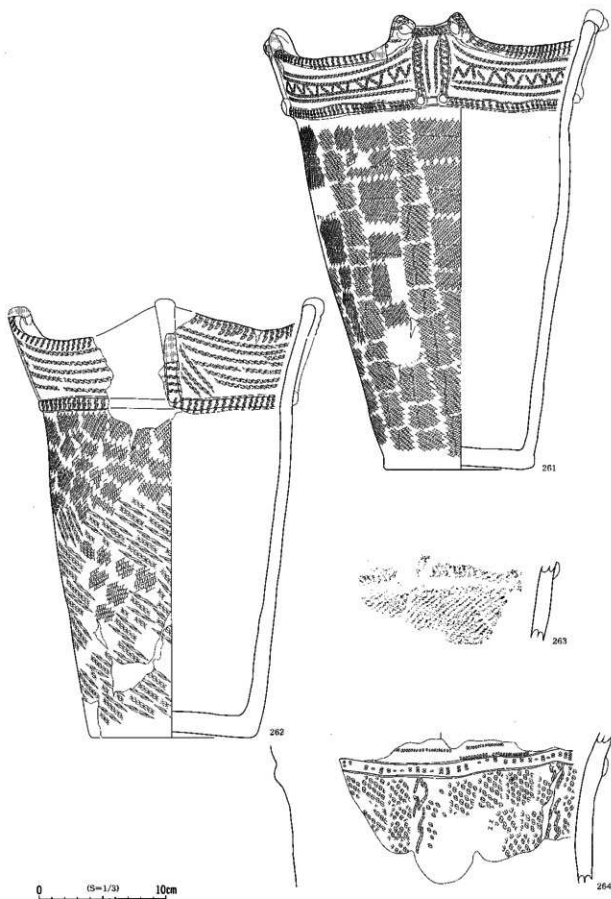


図78 第22号竪穴住居跡出土遺物（6）

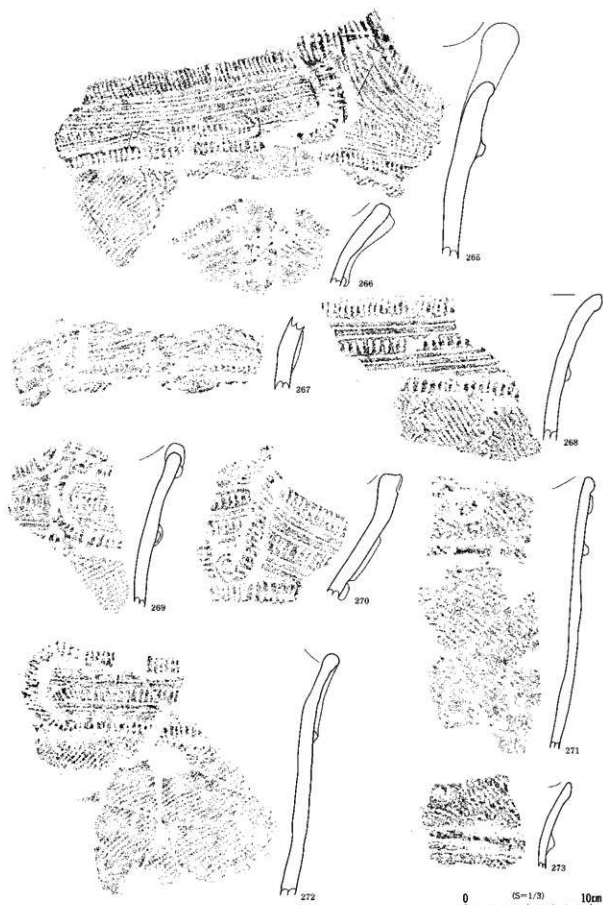


图79 第22号竪穴住居跡出土遺物(7)

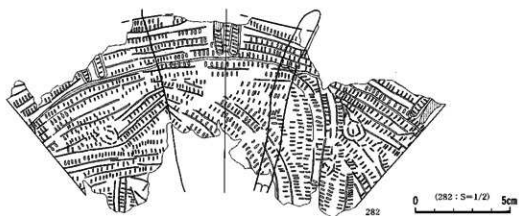
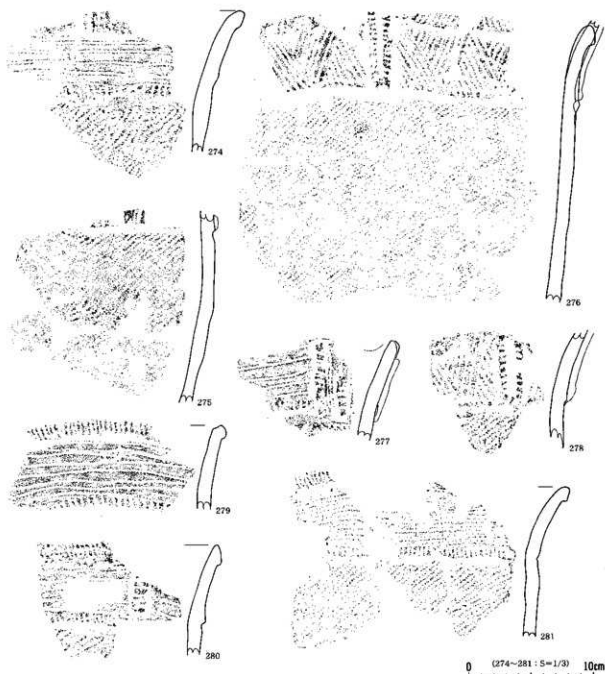


図80 第22号竪穴住居跡出土遺物(8)

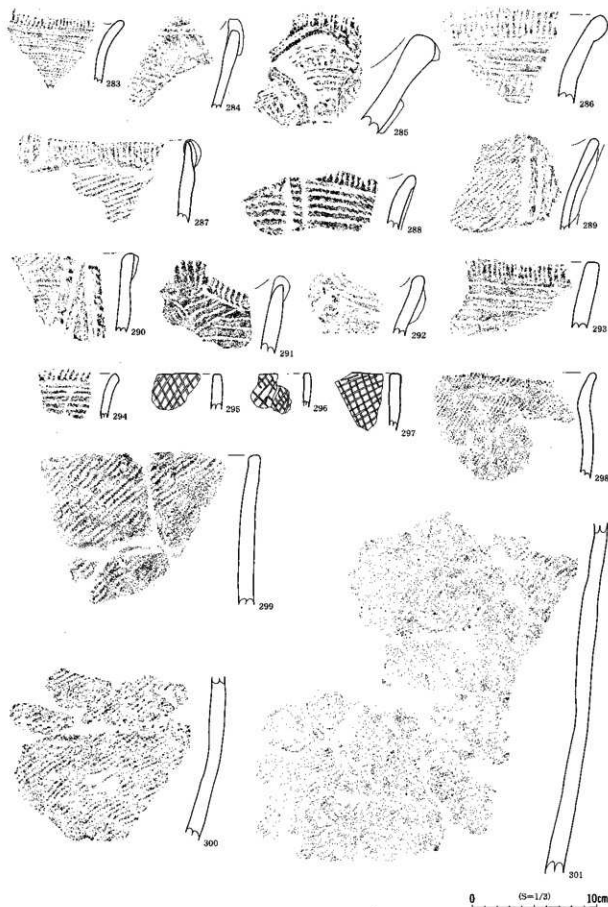


图81 第22号竖穴住居跡出土遺物(9)

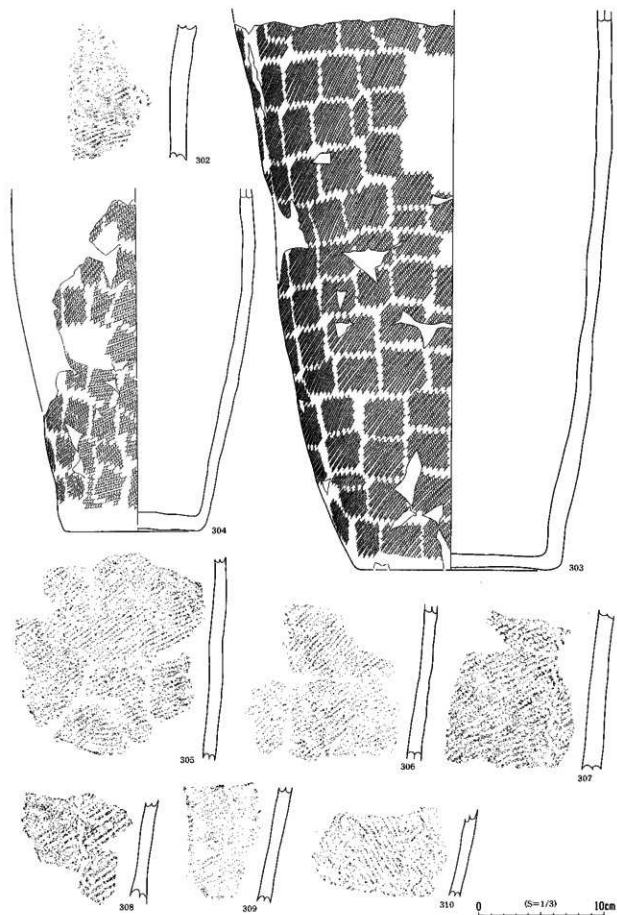


図82 第22号竪穴住居跡出土遺物 (10)

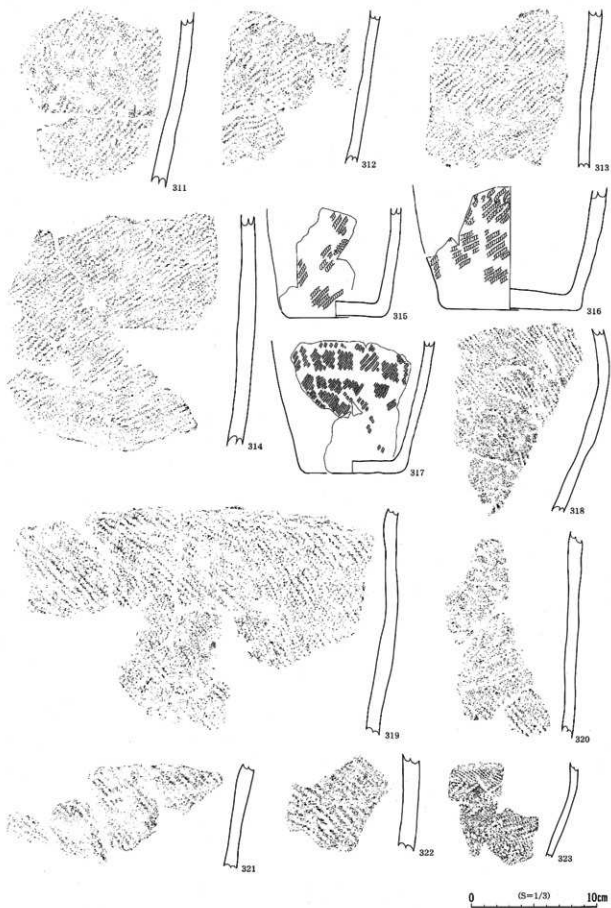


図83 第22号竪穴住居跡出土遺物(11)

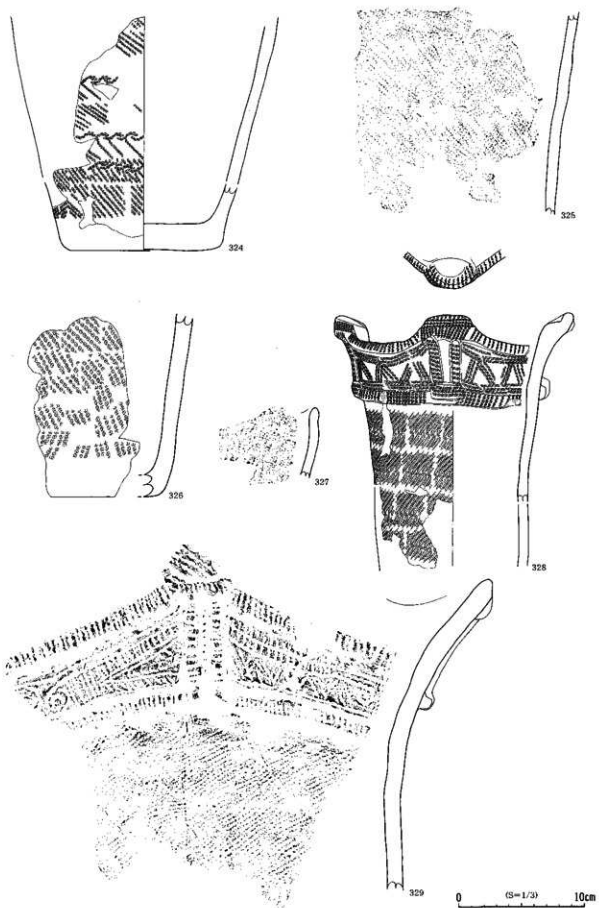


図84 第22号竪穴住居跡出土遺物(12)

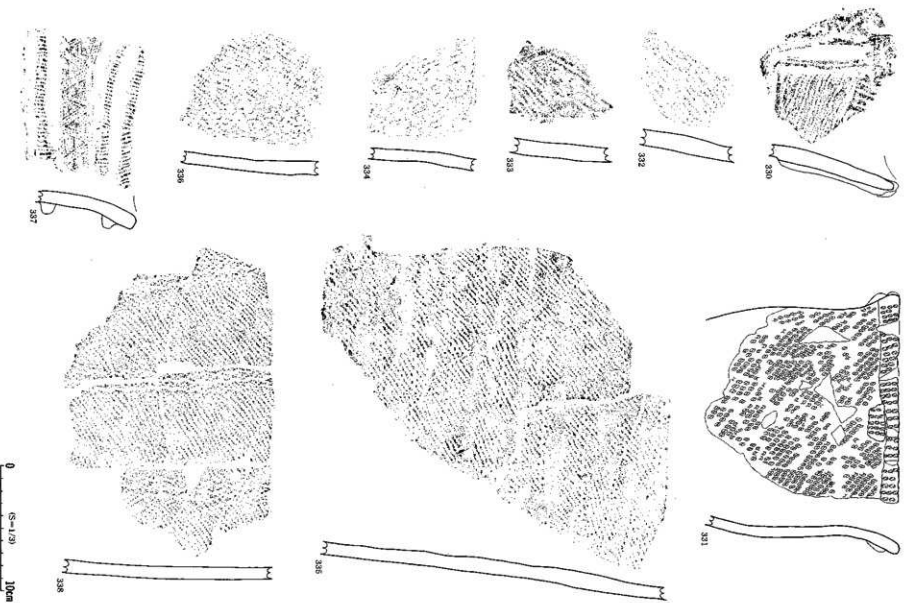


圖85 第22号竪穴住居跡出土遺物 (13)

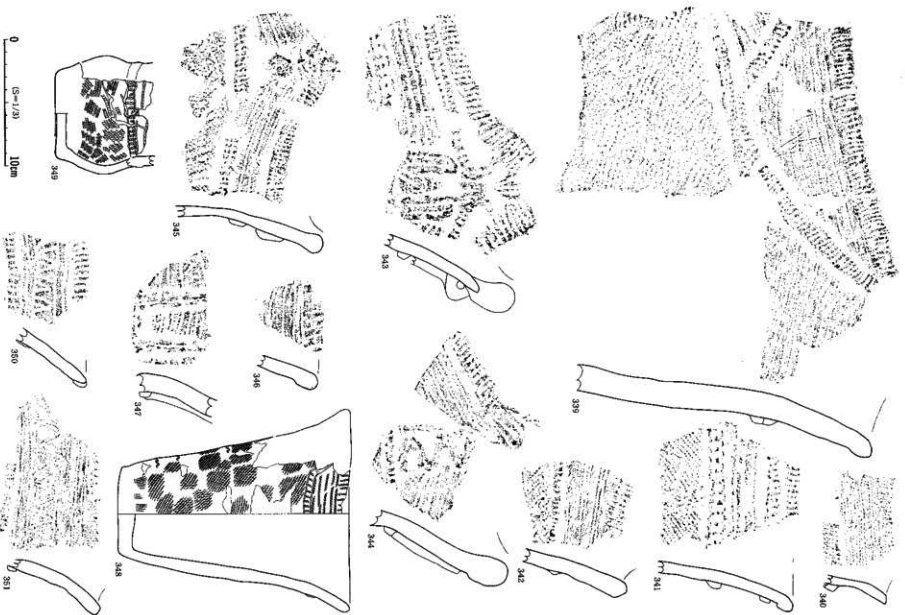


図36 第22号竪穴住居跡出土遺物 (14)

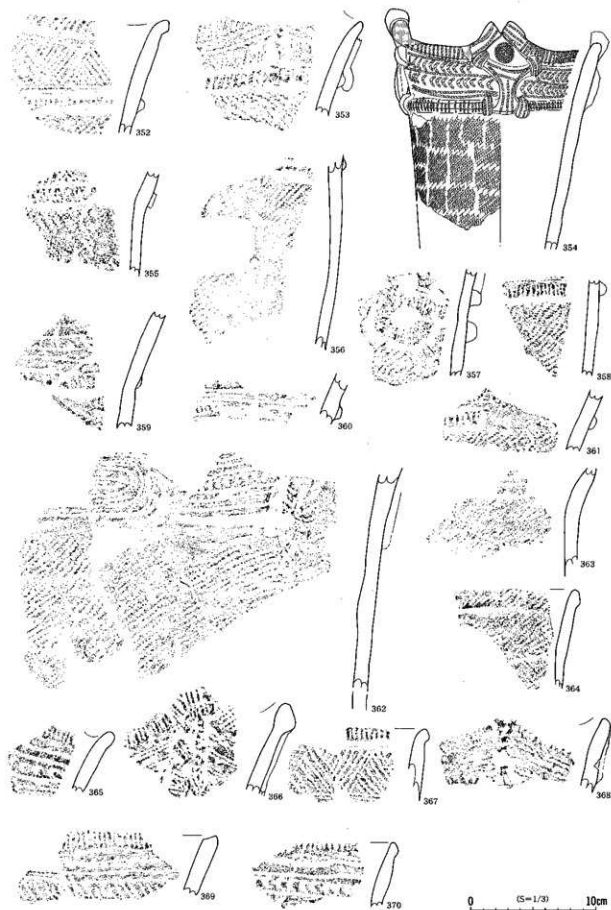


图87 第22号竖穴住居跡出土遺物 (15)

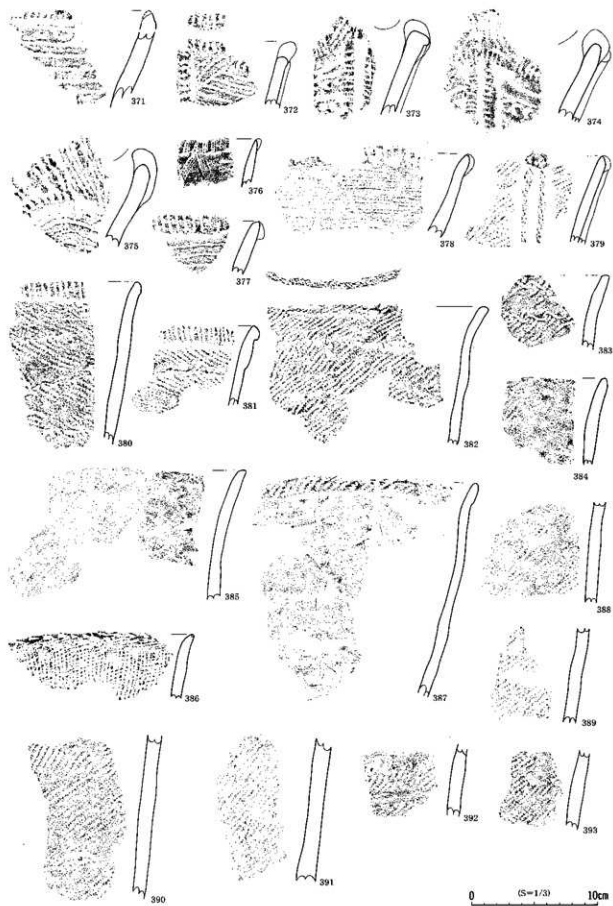


図88 第22号竪穴住居跡出土遺物 (16)

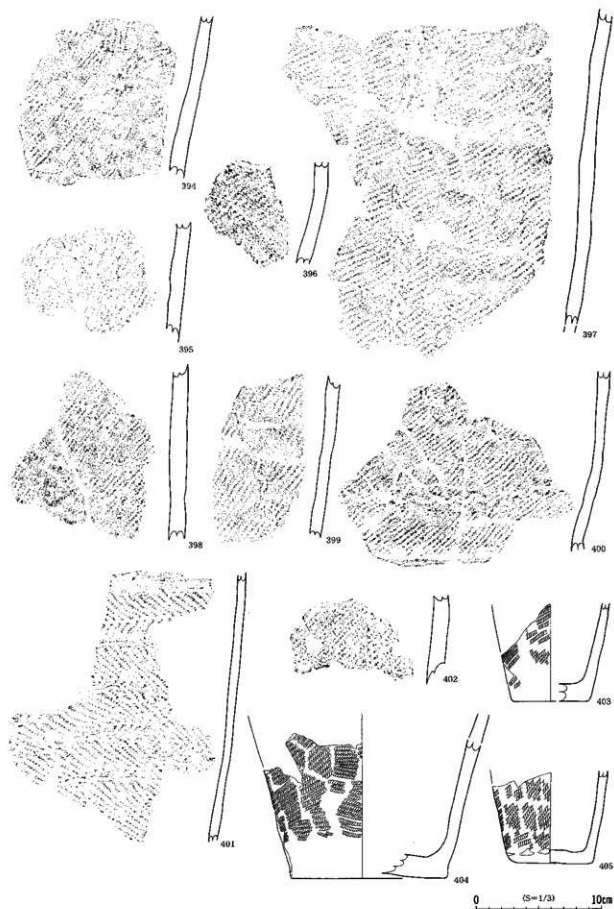


图89 第22号竖穴住居跡出土遺物 (17)

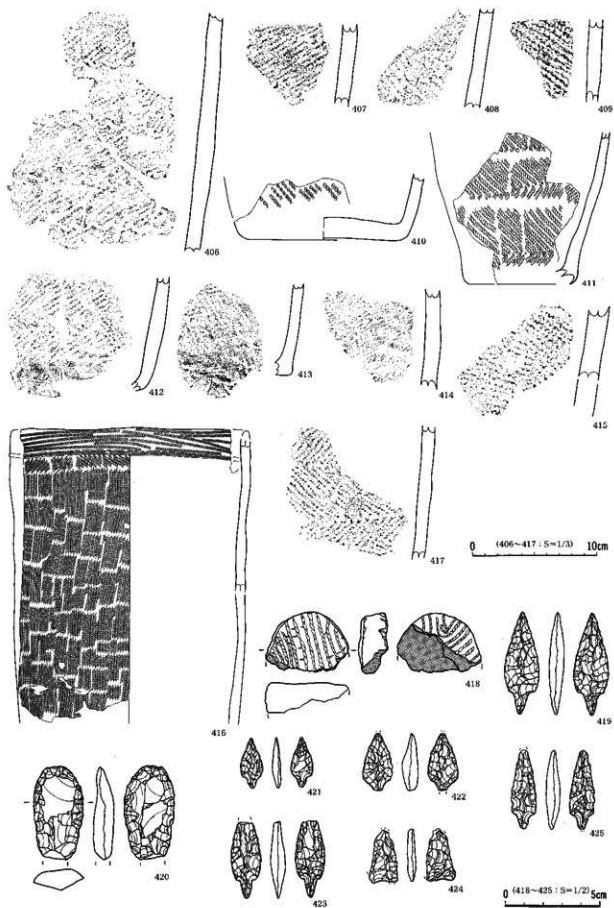


図90 第22号竪穴住居跡出土遺物 (18)

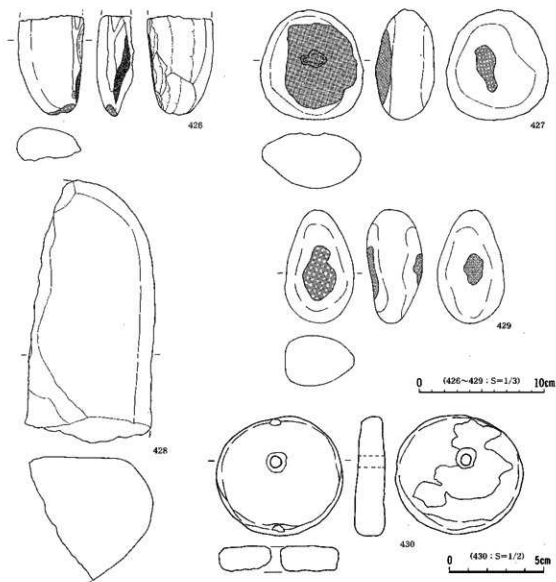


图91 第22号竖穴住居跡出土遺物(19)

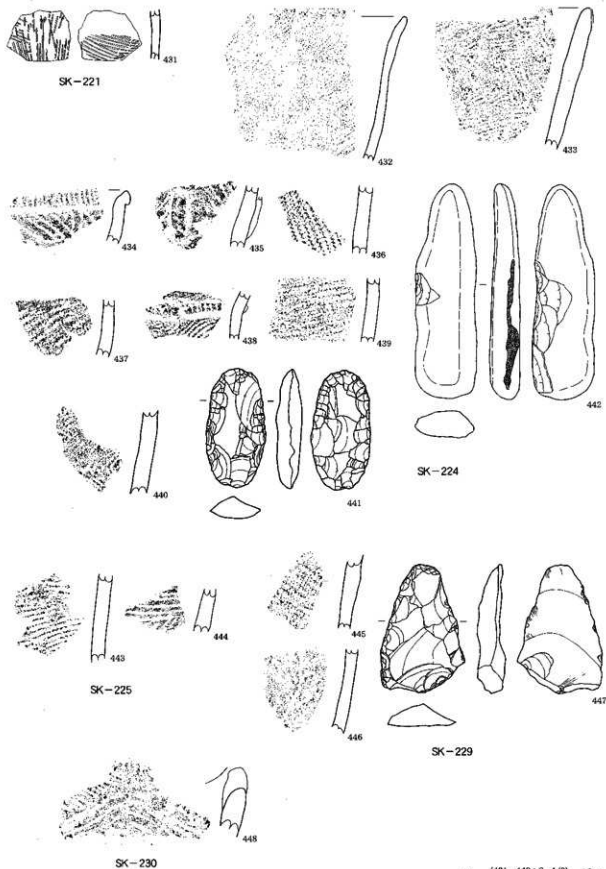


図92 第221・224・225・229・230号土坑出土遺物

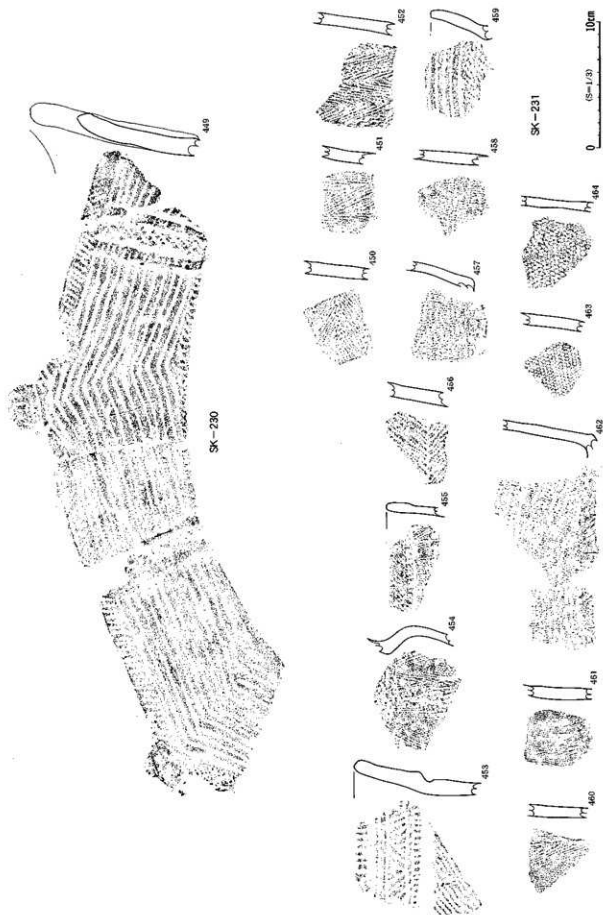


图93 第230·231号土坑出土遗物

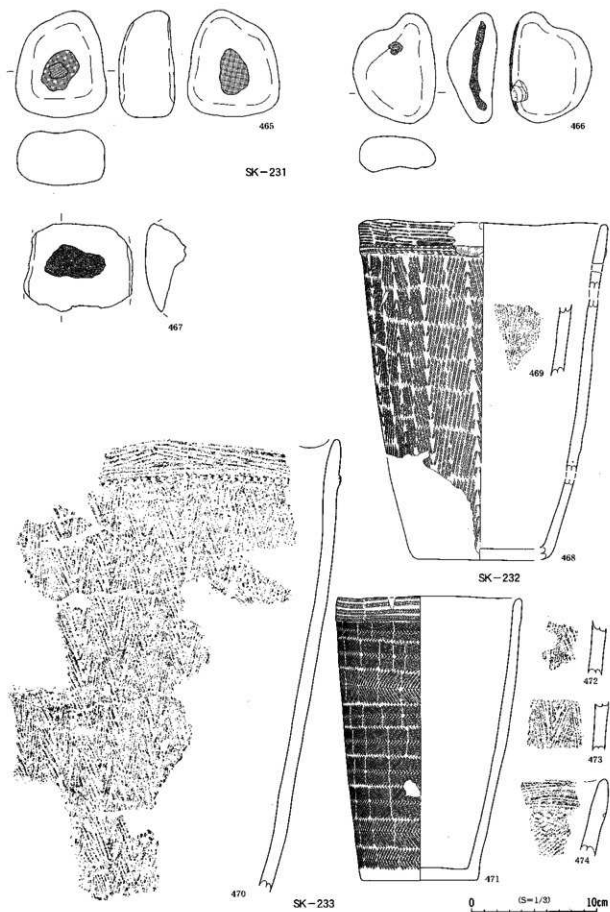


図94 第231・232・233号土坑出土遺物

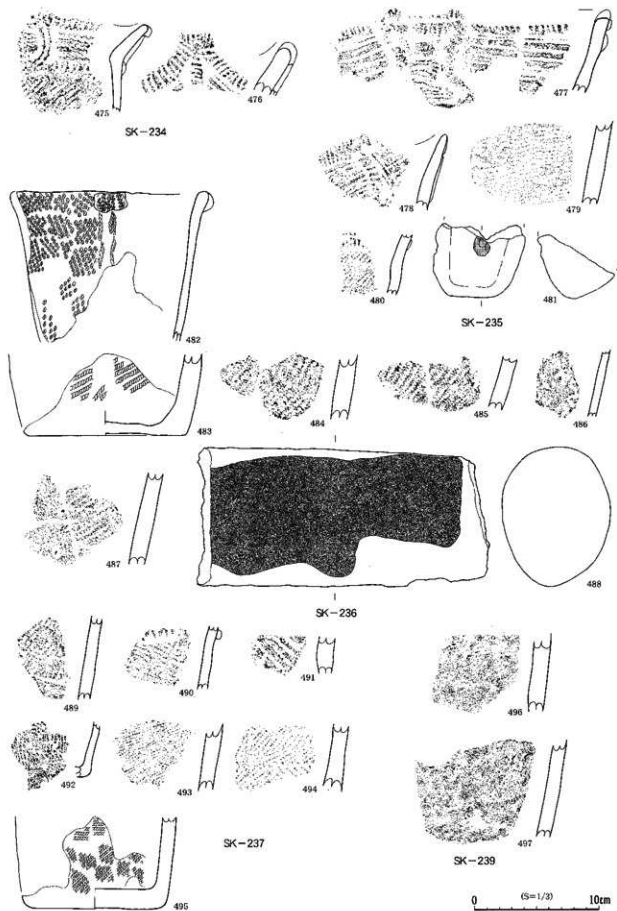


图95 第234・235・236・237・239号土坑出土遺物

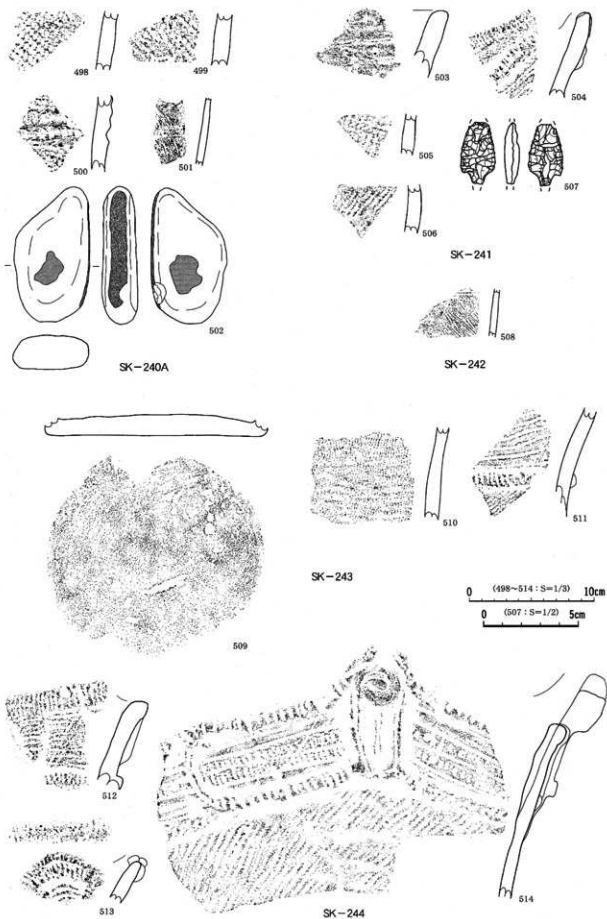
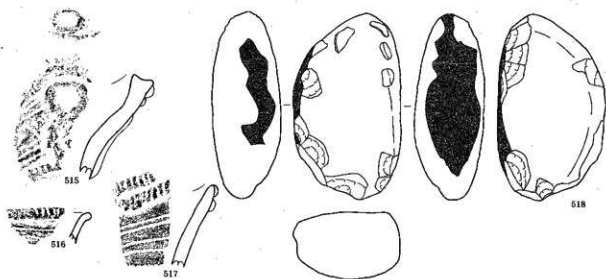


図96 第240A・241・242・243・244号土坑出土遺物



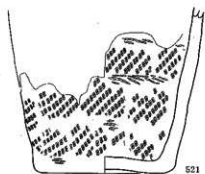
SK-244



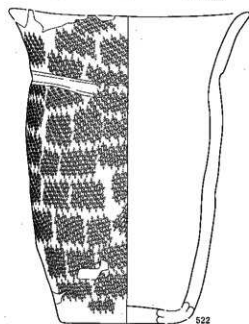
519



520



521



522

0 (S=1/3) 10cm

SK-245

图97 第244·245号土坑出土遗物

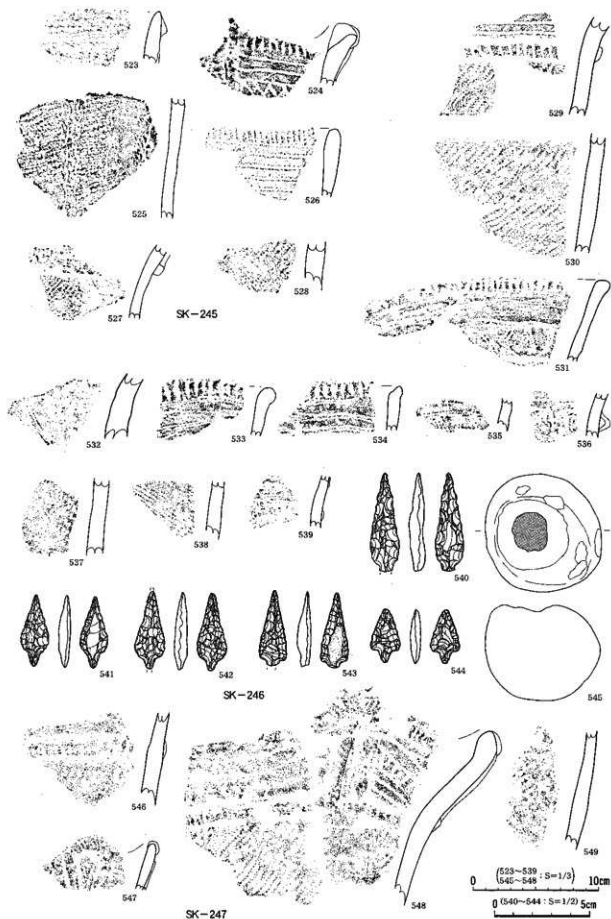


図98 第245・246・247号土坑出土遺物

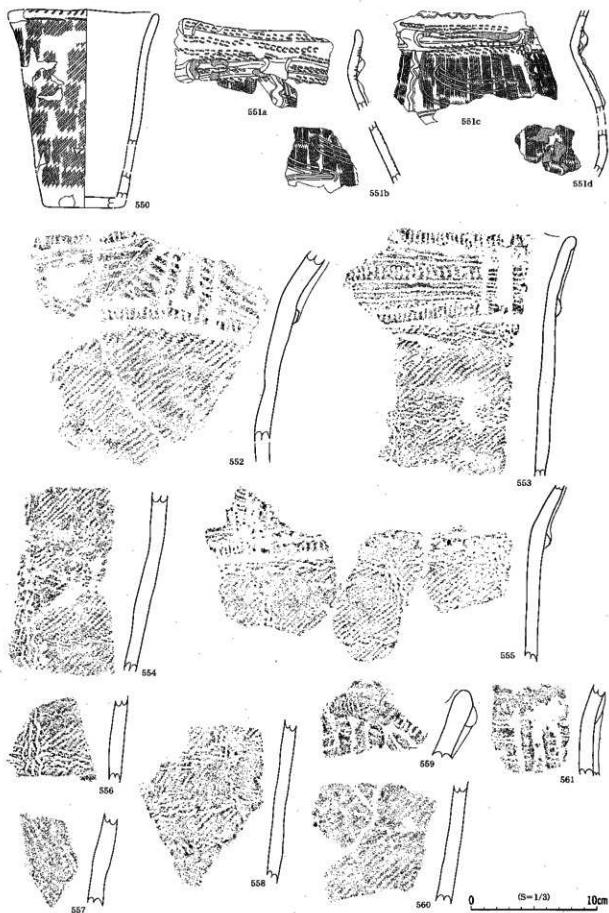


图99 第247号土坑出土文物(1)

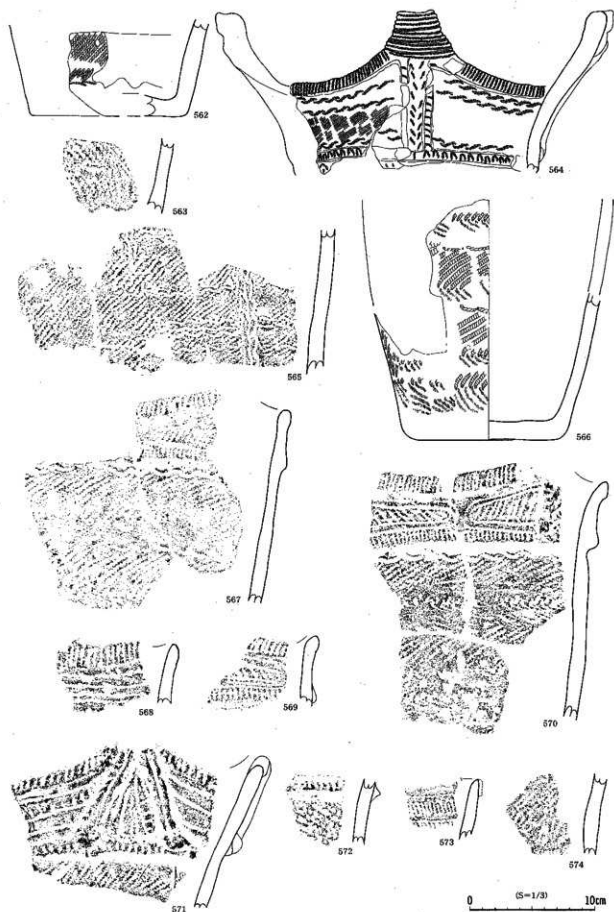


図100 第247号土坑出土遺物(2)

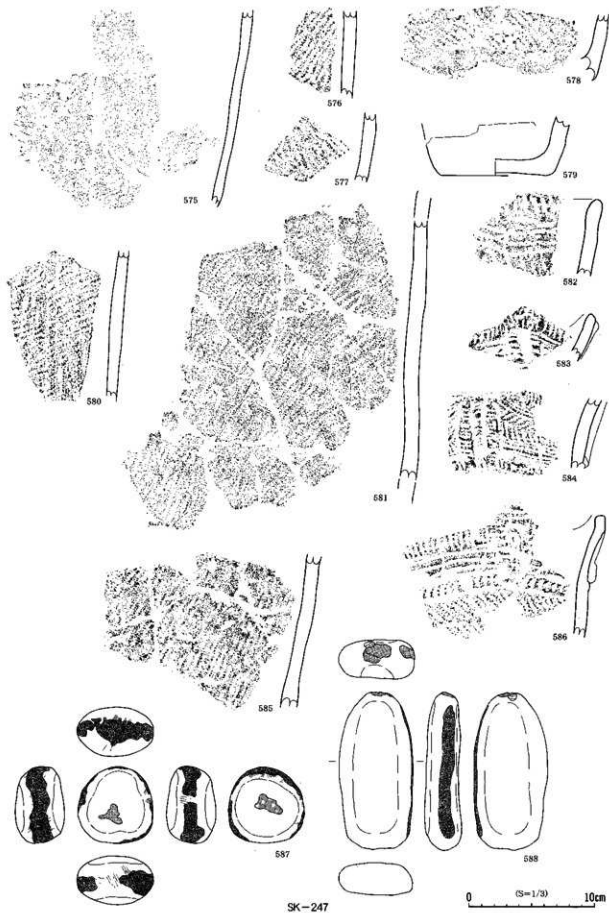
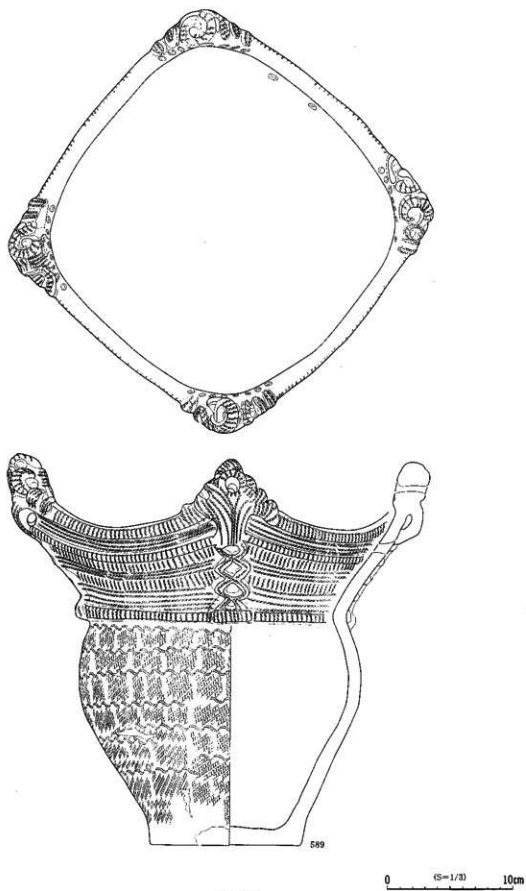
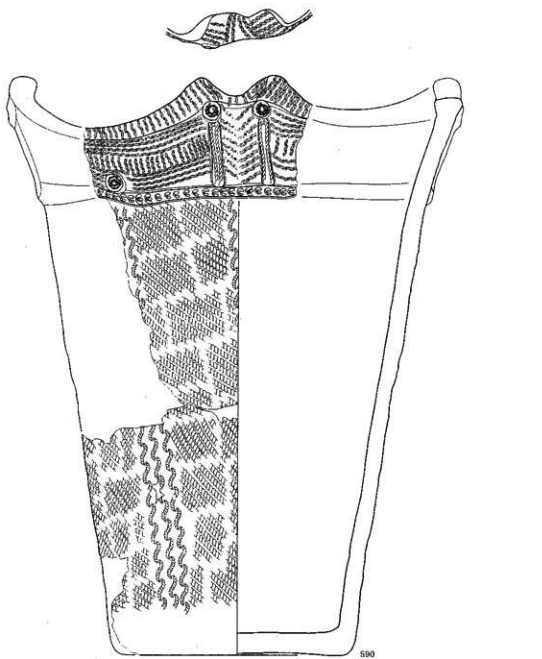


图101 第247号土坑出土遺物(3)



SK-247

図102 第247号土坑出土遺物（4）



SK-247

0 (S=1/3) 10cm

图103 第247号土坑出土遗物(5)

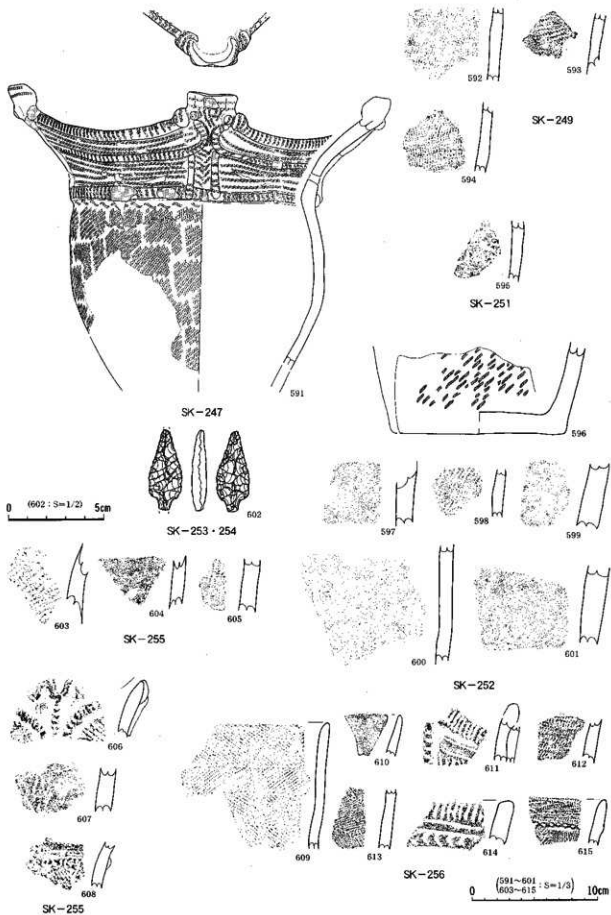


図104 第247・249・251・252・253・254・255・256号土坑出土遺物

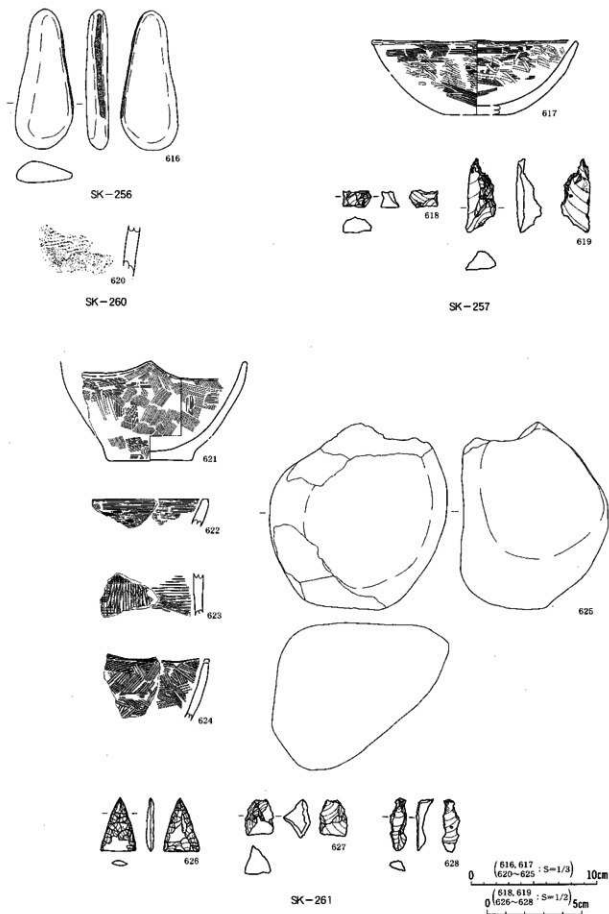


图105 第256・257・260・261号土坑出土遺物

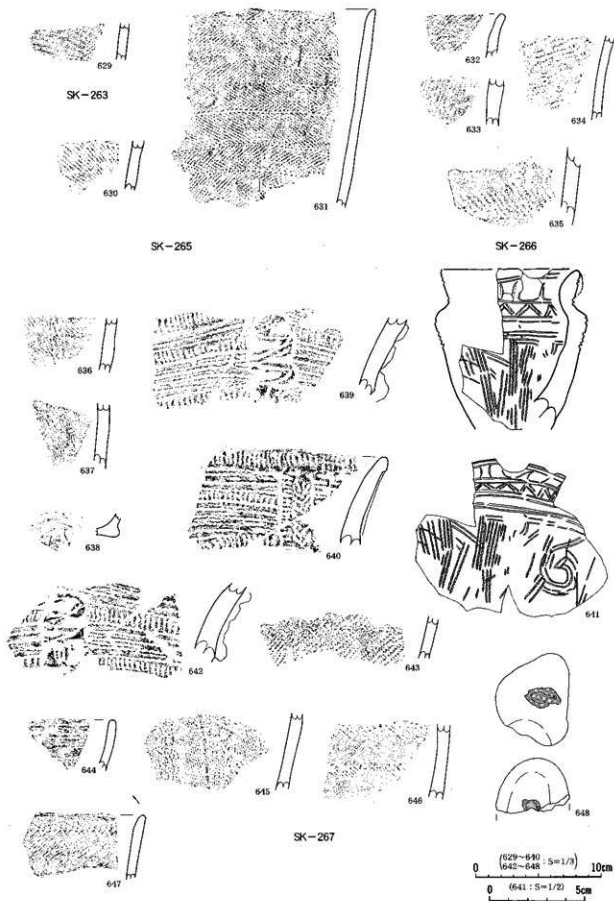


図106 第263・265・266・267号土坑出土遺物

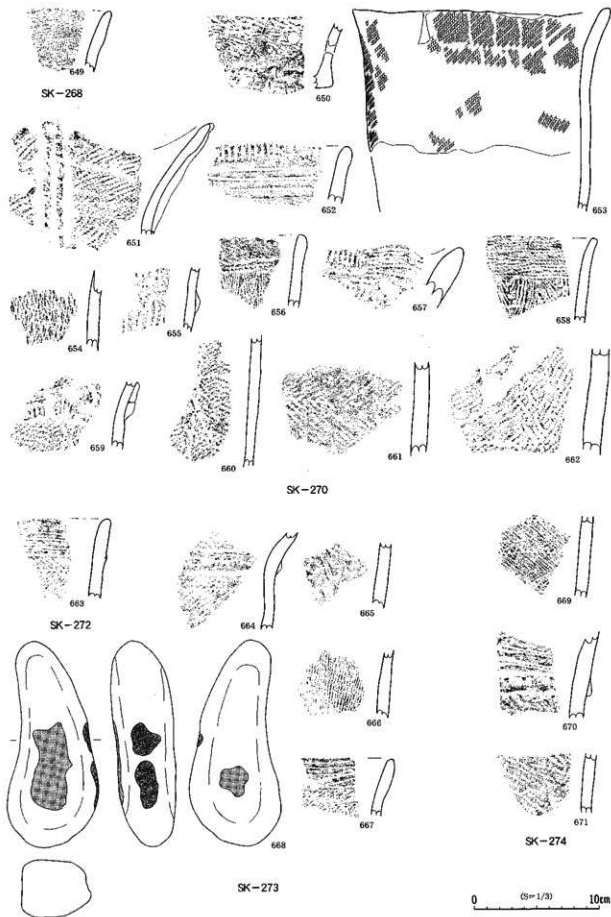
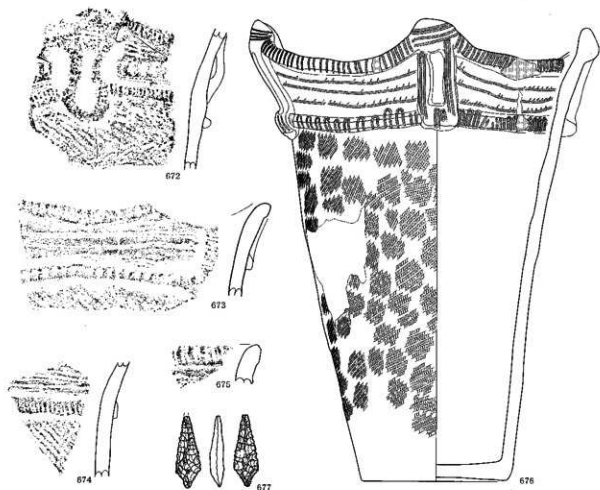
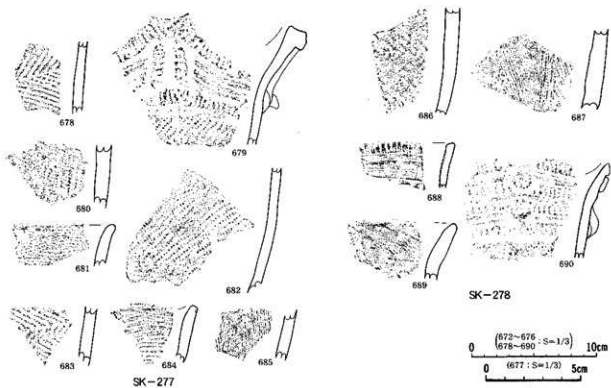


图107 第268·270·272~274号土坑出土遗物



SK-274



SK-277

SK-278

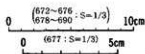


図108 第274・277・278号土坑出土遺物

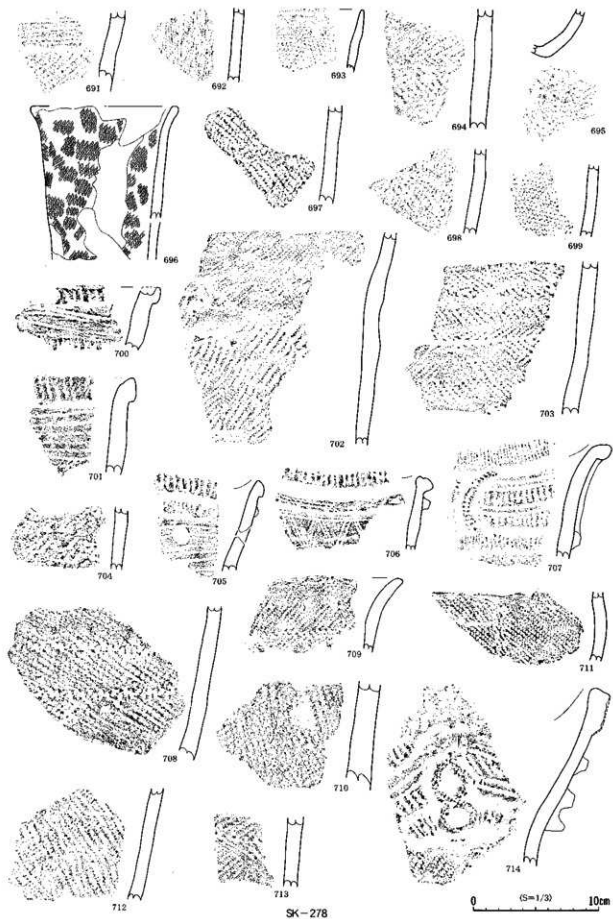


图109 第278号土坑出土遺物

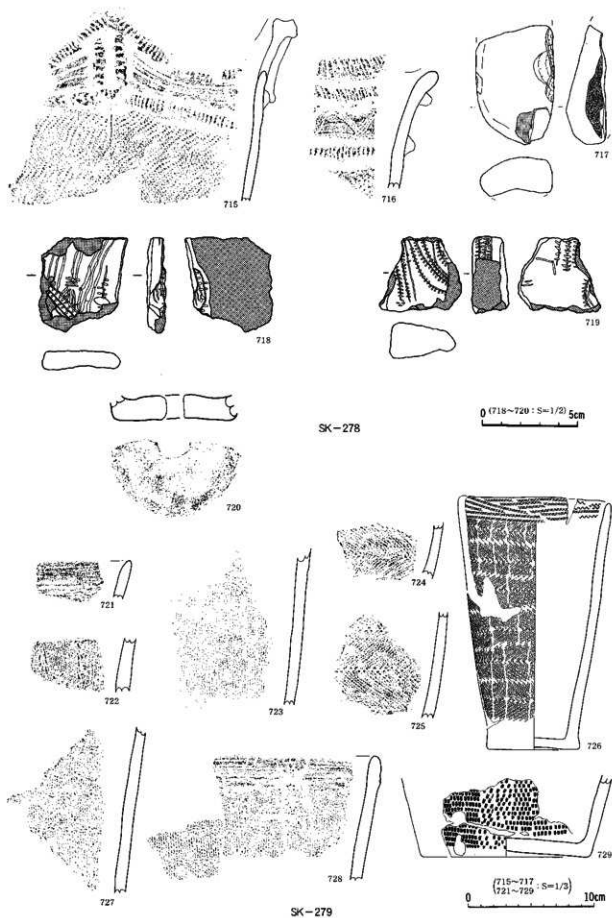


図110 第278・279号土坑出土遺物

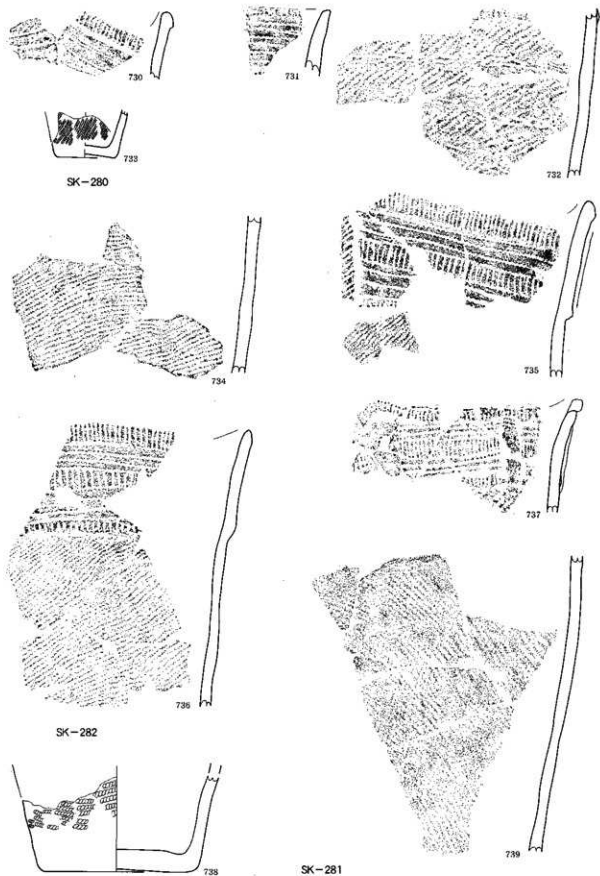


図111 第280・281号土坑出土遺物

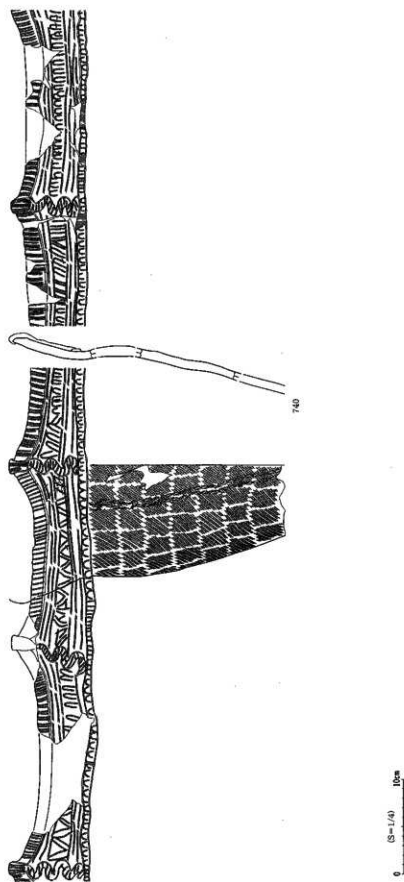


図112 第281号土坑出土遺物(1)



図113 第281号土坑出土遺物(2)

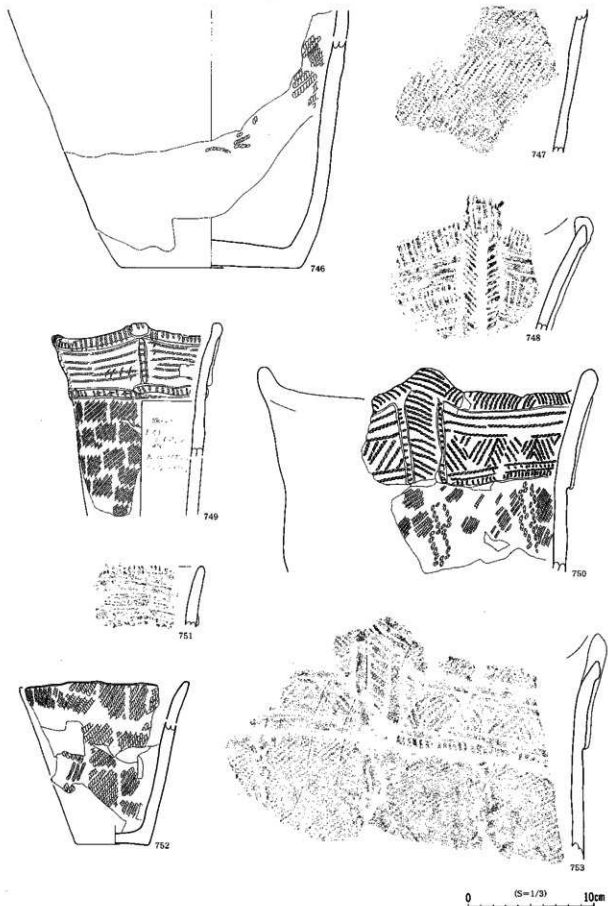


図114 第281号土坑出土遺物(3)

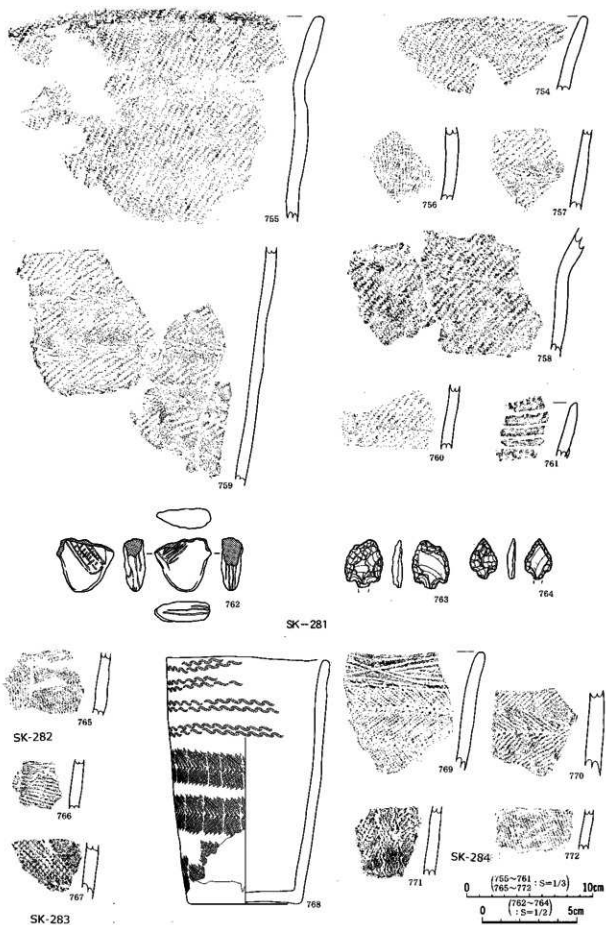
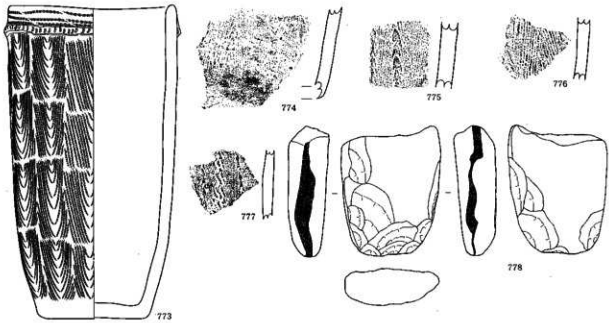
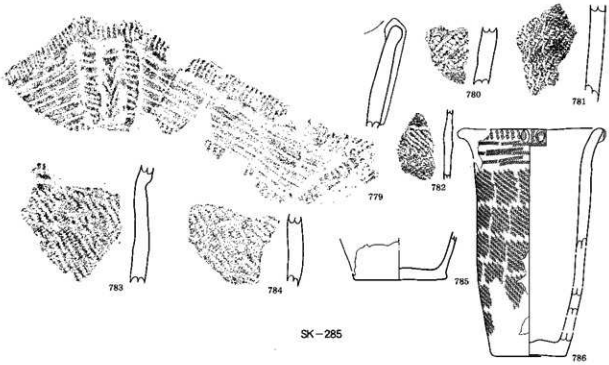


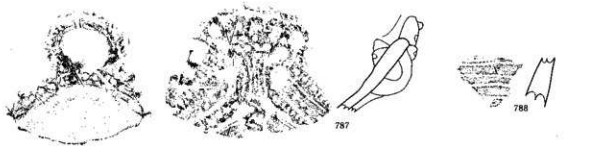
図115 第281・282・283号土坑出土遺物



SK-284



SK-285



SK-286

0 (S=1/3) 10cm

図116 第284・285・286号土坑出土遺物

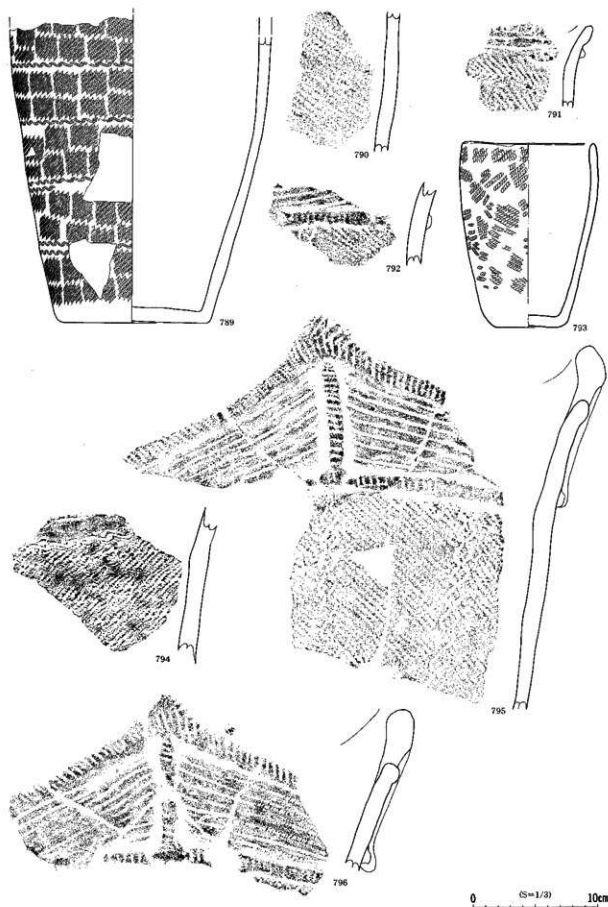


図117 第286号土坑出土遺物(1)

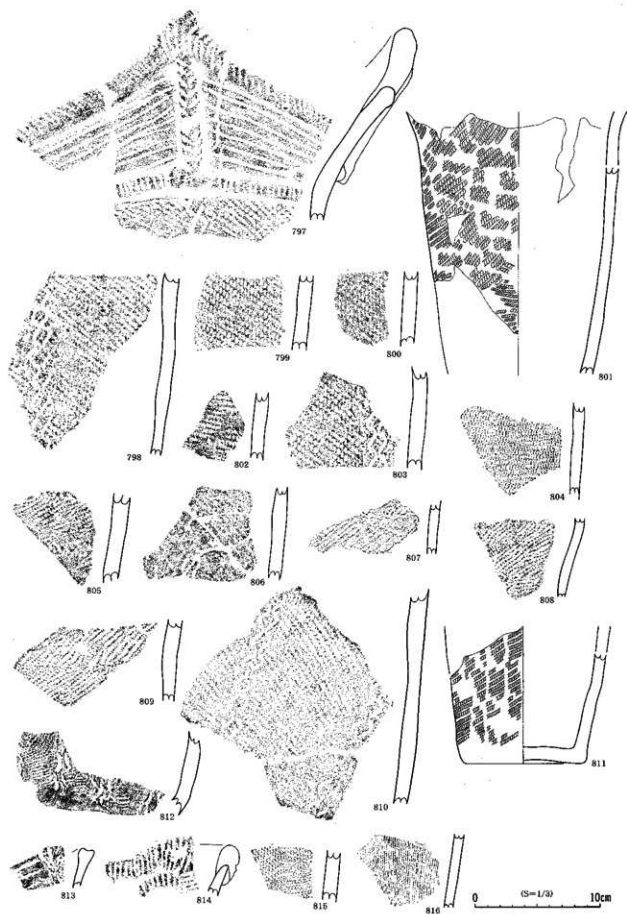


图118 第286号土坑出土遺物（2）

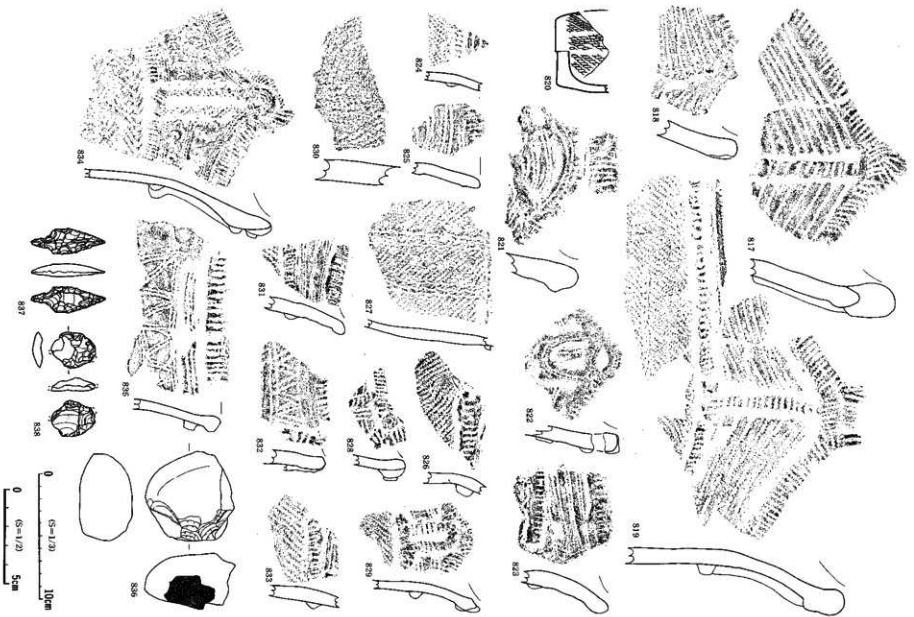


図 119 第286号土坑出土遺物 (3)

遺物属性表

縄文土器

- ・表記した属性は以下の通りである。
 - 採取番号、遺物番号、出土遺構、出土層位、品名、部位、残存率、突起分類、口唇部文様、口縁部文様、胴部文様、胴部区画断面形状、胴部文様、時期、器種、炭化物サンプル、胎体番号
 - ・「0」と記された項目は、不明または観測項目に該当する属性がないことを意味する。
 - ・文様の表記は次のように略記した。
- | 単純線条帯→平線 | 結節凹文→結節 | 凹所側面圧痕→凹所の種類+側面圧痕 |
|---|---------|-------------------|
| ・結節凹文の形は、見かけ上の文様効果を表すものである。凹所に現れた文様より高次の形であり得る場合がしばしばある。すなわち、厚帯がI、Rであっても見かけ上R帯を帯びたものと同様の効果が現れる場合があり、厳密に判別することは難しい。しかし、二段以上の溝の場合は最低階級数を、一段の溝の場合は最大階級数を表すものと考えられ、文様の数量的な信頼をとらえるためには意味があると見て えて表記した。 | | |
| ・時期の項目は、「前期」を「前」、「中期」を「中」、「末葉」を「末」、「初期」を「初」と略記した。 | | |

- 図51-1、PS116碎片、SI-16、0層、4200g、胴部・底縁、1/1、0、0、0、0、0、I、R帯位、中初、深鉢、0、29
- 図51-2、P31308-1-2-3-4-5-8-9-10-12-13、0層、0、448.9g、完形、1/1、0、隆帯上LR側面圧痕、LR側面圧痕による縦位斜線文、隆帯上LR側面圧痕、方形、LR帯位、中初、深鉢、0、89
- 図51-3、P31804、SI-16、0層、781.1g、完形、1/1、10、隆帯上LR側面圧痕、LR側面圧痕による山形平行線文、隆帯上LR側面圧痕、丸、LR帯位、中初、深鉢、0、33
- 図51-4、P31302-P31378-2、SI-16、C-2層、283.4g、口縁部・胴部、1/8、0、隆帯上LR側面圧痕、突起下から垂下する縦位の隆帯 R側面圧痕による平行線文間に並ぶ字状文、0、方形、LR帯位、中初、深鉢、0、137
- 図51-5、P31357-P31373-1、SI-16、C-2層、95.8g、口縁部、1/8、0、隆帯上LR側面圧痕、単純1線R圧痕による平行線文間に網目文、0、0、0、0、中初、深鉢、0、150
- 図51-6、P31197-P31199、SI-16、C-2層、151.3g、口縁部、0、0、LR側面圧痕、LR側面圧痕による幾何学文、隆帯上LR側面圧痕、0、羽状結束1線帯位、中初、深鉢、0
- 図51-7、P31212-P31218-1、SI-16、C-2層、115.9g、口縁部、0、0、隆帯上LR側面圧痕、C字状隆帯 R側面圧痕による平行線文間に縦位短線文、LR側面圧痕、段差、LR帯位、結節(LR帯位)、0、0、隆帯上LR側面圧痕、C字状隆帯 R側面圧痕による平行線文間に縦位短線文、隆帯上LR側面圧痕、丸、LR結束1線帯位、結節(R)帯位、中初、深鉢、有、30
- 図52-9、P30384-1-P30491-P31241-P31242-1、SI-16、C-2層、207.6g、口縁部、0、5線、隆帯上単純1線R圧痕、波頂部下から垂下する隆帯上単純1線R圧痕、単純1線R圧痕による山形平行線文間に網目文、0、不明、0、中初、深鉢、0、165
- 図52-9、P31767-P31810、SI-16、C-2層、125.4g、口縁部・胴部、0、3線、隆帯上LR側面圧痕、波頂部下に連続状隆帯 下部に短く凸出付 R側面圧痕による山形平行線文間に縦位短線文、隆帯上LR側面圧痕、方形、0、中初、深鉢、0、499
- 図53-11、P31773-P31791、SI-16、C-2層、146.4g、口縁部・胴部、0、0、0、R側面圧痕による平行線文、波状隆帯上LR側面圧痕、方形、LR帯位、中初、深鉢、0、167
- 図53-12、P31805-P32095、SI-16、C-2層、61.9g、口縁部・胴部、0、0、0、垂下する2条の隆帯上LR側面圧痕、LR側面圧痕、隆帯上LR側面圧痕、方形、RL帯位、中初、深鉢、0、144
- 図53-13、P31252-1-P31256、SI-16、C-2層、25.4g、口縁部・胴部、0、0、隆帯上LR側面圧痕、LR側面圧痕による平行線文間に矢羽状文、竹筒状工具による刺突、0、中初、深鉢、0、143
- 図53-14、P31382-P31384、SI-16、C-2層、63.9g、口縁部・胴部、0、0、隆帯上羽状結束1線帯位、羽状結束1線帯位、0、無し、羽状結束1線帯位、中初、深鉢、0、147
- 図53-15、P31233、SI-16、C-2層、58.4g、胴部・胴部、1/8、0、0、0、隆帯上LR側面圧痕、方形、胴部0段多線R帯位、中初、深鉢、0、94
- 図53-16、P31815-P31845、SI-16、C-2層、219.6g、口縁部・胴部、0、0、0、R-1(2本1線)側面圧痕による幾何学文、隆帯上棒状工具による刺突、間隙帯、LR結束1線帯位、結節(LR帯位)、前末、深鉢、0、141
- 図53-17、P31316-1-2-4-5-9-13-20-22、SI-16、C-2層、286.6g、口縁部、1/8、0、0、0、RLR帯位、0、無し、2線R帯位、中初、深鉢、0
- 図53-18、P31305-P31371-P31373-P31681-P31684-P31685-P31687、SI-16、C-2層、247.7g、胴部・胴部、2/3、0、0、0、隆帯上LR側面圧痕、無し、羽状結束1線帯位、中初、0、452
- 図53-19、P31745-P31746-2、SI-16、C-2層、143.4g、口縁部・胴部、0、0、0、LR側面圧痕による平行線文、隆帯上LR側面圧痕、方形、RLR帯位、結節帯位、中初、深鉢、0、153
- 図53-20、P31293-P31311-2-P31313、SI-16、0層、19.1g、胴部、0、0、0、0、0、無し、LR帯位、結節(R)帯位、中初、深鉢、0、182
- 図53-21、P31274-P31276-P31280、SI-16、0層、47g、口縁部・胴部、0、0、0、R側面圧痕による平行線文、隆帯(刺突)、不明、LR帯位、結節(R)帯位、前末→中初、0、0、163
- 図53-22、P31158-P31201、SI-16、C-2層、64.2g、胴部、0、0、0、0、0、0、LR帯位、結節(R)帯位、中初、深鉢、0、189
- 図53-23、P32017-P32018、SI-16、C-2層、13.6g、胴部、0、0、0、0、0、0、RL帯位、中初、0、0、98
- 図53-24、P31260-P31268、SI-16、C-2層、60g、胴部、0、0、0、0、0、0、LR帯位、中初、0、0、549
- 図53-25、P31316-6-15-18、SI-16、C-2層、40.4g、胴部、1/8、0、0、0、0、0、RLR帯位、中初、0、0、95
- 図53-26、P31185-P31187、SI-16、C-2層、121.3g、胴部、1/8、0、0、0、0、0、0、LR帯位、前末→中初、0、0、0
- 図53-27、P31232、SI-16、C-2層、574.1g、胴部・底縁、1/1、0、0、0、0、0、0段多線R帯位、中初、深鉢、0、483
- 図54-28、P31334-P31339-1、SI-16、C-1層、84.9g、胴部、0、0、0、0、0、0、RL帯位、中初、深鉢、0、185
- 図54-29、P32151-P32155、SI-16、B-1層、48.7g、口縁部・胴部、0、0、0、縦位の隆帯(刺突) R側面圧痕による山形平行線文間に縦位短線文、隆帯上LR側面圧痕、丸、LR帯位、中初、深鉢、0、145
- 図54-30、P31932-P31936-3-P31939-P31954-P32016、SI-16、B-1-2-C-1層、419.2g、口縁部・胴部、1/8、5線、隆帯上LR側面圧痕、LR側面圧痕による字状文、波頂部から垂下する2条の隆帯下部にボタン状付付、隆帯上LR側面圧痕、丸、0段多線LR帯位、中初、深鉢、0
- 図54-31、P32149-P32154、SI-16、0層、146.4g、口縁部・胴部、0、0、隆帯上LR側面圧痕、波頂部から垂下する隆帯上LR側面圧痕、LR側面圧痕による平行線文、隆帯上LR側面圧痕、丸、LRR帯位、結節(LR帯位)、中初、深鉢、0
- 図54-32、P32218-P32235-P32242、SI-16、B-2層、68.1g、口縁部・胴部、0、0、隆帯上LR側面圧痕、R側面圧痕による平行線文、隆帯上LR側面圧痕、方形、0、中初、深鉢、0
- 図54-33、P31688-P31940、SI-16、B-1-C-2層、45.3g、口唇部・口縁部、0、0、1.側面圧痕、R側面圧痕による平行線文、R側面圧痕による波状文、0、0、0、中初、深鉢、0、142
- 図54-34、P32188-32193-32198、SI-16、B-1-B-2層、113.4g、口唇部・胴部、0、0、単純1線R圧痕、波頂部から垂下する5字状隆帯、単純1線R圧痕に

- よる山形平行線文間に縦位短線文。隆帯上縁結1線R位直。方形。RLR横位。中初。深鉢。0.138
- 図54-35, P31316-3-8-17-19-P31639-P32138, S1-16, B-1-C-2層。101.7g。口唇部・口縁部。1/8。8線。0, RLR横位。0, 無し, RLR横位。中初。深鉢。0.95
- 図54-36, P31160-P32147-4-P32153, S1-16, B-1-C-2層。89.5g。胴部。1/8。0, 0, 0, 0, 0, RLR横位。中初。深鉢。0.95
- 図54-37, P32038-P32041-P32133, S1-16, B-1-C-2層。127.3g。胴部。方形。2線。0, 0, 0, 0, 0, RLR横位。結部R横位。中初。深鉢。0.211
- 図54-38, P31425-1-P31551-P31602-P31604, S1-16, 0層。935.3g。口唇部・胴部。1/1。0, 平縁1線R位直。口縁部平縁1線R位直による平行線文。隆帯上縁結1線R位直。方形。縦位短線文。結部R横位。中初。深鉢。0.31
- 図54-39, P31823-P31824-P32189-P32262-1, S1-16, B-2-C-1層。361.9g。胴部。1/4。0, 0, 0, 0, 0, RLR横位。中初。深鉢。0.214
- 図55-40, P31420-P31422-P31423-8-9-25-P31424-1-2-4-5-6-7-8-9-10-12-14-15-18-20-21-24, S1-16, B-2層。1681.6g。口唇部・胴部。1/4。0, 隆帯上LR側面直。波瀾部から垂下する2条の隆帯間S字状隆帯。R側面直による折り返し平行線文。隆帯(折部)。方形。LR横位。中初。深鉢。0.97
- 図55-41, P31388-3-10-31-P31679, S1-16, B-2-C-2層。866.5g。口唇部・胴部。1/4。5線。隆帯上LR側面直。波瀾部下下八字状隆帯。ボタン状粘付RLR横位。隆帯上LR横位。丸。RLR横位。中初。深鉢。0
- 図56-42, P32139-1-4-8-10-11-P32140, S1-16, B-2層。1465.3g。口唇部・胴部。1/1。6線。隆帯上LR側面直。波瀾部下下する2条の隆帯。下端にボタン状粘付。C字状隆帯。LR側面直による平行線文間に縦位短線文。隆帯上LR側面直。方形。RLR結末1線横位。結部(R)横位。中初。深鉢。0
- 図56-43, P32084-1-P32122, S1-16, B-2層。240.5g。胴部。1/8。0, 0, RLR横位。結部LR横位。0, 0, 0, 0, 0, 中初。深鉢。0
- 図56-44, P32185-P32191, S1-16, B-2層。93.2g。胴部・胴部。0, 0, 0, RLR横位。0, 0, 0, 中初。0
- 図56-45, P31835-P31865-2-7-82-86-87-89, S1-16, 0層。1064.3g。口唇部・底底。1/1。0, 隆帯上LR側面直。R側面直による平行線文間にU字状文。0, 0, R横位。結部R横位。中初。0, 0, 100
- 図56-47, P31415-P31581, S1-16, A-2-C-2層。22.7g。口唇部・口縁部。0, 0, 隆帯上LR側面直。0, 隆帯上LR側面直。0, 0, 中初。深鉢。0
- 図56-48, P31416-P32105, S1-16, A-2-C-1層。79.9g。口唇部・胴部。0。5線。隆帯上LR側面直。垂下する隆帯上平縁竹管判。平縁竹管判。0, 0, 0, 中初。0, 0, 156
- 図56-49, P31853-P32223, S1-16, A-2-B-1層。69.6g。胴部。0, 0, 0, 0, 0, 0, RLR横位。結部R横位。中初。深鉢。0.176
- 図56-50, P30197-P30198-P30668, S1-16, 1層。247.5g。口唇部・口縁部。0, 5線。隆帯上LR(二本一組)側面直。波瀾部から垂下する隆帯上LR側面直。山縁に平行した隆帯上LR側面直による逆U字状文。LR側面直による平行線文。0, 0, 0, 中初。深鉢。0.159
- 図56-51, P3073-P30739, S1-16, 1層。71.1g。口縁部。0, 0, 上縁上LR側面直。前縁隆帯上LR側面直。先の丸いへら状工具による削削。LR側面直による平行線文。0, 0, 0, 中初。0, 0
- 図56-52, P30594, S1-16, 1層。12.9g。口唇部・胴部。0, 0, 隆帯上LR側面直。0, RLR横位。0, 無し, RLR横位。前末~中初。0, 0, 166
- 図56-53, P30085-P30594-P30125-P30299, S1-16, 1層。126g。口唇部・胴部。0, 0, 0, 0, 0, 0, 隆帯上LR側面直による逆U字状文。方形。RLR横位。中初。深鉢。0
- 図57-54, P30271-2-P30469-P31248, S1-16, 1-3-C-2層。256.8g。胴部。0, 0, 0, 0, 0, 0, RLR横位。結部R横位。前末~中初。0, 0
- 図57-55, P30613-P31398-1-2層。S1-16, 1。526.6g。口唇部・胴部。0, 0, 0, RLR横位。隆帯上LR横位。方形。RLR横位。中初。深鉢。0.93
- 図57-56, S117P154-P297-4-S116P30271-1, S1-16-S17, S116-1。S117-1層。2-3層。343.9g。胴部・胴部。0, 0, 0, RLR側面直。下端に粘土粘付付。隆帯上LR側面直。方形。LR横位。結部R横位。前末~中初。深鉢。0.439
- 図57-57, P30100-P30137-P30244-P30514-P30515-P30516-2-P30628-P31647, S1-16, 1-2-C-2層。221.8g。胴部。1/3。0, 0, 0, 0, 0, 0, RLR横位。結部R横位。中初。深鉢。0.198
- 図57-58, P30168-P30192-P30196-P30369-P31156-P31159-P31162-P31168, S1-16, 1-2層。184.5g。胴部。1/4。0, 0, 0, 0, 0, 0, RLR横位。結部R横位。中初。深鉢。0.222
- 図57-59, P30696-P32137, S1-16, 1-B-1層。50.2g。口唇部・胴部。0, 0, 隆帯上折状結末1線横位。折状結末1線横位。0, 無し, 折状結末1線横位。中初。0.162
- 図57-60, P30618-2-P30624-1, S1-16, 1層。76.3g。胴部。0, 0, 0, 0, 0, 0, RLR横位。結部R横位。中初。0, 0, 188
- 図57-62, P30123-P31376-P30321-P30677-1-P31273-P32012, S1-16, 1-C-2層。270g。胴部・底底。1/4。0, 0, 0, 0, 0, 0, RLR結末1線横位。RLR横位。中初。0, 0, 215
- 図57-63, P30120-P30128-P30130-P30134, S1-16, 1層。349.2g。底底。1/2。0, 0, 0, 0, 0, 0, 中初。0, 0, 218
- 図57-64, P3055-32157, S1-16, 2-B-1層。136g。口縁部。0, 5線。隆帯上LR側面直。波瀾部から垂下する隆帯上LR側面直。口縁部。LR側面直による山形平行線文間に縦位短線文。隆帯上LR側面直。丸。0, 中初。深鉢。0.146
- 図57-65, P3015-30407, S1-16, 4層。97.6g。口唇部・胴部。0, 3線。0, RLR側面直による山形平行線文による縦線文。0, 方形。0, 中初。深鉢。0
- 図57-66, P3014-32212, S1-16, 2層。58g。口縁部。0, 0, 0, 0, 0, 0, 平縁1線R位直による平行線文間に矢羽状文。0, 0, 0, 中初。深鉢。0.157
- 図58-67, P30447-P31195-P31345-P31578-P31584-P31586-P31891-1-P31893, S1-16, 2層。179g。口唇部・胴部。1/1。0, 隆帯上LR側面直。隆帯上LR側面直。垂下する2本の隆帯上LR側面直。LR横位。無し, LR側面直による下向きU状隆帯。RLR横位。結部R横位。中初。深鉢。0.99
- 図58-68, P30200-P30375-2-P30376-P30675-P31235-P31278-P31624, S1-16, 1-2層。273.7g。口唇部・胴部。1/1。0, 隆帯上LR側面直。LR横位。0, 無し, RLR横位。中初。深鉢。0.17
- 図58-69, P30258-P30356, S1-16, 2-B-2層。203.6g。口唇部・胴部。0, 8線。隆帯上LR側面直。R側面直による縦線文。隆帯(折部)。不明, RLR横位。LR粘付形付粘位。中初。深鉢。0.148
- 図58-70, P31355-P31356-P31358-P31359-P31529-P31536-P31689-P31690-P31694-P31695-P31696-P31697-1-P31698-1-2-P31699-P31700-P31701-P31758-P31787-P31788-P32107-P32214-P32254-P32256, S1-16, B。1456.5g。口唇部・胴部。1/1。0, 隆帯上縁前段合股(RLR)側面直。RLR側面直による平行線文。丸形突起。隆帯上縁前段合股(RLR)側面直。方形。RLR横位。中初。深鉢。0.72
- 図58-71, S117P154-S116P30488-P30498-P31908-P31910, S1-16-S17, 3-5層。590.8g。口唇部・胴部。1/3。0, 隆帯上LR側面直。横位に連続する連続状隆帯上LR側面直。隆帯上LR側面直。無し, LR側面直による下向きU状隆帯。RLR横位。結部R横位。中初。深鉢。0.99
- 図58-72, P30658-P31157-P31174-P31303, S1-16, 1層。81.1g。口唇部・胴部。0, 0, 隆帯上LR側面直。LR側面直による縦位短線文。隆帯上LR側面直。丸。LR横位。中初。深鉢。0.139
- 図58-73, P30004-P30158-1-P31896-1, S1-16, 2-B-1層。136.3g。胴部。0, 0, 0, 0, 0, 0, RLR横位。結部R横位。中初。深鉢。0.201
- 図58-74, S117276-S116P30235-P30506, S1-16, S1-16-1-3-S17-1層。258.5g。口唇部・胴部。1/8。0, 隆帯上LR側面直。斜位の隆帯上LR側面直。LR側面直による平行線文。丸形突起。隆帯上LR側面直。方形。LR横位。結部R横位。中初。深鉢。0.449
- 図58-75, S117290-P339-S116P30396, S1-16, S1-16-3層-S17層。2。259g。口唇部・胴部。0, 0, 0, 垂下する2条の隆帯。下端にボタン状粘付。LR側面直による折り返し平行線文。0, 方形。LR横位。結部LR。中初。深鉢。0.239
- 図59-76, P30412-1, S1-16, 2層。146.8g。胴部・底底。1/1。0, 0, 0, 0, 0, 0, RLR横位。結部R横位。中初。深鉢。0.62
- 図59-77, P30558-1-P30626, S1-16, 2-3層。87.6g。胴部・底底。1/3。0, 0, 0, 0, 0, 0, RLR横位。中初。深鉢。0.216
- 図59-78, P30329-P30729, S1-16, 2-B-2層。113.6g。胴部。0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, RLR横位。中初。深鉢。0.98
- 図59-79, P30666-P30753-P32042, S1-16, 1層。C-2層。131.6g。口唇部・胴部。0, 0, 隆帯上LR側面直。波瀾部から垂下する隆帯。R側面直による

- 平行線文間にヘラ状工具による刻痕。隆帯(割縁)。方形。LR横位。中切。深鉢。0.161
- 図59-80, P30002-P31891-2, SI-16, II-B-1層, 108.5g。胴部。0.0, 0.0, 0.0, 0.0, LR横位。結節(LR)横位。中切。0.0, 0.0, 199
- 図59-81, P30022-P30174-P31167-P31859, SI-16, II-C-2層, 252.6g。口唇部・胴部。1/8, 0.0。隆帯上LR側面圧痕。LR側面圧痕による平行線文間にC字状文。隆帯上LR側面圧痕。丸。0個多量LR横位。中切。深鉢。0.94
- 図59-82, P31861-2, SI-16, 0層, 1152.8g。完形。1/1, 0.0。隆帯上LR側面圧痕。LR側面圧痕による平行線文。隆帯上LR側面圧痕。方形。RLR横位。結節(LR)横位。中切。深鉢。0.32
- 図59-83, P30736-P31388-4, SI-16, I-B-2層, 232.1g。口唇部・胴部。0.0, 0.0, RLR横位。隆帯上LR側面圧痕。丸。RLR横位。中切。深鉢。0.170
- 図59-84, P30003-P30510-I-P31865-P31702, SI-16, II-C-2層, 238g。口唇部・胴部。0.8個。隆帯上LR側面圧痕。口唇部から垂下する2条状隆帯上LR側面圧痕。口唇部側面圧痕による折り返し平行線文。隆帯上LR側面圧痕による逆U字状文。方形。LR横位。中切。深鉢。0
- 図59-85, P30030-2-P30225-3, SI-16, I-B層, 144.9g。胴部。0.0, 0.0, 0.0, 0.0, LR横位。中切。深鉢。0
- 図60-86, P30377-I-P30492-4-5-6-7-9-10-11-P31892-1, SI-16, II-2-D-1層, 1101.2g。胴部・底底。1/3, 0.0, 0.0, 0.0, 0個多量LR横位。結節(LR)横位。中切。深鉢。0
- 図60-87, P30724-P32148, SI-16, I-B-1層, 75.3g。胴部。0.0, 0.0, 0.0, 0.0, 羽状結束1種横位。中切。深鉢。0
- 図60-88, P30638-P30743, SI-16, I-B層, 24.6g。胴部。0.0, 0.0, 0.0, 0.0, 羽状結束1種横位。中切。0
- 図60-90, P30016-P30058-P30103-P30251-P30341-P30414-P30618-I-P31580-P31991-P31992-P32112, SI-16, II-C-2-A-1-B-1-C-2層, 614.7g。胴部。0.0, 0.0, 0.0, 0.0, LR横位。RLR横位。中切。深鉢。0
- 図63-107, P型体1, SI-17, Ⅱ, 4400g。口唇部・胴部。1/1, 0.0, 0.0。垂下する2条の隆帯。LR側面圧痕による山形平行線文。隆帯上LR側面圧痕。方形。結節(LR)横位。中切。深鉢。0
- 図63-109, P型体2, SI-17, Ⅱ, 1124.3g。胴部。1/1, 0.0, 0.0, 0.0, LR横位。前垂～中切。0.0
- 図63-109, P1-P2-P3-P5, SI-17Ⅱ1, Ⅱ層1Ⅱ1, 353.7g。胴部。1/3, 0.0, 0.0, 0.0, LR横位。結節(LR)横位。中切。深鉢。0
- 図63-110-a-b-c, P1-P2-P3-P5-P4, SI-17Ⅱ1, Ⅱ層1Ⅱ1, 102.3g。胴部。0.0, 0.0, 0.0, 0.0, LR横位。結節(LR)横位。0.0, 0.0
- 図64-111, P334-P436, SI-17, 3-6層, 63g。胴部。1/8, 0.0, 0.0, 0.0, LR横位。中切。深鉢。0
- 図64-112, P00628, SI-17, 5層, 27.3g。口唇部・胴部。0.14個。隆帯上LR側面圧痕。垂下する2条の隆帯。0.0, 0.0, 中切。0.0
- 図64-113, P234-P235-P237-P3652-2-P3631-2-P3642-P435-I-P638, SI-17, 3-4-5層, 212.3g。口唇部・底底。1/4, 0.0。隆帯上LR側面圧痕。L・R(2本)側面圧痕による平行線文間にC字状文。隆帯上LR側面圧痕。方形。LR横位。結節(LR)横位。中切。深鉢。0
- 図64-114, P428-P429-P639, SI-17, 5層, 100.8g。口唇部・口唇部。0.0, 0.0。隆帯上LR側面圧痕。底底部から垂下する隆帯。側面圧痕による縦書き平行線文。0.0, 0.0, 0.0, 0.0
- 図64-115, P88-P240-P454-P455-P478-P513, SI-17, A-1-2-4層, 266.1g。口唇部・胴部。1/4, 15個。隆帯上LR側面圧痕。底底部から垂下する3条状隆帯上LR側面圧痕。LR側面圧痕による平行線文間に縦書き文。隆帯上LR側面圧痕。丸。羽状結束1種横位。結節(LR)横位。中切。深鉢。0
- 図64-116, P210-P278-P287-P297-2-5-6-P298-P325-P432, SI-17, 3層・4層・間層2, 1044.8g。口唇部・底底。1/1, 8個。隆帯上LR側面圧痕。LR側面圧痕による縦書き文。隆帯上LR側面圧痕による逆U字状文。0.0, LR横位。中切。深鉢。0
- 図64-117, P120-P167-P172-P188-P189-1-2-P208-P250-P271-P272-P275-P289-9-12-14-18-20-24-P292-P316-P317-P318-P324-P592-P593, SI-17, 3層・4層・間層2, 762.5g。口唇部・底底。1/1, 1。隆帯上LR側面圧痕。LR側面圧痕による折り返し平行線文。爪形文。隆帯上LR側面圧痕による逆U字状文。方形。LR横位。RLR追加付片に結節。中切。深鉢。0.28
- 図64-118, P59-P76-P77-P104-P111-P113-P203-P213-P273, SI-17, A-1-E-2-4層, 383.6g。口唇部・底底。1/1, 8個。隆帯上LR側面圧痕。底底部から垂下する2条の隆帯。下端にボタン状突起。LR側面圧痕による平行線文。爪形文。隆帯上LR側面圧痕。丸。LR横位。中切。深鉢。0.19
- 図65-119, P279-P288-1-P289-1-2-3-4-10-13-15-P320-P327-P546-P548-P549-P591-P615, SI-17, 間層2-4層, 4266.2g。口唇部・底底。1/1, 0.0。隆帯上LR側面圧痕。底底部文字状隆帯。LR側面圧痕による平行線文間に縦書き文。爪形文。隆帯上LR側面圧痕。方形。LR横位1種横位。中切。深鉢。0.64
- 図65-120, P402, SI-17, 4層, 56.9g。口唇部・口唇部。0.8個。隆帯上LR側面圧痕。底底部下ボタン状突起。底底部から垂下する隆帯。口唇部に平行する隆帯。0.0, 0.0, 0.0, 中切。0.0, 0.0
- 図65-121, P109, SI-17, 4層, 44.5g。口唇部・胴部。1/8, 5個。隆帯上LR側面圧痕。底底部下X字状隆帯。LR側面圧痕による山形平行線文。隆帯上LR側面圧痕。方形。LR横位。中切。0.0, 0.0
- 図65-122, P79-P80-P81-P99-P166, SI-17, 2-4層, 110.5g。口唇部・胴部。0.0。隆帯上LR側面圧痕。LR側面圧痕による山形平行線文間に縦書き文。隆帯上LR側面圧痕。方形。羽状結束1種横位。中切。0.0, 0.238
- 図65-123, P579, SI-17, 4層, 73.1g。口唇部・口唇部。1/8, 3個。隆帯上LR側面圧痕。X字状隆帯。LR側面圧痕による山形平行線文間に縦書き文。隆帯上LR側面圧痕。方形。0.中切。0.0, 0.0
- 図65-124, P374, SI-17, 4層, 120.5g。口唇部・胴部。0.0。隆帯上LR側面圧痕。底底隆帯上LR側面圧痕。隆帯上LR側面圧痕。方形。RLR横位。中切。深鉢。0
- 図65-125, P500-I-P563-1-2-3-4-P570-P600, SI-17, A-1-2-4層, 115.6g。口唇部・底底。1/3, 0.0, 0.0, L・R(2本)側面圧痕による平行線文間に竹筒刺突。底底部から垂下する2条の隆帯。隆帯上LR側面圧痕。方形。羽状結束1種横位。中切。0.0, 0.104
- 図65-126, P497-P498-I-P499-P516-P517-P520-P562-P576, SI-17, A-1-2-4層, 99.3g。口唇部・胴部。1/3, 0.0, 0.0。底底部から垂下する2条の隆帯上LR側面圧痕。L・R(2本)側面圧痕による平行線文間にC字状文。隆帯上LR(2本)側面圧痕。方形。羽状結束1種横位。中切。0.0, 453
- 図65-128, P606-P618, SI-17, 4層, 24.6g。口唇部・胴部。0.0, 0.0, LR側面圧痕による平行線文。隆帯上LR側面圧痕。三角形。0.中切。0.0, 0.0, 0.0
- 図65-129, P416, SI-17, 4層, 42.5g。口唇部・口唇部。0.0, 0.0, LR側面圧痕。LR側面圧痕による平行線文。0.0, 0.0, 中切。0.0, 0.0, 0.0
- 図65-130, P488, SI-17, 4層, 20.2g。口唇部・口唇部。0.0。単純1種(L)圧痕。単純1種(L)圧痕による平行線文間に斜位の短線文。0.0, 0.0, 中切。0.0, 0.0
- 図65-131, P105, SI-17, 4層, 31.6g。口唇部・口唇部。0.0。隆帯上LR側面圧痕。LR側面圧痕による平行線文。0.0, 0.0, 中切。0.0, 0.0, 0.0
- 図65-132, P143-P339-2-P340, SI-17, 3層, 102.9g。口唇部・胴部。0.0, 0.0, RLR横位。0.段差。RLR横位。中切。深鉢。0.258
- 図66-133, P612, SI-17, 4層, 30g。胴部・胴部。0.0, 0.0, 0.0。隆帯上LR側面圧痕。二角形。LR横位。結節(LR)横位。中切。0.0, 0.0, 0.0
- 図66-134, P368, SI-17, 4層, 5.5g。胴部・胴部。0.0, 0.0, 0.0。隆帯上LR側面圧痕。方形。LR横位。中切。0.0, 0.0, 0.0
- 図66-135, P506, SI-17, 4層, 58.3g。胴部。0.0, 0.0, 0.0, 0.0, RLR横位。中切。0.0, 0.0
- 図66-136, P107, SI-17, 4層, 15.7g。胴部。1/8, 0.0, 0.0, 0.0, 0.0。羽状状文結束1種横位。結節(LR)横位。中切。0.0, 0.0
- 図66-137, P375-P495, SI-17, A-1-4層, 159.6g。胴部。0.0, 0.0, 0.0, 0.0, 胴部。RLR横位。中切。深鉢。0.253
- 図66-138, P501-P577, SI-17, 3-4層, 160.9g。胴部。1/4, 0.0, 0.0, 0.0, 胴部。RLR横位。結節(LR)横位。中切。深鉢。0.254
- 図66-139, P83-P598, SI-17, 2-4層, 63.3g。胴部。1/8, 0.0, 0.0, 0.0, LR横位。結節(LR)横位。中切。0.0, 0.246
- 図66-140, P435-2, SI-17, 4層, 0.胴部。1/4, 0.0, 0.0, 0.0, LR横位。結節(LR)横位。中切。深鉢。0.106
- 図66-141, P481, SI-17, 4層, 351.3g。胴部・底底。1/2, 0.0, 0.0, 0.0, 0.0。結節(LR)横位。中切。深鉢。0.458
- 図66-142, P307, SI-17, 間層2, 2000g。完形。1/1, 0。隆帯上LR側面圧痕。LR側面圧痕による平行線文間に底底文。0.0, 0.0, 中切。深鉢。0.74
- 図66-143, P231, SI-17, 間層2, 1755.8g。完形。1/1, 0。隆帯上LR側面圧痕。口唇部下隆帯上LR側面圧痕。LR側面圧痕による平行線文。結節上LR側

部正産。方形、R/LR横位。緒太～中初。0、有、27

図67-144、P312-P313、S1-17、間層2、629.6g。0、1/1、8瓶、LR側面正産。波頂部から垂下する2条の隆帯 LR側面正産による平行線文。0、無し、LR横位。中初、深鉢、0、21

図67-145、P289-5-6-11-19-22-26-P295-P388-2-P590、S1-17、間層2、499g。口唇部・胴部、1/1、0、隆帯上LR側面正産。波頂部下に逆U字状隆帯LR側面正産による波状平行文。隆帯上LR側面正産。方形、胴部、R/LR横位。中初、深鉢、0、20

図67-146、P311、S1-17、間層2、677.7g。口唇部・胴部、0、0、0、LR側面正産による平行線文 LR横位。波状隆帯上LR側面正産。方形、LR横位。中初、0、0、0

図67-147、P314、S1-17、間層2、1037.7g。口唇部・胴部、0、3瓶、隆帯上LR側面正産。波頂部下に隆帯隆帯 口唇部に平行する隆帯 LR側面正産による副歯文。隆帯上LR側面正産。方形、0、中初、0、0、0

図67-148、P383、S1-17、間層2、555.9g。口唇部・口縁部、0、2瓶、隆帯上LR側面正産。X字状隆帯 LR側面正産による山形平行線文。0、0、0、0、0、0、0

図67-149、P335、S1-17、間層2、420g。口唇部・胴部、0、10瓶、隆帯上LR側面正産。波頂部から垂下する2条の隆帯 口唇部に平行する隆帯 LR側面正産による平行線文間に半波状竹管状工具による刺突。隆帯上竹管状工具による刺突。方形、0、中初、0、0、0

図67-150、P303-2-P332、S1-17、間層2、101.6g。口唇部・胴部、1/4、15瓶、L側面正産。L側面正産による斜位の平行線文 波頂部から垂下する2条の隆帯。隆帯上L側面正産。方形、0、中初、0、0、231

図67-151、P288-2-P389、S1-17、間層2、66.8g。口唇部・口縁部、0、5瓶、隆帯上LR側面正産。波頂部から垂下するS字状隆帯 LR側面正産による山形平行線文。0、0、0、中初、0、0、241

図67-152、P308、S1-17、間層2、14.8g。口唇部、0、0、隆帯上半波状竹管による刺突。口唇部に平行する隆帯上半波状竹管による刺突 LR側面正産による平行線文間に半波状竹管による刺突。0、0、0、前末、0、0、0

図67-153、P327、S1-17、間層2、77.9g。口唇部・胴部、0、0、0、波状隆帯上LR側面正産横位。隆帯上LR側面正産による逆U字状文。方形、R/LR横位。中初、0、0、0

図67-154、P344、S1-17、間層2、43.8g。口唇部・胴部、0、0、0、垂下する2条の隆帯 R側面正産による山形平行線文間に逆U字状文。隆帯上LR側面正産による逆U字状文。方形、0、中初、0、0、0

図67-155、P300、S1-17、間層2、58.0g。胴部、0、0、0、0、0、0、R/LR横位。中初、0、0、0、0

図67-156、P170-P282-P392-2、S1-17、2-間層2、73.1g。胴部、0、0、0、0、0、0、LR横位 結節00横位。中初、0、0、0、261

図67-157、P303-3-P304-1-P331-P331-P333-P385-1-2-P587、S1-17、間層2、1071.1g。胴部・底部、1/1、0、0、0、0、0、RL横位。中初、深鉢、0、85

図67-158、P394、S1-17、間層2、35.7g。胴部、0、0、0、0、0、0、羽状結末1横位。中初、0、0、0、0

図67-159、P303-1、S1-17、間層2、50.4g。胴部・底部、1/4、0、0、0、0、0、LR横位。中初、深鉢、0、0

図67-160、P299-1-3-4-5-P315、S1-17、間層2、194.7g。胴部、1/1、0、0、0、0、0、縦位の条線文。前末～中初、0、0、107

図67-161、P336-P407、S1-17、3瓶、138.0g。胴部・胴部、0、0、0、0、隆帯上LR側面正産による逆U字状文。0、LR横位。0、0、0、237

図67-162、S1-17-P247-SK-278 P147、S1-17、SK-278、0、53.1g。胴部、0、0、0、0、0、0、単線1A側面正産。結節00横位。前末、深鉢、0、441

図67-163、P129、S1-17、3瓶、84.2g。口唇部・胴部、1/4、0、0、0、波状隆帯上LR側面正産横位。隆帯上LR側面正産。方形、LR横位。中初、深鉢、0、1

図67-164、P359、S1-17、3瓶、57.1g。胴部・胴部、0、0、0、0、隆帯上単線1A側面正産。方形、R/LR横位。中初、0、0、0、0

図67-165、P251、S1-17、3瓶、79.9g。口唇部・口縁部、0、0、0、上帯上LR側面正産。波状隆帯上LR側面正産。丸、0、中初、0、0、0、0

図67-166、P358、S1-17、3瓶、22.0g。口唇部・口縁部、0、0、隆帯上単線1A側面正産。単線1A側面正産による平行線文 縦位短線文。0、0、0、中初、0、0、0

図67-167、P350、S1-17、3瓶、50.4g。口唇部・口縁部、0、0、隆帯上LR側面正産。口唇部に平行する隆帯 LR側面正産による平行線文。0、0、0、中初、0、0、0

図67-168、P244、S1-17、3瓶、41.9g。口唇部・口縁部、0、1瓶、隆帯上LR側面正産。波頂部から垂下する2条の隆帯 隆帯上LR側面正産 LR側面正産による山形平行線文。0、0、0、中初、0、0、0

図67-169、P61、S1-17、2瓶、64.7g。口唇部・胴部、0、0、隆帯上LR側面正産。隆帯による△形区画 LR側面正産による三角形区画 区画に包つたLR側面正産と爪形刺突。隆帯上LR側面正産。方形、LR横位。中初、0、0、0

図67-170、P197、S1-17、3瓶、31.4g。口唇部・胴部、0、0、LR側面正産。波状隆帯上LR側面正産。隆帯上LR側面正産。方形、0、中初、0、0、0、0

図67-171、P187、S1-17、3瓶、43.3g。口唇部・胴部、0、0、0、LR側面正産による副歯文。隆帯上LR側面正産による逆U字状文。方形、R/LR横位。中初、0、0、0

図67-172、P198、S1-17、3瓶、25.9g。口唇部・口縁部、0、0、0、R/LR横位。0、0、0、中初、0、0、0

図67-173、P222、S1-17、3瓶、26.0g。口唇部・口縁部、0、8瓶、隆帯上LR側面正産。垂下する2条の隆帯。0、0、0、0、0、0、0

図67-174、P185、S1-17、3瓶、190.1g。口唇部・口縁部、0、8瓶、隆帯上LR側面正産。波頂部から垂下する隆帯 R側面正産による平行線文間に縦位短線文。0、0、0、中初、0、0、0

図67-175、P147、S1-17、3瓶、37.9g。口唇部・胴部、0、0、0、単線1A側面正産による平行線文。隆帯上単線1A側面正産。方形、LR横位。中初、0、0、0

図67-176、P25、S1-17、2瓶、60.6g。口唇部・口縁部、0、0、隆帯上LR側面正産。LR側面正産による平行線文間に縦位短線文。0、0、0、中初、0、0、0

図67-178、P63、S1-17、2瓶、34.6g。口唇部・口縁部、0、14瓶、隆帯上LR側面正産。隆帯上LR側面正産。0、0、0、中初、0、0、0

図67-179、P193、S1-17、2瓶、24.4g。口唇部・口縁部、0、0、LR側面正産。R側面正産による平行線文。0、0、0、0、0、0、0

図67-180、P32-P33-P151-P153-P293、S1-17、A-1-2-附層2、84.2g。口唇部・胴部、1/3、0、0、0、波頂部から垂下する連続状隆帯 LR側面正産による平行線文間に副歯文。隆帯上LR側面正産。丸、R/LR横位。中初、深鉢、有

図67-181、P16-P211、S1-17、2瓶、89.5g。口唇部・胴部、0、0、0、垂下する隆帯 R側面正産による平行線文間に縦位短線文。隆帯上LR側面正産。方形、0、0、0、0、0、0

図67-182、P30-2、S1-17、2瓶、38.9g。口唇部、0、0、0、R側面正産による平行線文間に縦位短線文。0、0、0、中初、0、0、0

図67-183、P40、S1-17、2瓶-間層2、51.4g。口唇部・胴部、0、0、0、垂下する2条の隆帯 R側面正産による平行線文。隆帯上LR側面正産。方形、0、0、0、0、0

図67-184、P12-P14-P53-P545、S1-17、2瓶-4瓶-間層2、46.7g。胴部、1/3、0、0、0、0、0、羽状結末1横位。中初、0、0

図67-185、P41-P42-P45-P46-P47-P48-2、S1-17、2瓶、975.6g。口唇部・胴部、2/3、0、上面U字状隆帯隆帯。口唇部隆帯の隆帯部に波状隆帯 隆帯上LR側面正産 胴部隆帯横位。隆帯上LR側面正産による逆U字状文。方形、胴部R/LR横位 結節00横位。中初、深鉢、0

図67-186、P564-P569-P575-1-2、S1-17、2瓶、48.5g。胴部・底部、1/1、0、0、0、0、0、LR横位 R横位 結節00横位。中初、0、0

図67-187、P71、S1-17、2瓶、75.9g。胴部・底部、0、0、0、0、隆帯上LR側面正産。方形、LR横位。0、0、0、0

図67-188、P43-P510-P511-P512-P551-P597、S1-17、A-1-2瓶、760.8g。胴部・底部、1/3、0、0、0、0、0、0、R/LR横位 結節00横位。中初、深鉢、0

図67-189、P21-1-2-P57-P66-P74、S1-17、1瓶、329.5g。口唇部・胴部、0、0、隆帯上LR側面正産。波頂部から垂下する2条のU字状隆帯 下部に粘土結核の付付 LR側面正産による逆U字状平行線文。隆帯上LR側面正産。丸、R/LR横位。中初、深鉢、0

- 図69-190, P206-P257-P453-P522, S1-17, 2層, 165.7g, 銅部・底版, 1/1, 0, 0, 0, 0, 0, LR横位 結節LR横位, 中初, 0, 0
- 図69-191, P482, S1-17, 1層, 33.5g, 口唇部・口縁部, 0, 3層, 隆帯上LR側面圧痕, LR側面圧痕, 0, 0, 0, 0, 中初, 0, 0
- 図69-192, P12-11, S1-17, 1層, 72.0g, 胴部, 1/8, 0, 0, 0, 0, 0, 0, RLR横位, 中初, 0, 0
- 図69-193, P1, S1-17, 1-A-1層, 41, 0, 0, 8層, R側面圧痕, 波肌部から垂下する2条の隆帯 R側面圧痕による山形平行線文, 0, 0, 0, 中初, 0, 0, 0
- 図69-194, P2-1, S1-17, A-1層, 27.6g, 口唇部・胴部, 0, 0, 0, C字状隆帯 LR側面圧痕による平行線文縦位短線文, 0, 方形, 0, 中初, 0, 0
- 図69-195, P49-P85-P89-P496-P528-2, S1-17, A-1-2層, 202.9g, 口唇部・胴部, 1/3, 8層, 隆帯上LR側面圧痕, 波肌部下隆帯による山形三角区画LR側面による平行線文間に縦線文, 隆帯上LR側面圧痕, 丸, LR横位, 中初, 深鉢, 0
- 図69-196, P14-P67, S1-17, A-1層, 138.8g, 胴部・胴部, 0, 0, 0, 0, 隆帯上LR側面圧痕, 0, RLR横位, 中初, 深鉢, 0
- 図69-197, P49-P85-P89-P496-P528-2-P14-P67-P87, S1-17, A-1層, 111.9g, 胴部, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 羽状結束1種横位, 中初, 0, 0
- 図69-198, P94, S1-17, A-1層, 98.9g, 胴部, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, LR横位, 中初, 0, 0
- 図70-206, P70-3-P71-3-6-P71-7P-S20 20-P49-P51-P52-P54-1-P56-P56-P58-P60-P61-1-4-5-7-8-9-10-13-14-15-16-18-19-22-P62-1-P3-8-9-P63-P70-1, S1-20 鉢, 0, 胴部, 1/2, 0, 0, 0, 0, 0, 0, RLR横位, 中初, 深鉢, 0
- 図70-207, P71-1-P61-2-3, S1-20 鉢, 514.8g, 胴部, 1/1, 0, 0, 0, 0, 0, 0, RLR横位, 中初, 0, 0
- 図70-208, P67, S1-20, 鉢1層, 51.2g, 胴部, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, LR横位 LR横位 結節LR横位, 中初, 0, 0
- 図70-209, P71-2, S1-20, 鉢1層, 35.9g, 胴部, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, LR横位 結節LR横位, 中初, 0, 0
- 図70-210, P9-P10, S1-20, 1層, 70.4g, 口唇部・口縁部, 0, 0, 0, LR側面圧痕, C字状隆帯 LR側面圧痕による山形平行線文間に縦線文, 0, 0, 0, 中初, 0, 0
- 図70-211, P4, S1-20, 1層, 26.6g, 口唇部・口縁部, 0, 0, LR横位, 羽状結束1種横位, 0, 0, 0, 中初, 0, 0
- 図70-213, P16-P18-P19-P27-P65-P66, S1-20, 1-5層, 312.3g, 口唇部・底版, 1/3, 0, 0, 0, 0, 0, 胴部 LR横位 結節LR横位, 0, 0, 0, 0
- 図71-214, S1-20P125P2121-1-2-3P21-22P908-P909-P957, S1-21-S1-22, S1-21底面・半体-S1-22-22, 3491.3g, 深鉢, 1/1, 0, 単結1種LR圧痕, 単結1種LR圧痕による平行線文LR側面圧痕による縦線文, 隆帯上LR側面圧痕, 方形, LR横位 結節LR横位, 中初, 深鉢, 0
- 図72-215, P98-2-P114-1-2-P3, S1-21, 9-10, 51.9g, 口唇部, 0, 0, 隆帯上LR側面圧痕, LR側面圧痕による平行線文, 0, 0, 0, 中初, 0, 0
- 図72-216, P109, S1-21, 5, 65.7g, 口唇部・胴部, 0, 0, 0, R側面圧痕による平行線文, 単結5種LR圧痕, 隆帯, 羽状結束1種横位, 前末, 0, 0
- 図72-217, P74, S1-21, 5, 31.1g, 口唇部・胴部, 0, 0, 0, LR側面圧痕による平行線文, 隆帯上LR側面圧痕, 方形, 結節LR横位, 中初, 0, 0
- 図72-218, P51-P52-P53-P54-P64-P65-2-3-4-5-P87-3, S1-21, 1-5層, 175.2g, 口唇部・口縁部, 1/8, 0, 隆帯上LR側面圧痕, 波肌部から垂下する2条の隆帯 LR側面圧痕による山形平行線文間に縦線文, 0, 0, 中初, 0, 0
- 図72-219, P9-P23-P24-P28-P78-P123, S1-21, 3-4-5層, 203.4g, 口唇部・胴部, 1/8, 0, 隆帯上LR側面圧痕, LR側面圧痕による平行線間に縦線文 C字状隆帯, 隆帯上LR側面圧痕, 方形, LR横位, 中初, 0, 0
- 図72-220, P26-P34-1-2-3-P75-P76-P81, S1-21, 1-4-5層, 168.2g, 口唇部・胴部, 1/8, 0, 隆帯上LR側面圧痕, LR側面圧痕による平行線文, 隆帯上LR側面圧痕, 方形, LR横位, 中初, 0, 0
- 図72-221, P45, S1-21, 3層, 49.4g, 胴部, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, RLR横位 斜位, 中初, 0, 0
- 図72-222, P104, S1-21, 4層, 40.0g, 胴部, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, LR横位, 中初, 0, 0
- 図72-223, P100-2, S1-21, 4層, 77.5g, 胴部, 1/8, 0, 0, 0, 0, 0, LR横位 結節LR横位, 中初, 0, 0
- 図72-225, P29-1, S1-22鉢, 鉢, 0, 胴部・底版, 1/1, 0, 0, 0, 0, 0, 0, LR横位 結節LR横位, 中初, 深鉢, 0
- 図73-226, P4, S1-22鉢, 底版, 36.2g, 口唇部・口縁部, 0, 0, 隆帯上LR側面圧痕, LR側面圧痕による平行線文 縦線文, 0, 0, 0, 中初, 0, 0
- 図73-227, P20-1, S1-22鉢, 鉢内, 183.7g, 胴部, 0, 0, 0, 0, 0, 0, LR横位 結節LR横位, 0, 0, 0
- 図73-228, P768-1-P768-3-P832-P884-1-2-3-PX, S1-22, 3-4層, 2258.5g, 口唇部・胴部, 1/1, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 垂下する2条の隆帯 LR側面圧痕による複合鋸歯文, 0, 隆帯 LR横位 結節LR横位, 中初, 深鉢, 0
- 図73-229, P31-4, S1-22, 鉢体, 1600.0g, 胴部・底版, 1/1, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 羽状結束1種横位, 中初, 深鉢, 0
- 図73-230, P1066-P1069-2, S1-22, 4層, 46.2g, 口唇部・胴部, 0, 0, 0, LR側面圧痕による平行線文, LR側面圧痕による平行線文, 隆帯 LR横位, 中初, 0, 0
- 図73-231, P980, S1-22, 4層, 59.3g, 口唇部・口縁部, 0, 0, 隆帯上LR側面圧痕, 口唇部に平行する隆帯上LR側面圧痕 LR側面圧痕による平行線文と縦位短線文, 0, 0, 0, 中初, 0, 0
- 図73-232, P866-4-P887-20-21-22-P974-1-2-3-P975-P1034-P1041-PX, S1-22, 3-4層, 742.7g, 口唇部・胴部, 1/2, 1/9層, R側面圧痕, 口唇部 鋸歯状隆帯上LR側面圧痕 R側面圧痕による折り返し平行線文・逆U字状文 斜位の平行線文, 0, 無し, 単結1種LR横位 結節LR横位, 中初, 深鉢, 0
- 図74-233, P839-1-P839-2, S1-22, 4層, 2833.7g, 口唇部・胴部, 1/1, 5層, 隆帯上LR側面圧痕, X字状隆帯 LR側面圧痕による平行線文 爪形文, 隆帯上LR側面圧痕, 方形, LR横位 結節LR横位, 中初, 深鉢, 0
- 図74-234, PX, S1-22, 3-5層, 228.5g, 底版, 1/1, 5層, 隆帯上LR側面圧痕, LR側面圧痕による平行線文, 隆帯上LR側面圧痕, 方形, 羽状結束1種横位, 中初, 深鉢, 0
- 図74-235, P753-P836-P942, S1-22, 1-3-4層, 369.5g, 口唇部・胴部, 1/3, 0, 隆帯上LR側面圧痕, LR側面圧痕による平行線文, 隆帯上LR側面圧痕, 方形, 羽状結束1種横位, 中初, 深鉢, 0
- 図74-236, P1009-1, S1-22, 4層, 195.8g, 口唇部・胴部, 1/8, 0, 隆帯上LR側面圧痕, 波肌部から垂下する2条の隆帯上LR側面圧痕 LR側面圧痕による山形平行線文間に縦線文, LR側面圧痕縦位, 隆帯 LR横位, 中初, 0, 0
- 図74-237, P983, S1-22, 4層, 20.2g, 口唇部・胴部, 1/3, 0, 0, 0, 0, 0, LR側面圧痕による複合鋸歯文, 0, 0, 0, 0, 0, 0
- 図74-238, P853-1, S1-22, 4層, 80.2g, 口唇部・胴部, 1/4, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 垂下する隆帯上LR側面圧痕 R側面圧痕による平行線文, 隆帯上LR側面圧痕, 方形, LR横位, 中初, 0, 0
- 図74-239, P1055, S1-22, 4層, 46.4g, 口唇部・胴部, 1/8, 0, 0, 0, 0, 0, 垂下する2条の隆帯 R側面圧痕による平行線文, 隆帯上LR側面圧痕, 方形, 0, 中初, 0, 0
- 図74-240, P802, S1-22, 4層, 85.5g, 胴部, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, LR横位, 中初, 0, 0
- 図74-241, P359-P856, S1-22, 1-4層, 44.7g, 口唇部, 0, 1層, 隆帯上LR側面圧痕, 単結1種LR圧痕 C字状隆帯上LR側面圧痕 単結1種LR圧痕 単結1種LR圧痕による平行線文, 0, 0, 0, 中初, 深鉢, 0
- 図74-242, P823, S1-22, 4層, 26.8g, 口唇部・胴部, 0, 0, 0, LR側面圧痕による平行線文, 隆帯上竹管状工具による鋸歯 隆帯, 単結1種LR-L横位, 前末, 0, 0
- 図74-243, P823-P930-P1054-P1057, S1-22, 2-4層, 473.5g, 胴部・底版, 1/2, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 羽状結束1種横位, 中初, 0, 0
- 図74-244, P987-29-P973-P986, S1-22, 3-4層, 602.1g, 胴部, 1/3, 0, 0, 0, LR横位 LR横位, 無し, LR横位, 中初, 深鉢, 0
- 図75-245, P987-1, S1-22, 4層, 1316.0g, 口唇部・底版, 1/3, 0, 0, 0, 0, 0, 0, LR横位, 前末~中初, 0, 0
- 図75-246, P890-P949-P950, S1-22, 4層, 534.8g, 胴部, 0, 0, 0, LR横位, LR横位, 無し, LR横位, 中初, 深鉢, 0
- 図75-247, P890-P949-P950-P982-P987-3-P988-2, S1-22, 4層, 363.0g, 胴部, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, RLR横位 結節LR横位, 中初, 深鉢, 0
- 図75-248, P976-1, S1-22, 4層, 766.7g, 胴部・底版, 2/3, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, RLR横位, 中初, 深鉢, 0
- 図75-249, P841, S1-22, 4層, 120.6g, 胴部, 1/4, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, RLR横位, 中初, 0, 0
- 図75-250, P976-8, S1-22, 0, 胴部, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, RLR横位, 中初, 深鉢, 0

- 図75-251, P867, SI-22, 4層, 142.0g, 鋼部 1/8, 0, 0, 0, 0, 0, 0, RLR横位, 中初, 深鉢, 0
- 図75-252, P1622, SI-22, 4層, 91.2g, 鋼部 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 中鉢1A軸R横位, 前束, 0, 0, 0
- 図75-253, P535-P536-P745-1, SI-22, 1-3層, 39.5g, □唇部・口唇部, 1/4, 0, L形側面圧痕, 垂下する隆帯+LR側面圧痕, LR側面圧痕による平行線文, 隆帯+LR側面圧痕, 方形, RLR横位, 中初, 0, 0, 459
- 図75-254, P961-1-2, SI-22, 3層, 348.7g, □唇部・鋼部, 1/8, 0, 0, LR側面圧痕による三角形区画, LR側面圧痕による縦位短線文・平行線文, 隆帯+LR側面圧痕, 方形, LR結束1種横位・縦位, 中初, 0, 0, 114
- 図75-255, P984-P985-1-2-PX, SI-22, 3-4層, 1179.5g, □唇部・鋼部, 1/1, 0, 隆帯+LR側面圧痕, 隆帯+LR側面圧痕, 隆帯の上下にLR側面圧痕による平行線文, 隆帯+LR側面圧痕, 方形, RLR横位, 結節R横位, 中初, 鉢, 0, 13
- 図76-256, P669-2-P670-P709-P815-1-P875-1-PX, SI-22, 1-3層, 905.2g, □唇部・鋼部, 1/1, 0, 隆帯+LR横位, □唇部 ボタン状粘付 RLR横位, 隆帯+LR横位, 方形, RLR横位, 中初, 深鉢, 有
- 図76-257, P848-PX, SI-22, 1-3層, 456.5g, 完形, 1/1, 8層, 隆帯+LR側面圧痕, LR側面圧痕による逆U字状文・平行線文, 隆帯+LR側面圧痕, 方形, RLR横位, 中初, 深鉢, 0, 15
- 図76-258, P27-1-3-5-6-7-P320-1-P357-P864-P869-P870, SI-22, 1-3層, 1212.0g, □唇部・鋼部, 1/1, 3層, 隆帯+LR側面圧痕, 波頭部から垂下する2条の波状隆帯+LR側面圧痕, LR側面圧痕による山形平行線文間に縦位の短線文, 隆帯+LR側面圧痕, 隆帯+LR側面圧痕, 方形, RLR横位, 結節R横位, 中初, 深鉢, 0, 109
- 図77-259, P500-P1010-1-P1018-P1037-10-P1043, SI-22, 1-2-3層, 1599.7g, □唇部・鋼部, 1/2, 5層, 隆帯+LR側面圧痕, 突起下から垂下する隆帯+LR側面圧痕, C字状隆帯 R側面圧痕による山形平行線文 爪形文, 隆帯+LR側面圧痕, 方形, RLR横位, 中初, 深鉢, 有, 16
- 図77-260, P234-2-P257-P565-P575-P673-P678-P679-P680-P681-1, SI-22, 1-3層, 631.9g, 鋼部, 1/3, 0, 0, 1形側面圧痕による平行線文, 隆帯+LR側面圧痕, 方形, RLR横位, 中初, 深鉢, 0, 117
- 図78-261, P545-P546-P866-1, SI-22, 3層, 295.43g, 完形, 1/1, 6層, 隆帯+LR側面圧痕, 垂下する2条の隆帯+LR側面圧痕, LR側面圧痕による平行線文間に縦線文, 隆帯+LR側面圧痕, 方形, LR結束1種横位・縦位, 中初, 0, 0, 24
- 図78-262, P662-P672-P1053-1-2-PX, SI-22, 1-3層, 599.4g, 完形, 1/1, 0, LR側面圧痕, LR側面圧痕による三角形区画 平行線文, 隆帯+LR側面圧痕, 方形, 上平0段多束LR横位 F平 (R・LR・RR) 横位, 中初, 深鉢, 有, 70
- 図78-263, P958-P966-2, SI-22, 3層, 90.5g, 鋼部・鋼部, 0, 0, 0, 0, 隆帯+LR側面圧痕, 方形, LR結束1種横位, 中初, 0, 0, 310
- 図78-264, P639-P686, SI-22, 1-3層, 358.3g, □唇部・鋼部, 1/3, 0, 0, 中鉢1型(R)圧痕による平行線文, 隆帯+LR側面圧痕, 隆帯+LR側面圧痕, 方形, RLR横位, 結節R横位, 中初, 深鉢, 0, 116
- 図79-265, P859-P1037-1, SI-22, 3層, 711.7g, □唇部・鋼部, 0, 1型, 隆帯+LR側面圧痕, C字状隆帯R側面圧痕による平行線文間に縦位短線文, 隆帯+LR側面圧痕, 方形, RLR横位, 結節R横位, 中初, 深鉢, 0, 306
- 図79-266, P1052, SI-22, 3層, 109.5g, □唇部・鋼部, 0, 5層, 隆帯+LR側面圧痕, □唇部に平行する隆帯+LR側面圧痕, 波頭部から垂下するLR側面圧痕 下側に粘付粘付付け LR側面圧痕による山形平行線文, 隆帯+LR側面圧痕, 方形, 0, 中初, 0, 0, 0
- 図79-267, P960-1, SI-22, 3層, 165.7g, □唇部・鋼部, 1/8, 0, 0, C字状隆帯 LR側面圧痕による三角形区画 LR側面圧痕による平行線文, 隆帯+LR側面圧痕, 方形, RLR横位(結束1種横位), 中初, 0, 0, 114
- 図79-268, P1027-1, SI-22, 3層, 180.4g, □唇部・鋼部, 1/8, 0, 隆帯+LR側面圧痕, LR側面圧痕による山形平行線文間に縦位短線文, 波状隆帯+LR側面圧痕, 丸, RLR横位, 結節R横位, 中初, 0, 0, 0
- 図79-269, P1048, SI-22, 3層, 104.5g, □唇部・鋼部, 1/8, 8層, 隆帯+LR側面圧痕, C字状隆帯+LR側面圧痕 R側面圧痕による平行線文間に縦位短線文, 隆帯+LR側面圧痕, 方形, RLR横位, 中初, 深鉢, 0, 0
- 図79-270, P991-2, SI-22, 3層, 157.8g, □唇部・鋼部, 0, 1層, 隆帯+LR側面圧痕, 波頭部から垂下する隆帯+LR側面圧痕, LR側面圧痕による山形平行線文間に縦位短線文, 隆帯+LR側面圧痕, 方形, 0, 中初, 0, 0, 0
- 図79-271, P668-1-2-3-4-P712-P816-P817-PX, SI-22, 1-3層, 164.8g, □唇部・鋼部, 0, 0, 隆帯+LR横位, 波頭部下ボタン状粘付付け RLR横位, 隆帯+LR横位, 丸, RLR横位, 中初, 深鉢, 0, 297
- 図79-272, P1037, SI-22, 3層, 320.8g, □唇部・鋼部, 1/4, 0, 隆帯+LR側面圧痕, R側面圧痕による平行線文間に縦位短線文, 隆帯+LR側面圧痕, 方形, RLR横位, 中初, 深鉢, 0, 488
- 図79-273, P708-P711-PX, SI-22, 1-3層, 58.5g, □唇部・鋼部, 0, 0, 隆帯+LR横位, RLR横位, 隆帯+LR横位, 丸, RLR横位, 中初, 0, 0, 294
- 図79-274, P771-7-P780-P783, SI-22, 1-3層, 193.9g, □唇部・鋼部, 0, 0, 隆帯+LR側面圧痕, R側面圧痕による平行線文, LR側面圧痕縦位, 隆帯, RLR横位, 中初, 深鉢, 0, 313
- 図80-275, P947, SI-22, 1-3層, 190.2g, 鋼部・鋼部, 1/4, 0, 0, 0, 隆帯+LR側面圧痕, 方形, RLR横位, 中初, 深鉢, 0, 0
- 図80-276, P772-1-PX, SI-22, 1-3層, 679.1g, □唇部・鋼部, 1/3, 0, 隆帯+LR側面圧痕, 波頭部から垂下する2条の隆帯+LR側面圧痕, LR側面圧痕による複合縦線文, 0, 隆帯, RLR横位, 結節R横位, 中初, 深鉢, 0, 110
- 図80-277, P785-1, SI-22, 3層, 90.6g, □唇部・鋼部, 0, 0, 0, 鋼部から垂下する隆帯+LR側面圧痕 R側面圧痕による平行線文, LR側面圧痕縦位, 隆帯, RLR横位, 中初, 0, 0, 0
- 図80-278, P768-2, SI-22, 3層, 71.9g, □唇部・鋼部, 1/3, 0, 0, 波頭部から垂下する2条の隆帯 LR側面圧痕による複合縦線文, 0, 隆帯, RLR横位, 中初, 深鉢, 0, 110
- 図80-279, P641-1-P650-2, SI-22, 1-3層, 118.3g, □唇部・口唇部, 1/8, 0, 隆帯+LR側面圧痕, R側面圧痕による平行線文 縦位短線文, 0, 0, 0, 中初, 0, 0, 296
- 図80-280, P872-10, SI-22, 3層, 102.5g, □唇部・鋼部, 0, 0, 0, 0, 0, 0, RLR横位, 結節R横位, 深鉢, 0, 0, 0
- 図80-281, P883-2-10, SI-22, 3層, 237.2g, □唇部・鋼部, 0, 0, 隆帯+LR側面圧痕, LR側面圧痕による平行線文, LR側面圧痕縦位, 隆帯, 隆帯1種横位, 中初, 深鉢, 0, 311
- 図80-282, P872-18, SI-22, 3層, 153.5g, □唇部・鋼部, 1/1, 0, 0, 垂下する2条の隆帯(4単位) 平織竹管による平行線文間に縦位の刻み, 0, 隆帯, 平織竹管による平行線文間に縦位の刻みを充満し兼平織を結く, 中初, 深鉢, 0, 11
- 図81-283, P572, SI-22, 3層, 27.3g, □唇部・口唇部, 0, 0, 隆帯+LR側面圧痕, LR側面圧痕による平行線文, 0, 0, 0, 中初, 0, 0, 0, 0
- 図81-284, P661, SI-22, 3層, 36.7g, □唇部・口唇部, 0, 3層, 0段多束LR側面圧痕, 0段多束LR側面圧痕, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0
- 図81-285, P667-1, SI-22, 3層, 153.1g, □唇部・口唇部, 0, 14層, 0, X字状隆帯 LR側面圧痕による山形平行線文と縦位短線文, 0, 0, 0, 中初, 0, 0, 0
- 図81-286, P689, SI-22, 3層, 77.5g, □唇部・口唇部, 0, 0, 隆帯+LR側面圧痕, LR側面圧痕による平行線文間に円形文・縦位短線文, 0, 0, 0, 中初, 0, 0, 116
- 図81-287, P763, SI-22, 3層, 51.3g, □唇部・鋼部, 1/4, 0, 隆帯+LR側面圧痕, RLR横位, 0, 0, 0, 中初, 0, 0, 0
- 図81-288, P745-2, SI-22, 3層, 3.0g, □唇部・口唇部, 1/8, 0, 隆帯+LR側面圧痕, 垂下する隆帯+LR側面圧痕, LR側面圧痕による平行線文, 0, 0, 0, 中初, 0, 0, 0
- 図81-289, P837, SI-22, 3層, 59.1g, □唇部・口唇部, 0, 0, 0, 0, 波頭部から垂下する2条の隆帯 RLR横位, 0, 0, 0, 中初, 0, 0, 0
- 図81-290, P790, SI-22, 3層, 38.3g, □唇部・口唇部, 1/8, 0, 0, 垂下する隆帯+LR側面圧痕 RLR横位 斜位, 0, 0, 0, 中初, 0, 0, 0

- 0881-291, P857, SI-22, 3層, 50.6g, 口唇部・口縁部, 0, 14個, 隆帯上LR側面圧痕, LR側面圧痕による横位・斜位の平行線文, 0, 0, 0, 中切, 0, 0, 0
- 0881-292, P971, SI-22, 3層, 25.6g, 口唇部・胴部, 1/8, 8個, 0, C字状隆帯 LR側面圧痕による平行線文, 0, 無し, RLK横位, 中切, 0, 0, 0
- 0881-293, P918, SI-22, 3層, 69.0g, 口唇部・口縁部, 0, 0, 隆帯上LR側面圧痕, LR側面圧痕による平行線文, 高形文, 0, 0, 0, 中切, 0, 0, 0
- 0881-294, FX, SI-22, 3-6層, 12.8g, 口唇部・口縁部, 0, 0, 隆帯上LR側面圧痕, LR側面圧痕による平行線文, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 312
- 0881-295, PX, SI-22, 1層, 9.8g, 口縁部, 0, 0, 0, 半流竹管による斜格子文, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 491
- 0881-296, FX, SI-22, 1層, 6.1g, 口縁部, 0, 0, 0, 半流竹管による斜格子文, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 491
- 0881-297, P874, SI-22, 3層, 13.0g, 口唇部, 0, 0, 0, 半流竹管による斜格子文, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 491
- 0881-298, P379-2-P663+P684, SI-22, 1-3層, 81.9g, 口唇部・胴部, 0, 0, LR横位, LR横位, 0, 0, LR横位, 中切, 0, 0, 303
- 0881-299, P887-26, SI-22, 3層, 194.8g, 胴部, 1/8, 0, 0, LR横位, LR横位, 無し, LR横位, 中切, 0, 0, 0
- 0881-300, P960-2-3-4, SI-22, 3層, 215.1g, 胴部, 1/8, 0, 0, 0, 0, 0, LR結束1層横位, 中切, 0, 0, 468
- 0881-301, P934-P1016-9, SI-22, 2-3層, 680.1g, 胴部, 0, 0, 0, 0, 0, 0, LR結束1層横位, 中切, 深鉢, 0, 335
- 0882-302, P1019, SI-22, 3層, 110.2g, 胴部, 1/8, 0, 0, 0, 0, 0, LR横位, 結節LR横位, 中切, 0, 0, 0
- 0882-303, P666-P872-2-5-P882-5-6-P885, SI-22, 3層, 288.0g, 胴部・底部, 1/1, 0, 0, 0, 0, 0, LR横位, 中切, 深鉢, 0, 69
- 0882-304, FX, SI-22, 3層, 1542.8g, 胴部・底部, 1/1, 0, 0, 0, 0, 0, LR横位, 中切, 深鉢, 0, 79
- 0882-305, P883-3-8-11-12-P23, SI-22, 3層, 280.3g, 胴部, 1/4, 0, 0, 0, 0, 0, LR横位, 中切, 0, 0, 324
- 0882-306, P883-1-PX-PX-1-PX, SI-22, 1-3層, 166.0g, 口唇部・胴部, 1/8, 0, 0, 0, 0, 0, 0, LR結束1層横位, 中切, 深鉢, 0, 476
- 0882-307, P706-P707, SI-22, 1層, 199.0g, 胴部, 0, 0, 0, 0, 0, 0, LR横位, 結節LR横位, 中切, 深鉢, 0, 467
- 0882-308, P676, SI-22, 3層, 90.6g, 胴部, 0, 0, 0, 0, 0, 0, LR横位, 結節LR横位, 中切, 0, 0, 0
- 0882-309, P883-6, SI-22, 3層, 61.7g, 胴部, 0, 0, 0, 0, 0, 0, LR横位, 結節LR横位, 中切, 0, 0, 0
- 0882-310, P897, SI-22, 3層, 83.3g, 胴部, 1/8, 0, 0, 0, 0, 0, LR横位, 結節LR横位, 中切, 0, 0, 0
- 0882-311, P777, SI-22, 3層, 181.7g, 胴部, 0, 0, 0, 0, 0, 0, LR横位, 中切, 0, 0, 0
- 0882-312, P830, SI-22, 4層, 105.9g, 胴部, 1/8, 0, 0, 0, 0, 0, LR横位, 中切, 深鉢, 0, 0
- 0882-313, P826, SI-22, 3層, 161.1g, 胴部, 0, 0, 0, 0, 0, 0, LR横位, 中切, 0, 0, 0
- 0882-314, P964-1-P964-3-P964-4, SI-22, 3層, 145.4g, 胴部, 1/8, 0, 0, 0, 0, 0, LR結束1層横位, 中切, 0, 0, 114
- 0882-315, P996, SI-22, 3層, 88.6g, 胴部・底部, 1/4, 0, 0, 0, 0, 0, LR横位, 中切, 深鉢, 0, 0
- 0882-316, P959+P660-P882+P883-5層, SI-22, 3, 422.2g, 胴部・底部, 3/4, 0, 0, 0, 0, 0, 0, LR結束1層横位, 中切, 0, 0, 320
- 0882-317, P128-P129-P977, SI-22, 1-3, 103.7g, 胴部・底部, 1/4, 0, 0, 0, 0, 0, 0, LR横位, 0, 深鉢, 0, 358
- 0882-318, P850-1, SI-22, 3層, 130.5g, 胴部, 1/4, 0, 0, 0, 0, 0, RLK横位, 中切, 深鉢, 0, 0
- 0882-319, P887-1, SI-22, 3層, 500.8g, 胴部, 1/3, 0, 0, 0, 0, 0, 0, RLK横位, 前末~中切, 0, 0, 494
- 0882-320, P884-4, SI-22, 3層, 101.8g, 胴部, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, RLK横位, 中切, 深鉢, 0, 0
- 0882-321, P887-2, SI-22, 3層, 115.9g, 胴部, 1/4, 0, 0, 0, 0, 0, 0, RLK横位, 中切, 0, 0, 494
- 0882-322, P937, SI-22, 3層, 75.6g, 胴部, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, RLK横位, 結節LR横位, 0, 0, 0
- 0882-323, P498-2-P500-2-P565-P568, SI-17, A-1-2層, 29.3g, 胴部, 1/8, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 羽状隆帯圧痕, 中切, 深鉢, 0, 454
- 0884-324, P1015-4-5-P1038-1-PX, SI-22, 3層, 1573.6g, 胴部, 1/1, 0, 0, 0, 0, 0, 0, RLK横位, 結節LR横位, 中切, 深鉢, 0, 77
- 0884-325, P897-1, SI-22, 3層, 223.6g, 胴部, 1/8, 0, 0, 0, 0, 0, 0, RLK横位, 結節LR横位, 中切, 深鉢, 0, 0
- 0884-326, P1013-P1038-PX, SI-22, 3層, 182.2g, 胴部・底部, 1/8, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, RLK横位, 中切, 深鉢, 0, 356
- 0884-327, P310-1-2-3, SI-22, 2層, 23.6g, 口唇部・胴部, 0, 8個, 0, LR横位, 0, 0, 0, 中切, 深鉢, 0, 289
- 0884-328, P298-1-2-8-11-12-P13-P345-2-3-7, SI-22, 1-2層, 869.1g, 胴部, 1/1, 2個, 隆帯上LR側面圧痕, 波頂部から垂下する隆帯上LR側面圧痕・LR側面圧痕による平行線文・網文に網文, 隆帯上LR側面圧痕, 方形, LR結束1層横位, 中切, 深鉢, 0, 8
- 0884-329, P150-P154-P609-PX, SI-22, 1層, 1282.2g, 口唇部・胴部, 1/8, 8個, 隆帯上LR側面圧痕, 波頂部から垂下する2条の隆帯 LR側面圧痕による平行線文・網文に網文・C字文・網文文, 隆帯上LR側面圧痕, 方形, LR結束1層横位, 結節LR横位, 中切, 0, 0, 112
- 0885-330, P1032-1, SI-22, 2層, 122.0g, 口唇部・胴部, 0, 4個, 隆帯上LR側面圧痕, 波頂部から垂下する2条の隆帯上LR側面圧痕 R側面圧痕による山形平行線文, 0, 段差, 0, 中切, 0, 0, 0
- 0885-331, P288-1-307-1-332-333-1, SI-22, 2層, 269.4g, 口唇部・胴部, 1/3, 隆帯上LR側面圧痕, 口唇部下7個右結付 RLK横位, RLK横位, 無し, RLK横位, 中切, 深鉢, 0, 314
- 0885-332, P288-1-P907-1-P332-P333-1-P262, SI-22, 2層, 75.3g, 胴部, 1/3, 0, 0, 0, 0, 0, 0, LR横位, 中切, 0, 0, 0
- 0885-333, P281, SI-22, 2層, 55.5g, 胴部, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, LR横位, 中切, 0, 0, 0
- 0885-334, P989, SI-22, 2層, 80.9g, 胴部, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, LR結節付横位, 中切, 0, 0, 0
- 0885-335, P149+P258, SI-22, 1-2層, 507.8g, 胴部, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, LR結束1層横位, 中切, 0, 0, 112
- 0885-336, P1031, SI-22, 2層, 102.1g, 胴部, 1/8, 0, 0, 0, 0, 0, 0, LR横位, 結節LR横位, 中切, 深鉢, 0, 0
- 0885-337, P95, SI-22, 1層, 169.2g, 口唇部・胴部, 1/8, 0, 隆帯上LR側面圧痕, 口唇部に平行する隆帯上LR側面圧痕 (LR二条一組)側面圧痕による平行線文・網文に網文, 隆帯上LR側面圧痕, 丸, 0, 中切, 0, 0, 0
- 0885-338, P265-P266-P267-P269-1, SI-22, 2層, 467.9g, 胴部, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, LR横位, 結節LR横位, 中切, 深鉢, 0, 317
- 0886-339, SI-22P112-P113-SK-293P118, SI-22-SK-293, 1-6層, 1010.0g, 口唇部・胴部, 1/8, 0, 隆帯上LR側面圧痕, 隆帯による三角形区画 隆帯上LR側面圧痕 R側面圧痕による平行線文, 隆帯上LR側面圧痕, 方形, RLK横位, 中切, 深鉢, 0, 466
- 0886-340, P29, SI-22, 1層, 42.0g, 口唇部・胴部, 0, 0, 隆帯上LR側面圧痕, LR側面圧痕による平行線文, 隆帯上LR側面圧痕, 方形, 0, 中切, 深鉢, 0, 0
- 0886-341, P8-1-P54-P57, SI-22, 1層, 132.4g, 口唇部・胴部, 0, 0, 隆帯上LR側面圧痕, 口唇部点下隆帯上LR側面圧痕 LR側面圧痕による平行線文, 隆帯上竹管状工具による網文, 方形, RLK横位, 結節LR横位, 中切, 深鉢, 0, 281
- 0886-342, P811, SI-22, 1層, 74.6g, 胴部, 0, 0, LR側面圧痕, 隆帯上LR側面圧痕による平行線文, 隆帯上LR側面圧痕, 三角形, RLK結節付横位, 中切, 深鉢, 0, 0
- 0886-343, P53, SI-22, 1層, 288.2g, 口唇部・口縁部, 1/8, 5個, 隆帯上LR側面圧痕, 波頂部下に機状隆帯粘り付け 波頂部下垂下する2条の隆帯口唇部に平行する隆帯上LR側面圧痕・LR側面圧痕による平行線文, 隆帯上半流竹管状工具による網文, 方形, 0, 0, 0, 0, 0, 0
- 0886-345, P504-P626-P628-P634-2-P760, SI-22, 1層, 183.4g, 口唇部・胴部, 0, 8個, 隆帯上LR側面圧痕, LR側面圧痕による山形平行線文 ボタン状粘り付け, 隆帯上LR側面圧痕, 方形, RLK横位, 中切, 0, 0, 309
- 0886-346, P771-6, SI-22, 1層, 33.0g, 口唇部・口縁部, 0, 0, 隆帯上LR側面圧痕, R側面圧痕による平行線文, 0, 0, 0, 中切, 0, 0, 0
- 0886-347, P261-2, SI-22, 1層, 102.0g, 口唇部・胴部, 0, 0, 0, 垂下する2条の隆帯上LR側面圧痕 LR側面圧痕による平行線文・網文, 隆帯上LR側面圧痕, 方形, 0, 中切, 0, 0, 0
- 0886-348, SI-22P179-2-P339-2-P336-1-P336-4-SK-293P31-P64, SI-22-SK-293, 1-2-8層, 385.1g, 完形, 1/1, 0, LR側面圧痕, LR側面圧痕横位, 隆帯上LR側面圧痕, 方形, 隆帯 結節LR横位, 中切, 0, 0, 6
- 0886-349, P843-1, SI-22, 1層, 149, 口唇部・底部, 1/1, 0, 0, R側面圧痕による平行線文, 隆帯上LR側面圧痕, 方形, LR横位, 中切, 鉢, 0, 10

- 図87-350, P580, SI-22, 1層, 56.1g, 口唇部・胴部, 0, 0, 0, 隆帯上LR側面圧痕, LR側面圧痕による平行線文間に鋸歯文, 隆帯上LR側面圧痕, 方形, 0, 0, 中初, 0, 0, 0
 図87-351, P593, SI-22, 1層, 119.1g, 口唇部・胴部, 0, 0, 0, R側面圧痕, R側面圧痕による平行線文等に鋸歯文, 隆帯上LR側面圧痕, 方形, 0, 中初, 0, 0, 0, 0
 図87-352, P598, SI-22, 1層, 95.1g, 口唇部・胴部, 0, 0, 0, 隆帯上LR側面圧痕, LR側面圧痕による山形平行線文間に複合鋸歯文, 隆帯上LR側面圧痕, 方形, LR横位結節状LR横位, 中初, 0, 0, 0
 図87-353, P73, SI 22, 1層, 114.0g, 口唇部・胴部, 0, 0, 0, 隆帯上LR側面圧痕, 波頭部から垂下する隆帯 下端に結状突起付け LR側面圧痕による平行線文間に鋸歯文, 隆帯上LR側面圧痕, 丸, LR横位, 中初, 0, 0, 0
 図87-354, P372-P454-1-2-P502-P507-P508-P631-P754, SI-22, 1層, 822.1g, 口唇部・胴部, 1/1, 5層, 隆帯上LR側面圧痕, 口唇部から垂下する隆帯突起によるLR側面圧痕による鋸歯文, R側面圧痕による平行線文間にC字状文, 隆帯上LR側面圧痕, 丸, LR横位, 中初, 深鉢, 0, 7
 図87-355, P623, SI-22, 1層, 56.5g, 口唇部・胴部, 0, 0, 0, LR側面圧痕による鋸歯文, 隆帯上LR側面圧痕, 方形, 0段多生LR横位, 0, 0, 0, 309
 図87-356, P47-P218-1-P218-2, SI-22, 1層, 104.4g, 胴部・胴部, 0, 0, 0, 0, 隆帯上LR側面圧痕, 丸, LR横位, 中初, 深鉢, 0, 302
 図87-357, P231, SI-22, 1層, 81.0g, 口唇部・胴部, 0, 0, 0, 0, 垂下する2条の隆帯上LR側面圧痕 下端に溝状突起付け, 隆帯上LR側面圧痕, 方形, LR横位結節状LR横位, 中初, 0, 0, 0
 図87-358, P632, SI-22, 1層, 41.3g, 胴部・胴部, 0, 0, 0, 0, 隆帯上LR側面圧痕, 丸, LR横位, 中初, 0, 0, 0
 図87-359, P47-P218-1-2-P231-P231-P632-P632-P771-2, SI-22, 1, 59.8g, 口唇部・胴部, 1/8, 0, 0, 0, R側面圧痕による平行線文, R側面圧痕による鋸歯文, LR横位, 中初, 0, 0, 0
 図87-360, P88-1-2-P90, SI-22, 1層, 41.4g, 口唇部・胴部, 0, 0, 0, 0, R側面圧痕による平行線文, 隆帯上LR側面圧痕, 方形, 0, 中初, 0, 0, 285
 図87-361, P771-5, SI-22, 1層, 49.5g, 口唇部・胴部, 0, 0, 0, 0, LR側面圧痕による平行線文下に鋸歯文, 隆帯上LR側面圧痕, 方形, 胴部LR横位結節状LR横位, 中初, 0, 0, 0
 図87-362, PX, SI-22, 1層, 594.5g, 口唇部・胴部, 0, 0, 0, 0, 逆C字状隆帯 LR側面圧痕による構内山形 山形平行線文間に竹筒刺突, 0, 無し, LR横位, 中初, 深鉢, 0, 111
 図87-363, P395-2-P420-2, SI-22, 1層, 72.2g, 口唇部・胴部, 0, 0, 0, 0, LR側面圧痕による平行線文, 0, 0, LLR横位, 中初, 0, 0, 282
 図87-364, P170-P171, SI-22, 1層, 45.8g, 口唇部・胴部, 0, 0, 0, 隆帯上LR横位, LR横位, 0, 無し, LR横位, 中初, 深鉢, 0, 286
 図87-365, P69, SI-22, 1, 34.0g, 口唇部・胴部, 0, 0, 0, 隆帯上LR側面圧痕, LR側面圧痕による山形平行線文間にC字状隆帯, 0, 0, 0, 0, 中初, 0, 0, 0
 図87-366, P109-P110, SI-22, 1層, 66.9g, 口唇部・胴部, 0, 8層, 隆帯上LR側面圧痕, 波頭部から垂下する2条の隆帯 下端にボタン状突起付け LR側面圧痕による折り返し平行線文, 0, 0, 0, 0, 0, 299
 図87-367, P509-P634-1, SI-22, 1層, 46.8g, 口唇部・胴部, 0, 0, 0, 隆帯上LR側面圧痕, LR側面圧痕による複合鋸歯文, 0, 0, 0, 中初, 0, 0, 298
 図87-368, P105-1-P108, SI-22, 1層, 47.4g, 口唇部・胴部, 0, 0, 0, 隆帯上LR側面圧痕, 波頭部から垂下する隆帯 LR側面圧痕による山形平行線文, 0, 0, 0, 中初, 0, 0, 295
 図87-369, P442-P529, SI-22, 1層, 80.2g, 口唇部・胴部, 0, 0, 0, LR側面圧痕, LR側面圧痕による平行線文と縦位鋸歯文, 0, 0, 0, 中初, 0, 0, 300
 図87-370, P697-P701, SI-22, 1層, 51.7g, 口唇部・胴部, 0, 0, 隆帯上LR側面圧痕, LR側面圧痕による平行線文間にC字状文, 0, 0, 0, 0, 0, 288
 図88-371, P416-P438, SI-22, 1層, 27.2g, 口唇部・胴部, 0, 0, 隆帯上LR側面圧痕, LR側面圧痕による平行線文, 隆帯上LR側面圧痕, 方形, 0, 0, 0, 0, 290
 図88-372, P121, SI-22, 1層, 35.8g, 口唇部・胴部, 0, 15層, LR側面圧痕, 波頭部から垂下する隆帯上LR側面圧痕 LR側面圧痕による平行線文, 隆帯上LR側面圧痕による逆C字状文, 0, 0, 0, 0
 図88-373, P65-P66, SI-22, 1層, 56.8g, 口唇部・胴部, 0, 5層, 隆帯上LR側面圧痕, 波頭部から垂下する隆帯 LR側面圧痕による山形平行線文間にC字状文, 0, 0, 0, 0, 0, 305
 図88-374, P699, SI-22, 1層, 86.9g, 口唇部・胴部, 0, 5層, 隆帯上LR側面圧痕, 垂下する2条の隆帯上LR側面圧痕 LR側面圧痕による山形平行線文間にC字状文, 0, 0, 0, 中初, 0, 0, 0
 図88-375, P718, SI-22, 1層, 76.7g, 口唇部・胴部, 0, 1層, 隆帯上LR側面圧痕, LR側面圧痕, 0, 0, 0, 中初, 0, 0, 0
 図88-376, P6, SI-22, 1層, 18.7g, 口唇部・胴部, 0, 0, 隆帯上LR側面圧痕, R側面圧痕による鋸歯文, 0, 0, 0, 中初, 0, 0, 0
 図88-377, P771-8, SI-22, 1層, 26.7g, 口唇部・胴部, 0, 0, 隆帯上LR側面圧痕, R側面圧痕による平行線文, 0, 0, 0, 中初, 0, 0, 0
 図88-378, P771-1, SI-22, 1層, 111.0g, 口唇部・胴部, 1/4, 0, 隆帯上LR側面圧痕, R側面圧痕による平行線文, 0, 0, 0, 中初, 0, 0, 0
 図88-379, P461, SI-22, 1層, 52.1g, 口唇部・胴部, 0, 16層, 0, 突起部から垂下する2条の隆帯 LR横位, LR横位, 0, 0, 中初, 0, 0, 0
 図88-380, P60, SI-22, 1層, 92.1g, 口唇部・胴部, 0, 0, 隆帯上LR側面圧痕, LR横位, LR横位, 無し, LR横位, 中初, 0, 0, 293
 図88-381, P2-P3, SI-22, 1層, 50.2g, 口唇部・胴部, 0, 0, 隆帯上LR側面圧痕, LR横位, LR横位, 無し, LR横位, 中初, 0, 0, 291
 図88-382, P340-P473-P574, SI-22, 1層, 112.3g, 口唇部・胴部, 0, 0, LR横位, LR横位, LR横位, 無し, LR横位, 中初, 深鉢, 0, 290
 図88-383, P196, SI-22, 1層, 27.5g, 口唇部・胴部, 0, 0, 隆帯上LR側面圧痕, LR横位 結節状LR横位, 0, 0, 0, 中初, 0, 0, 0
 図88-384, P651, SI-22, 1層, 49.1g, 口唇部・胴部, 0, 0, 0, LR横位, 0, 0, 0, LR横位, 無し, LR横位, 中初, 0, 0, 0
 図88-385, P515-1-P610, SI-22, 1層, 120.3g, 口唇部・胴部, 0, 0, 0, 上面LR面取, 結節状LR横位, 無し, 結節状LR横位, 中初, 深鉢, 0, 307
 図88-386, SI 22/P377-P407-SK-292P51, SI22-SK-292, SI22-1層-SK292-1層, 53.7g, 口唇部・胴部, 1/4, 0, 棒状工具による斜め下からの刺突, 棒状1層状刺突, 側面棒1層状刺突, 無し, 斜部棒1層状刺突, 前未～中初, 深鉢, 0, 447
 図88-387, P43-P237-2-P240-1, SI-22, 1層, 119.0g, 口唇部・胴部, 1/3, 0, 隆帯上LR横位, LR横位, 無し, LR横位, 前未～中初, 0, 0, 115
 図88-388, P587, SI-22, 1層, 65.2g, 胴部, 0, 0, 0, 0, 0, 0, LR横位, 中初, 0, 0, 0
 図88-389, P272, SI-22, 1層, 44.4g, 胴部, 0, 0, 0, 0, 0, 0, LR横位, 中初, 0, 0, 0
 図88-390, P582, SI-22, 1層, 108.3g, 胴部, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, LR横位, 中初, 深鉢, 0, 0
 図88-391, P650-1, SI-22, 1層, 102.2g, 胴部, 0, 0, 0, 0, 0, 0, LR横位, 中初, 深鉢, 0, 0
 図88-392, P771-3, SI-22, 1層, 41.5g, 胴部, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, LR横位, 中初, 0, 0, 0
 図88-393, P578-1, SI-22, 1層, 39.4g, 胴部, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, LR横位, 中初, 0, 0, 0
 図89-394, P807, SI-22, 1層, 217.6g, 胴部, 1/8, 0, 0, 0, 0, 0, LR横位, 中初, 0, 0, 0
 図89-395, P584-1, SI-22, 1層, 119.9g, 胴部, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, LR側面1層横位, 中初, 0, 0, 0
 図89-396, P225, SI-22, 1層, 56.7g, 胴部, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, LR横位, 中初, 深鉢, 0, 0
 図89-397, P1017-3, SI-22, 1層, 765.0g, 胴部, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, LR横位 結節状LR横位・縦位, 中初, 深鉢, 0, 111
 図89-398, P115, SI-22, 1層, 202.0g, 胴部, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, LR横位 結節状LR横位, 中初, 深鉢, 0, 0
 図89-399, P771-4, SI-22, 1層, 101.6g, 胴部, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, LR横位 結節状LR横位, 中初, 深鉢, 0, 0
 図89-400, P594, SI-22, 1層, 197.7g, 胴部, 1/4, 0, 0, 0, 0, 0, 0, LR横位 結節状LR横位, 中初, 深鉢, 0, 0
 図89-401, P31-P223-1-2-P224-P466, SI-22, 1層, 85.1g, 胴部, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 羽状結節1層横位 結節状LR横位, 中初, 深鉢, 0, 339

- 図95-480, P30965, SK-235, 4層, 11.8g, 扉部・柄取, 1/8, 0, 0, 0, 陸帯とL形側面圧による逆U字状文, 方形, L形横位, 中初, 0, 0, 0
- 図95-482, P30813-P30824-1-P30824-2-P30985, SK-236, 2-12層, 133.3g, 口唇部・柄取, 1/2, 0, 0, 陸帯とL形横位, R形横位 結節横位, R形横位 結節横位, 無し, R形横位 結節横位, 中初, 深鉢, 0, 364
- 図95-483, P1-20, SK-236, 3層, 466.4g, 柄取・底蓋, 1/1, 0, 0, 0, 0, 0, 0, L形横位, 中初, 0, 0, 0, 487
- 図95-484, P1-2, SK-236, 3層, 48.2g, 柄取, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, L形横位, 中初, 0, 0, 0
- 図95-485, P1-3, SK-236, 3層, 43.6g, 柄取, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, L形横位, 中初, 0, 0, 0
- 図95-486, P30992, SK-236, 3層, 11.4g, 柄取, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 糸状縦文, 前末~中初, 0, 0, 0
- 図95-487, P1-4, SK-236, 3層, 62.2g, 柄取, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, L形横位, 中初, 0, 0, 0
- 図95-489, P30834-1, SK-237, 10層, 30.5g, 柄取, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, L形横位, 中初, 0, 0, 0
- 図95-490, P30835-1, SK-237, 10層, 24.5g, 柄部・柄取, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 陸帯と上縁1線R形底, 方形, R形縦位, 中初, 深鉢, 0, 0
- 図95-491, P31020, SK-237, 10層, 18.6g, 口縁部, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 単純1線R形側面圧による縦線横文, 0, 0, 0, 中初, 0, 0, 0
- 図95-492, P30847, SK-237, 10層, 13.3g, 柄部・底蓋, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 単純1線R形L形横位, 前末末, 0, 0, 0
- 図95-493, P30812, SK-237, 8層, 45.9g, 柄取, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 糸状縦文1種横位付加条付, 0, 0, 0, 前末末, 0, 0, 0
- 図95-494, P30846, SK-237, 10層, 57.2g, 柄部, 1/8, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 糸状縦文1種横位, 中初, 0, 0, 0
- 図95-495, P30835-1, SK-237, 10層, 266.2g, 柄部・底蓋, 3/4, 0, 0, 0, 0, 0, 0, L形横位, 中初, 0, 0, 0, 366
- 図95-496, P16, SK-239, 29層, 60.2g, 柄取, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, L形横位, 中初, 0, 0, 0
- 図95-497, P14, SK-239, 12層, 94.2g, 柄取, 1/8, 0, 0, 0, 0, 0, 0, L形横位, 中初, 0, 0, 0
- 図96-498, P2, SK-240A, 18層, 33.3g, 柄取, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, R形横位, 中初, 0, 0, 0
- 図96-499, P1, SK-240A, 9層, 32.8g, 柄取, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, R形横位, 中初, 0, 0, 0
- 図96-500, P1, SK-240B, 5層, 34.9g, 口縁部・柄取, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 陸帯, R形横位, 前末~中初, 0, 0, 0, 0
- 図96-501, P4, SK-240A, 5層, 5.6g, 柄取, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 単純1線R形横位, 前末~中初, 0, 0, 0, 444
- 図96-503, P30883, SK-241, 7層, 53.6g, 口縁部, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, L形側面圧, 0, 0, 0, 中初, 0, 0, 0
- 図96-504, P30984, SK-241, 4層, 49.6g, 口唇部・口縁部, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 陸帯とL形側面圧, 口唇部に平行する陸帯とL形側面圧, L形側面圧による山形平行横文, 0, 0, 0, 中初, 0, 0, 0
- 図96-505, P31058, SK-241, 6層, 13.6g, 柄取, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, R形横位・柄取, 中初, 0, 0, 0
- 図96-506, P30887, SK-241, 1層, 20.2g, 柄取, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, L形横位, 中初, 0, 0, 0
- 図96-510, P2-P31025-2-P31082, SK-243, 11-11'15層, 511.8g, 柄取, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 多輪線糸状R形横位, 中初, 0, 0, 0
- 図96-511, P31025-1, SK-243, 11層, 58.4g, 口縁部・柄取, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, L形側面圧による平行横文, 陸帯とL形側面圧, 方形, L形横位, 中初, 0, 0, 0
- 図96-512, P30867-1-P30870, SK-244層, 1, 82.9g, 口唇部・柄取, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 陸帯とL形側面圧, 波底部から垂下する縦状の陸帯 R形側面圧による平行線文と縦横文, 陸帯とL形側面圧, 波状陸帯とL形側面圧, 方形, 0, 中初, 0, 0, 0, 367
- 図96-513, P30879, SK-244, 1-4層, 31.0g, 口唇部・口縁部, 0, 14線, 陸帯とL形側面圧, L形側面圧, 0, 0, 0, 中初, 0, 0, 0
- 図96-514, P30865-P30869-P30871-P30872-P30873, SK-244, 1-2-4層, 688.0g, 口唇部・柄取, 1/8, 8層, 陸帯と単純1線R形底, 波底部から垂下する鳥背 波底部にC字状陸帯 単純1線R形底による平行縦文間にC字状文, 陸帯と上縁竹管状工具による刺突, 方形, L形R形前向き反照, 中初, 深鉢, 0, 368
- 図97-515, P31013, SK-244層, 5, 74.7g, 口唇部・柄取, 1/8, 3層, 陸帯とL形側面圧, 波底部から垂下する縦状横文 L形側面圧による山形平行横文間に縦状横文, 陸帯とL形側面圧, 方形, 0, 0, 中初, 0, 0, 0
- 図97-516, P30859, SK-244, 4層, 71.1g, 口唇部・口縁部, 0, 0, 0, 陸帯とL形側面圧, L形側面圧による平行横文, 陸帯とL形側面圧, 0, 0, 中初, 0, 0, 0
- 図97-517, P30880, SK-244, 4層, 44.7g, 口唇部・口縁部, 0, 0, 0, 陸帯とL形側面圧, 口唇部から平行する陸帯とL形側面圧, L形側面圧による山形平行横文, 0, 0, 0, 中初, 0, 0, 0
- 図97-519, P35, SK-245, 1層, 456.4g, 口唇部・柄取, 1/8, 0, 陸帯とL形側面圧, 陸帯とL形側面圧 L形側面圧による山形平行横文 縦位の平行横文, 陸帯とL形側面圧, 方形, L形横位, 中初, 深鉢, 0, 482
- 図97-520, P8-P39-P42-1-P52-1, SK-245, 1-2'層, 432.2g, 口縁部・柄取, 1/1, 0, 陸帯とL形側面圧, L形側面圧による平行縦文間に縦横文, 陸帯とL形側面圧, 爪形文, 方形, R形横位 結節横位, 中初, 深鉢, 0, 118
- 図97-521, SK-245P37-1-SK-293P137-PX, SK-245-293, 1-4層, 470.7g, 柄取, 1/1, 0, 0, 0, 0, 0, L形横位 結節L形横位, 中初, 深鉢, 0, 118
- 図97-522, SK-245P45-1-2-3-4-P46-P47-SK-247P40-P42-P81-P197, SK-245-247, SK-245 1層-SK-247 1-7-8層, 1624.4g, 完形, 1/1, 0, 0, R形横位, R形横位, 縦文, R形横位, 中初, 深鉢, 0, 4
- 図98-523, P10-1, SK-245, 2層, 38.5g, 口唇部・口縁部, 0, 0, 0, 陸帯とL形側面圧による平行横文 L形横位, 0, 0, 0, 中初, 0, 0, 0
- 図98-524, P48, SK-245, 2層, 52.0g, 口唇部・口縁部, 0, 17線, 陸帯とL形側面圧, 突起部から垂下する陸帯とL形側面圧 L形側面圧による平行横文と縦横文, 0, 0, 0, 中初, 0, 0, 0
- 図98-525, P1, SK-245, 1層, 116.7g, 柄取, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, L形横位 結節(L形横位), 中初, 深鉢, 0, 0
- 図98-526, P51, SK-245, 2層, 46.4g, 口唇部・口縁部, 0, 0, 0, R側面圧, R側面圧による平行横文, 0, 0, 0, 中初, 0, 0, 0
- 図98-527, P3, SK-245, 1層, 39.9g, 口縁部・柄取, 0, 0, 0, 縦位の陸帯とL形側面圧, 陸帯とL形側面圧, 0, L形横位, 中初, 0, 0, 0
- 図98-528, P43, SK-245, 1層, 26.6g, 柄取, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, L形横位, 中初, 0, 0, 0
- 図98-529, P31068-P31069, SK-246, 4-7層, 92.4g, 口縁部・柄取, 0, 0, 0, L形側面圧による平行横文 爪形文, 陸帯とL形側面圧 爪形文, 方形, L形横位, 中初, 0, 0, 371
- 図98-530, P9-P10, SK-246, 15層, 155.9g, 柄取, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, L形横位, 中初, 0, 0, 0, 372
- 図98-531, P7-P12-P18, SK-246, 4-5層, 90.9g, 口縁部, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 陸帯とL形側面圧, R側面圧による平行横文間に縦横文, 0, 0, 0, 中初, 0, 0, 0, 370
- 図98-532, P1, SK-246, 1層, 50.4g, 口縁部・柄取, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, L形側面圧, 中初, 0, 0, 0
- 図98-533, P8, SK-246, 5層, 28.1g, 口唇部・口縁部, 0, 0, 0, 陸帯とL形側面圧, R側面圧による平行横文, 0, 0, 0, 中初, 0, 0, 0
- 図98-534, P13, SK-246, 4層, 28.1g, 口唇部・口縁部, 0, 0, 0, 陸帯とL形側面圧, R側面圧による平行横文, 0, 0, 0, 中初, 0, 0, 0
- 図98-535, P11, SK-246, 4層, 11.5g, 口縁部, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, R側面圧による平行縦文間に逆U字状文, 中初, 0, 0, 0
- 図98-536, P31003, SK-246, 1層, 12.8g, 口縁部・柄取, 0, 0, 0, L形側面圧による平行横文 下端に粘土顆粒り付, 陸帯とL形側面圧, 丸, 0, 中初, 0, 0, 0
- 図98-537, P4, SK-246, 2層, 34.7g, 柄取, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, R形横位, 中初, 0, 0, 0
- 図98-538, P31037, SK-246, 4層, 26.9g, 柄取, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, R形横位, 中初, 0, 0, 0
- 図98-539, P31011, SK-246, 3層, 13.3g, 口唇部・柄取, 0, 0, 0, 陸帯とL形側面圧, R側面圧による平行横文, 陸帯とL形側面圧, 方形, 0, 中初, 0, 0, 0

- 図98-546, P203, SK-247, 10層, 62.5g, 口唇部・胴部, 0, 0, 0, R側面圧痕による平行線文, 0, 0, 方形, LR横位, 中初, 0, 0, 0
- 図98-547, P198, SK-247, 8層, 19.9g, 口唇部・口縁部, 0, 8級, 隆帯上R側面圧痕, 隆帯下する2条の隆帯 R側面圧痕による山形平行線文, 0, 0, 0, 中初, 0, 0, 0
- 図98-548, P188-1, SK-247, 8層, 329.2g, 口縁部・胴部, 1/8, 8級, 隆帯上R側面圧痕, 波頂部から垂下する2条の隆帯上R側面圧痕 R側面圧痕による山形平行線文間に縦位短線文, 隆帯上R側面圧痕, 方形, 0, 0, 0, 中初, 深鉢, 0, 0
- 図98-549, P188-2, SK-247, 8層, 37.9g, 胴部, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, LR横位, 中初, 0, 0, 0, 0
- 図99-550, P6-P216-P232-P234-1-2-P235-P236-P246-P296-P300-P306-1-2, SK-247, 5-7-8層, 377.3g, 完形, 1/1, 0, LR側面圧痕, 1条のLR側面圧痕, 0, 無し, LR横位, 中初, 深鉢, 0, 5
- 図99-551, P50-P52-P89-P116-P158-P192-P200-P213-P215-P219-P255-P272-P278, SK-247, 5-7-8層, 257.5g, 口唇部・胴部, 1/4, 8級, 平蓋竹管による刺突, 平蓋竹管刺突, 2列の平蓋竹管刺突間に2条の隆帯, 隆帯上平蓋竹管刺突, 丸, 垂下する波状隆帯, 平蓋竹管刺突による曲線文 平蓋1期CR横位, 中初, 鉢, 有, 126
- 図99-552, P43-1-P43-4, SK-247, 8層, 382.9g, 口縁部・胴部, 0, 0, 隆帯上R側面圧痕, R側面圧痕による平行線文, LR側面圧痕短線文・平行線文, 隆帯上LR側面圧痕, 方形, LR横位, 中初, 深鉢, 0, 382
- 図99-553, P41-P305, SK-247, 8層, 330.7g, 口縁部, 0, 3級, 隆帯上LR側面圧痕, 波底部から垂下する2本の隆帯 単期CR圧痕による山形平行線文間に縦位短線文 下端に逆U字状文, 隆帯上R側1個LR圧痕, 方形, 隆帯CR横位・縦位, 中初, 深鉢, 0, 351
- 図99-554, P290-1-P298, SK-247, 8層, 193.1g, 胴部, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, LR横位, 隆帯CR横位, 縦位, 中初, 深鉢, 0, 386
- 図99-555, P290-1-2-P299, SK-247, 8層, 306.1g, 口縁部・胴部, 1/3, 0, 0, 垂下する条の隆帯 単期1期CR圧痕による平行線文, 隆帯上R側1個LR圧痕, 方形, 隆帯CR横位・縦位, LR横位, 中初, 0, 389
- 図99-556, P317, SK-247, 8層, 61.0g, 胴部, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, LR横位, 隆帯CR横位・縦位, 中初, 0, 0, 0
- 図99-557, P307, SK-247, 8層, 51.0g, 胴部, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, RLR横位, 中初, 0, 0, 0
- 図99-558, P311-1, SK-247, 8層, 157.6g, 胴部, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, LR横位, 隆帯CR横位・縦位, 中初, 0, 0, 0
- 図99-559, P332, SK-247, 8層, 63.9g, 口唇部・胴部, 0, 8級, 隆帯上LR側面圧痕, 波頂部から垂下する2条の隆帯上R側面圧痕 R側面圧痕による山形平行線文, 0, 0, 0, 中初, 0, 0, 0
- 図99-560, P297-3, SK-247, 8層, 129.5g, 胴部, 1/8, 0, 0, 0, 0, 0, LR横位, 中初, 0, 0, 0
- 図99-561, P190, SK-247, 8層, 62.4g, 口縁部・胴部, 0, 0, 0, 垂下する2条の隆帯上LR側面圧痕, LR側面圧痕による平行線文, 0, 0, 0, 中初, 0, 0, 0
- 図100-562, P289, SK-247, 8層, 188.4g, 胴部・底版, 1/4, 0, 0, 0, 0, 0, LR横位, 隆帯CR横位, 中初, 0, 0, 0
- 図100-563, P322, SK-247, 8層, 44.8g, 胴部, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, RLR横位, 中初, 0, 0, 0
- 図100-564, P247-1-P285-P304-P315, SK-247, 7-8-9層, 299.2g, 口唇部・胴部, 1/3, 3級, 隆帯上R側面圧痕, 隆帯LR横位, LR横位, 隆帯上LR側面圧痕による逆U字状文, 方形, 0, 中初, 深鉢, 0, 127
- 図100-565, P311-2-P312-P314-P318, SK-247, 8層, 306.1g, 胴部, 1/4, 0, 0, 0, 0, 0, LR横位, 隆帯CR横位・縦位, 中初, 0, 0, 388
- 図100-566, P163-P164-P167-P168-P172-P174-P176-P178-1-P182-P221-P224-P226-P233-P241-P249-P252-P261, SK-247, 7-8層, 830.1g, 胴部・底版, 1/1, 0, 0, 0, 0, 0, 隆帯上R側1個LR+R横位, 前末・中初, 0, 0, 88
- 図100-567, P49-P202-P250-P251-1, SK-247, 7-10層, 282.1g, 口唇部・胴部, 1/8, 0, 隆帯上R側面圧痕, LR側面圧痕による隅内区画区間に縦位短線文, LR側面圧痕短線文, 隆帯, 羽状条1条LR+R横位, 隆帯R横位, 中初, 0, 0, 457
- 図100-568, P189, SK-247, 7層, 42.0g, 口唇部・口縁部, 0, 0, 隆帯上R側面圧痕, R側面圧痕による平行線文, 0, 0, 0, 中初, 0, 0, 0
- 図100-569, P159, SK-247, 7層, 36.9g, 口唇部・胴部, 0, 0, 0, LR側面圧痕による平行線文間に縦位短線文, LR側面圧痕短線文, 隆帯, 0, 中初, 0, 0, 0
- 図100-570, P229-P230, SK-247, 7層, 355.6g, 口唇部・胴部, 1/8, 0, 隆帯上R側面圧痕, 隆帯上LR側面圧痕, 隆帯上LR側面圧痕による山形平行線文 隅内に縦位短線文, LR側面圧痕短線文, 隆帯, 羽状条1条LR+R横位, 隆帯CR横位, 中初, 深鉢, 0, 457
- 図100-571, P45, SK-247, 7層, 225.9g, 口唇部・胴部, 0, 8級, 隆帯上R側面圧痕, 波頂部から垂下する8字状隆帯上R側面圧痕短線文, 隆帯上R側面圧痕による山形短線文, 隆帯上LR側面圧痕, 丸, LR横位, 中初, 深鉢, 0, 0
- 図100-572, P134, SK-247, 7層, 34.0g, 胴部・胴部, 0, 0, 0, 0, 隆帯上LR側面圧痕, 三角状, RLR横位, 中初, 0, 0, 0
- 図100-573, P71-P122, SK-247, 7層, 43.7g, 口縁部, 0, 0, 0, LR側面圧痕による平行線文間に縦位短線文, 0, 0, 0, 中初, 0, 0, 375
- 図100-574, P267, SK-247, 7層, 32.8g, 胴部, 0, 0, 0, 0, 0, 0, LR横位, 中初, 0, 0, 0
- 図100-575, P237-1-2-P281, SK-247, 7層, 89.6g, 胴部, 1/8, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 隆帯LR横位, 中初, 深鉢, 0, 393
- 図101-576, P247-2, SK-247, 7層, 0, 胴部, 0, 0, 0, 0, 0, 0, LR横位, 中初, 0, 0, 0
- 図101-577, P47, SK-247, 7層, 30.9g, 胴部, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, RLR横位, 中初, 0, 0, 0
- 図101-578, P166-P239, SK-247, 7層, 92.5g, 胴部・底版, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, RLR横位, 中初, 0, 0, 390
- 図101-579, P70, SK-247, 7層, 162.0g, 胴部・底版, 1/3, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 無し, 中初, 深鉢, 0, 0
- 図101-580, P27, SK-247, 6層上層, 94.4g, 胴部, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, LR横位, 中初, 深鉢, 0, 0
- 図101-581, P30-1, SK-247, 5層, 477.8g, 胴部, 1/4, 0, 0, 0, 0, 0, LR横位, 中初, 深鉢, 0, 128
- 図101-582, P1, SK-247, 5層, 59.1g, 口唇部・口縁部, 0, 0, 隆帯上R側面圧痕, LR側面圧痕による平行線文 縦位短線文, 0, 0, 0, 中初, 0, 0, 0
- 図101-583, P4, SK-247, 3層, 24.1g, 口唇部・口縁部, 0, 0, 隆帯上平蓋竹管による刺突, 波頂部から垂下する隆帯上平蓋竹管状工具による斜め平蓋竹管による山形平行線文, 0, 0, 0, 中初, 0, 0, 0
- 図101-584, P309, SK-247, 7層, 66.3g, 口唇部, 0, 0, 隆帯上R側面圧痕, 波頂部から垂下する隆帯 R側面圧痕による山形平行線文間に縦位短線文, 隆帯上R側面圧痕, 丸, 0, 中初, 0, 0, 374
- 図101-585, P194-1-2-P194-10, SK-247, 8層, 182.3g, 胴部, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, LR横位, 中初, 0, 0, 391
- 図101-586, P10-P11-P12-P120-P121-P132, SK-247, 5-7-8層, 94.6g, 口縁部・胴部, 0, 8級, 隆帯上LR側面圧痕, 波頂部から垂下する隆帯 下端に粘土貼り付け LR側面圧痕による平行線文, 隆帯上LR側面圧痕, 方形, RLR横位, 中初, 深鉢, 0, 373
- 図101-589, P9-P109-1, SK-247, 4-5層, 2405.6g, 完形, 1/1, 9, 隆帯上LR側面圧痕, 波頂部から垂下する連続状隆帯 1級隆帯に平行する隆帯上LR側面圧痕 LR側面圧痕による平行線文と縦位短線文, 隆帯上LR側面圧痕, 方形, LR横位, 隆帯CR横位, 中初, 深鉢, 0, 90
- 図103-590, P18-P23-P24-P25-P26-1-2-P30-2-P109-2-P110, SK-247, 4-5層, 2201.3g, 完形, 1/1, 5級, 隆帯上LR側面圧痕, 波頂部から垂下する2条の隆帯上R側面圧痕 1R側面圧痕による平行線文間に縦位短線文, 隆帯上平蓋竹管状工具による刺突, 方形, LR横位, 隆帯CR横位, 中初, 深鉢, 0, 87
- 図104-591, P107-P108-1, SK-247, 5-7層, 1291.6g, 口唇部・胴部, 1/1, 10級, 隆帯上LR側面圧痕, 胴部下垂下する隆帯上LR側面圧痕 口唇部下に隆帯上LR側面圧痕 LR側面圧痕による平行線文, 隆帯上LR側面圧痕, 方形, LR横位, 隆帯下3級CR横位, 前期末, 0, 0, 0
- 図104-592, P30891, SK-249, 9層, 38.6g, 胴部, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 多輪結条体CR横位, 前期末, 0, 0, 0
- 図104-593, P30808, SK-249, 1層, 17.3g, 胴部, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, LR横位, 中初, 0, 0, 0
- 図104-594, P31015, SK-249, 9層, 26.7g, 胴部, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 多輪結条体CR横位, 前期末, 0, 0, 0

- 図104-595, P2, SK-251, 20層, 11.1g, 口縁部, 0, 0, 0, R側面圧痕による平行線文間に縦位短線文, 0, 0, 0, 中初, 0, 0, 0
- 図104-596, P13, SK-252, 12層, 263.8g, 胴部-底部, 1/4, 0, 0, 0, 0, 0, 0, L,R横位, 中初, 0, 0, 0
- 図104-597, P5, SK-252, 11層, 34.4g, 胴部, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 羽状結束第1横位, 中初, 0, 0, 0
- 図104-598, P30803, SK-252, 2層, 11.4g, 胴部, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, L,R横位, 中初, 0, 0, 0
- 図104-599, P12, SK-252, 12層, 43.6g, 胴部, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, L,R横位, 中初, 0, 0, 0
- 図104-600, P11, SK-252, 12層, 114.0g, 胴部, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, L,R横位, 中初, 0, 0, 0
- 図104-601, P9, SK-252, 11層, 100.0g, 胴部, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, L,R横位, 中初, 0, 0, 0
- 図104-603, P9, SK-255, 18層, 22.2g, 胴部, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, L,R横位, 中初, 0, 0, 0
- 図104-604, P14, SK-255, 16層, 19.0g, 胴部, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 摩滅, 中初, 0, 0, 0
- 図104-605, P30811, SK-252, 2層, 14.7g, 胴部, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, L,R斜位, 中初, 0, 0, 0
- 図104-606, P30897, SK-255, 8層, 44.3g, 口唇部-口縁部, 0, 8層, 0, 波頂部から垂下する隆帯上L,R横位, L,R側面圧痕による山形平行線文, 0, 0, 0, 中初, 0, 0, 0
- 図104-607, P6, SK-255, 12層, 27.2g, 胴部, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 結節(R)横位, 中初, 0, 0, 0
- 図104-608, P31001, SK-255, 6層, 13.7g, 口縁部-胴部, 0, 0, 0, L,R側面圧痕による平行線文, 隆帯上L,R側面圧痕, 丸, 羽状結束1横位, 中初, 0, 0, 0
- 図104-609, P8, SK-256, 25層, 61g, 口縁部-胴部, 1/8, 0, 上面L,R回転, 羽状結束1横位, 羽状結束1横位, 無し, 羽状結束1横位, 前期未定, 深鉢, 0, 394
- 図104-610, P2, SK-256, 4層, 6.7g, 口唇部-口縁部, 0, 0, 0, 0, 0, 0, ミガキ, 0, 0, 0, 前期未定, 0, 0, 0
- 図104-611, P31059, SK-256, 3層, 29.7g, 口唇部-口縁部, 0, 0, 隆帯上L,R側面圧痕, 垂下する隆帯上L,R側面圧痕, L,R側面圧痕による山形平行線文, 縦位短線文, 0, 0, 0, 中初, 0, 0, 0
- 図104-612, P31064, SK-256, 2層, 13.1g, 胴部, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 多輪結条体1類(L)横位, 前期未定, 0, 0, 0
- 図104-613, P31063, SK-256, 2層, 13.3g, 胴部, 1/8, 0, 0, 0, 0, 0, 羽状結束1横位, 前期未定, 0, 0, 0
- 図104-614, P31060, SK-256, 3層, 34.4g, 口唇部-口縁部, 0, 0, 隆帯上単純(R)横位, 単純1類(R)圧痕による平行線文間にC字状文, 0, 0, 0, 中初, 0, 0, 0
- 図104-615, P31065, SK-256, 2層, 16.9g, 口唇部-胴部, 1/8, 0, 上面RL回転, 単純1類(R)側面圧痕による幾何学文, 隆帯上横位工具による刺突, 微隆帯, 単純1類(R)横位, 前期未定, 0, 0, 0
- 図105-617, P31034-P31035-P31036-P31037-P31039-P31040-P31041-P31042-P31043, SK-257, 1層, 206.8g, 完形, 1/8, 「古墳時代の土器」の項参照
- 図105-620, P31826, SK-260, 1層, 12.0g, 胴部, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, L,R横位, 中初, 0, 0, 0
- 図105-621, SK-257P31032-SK-261P31047-P31048-P31049, SK-257-261, 1層, 160.7g, 完形, 1/4, 「古墳時代の土器」の項参照
- 図105-622, P31052-P31053, SK-261, 1層, 9.1g, 口縁部, 「古墳時代の土器」の項参照
- 図105-623, P31099, SK-261, 1層, 10.8g, 胴部, 「古墳時代の土器」の項参照
- 図105-624, P31100, SK-261, 0層, 15.4g, 口縁部, 「古墳時代の土器」の項参照
- 図105-629, P31050, SK-263, 1層, 13.6g, 胴部, 1/8, 0, 0, 0, 0, 0, 0, RL横位, 中初, 0, 0, 0
- 図106-630, P4, SK-265, 10層, 17.3g, 胴部, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, RL横位, 中初, 0, 0, 0
- 図106-631, P3, SK-265, 15層, 187.7g, 口唇部-胴部, 1/4, 0, 0, 0, 羽状結束1横位, 微隆帯, 羽状結束第1横位, 前期未定, 深鉢, 0, 0
- 図106-632, P11, SK-266, 11層, 13.0g, 口唇部-口縁部, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, L,R横位, 結節(R)横位, 中初, 0, 0, 0
- 図106-633, P3, SK-266, 10層, 23.0g, 胴部, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, L,R横位, 中初, 0, 0, 0
- 図106-634, P4, SK-266, 16層, 31.0g, 胴部, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, L,R横位, 中初, 0, 0, 0
- 図106-635, P8, SK-266, 23層, 62.6g, 胴部, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 羽状結束第1横位, 中初, 0, 0, 0
- 図106-636, P45, SK-267, 25層, 24.5g, 胴部, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 羽状結束第1横位, 結節(R)横位, 前期未定, 0, 0, 0
- 図106-637, P47, SK-267, 16層, 21.1g, 胴部, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 単純1A類(R)-L横位, 前期未定, 0, 0, 0
- 図106-638, P41, SK-267, 12層, 8.7g, 胴部-底部, 1/8, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 前期未定, 0, 0, 0
- 図106-639, P29-P33, SK-267, 12層, 175.2g, 口縁部-胴部, 0, 0, 隆帯上L,R側面圧痕, L,R側面圧痕による平行線文間に縦位短線文, 波頂部から垂下するS字状隆帯, L,R側面圧痕横位, 段差, 0, 中初, 0, 0, 397
- 図106-640, P24-P30, SK-267, 12層, 125.6g, 口唇部, 0, 0, 隆帯上L,R側面圧痕, 垂下する2条の隆帯, L,R側面圧痕による平行線文間に縦位短線文, L,R側面圧痕横位, 段差, 0, 中初, 0, 0, 396
- 図106-641, P39-P42-P43, SK-267, 10-12層, 70.8g, 口唇部-胴部, 1/4, 0, 0, 0, 半截竹管による平行線文間に縦位短線文, 0, 0, 半截竹管による平行線文から垂下する筒形凹文, 単純1類(R)横位, 完形+中初, 深鉢, 0, 130
- 図106-642, P18-P27-P35, SK-267, 3層, 137.9g, 胴部-胴部, 0, 0, 0, 垂下する波状隆帯, 下端に粘土貼付り付, L,R側面圧痕による平行線文間に縦位短線文, L,R側面圧痕横位, 段差, 0, 中初, 0, 0, 395
- 図106-643, P3-P9-P25, SK-267, 1-2層, 45.8g, 胴部, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, L,R横位, 結節(L,R)横位, 完形+中初, 0, 0, 398
- 図106-644, P38, SK-267, 7層, 13.8g, 口唇部-口縁部, 0, 0, 上面半截竹管による刺突, L,R側面圧痕による平行線文, 0, 0, 0, 前期未定, 0, 0, 0
- 図106-645, P22, SK-267, 6層, 66.9g, 胴部, 1/8, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 単純1A類(R)横位, 結節(L,R)横位, 中初, 0, 0, 0
- 図106-646, P19, SK-267, 0層, 49.6g, 胴部, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 羽状結束1層, 前期未定, 0, 0, 0
- 図106-647, P20, SK-267, 0層, 36.2g, 口唇部-口縁部, 1/8, 0, 0, 0, 羽状結束第1横位, 羽状結束1横位, 無し, 羽状結束第1横位, 前期未定, 0, 0, 0
- 図107-649, P13, SK-268, 1層, 20.8g, 口唇部-胴部, 0, 0, 0, 単純(L)4類, 0, 無し, 多輪結条体(R)横位, 前期未定, 0, 0, 0
- 図107-650, P35, SK-270, 14層, 53.0g, 胴部-底部, 1/8, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 結節(L,R)横位, 中初, 0, 0, 0
- 図107-651, P40-1, SK-270, 13層, 92.3g, 口唇部-胴部, 1/8, 16層, L,R横位, 突起部から垂下する2条の隆帯上L,R側面圧痕, L,R横位, L,R横位, 0, 0, 中初, 0, 0, 0
- 図107-652, P39, SK-270, 12層, 55.6g, 口唇部-口縁部, 0, 0, L,R側面圧痕, L,R側面圧痕による平行線文, 0, 0, 0, 中初, 0, 0, 0
- 図107-653, P21, SK-270, 13層, 739.3g, 口縁部-胴部, 1/1, 0, 0, 0, L,R横位, L,R横位, 無し, L,R横位, 中初, 0, 0, 55
- 図107-654, P11, SK-270, 8層, 25.4g, 胴部, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 単純5類(L)横位, 中初, 0, 0, 0
- 図107-655, P33, SK-270, 12層, 20.8g, 口縁部-胴部, 0, 0, 0, 摩滅, 隆帯上半截竹管状工具による刺突, 単純1類(R)横位, 前期未定, 0, 0, 0
- 図107-656, P20, SK-270, 13層, 26.5g, 口唇部-胴部, 0, 0, 0, 結節横位, 隆帯上半截竹管状工具による刺突, 微隆帯, 単純1A類(R)横位, 前期未定, 0, 0, 0
- 図107-657, P31, SK-270, 8層, 49.5g, 口唇部-口縁部, 0, 8層, 隆帯上L,R側面圧痕, L,R側面圧痕による平行線文間に縦位短線文, 0, 0, 0, 中初, 0, 0, 0

- 図119-827, PX, SK-286, 4層, 77.9g, 口唇部・胴部, 0, 0, 0, 0, 隆帯上LR側面圧痕, 方形, RLR横位, 中初, 0, 0, 0
 図119-828, P31, SK-286, 3層, 19.5g, 口唇部・口縁部, 0, 1斜, 隆帯上LR側面圧痕, 突起下にボタン状跡付けり C字状隆帯 LR側面圧痕, 0, 0, 0, 中初, 0, 0, 0
 図119-829, P30, SK-286, 3層, 46.9g, 口唇部・胴部, 0, 10斜, 隆帯上LR側面圧痕, 波溝部から垂下する隆帯上LR側面圧痕 LR側面圧痕による平行線文, 隆帯上LR側面圧痕, 方形, L/R横位, 中初, 0, 0, 0
 図119-830, PX, SK-286, 3層, 106.2g, 胴部, 0, 0, 0, 0, 0, 0, RLR横位斜位, 中初, 0, 0, 0
 図119-831, PX, SK-286, 2層, 31.5g, 口唇部・胴部, 0, 0, 隆帯上R(二本一組)側面圧痕, 側面圧痕による山形平行線文, 隆帯上R側面圧痕(R), 九, L/R横位, 中初, 0, 0, 0
 図119-832, PX, SK-286, 2層, 44.3g, 口唇部・口縁部, 0, 0, L/R側面圧痕, 波溝部から垂下する隆帯上LR側面圧痕 LR側面圧痕による山形平行線文間に細線文, 0, 0, 0, 中初, 0, 0, 0
 図119-833, PX, SK-286, 2層, 38.3g, 口縁部・胴部, 0, 0, 0, R側面圧痕による平行線文, 隆帯上LR側面圧痕による逆U字状文, 九, L/R横位, 中初, 0, 0, 0
 図119-834, PX, SK-286, 1層, 214.7g, 口唇部・胴部, 1/8, 5斜, 隆帯上R側面圧痕, 波溝部下R.L(二本一組)側面圧痕による円形文 波溝部から垂下する2本の隆帯上R.L(二本一組)側面圧痕による平行線文間にC字状文, 隆帯上R側面圧痕, 九, 羽状文縄文編み1種横位, 中初, 0, 0, 0
 図119-835, PX, SK-286, 2層, 113.4g, 口唇部・口縁部, 1/8, 0, 隆帯上LR側面圧痕, 口唇部に平行する隆帯上LR側面圧痕 隆帯上LR側面圧痕による山形平行線文間に細線文, 0, 0, 0, 中初, 0, 0, 0

土偶

・表記した属性は以下の通りである。

図版番号, 遺物番号, 出土遺構, 出土層位, 重量, 表面文様, 表面文様

図60-89, P30273, SI-16, 1層, 3.2g, 半截竹管による平行沈線・刺突, 半截竹管による平行沈線・刺突

図69-199, PX, SI-17, 0層, 4.1g, L側面圧痕による条線区画内に縦位のL圧痕, L側面圧痕による条線区画内に縦位のL圧痕

図90-418, P228, SI-22, 1層, 17.2g, R側面圧痕, R側面圧痕

図110-718, P53, SK-278, 3層, 22.5g, 半截竹管による平行沈線・刺突, 半截竹管による平行沈線・刺突

図110-719, P154, SK-278, 10層, 26.4g, 半截竹管による平行沈線・刺突, 半截竹管による平行沈線・刺突

図115-762, P15, SK-281, 1層, 5.3g, 半截竹管による平行沈線・刺突, 半截竹管による平行沈線・刺突

土製品

・表記した属性は以下の通りである。

図版番号, 遺物番号, 出土遺構, 出土層位, 重量, 文様, 備考

図110-720, P101, SK-278, 6層, 35.1g, 0, 土器底部に焼成後穿孔したもの

古墳時代の土器

[調査記号: H~ハケス, N~ナチ, M~ヘツミガキ]

図版番号	出土遺構	出土層位	器種	部位	外面調整	内面調整	胎土産人物	色調	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	備考
92-431	SK221	覆土	甕	胴	H	H	小礫, 砂粒, 骨針	暗褐色	-	-	-	内面磨面厚縁器
106-617	SK257	J層	杯	口~体	H~M	H~M	小礫, 砂粒	褐色	16.5	5.9	-	口唇部平坦面作凸
105-621	SK261	1層	鉢	口~底	N	N	小礫, 砂粒	暗褐色 (14.8)	7.8	6.6	-	波状口縁, 口唇部平坦面作凸
105-622	SK261	1層	鉢?	口	H~N	H~N	小礫, 砂粒	暗褐色	-	-	-	平坦口, 口唇部平坦面作凸
105-623	SK261	1層	甕	胴	H (一部N)	H	小礫, 砂粒	褐色	-	-	-	-
105-624	SK261	1層	鉢	口~胴	口:N 胴:H	H	砂粒	黒褐色	-	-	-	波状口縁, 口唇部平坦面作凸

石群

図版番号	出土遺構	層位	種別	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石質	備考
60-91	SI-16	J	石 礫	4.2	1.4	0.8	4.2	珸質頁岩	
60-92	SI-16	1	石 礫	3.0	1.6	0.6	2.4	頁 岩	
60-93	SI-16	フク土	石 礫	2.8	1.3	0.5	1.6	頁 岩	
60-94	SI-16	フク土	石 礫	3.2	1.5	0.7	2.7	頁 岩	
60-95	SI-16	フク土	石 礫	3.2	1.5	0.6	2.7	頁 岩	
60-96	SI-16	C-2	粘板岩	11.4	5.8	3.6	996.7	ひん 岩	
61-97	SI-16	C-2	粘板岩	9.6	6.2	2.4	252.0	凝灰質砂岩	
61-98	SI-16	C-2	粘板岩	6.2	3.1	2.5	102.3	安山岩	
61-99	SI-16	C-2	粘板岩	10.5	5.6	4.4	372.3	安山岩	
61-100	SI-16	C-2	粘板岩	5.9	3.1	2.9	175.5	ひん 岩	
61-101	SI-16	不明	石 圭	17.3	18.9	5.8	3130.7	安山岩	
61-102	SI-16	2	粘板岩	10.5	10.0	3.5	236.3	凝灰岩	
61-103	SI-16	不明	粘板岩	5.8	7.6	4.2	178.7	安山岩	
61-104	SI-16	B-5	粘板岩	18.0	10.0	6.0	1705.1	凝灰岩	
61-105	SI-16	不明	粘板岩	10.1	7.8	3.1	352.2	砂 岩	
62-106	SI-16	C-2	石 礫	39.9	8.1	8.7	7060.0	石炭安山岩	
69-200	SI-17	4	石 礫	3.5	1.4	0.6	2.9	頁 岩	
69-201	SI-17	3	石 礫	4.1	1.6	0.9	4.8	頁 岩	
69-202	SI-17	4	石 礫	2.8	1.3	0.6	2.2	頁 岩	
69-203	SI-17	4	石 礫	3.1	1.3	0.6	2.4	頁 岩	
69-204	SI-17	3	石 礫	2.7	1.5	0.4	1.8	珸質頁岩	
69-205	SI-17	間層2	粘板岩	7.3	9.4	5.5	571.5	安山岩	
72-224	SI-21	6	石 礫	3.6	1.7	0.5	3.0	頁 岩	
90-419	SI-22	3	石 礫	5.4	1.8	0.8	6.4	頁 岩	

図案番号	出土遺構	層位	種別	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石質	備考
90-420	SI-22	3	石筥	4.9	2.7	1.1	15.3	頁岩	
90-421	SI-22	1	石筥	2.6	1.2	0.4	1.1	頁岩	
90-422	SI-22	1	石筥	3.0	1.6	0.8	3.4	頁岩	
90-423	SI-22	1	石筥	4.0	1.5	0.8	4.0	頁岩	
90-424	SI-22	1	石筥	2.7	1.5	0.4	1.7	頁岩	
90-425	SI-22	1	石筥	4.1	1.3	0.7	3.4	頁岩	
91-426	SI-22	3	磨擦器	8.0	5.3	2.6	194.1	輝綠岩	
91-427	SI-22	5	磨擦器	8.8	8.2	4.5	424.5	石炭山岩	
91-428	SI-22	1	台石	20.9	10.5	9.9	2873.2	凝灰岩	
91-429	SI-22	3	磨擦器	9.0	5.5	4.0	269.9	安山岩	
91-430	SI-22	1	石製品	6.3	6.8	1.7	81.4	砂岩	
92-441	SK-224B	19	石筥	6.3	3.2	1.4	26.7	頁岩	
92-442	SK-224B	19	磨擦器	17.1	4.9	2.1	305.0	砂岩	
92-447	SK-229	7	スクレイパー	6.8	4.5	1.5	38.4	頁岩	
94-465	SK-231	1b	磨擦器	8.5	7.2	4.4	411.1	石炭山岩	
94-466	SK-231	16	磨擦器	8.8	6.6	2.8	278.5	流紋岩	
94-467	SK-231	2	磨擦器	8.7	7.0	3.2	218.2	安山岩	
95-481	SK-235	6	磨擦器	7.3	5.0	6.2	308.2	流紋岩	
95-488	SK-236	3	石棒	22.3	11.0	8.7	3747.1	流紋岩	焼け
96-502	SK-240A	不明	磨擦器	10.8	6.0	2.7	278.9	安山岩	
96-507	SK-241	7	石筥	3.3	1.8	0.8	4.1	頁岩	
97-518	SK-244	5	磨擦器	14.9	8.6	5.4	334.2	安山岩	
98-540	SK-246	22	石筥	5.2	1.5	0.8	5.2	頁岩	
98-541	SK-246	15	石筥	3.8	1.4	0.6	2.7	頁岩	
98-542	SK-246	24	石筥	4.1	1.6	0.7	3.6	頁岩	
98-543	SK-246	15	石筥	3.9	1.4	0.7	3.2	頁岩	
98-544	SK-246	13	石筥	2.8	1.5	0.5	2.1	珪藻岩	
98-545	SK-246	4	磨擦器	9.4	9.3	7.6	908.7	安山岩	
101-587	SK-247	7	磨擦器	6.1	6.0	3.9	232.1	凝灰岩	
101-588	SK-247	5	磨擦器	12.5	5.8	2.6	360.1	砂岩	
104-602	SK-253-254	不明	石筥	4.2	1.7	0.8	5.2	頁岩	
105-616	SK-256	1	磨擦器	11.1	4.6	1.7	124.5	砂岩	
105-618	SK-257	1	割片	0.9	1.5	1.0	0.8	黒曜石	
105-619	SK-257	1	割片	3.9	1.6	1.0	1.5	黒曜石	
105-625	SK-261	1	台石	14.8	14.1	11.5	2402.5	石炭山岩	
105-626	SK-261	1	石筥	2.8	1.9	0.4	1.2	頁岩	
105-627	SK-261	1	割片	2.0	1.6	1.5	1.0	黒曜石	
105-628	SK-261	1	割片	2.6	0.9	0.5	1.1	黒曜石	
106-648	SK-267	11	磨擦器	4.4	5.9	7.3	183.3	安山岩	
107-668	SK-273	7	磨擦器	17.2	7.3	4.6	791.9	安山岩	
108-677	SK-274	4	石筥	3.7	1.3	0.7	2.6	頁岩	
110-717	SK-278	3	磨擦器	9.5	6.3	3.1	206.0	輝綠岩	
115-763	SK-281	2	石筥	2.5	1.9	0.5	2.4	頁岩	
115-764	SK-281	1	石筥	2.1	1.4	0.4	1.0	頁岩	
116-778	SK-284	1	磨擦器	9.9	7.8	2.7	364.3	砂岩	
119-836	SK-286	1	磨擦器	6.9	7.2	4.2	285.6	輝綠岩	
119-837	SK-286	8	石筥	3.9	1.4	0.7	2.7	頁岩	
119-838	SK-286	4	石筥	3.6	2.7	0.9	2.8	頁岩	

第4章 自然科学的分析

第1節 笹ノ沢(3)遺跡出土黒曜石製石器、石片の原材産地分析および 非破壊分析による水と層年代の推定

藁科 哲男

(京都大学原子炉実験所)

はじめに

石器石材の産地を自然科学的手法を用いて、客観的に、かつ定量的に推定し、古代の交流、交易および文化圏、交易圏を探ると言う目的で、蛍光X線分析法により黒曜石およびサヌカイト製遺物の石材産地推定を行なっている^{1, 2, 3)}。石材移動を証明するには必要条件と十分条件を満たす必要がある。地質時代に自然の力で移動した岩石の出発露頭を元素分析で求めるとき、移動原石と露頭原石の組成が一致すれば必要条件を満たし、その露頭からの流れたルートを地形学などで証明できれば、十分条件を満たし、ただ一方所の一致する露頭産地の調査のみで移動原石の産地が特定できる。遺物の産地分析では『石器とある産地の原石の組成が一致したからと言っても、他の産地にも一致する可能性があるために、一致した産地のものと言い切れない。従って、他の産地に一致しないという、十分な証拠が同時に必要である。また、一致しなかった場合その産地のものでないと言い切れる』が大原則である。考古学では、人工品の様式が一致すると言う結果が非常に重要な意味があり、見える様式としての形態、文様、見えない様式として土器、青銅器、ガラスなどの人手が加わった調査素材があり一致すると言うことは古代人が意識して一致させた可能性があり、一致すると言うことは、古代人の思考が一致すると考えてもよく、相互関係を調査する重要な結果である。石器の様式による分類ではなく、自然の法則で決定した石材の元素組成を指標にした分類では、例えば石材産地が遺跡から近い、移動キャンプ地のルート上に位置する、産地地方との交流を示す土器が出土しているなどを十分条件の代用にすると産地分析は中途半端な結果となり、遠距離伝播した石器原材であっても、遺跡近くの似た組成の原石産地の石材と思いきみ誤判定する可能性がある。人が移動させた石器の元素組成とA産地原石の組成が一致し、必要条件を満足しても、原材産地と出土遺跡の間に地質的関連性がないため、十分条件の移動ルートを自然の法則に従って地形学で証明できず、その石器原材がA産地の原石と決定することができない。従って、石器原材と産地原石が一致したことが、直ちに考古学の資料とならない。確かにA産地との交流で伝播した可能性は否定できなくなったが、B、C、Dの産地でないと証拠がないために、A産地だと言い切れない。B産地と一致しなかった場合、結果は考古学の資料として非常に有用である。それは石器に関してはB産地と交流がなかったと言い切れる。ここで、十分条件として、可能なかぎり地球上の全ての原産地(A、B、C、D・・・)の原石群と比較して、A産地以外の産地とは一致しないことを十分条件として証明すれば、石器がA産地の原石と決定することができる。この十分条件を肉眼観察で求めることは分類基準が混乱し不可能であると思われる。また、自然科学的分析を用いても、全ての産地が区別できるかは、それぞれが使用している産地分析法によって、それぞれ異なり実際に行ってみなければ分からない。産地分析の結果の信

頼性は何ヶ所の原産地の原石と客観的に比較して得られたかにより、比較した産地が少なければ、信頼性の低い結果と言える。黒曜石、サヌカイトなどの主成分組成は、原産地ごとに大きな差はみられないが、不純物として含有される微量成分組成には異同があると考えられるため、微量成分を中心に元素分析を行ない、これを産地を特定する指標とした。分類の指標とする元素組成を遺物について求め、あらかじめ、各原産地ごとに数十個の原石を分析して求めておいた各原石群の元素組成の平均値、分散などと遺物のそれと対比して、各平均値からの離れ具合（マハラノビスの距離）を求める。次に、古代人が採取した原石産出地点と現代人が分析のために採取した原石産出地と異なる地点の可能性は十分に考えられる。従って、分析した有限個の原石から産地全体の無限に近い個数の平均値と分散を推測して判定を行うホテリングのT²乗検定を行う。この検定を全ての産地について行い、ある石器原材と同じ成分組成の原石はA産地では10個中に一個みられ、B産地では一万个中に一個、C産地では百万個中に一個、D産地では・・・一個と各産地毎にもとめられるような、客観的な検定結果からA産地の原石を使用した可能性が高いと同定する。即ち多変量解析の手法を用いて、各産地に帰属される確率を求めて産地を同定する。今回分析した遺物は青森県八戸市尻内町下毛合清水7-7外に位置する笹ノ沢(3)遺跡出土の黒曜石製石匙と石片の5個で産地分析の結果および非破壊分析による水和層年代が1個の遺物について得られたので報告する。

黒曜石原石の分析

黒曜石原石の風化面を打ち欠き、新鮮面を出し、塊状の試料を作り、エネルギー分散型蛍光X分析装置によって元素分析を行なう。主に分析した元素はK、Ca、Ti、Mn、Fe、Rb、Sr、Y、Zr、Nbの各元素である。塊試料の形状差による分析値への影響を打ち消すために元素量の比を取り、それをもって産地を特定する指標とした。黒曜石は、Ca/K、Ti/K、Mn/Zr、Fe/Zr、Rb/Zr、Sr/Zr、Y/Zr、Nb/Zrの比量をそれぞれ用いる。黒曜石の原産地は北海道、東北、北陸、東関東、中信高原、伊豆箱根、伊豆七島の神津島、山陰、九州の各地に黒曜石の原産地は分布する。調査を終えた原産地を図120に示す。黒曜石原産地のほとんどすべてがつくされている。元素組成によってこれら原石を分類し表1に示す。この原石群に原産地は不明の遺物で作った遺物群を加えると220個の原石群になる。ここでは北海道地域および一部の東北地域の産地について記述すると、白滝地域の原産地は、北海道紋別郡白滝村に位置し、鹿野北方2kmの採石場の赤石山の露頭、鹿野東方約2kmの幌加沢地点、また白土沢、八号沢などより転礫として黒曜石が採取できる。赤石山の産地の黒曜石は色に関係無く赤石山群（旧白滝第1群）にまとまる。また、あじさいの滝の露頭からは赤石山と肉眼観察では区別できない原石が採取でき、あじさい群を作った（旧白滝第2群）、また、八号沢の黒曜石原石と白土沢の転礫は梨肌の黒曜石で組成はあじさい滝群に似るが石肌で区別できる。幌加沢よりの転礫の中で70%は幌加沢群になりあじさい滝群と元素組成から両群を区別できず、残りの30%は赤石山群に一致する。置戸産原石は、北海道常呂郡置戸町の清水の沢林道より採取された原石の元素組成は所山置戸群にまとまる。また同町の秋田林道で採取される原石は置戸山群にまとまる。留辺蘂町のケショマップ川一帯で採取される原石はケショマップ第1および第2群に分類される。この原産地は、常呂川に通じる流域にあり、この常呂川流域で黒曜石の円礫が採取されるが現在まだ調査していない。また置戸町では秋田林道でも原石が採取でき、この原石は置戸山群にまとまる。留辺蘂町のケショマッ

づ川一帯で採取される原石はケショマップ第1および第2群に分類された。十勝三股産原石は、北海道河東郡上士幌町の十勝三股の十三ノ沢の谷筋および沢の中より原石が採取され、この原石の元素組成は十勝三股群にまとまる。この十勝三股産原石は十三の沢から音更川さらに十勝川に流れた可能性があり、十勝川から採取される黒曜石円礫の組成は、十勝三股産の原石の組成と相互に近似している。また、上士幌町のサンケオルベ川より採取される黒曜石円礫の組成も十勝三股産原石の組成と相互に近似している。これら組成の近似した原石の原産地は区別できず、遺物石材の産地分析でたとえ、この遺物の原石産地が十勝三股群に同定されたとしても、これら十勝三股、音更川、十勝川、サンケオルベ川の複数の地点を考えなければならない。しかし、この複数の産地をまとめて、十勝地域としても、古代の地域間の交流を考察する場合、問題はないと考えられる。また、清水町、新得町、鹿追町にかけて広がる美蔓台地から産出する黒曜石から2個の美蔓原石群が作られた。この原石は産地近傍の遺跡で使用されている。名寄市の智南地域、智恵文川および忠烈布貯水池から上名寄にかけて黒曜石の円礫が採集される。これらを組成で分類すると88%は名寄第一群に、また12%は名寄第二群にそれぞれなる。旭川市の近文台、嵐山遺跡付近および雨文台北部などから採集される黒曜石の円礫は、20%が近文台第一群、69%が近文台第二群、11%が近文台第三群それぞれ分類された。また、滝川市江別乙で採集される親指大の黒曜石の礫は、組成で分類すると約79%が滝川群にまとなり、21%が近文台第二、三群に組成が一致する。滝川群に一致する組成の原石は、北竜市恵袋別川培本社からも採取される。秩父別町の雨竜川に開析された平野を見下す丘陵中腹の緩斜面から小円礫の黒曜石原石が採取される。産出状況とか礫状は滝川産黒曜石と同じで、秩父別第一群は滝川第一群に組成が一致し、第二群も滝川第二群に一致しさらに近文台第二群にも一致する。赤井川産原石は、北海道余市郡赤井川村の土木沢上流域およびこの付近の山腹より採取できる。ここの原石には、少球果の列が何層にも重なり石器の原材として良質とはいえない原石で赤井川第1群を、また、球果の非常に少ない握り拳半分大の良質な原石などで赤井川第2群を作った。これら第1、2群の元素組成は非常に似ていて、遺物を分析したときしばしば、赤井川両群に同定される。豊泉産原石は豊浦町から産出し、組成によって豊泉第1、2群の2群に区別され、豊泉第2群の原石は珉晶が少なく良質な黒曜石である。豊泉産原石の使用圏は道南地方に広がり、一部は青森県に伝播している。出来島群は青森県西津軽郡木造町七里長浜の海岸部より採取された円礫の原石で作られた群で、この出来島群と相互に似た組成の原石は、岩木山の西側を流れ鯉ヶ沢地区に流入する中村川の上流で1点採取され、また、青森市の鶴ヶ坂および西津軽郡森田村鶴ヶ沢地区より採取されている。青森県西津軽郡深浦町の海岸とか同町の六角沢およびこの沢筋に位置する露頭より採取された原石で六角沢群をまた、八森山産出の原石で八森山群をそれぞれ作った。深浦の両群と相互に似た群は青森市戸門地区より産出する黒曜石で作られた戸門第二群である。戸門第一群、成田群、浪岡町県民の森地区より産出の大釈迦群(旧浪岡群)は赤井川産原石の第1、2群と弁別は可能であるが原石の組成は比較的似ている。戸門、大釈迦産黒曜石の産出量は非常に少なく、希に石鱗が作れる大きさがみられる程度であるが、鷹森群は鷹森山麓の成田地区産出の黒曜石で中には5cm大のものもみられる。また、考古学者の話題になる下湯川産黒曜石についても原石群を作った。男鹿群は秋田県男鹿市の男鹿半島の金ヶ崎温泉のあった海岸より採取された原石で作られ、男鹿半島の脇本地区で採取された原石の組成は男鹿群と相互に近似していることから、この両産地の原石の起源は同じと考えられる。岩手県の黒曜石原産地は北上川に沿った範囲に

点々と見られ、雫石群は岩手郡雫石町の小赤沢地区の礫層から採取された原石で作られ、折居群は水沢市真城の折居地区の礫層より採取された円礫で作られ、花泉群は西磐井郡花泉町の払田および金沢の両地区の礫層より採取された小円礫の原石で作られた原石群である。これら岩手県内の原石群の組成は相互に似ていて、これら原産地を元素組成で明確に区別できなく、遺物を分析してたとえこれら岩手県下の原石群の中の一地点に同定されても、この遺物の原産地はこれら岩手県内の複数の原産地を考えなければならない。月山群は羽黒山から月山にかけての西麓付近に点々と分布する黒曜石産出地点より採取した原石で作った群である。最近、鈴木氏より提供された黒曜石原石は、寒河江市から転礫として産出した黒曜石原石で、西北九州の中町産地の原石と組成が似るが、一致せず全く新しい組成の黒曜石と判明し、寒河江群として原石群に加えた。湯倉群は宮城県加美郡宮崎町柳瀬の湯倉真珠岩層の露頭付近で採取された原石で作られた群である。新潟県内の原産地では、佐渡島は大佐渡山地の南部に位置し、所在地は佐渡郡金井町堂林、二ツ坂地域から佐和田町との境にかかるとの地帯である。今回分析した黒曜石は林道工事のときに産出した円礫状の原石で、1cmから3cmの大きさのものが大部分で、大きな原石は長径が約10cmのものが確認できた。現在、林道での採取は困難で、僅かに同地域の沢で少量採取できるにすぎない。この沢で採取した最大の原石は長径が約5cmの円礫で、小型の石織を作るには十分の大きさである。元素比の組成の似たもので群を作ると、佐渡第一群と佐渡第二群の二つの群にまとまる。これら佐渡第一、二群は佐渡固有の群で他の産地の原石群と区別することができる。新発田市の板山原石は牧場内に露頭があり、小粒の黒曜石は無数に採取され、牧場整備で土木工事で露出した露頭からは握り拳大の原石を採取することができた。板山産地から北方約5kmに上石川黒曜石産地があり良質の黒曜石を産出している。また、新津市の秋葉山地区から小粒の黒曜石が産出することが知られていた。また、秋葉山南方約3kmの金津地区から新たに黒曜石が産出している地点が明らかになり金津産原石で金津群を作った。この他新潟県では入広瀬村の大白川地区から採取される黒曜石は大半が親指大で肉眼的には良質であるが石器原材料として使用された例はない中信高原地域の黒曜石産地の中で、霧ヶ峰群は、長野県下諏訪町金明水、星ヶ塔、星ヶ台の地点より採取した原石でもって作られた群で、同町観音沢の露頭の原石は透明質が多く、観音沢群を作ったが、霧ヶ峰群に一致する元素組成を示した。また、星ヶ塔と星ヶ台の間に位置するうつぎ沢から採取された原石で、うつぎ沢群を作った。和田峠地域原産原石は、星ヶ塔の西方の山に位置する旧和田峠トンネルを中心とした数百メートルの範囲より採取され(図120)、これらを元素組成で分類すると、和田峠第一、第二、第三、第四、第五、第六の各群に分かたれる。和田峠第一、第三群に分類された原石は旧トンネル付近より北側の地点より採取され、和田峠第二群のものは、トンネルの南側の原石に多くみられる。和田峠第四群は男女倉側の新トンネルの入り口、また、和田峠第五、第六群は男女倉側新トンネル入り口左側で、和田峠第一、第三の両群の産地とは逆の方向である。男女倉原産地の原石は男女倉群にまとも組成は和田峠第五群に似る。蘆山、星葉峠の黒曜石の中に和田峠第一群に属する物が多数みられる。蓼科地域では、麦草峠、大石川の上流、白駒池周辺より採取された原石で麦草峠群が作られた。冷山露頭産原石で冷山群を、また、双子池周辺の原石で、双子池群を作った。これら蓼科地域の3群の組成は一致する部分が多く、麦草峠群の原石は、双子池群、冷山群に似るが、双子池群の原石は、冷山群に似るものは約33%で少ない、これは冷山群の原石採取が良質のものを選択した結果、双子池群組成に似る冷山産原石が多少除外された可能性も推測される。これら3群を完全

に区別することはできなかった。この他、茅野市逆川支流、滝ノ湯川、摺鉢山周辺部、八千穂村の雨池周辺、八千穂レイクなどの転礫の組成は、麦草峠、双子池群、冷山群に一致した。また、横岳坪底産黒曜石は石器原材として不適と思われる原石で、組成はどこの群にも一致しなかった。立科町で採取された小円礫8個の中の7個の組成は、霧ヶ峰、観音沢群に一致する部分が多く区別できず、この7個の分析場所を変えて複数回分析し統計処理が可能な分析個数にして、立科群を作った。立科群、霧ヶ峰群、観音沢群の区別は、組成では困難で自然面で行う必要がある。また、残りの1個は和田峠第1群に比較的似た組成の円礫であった。これら、調査された原石は、長野県教育委員会、和田村、長門町、御代田町、下諏訪町、茅野市の各教育委員会より提供されたものである。横川群は信濃町野尻湖博物館が発見した飯山市の原産地である。伊豆箱根地方の原産地は笛塚、畑宿、鍛冶屋、上多賀、柏峠西の各地にあり、良質の石材は、畑宿、柏峠西で斑晶の多いやや石質の悪いものは鍛冶屋、上多賀の両原産地でみられる。笛塚産のものはピッチストーン様で、石器原材としては良くないであろう。伊豆諸島の神津島原産地は砂礫崎、長浜、沢尻湾、恩賜島の各地点から黒曜石が採取され、これら原石から神津島第一群および第二群の原石群にまとめられる。浅間山の火窪沢の黒曜石は貝殻状剥離せず石器の原材料としては不適当ではあるが、考古学者の間でしばしば話題に上るため火窪沢として遺物と比較した。

結果と考察

遺跡から出土した石器、石片は風化しているが、黒曜石製のものは風化に対して安定で、表面に薄い水合層が形成されているにすぎないため、表面の泥を水洗するだけで完全な非破壊分析が可能であると考えられる。産地分析で水合層の影響は、軽い元素の分析ほど大きいと考えられるが、影響はほとんど見られない。Ca/K、Ti/Kの両軽元素比量を除いて産地分析を行なった場合、また除かず産地分析を行った場合同定される原産地に差はない。他の元素比量についても風化の影響を完全に否定することができないので、得られた確率の数値にはやや不確かさを伴うが、遺物の石材産地の判定を誤るようなことはない。

今回分析した笹ノ沢(3)遺跡出土の黒曜石製遺物の分析結果を表7に示した。石器の分析結果から石材産地を同定するためには数理統計の手法を用いて原石群との比較をする。説明を簡単にするためRb/Zrの一変量だけを考えると、表7の試料番号85073番の遺物ではRb/Zrの値は0.108で、湯ノ倉群の[平均値] ± [標準偏差値]は、 0.116 ± 0.009 である。遺物と原石群の差を標準偏差値(σ)を基準にして考えると遺物は原石群から 0.09σ 離れている。ところで湯ノ倉群の原産地から100ヶの原石を採ってきて分析すると、平均値から $\pm 0.09\sigma$ のずれより大きいものが92個ある。すなわち、この遺物が、湯ノ倉群の原石から作られていたと仮定しても、 0.09σ 以上離れる確率は92%であると言える。だから、湯ノ倉群の平均値から 0.09σ しか離れていないときには、この遺物が湯ノ倉群の原石から作られたものでないとは、到底言い切れない。ところがこの遺物を出来島群に比較すると、出来島群の平均値からの隔たりは、約 17σ である。これを確率の言葉で表現すると、出来島群の原石を採ってきて分析したとき、平均値から 17σ 以上離れている確率は、千兆の百万倍分の一であると言える。このように、千兆の百万倍個に一個しかないような原石をたまたま採取して、この遺物が作られたとは考えられないから、この遺物は、出来島群の原石から作られたものではないと断定でき

る。これらのことを簡単にまとめて言うと、「この遺物は湯ノ倉群に92%の確率で帰属され、信頼限界の0.1%を満たしていることから湯ノ倉産原石が使用されいと同定され、さらに出来島群に千兆分の1%の低い確率で帰属され、信頼限界の0.1%を満たさないことから出来島産原石でないと同定される」。遺物が1ヶ所の産地（湯ノ倉産地）と一致したからと言って、例え湯ノ倉群と出来島群の原石は成分が異なっている、分析している試料は原石でなく遺物で、さらに分析誤差が大きくなる不定形（非破壊分析）であることから、他の産地に一致しないとは言えない、同種岩石の中での分類である以上、他の産地にも一致する可能性は推測される。即ちある産地（湯ノ倉産地）に一致し必要条件を満たしたと言っても、一致した産地の原石とは限らないために、帰属確率による判断を表1の220個すべての原石群について行ない十分条件を求め、低い確率で帰属された原石群の原石は使用していないとして消していくことにより、はじめて湯ノ倉産地の石材のみが使用されていると判定される。実際はRb/Zrといった唯一ヶの変量だけでなく、前述した8ヶの変量で取り扱うので変量間の相関を考慮しなければならぬ。例えばA原産地のA群で、Ca元素とRb元素との間に相関があり、Caの量を計ればRbの量は分析しなくても分かるようなときは、A群の石材で作られた遺物であれば、A群と比較したとき、Ca量が一致すれば当然Rb量も一致するはずである。したがって、もしRb量だけが少しずれている場合には、この試料はA群に属していないと言わなければならない。このことを数的に導き出せるようにしたのが相関を考慮した多変量統計の手法であるマハラノビスの距離を求めて行なうホテリングのT²乗検定である。これによって、それぞれの群に帰属する確率を求めて産地を同定する^{4, 5)}。産地の同定結果は1個の遺物に対して、黒曜石製では220個の推定確率結果が得られている。今回産地分析を行った遺物の産地推定結果については低い確率で帰属された原産地の推定確率は紙面の都合上記入を省略しているが、本研究ではこれら産地の可能性が非常に低いことを確認したという非常に重要な意味を含んでいる、すなわち、湯ノ倉産原石と判定された遺物について、カムチャッカ産原石とカロシア、北朝鮮の遺跡で使用されている原石および北海道白滝地域産の原石の可能性を考慮する必要がない結果で、高い確率で同定された産地のみの結果を表8に記入した。原石群を作った原石試料は直径3cm以上であるが、多数の試料を処理するために、小さな遺物試料の分析に多くの時間をかけられない事情があり、短時間で測定を打ち切る。このため、得られた遺物の測定値には、大きな誤差範囲が含まれ、ときには原石群の元素組成のバラツキの範囲を越えて大きくなる。したがって、小さな遺物の産地推定を行なったときに、判定の信頼限界としている0.1%に達しない確率を示す場合が比較的多くみられる。この場合には、原石産地（確率）の欄の確率値に替えて、マハラノビスの距離D²乗の値を記す。この遺物については、記入されたD²乗の値が原石群の中で最も小さなD²乗値で、この値が小さい程、遺物の元素組成はその原石群の組成と似ていると言えるため、推定確率は低いが、その原石産地と考えては間違いないと判断されたものである。

今回分析した笹ノ沢(3)遺跡出土の黒曜石製石匙と石片の4個には赤井川産原石が、また石片の1個に湯ノ倉産原石が使用されていた。赤井川および十勝産原石を使用した遺物の判定は複雑である。これは青森市戸門、鷹森山地区、浪岡町大釈迦より産出する黒曜石で作られた戸門第一、鷹森山、大釈迦の各群の組成が赤井川第一、二群、十勝三股群に比較的似ているために、遺物の産地を同定したときに、戸門産地と赤井川または十勝産地、またこれら3ヶ所の原産地に同時に同定される場合がしばしば見られる。戸門産地の原石が使用されたか否かは、一遺跡で多数の遺物を分析し戸門第1群

と第2群に同定される頻度を求め、これを戸門産地における第1群(50%)と第2群(50%)の産出頻度と比較し戸門産地の原石である可能性を推定する。今回分析した遺物のなかに全く戸門第2群に帰属される遺物が見られないことから戸門産地からの原石は使用されなかったと推測できる。また浪岡町大釈産原石は非常に小さい原石が多く使用された可能性は低いと思われる。また、赤井川第1または2群に高確率で同定され、大釈迦、戸門と十勝産地に同定された確率は赤井川に比べて十分の一〜百分の一がほとんどで、笹ノ沢(3)遺跡では赤井川産原石が使用されていたと判定した。

非破壊分析による黒曜石製遺物の水和層測定

分析は黒曜石の表面に顕微鏡を通して光を照射したときに、黒曜石の表面で反射する光と、水和層で反射する光りで生じるの干渉波の波長から水和層の厚さを求める方法。光りの反射を利用するため、遺物の表面のにできた使用痕および埋土中にできた摩耗傷などが水和層測定の障害になり測定できない場合が多々ある。また、水和層と新鮮面との境界面での反射光が非常に弱いため、境界面が明確に発達した部分を探して測定しなければならない。従って、傷のない場所を顕微鏡下で探して分析を行うため、試料によっては1個に三時間以上かかることもある。今回、分析一試料について一ヶ所10回以上測定し水和層厚さの平均値を求め、これを3ヶ所以上を分析し、分析値の最大、中間、最小値を選んで表9に記し、代表的な水和層の干渉波スペクトルを図121に示した。

水和層厚さを経過年代に換算するには、水和層を分析した黒曜石の経過年代を炭素-14法、フィッシュトラック法で求めた絶対年代から、水和速度を求めて行う。この水和速度は黒曜石の埋土中に受ける温度によって異なるため、黒曜石が環境から受けた温度を正確に求めなければ、正確な年代の換算はできない。従って、遺物が経過した年代の間に受けた温度を約8.0℃を平均効果温度として水和速度⁹⁾を推定したとき、赤井川産原石は1.8 ($\mu^2/1000$ 年)の水和速度を用いて下記の式により水和層厚さを経過年代に換算した。

$$\text{推定換算年代(千年)} = \frac{\text{測定水和層厚}(\mu\text{m}) \times \text{測定水和層厚}(\mu\text{m})}{\text{水和速度}(\mu^2/1000\text{年})}$$

完全な非破壊で水和層が測定できた遺物の経過年代の結果を表4に示した。水和層厚さを経過年代に換算するときの重要な係数である水和速度を決める重要な要因は、黒曜石の化学組成と温度であるため、自然科学者の実験室で水和実験によって水和速度を決定できるが、国内産黒曜石に関して研究はそこまで進んでいないのが現状である。現在は水和速度の決定については考古学者の協力なしでは決定できない。実験室での水和層生成が困難である限り、水和速度の決定の舞台は遺跡になる。今回の年代が炭素-14年代に比べて古すぎる場合は、温泉地とか温度の高い地下水などで埋土中の遺物温度が異常に高かったことが推測され、水和層は非常に厚くなり推定換算年代は古くなる。これは遺物の埋土位置の地温測定で推測できるが、しかし、過去の地温の測定はできない。炭素-14年代などで年代の分かる層から出土する黒曜石の水和層から水和速度を決定するため、発掘が重要な鍵を握ることは言うまでもない。石器の組成(原産地)さえ分かれば、考古学者が炭素-14年代と水和層のデータを集積し整理するだけで、正確な水和層年代が得られるようになる。これら考古学的作

業により求められた水和速度は、水和機構（理論）が証明されていないが、考古学試料として実用するには問題ないと推測できる。したがって、水和暦年代は考古学者が企画するだけで実用的な年代が得られるため、将来、水和暦年代が石器における土器編年のように身近な存在になると推測できる。

参考文献

- 1) 藁科哲男・東村武信(1975)、蛍光X線分析法によるサスカイト石器の原産地推定(II)。考古学と自然科学, 8:61-69
- 2) 藁科哲男・東村武信・鎌木義昌(1977),(1978)、蛍光X線分析法によるサスカイト石器の原産地推定(III)。(IV)。考古学と自然科学, 10, 11:53-81:33-47
- 3) 藁科哲男・東村武信(1983)、石器原材の産地分析。考古学と自然科学, 16:59-89
- 4) 東村武信(1976)、産地推定における統計的手法。考古学と自然科学, 9:77-90
- 5) 東村武信(1990)、考古学と物理化学。学生社
- 6) 近堂祐弘(1986)、北海道における黒曜石年代測定法について。北海道考古学, 22:1~15

表6-2 各黒曜石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値

原産地原石群名	分析 個数	元素比										
		Ca/K	Ti/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Al/K	Si/K	
宮城県	湯倉	21	2.174±0.068	0.349±0.017	0.057±0.005	2.544±0.149	0.116±0.009	0.658±0.024	0.138±0.015	0.020±0.013	0.073±0.003	0.956±0.040
	漆釜	37	4.828±0.395	1.630±0.104	0.178±0.017	11.362±1.150	0.168±0.018	1.298±0.063	0.155±0.016	0.037±0.018	0.077±0.002	0.720±0.032
栃木県	高野原	40	0.738±0.067	0.200±0.010	0.044±0.007	2.016±0.110	0.381±0.025	0.502±0.028	0.190±0.017	0.023±0.014	0.036±0.002	0.166±0.012
	神津島第一群	56	0.381±0.014	0.136±0.005	0.102±0.011	0.729±0.079	0.471±0.027	0.889±0.037	0.247±0.021	0.080±0.026	0.036±0.003	0.504±0.022
東京都	神津島第二群	23	0.317±0.016	0.120±0.008	0.114±0.014	1.833±0.069	0.615±0.039	0.656±0.050	0.303±0.034	0.107±0.026	0.033±0.002	0.471±0.009
	長津島	46	0.318±0.020	0.120±0.008	0.118±0.014	1.905±0.098	0.614±0.036	0.664±0.045	0.291±0.029	0.093±0.039	0.034±0.006	0.476±0.012
神奈川県	神保町・旗塚	30	6.785±0.254	2.19±0.057	0.728±0.019	9.282±0.622	0.048±0.017	1.157±0.061	0.252±0.017	0.025±0.019	0.140±0.008	1.578±0.046
	飯沼・旗塚	41	2.056±0.064	0.669±0.019	0.076±0.007	2.912±0.104	0.062±0.007	0.680±0.029	0.202±0.011	0.011±0.010	0.080±0.005	1.126±0.031
静岡県	飯沼	31	1.663±0.071	0.381±0.019	0.056±0.007	2.139±0.097	0.073±0.008	0.629±0.025	0.154±0.009	0.011±0.009	0.067±0.005	0.904±0.020
	高島峠	52	2.225±0.149	0.506±0.015	0.042±0.009	2.278±0.164	0.085±0.008	0.737±0.039	0.135±0.013	0.007±0.007	0.071±0.006	0.880±0.033
静岡県	上野宮	31	1.329±0.078	0.294±0.018	0.041±0.006	1.697±0.068	0.087±0.009	0.551±0.023	0.138±0.011	0.010±0.009	0.059±0.004	0.856±0.018
	柏崎	35	1.213±0.164	0.314±0.028	0.031±0.004	1.699±0.167	0.113±0.007	0.391±0.022	0.143±0.007	0.009±0.009	0.047±0.004	0.663±0.020
静岡県	小豆峠	40	0.110±0.008	0.052±0.004	0.297±0.038	3.211±0.319	0.829±0.089	0.154±0.030	0.547±0.054	0.087±0.057	0.025±0.014	0.429±0.016
	鳥巻	42	0.278±0.012	0.065±0.003	0.064±0.013	2.013±0.119	0.878±0.052	0.589±0.039	0.190±0.029	0.077±0.033	0.031±0.004	0.353±0.012
富山県	二上山第一群	36	0.319±0.017	0.113±0.006	0.040±0.008	1.720±0.080	0.740±0.052	0.665±0.029	0.121±0.026	0.047±0.031	0.015±0.014	0.392±0.018
	二上山第二群	40	0.710±0.017	0.202±0.008	0.054±0.011	1.994±0.157	0.413±0.028	0.840±0.050	0.118±0.025	0.051±0.031	0.020±0.020	0.599±0.024
富山県	二上山第三群	45	0.441±0.052	0.108±0.014	0.079±0.021	2.251±0.138	0.794±0.155	1.222±0.088	0.127±0.041	0.067±0.053	0.015±0.014	0.412±0.025
	三ヶ峯	168	0.156±0.015	0.068±0.003	0.101±0.018	1.351±0.070	1.052±0.051	0.960±0.039	0.275±0.039	0.090±0.035	0.029±0.003	0.346±0.011
富山県	観音沢	72	0.159±0.010	0.069±0.002	0.100±0.019	1.324±0.084	1.055±0.057	0.968±0.033	0.279±0.032	0.086±0.033	0.030±0.003	0.345±0.010
	和田峠第一群	143	0.167±0.028	0.049±0.008	0.117±0.011	1.346±0.085	1.853±0.124	1.112±0.056	0.409±0.048	0.139±0.026	0.025±0.002	0.355±0.018
富山県	和田峠第二群	17	0.146±0.003	0.032±0.003	0.151±0.010	1.461±0.039	2.449±0.135	0.036±0.012	0.517±0.044	0.186±0.025	0.027±0.002	0.368±0.007
	和田峠第三群	62	0.248±0.048	0.064±0.012	0.114±0.011	1.520±0.182	1.673±0.140	0.274±0.104	0.374±0.048	0.122±0.024	0.025±0.003	0.348±0.017
富山県	和田峠第四群	37	0.144±0.017	0.063±0.004	0.094±0.009	1.373±0.085	1.311±0.037	0.206±0.030	0.263±0.038	0.090±0.022	0.023±0.002	0.331±0.019
	和田峠第五群	47	0.176±0.019	0.075±0.010	0.073±0.011	1.282±0.086	1.033±0.196	0.275±0.058	0.184±0.042	0.066±0.023	0.021±0.002	0.306±0.013
富山県	和田峠第六群	55	0.156±0.011	0.065±0.005	0.085±0.012	1.333±0.064	1.573±0.093	0.134±0.031	0.279±0.039	0.100±0.017	0.021±0.002	0.313±0.012
	陣山・和田	53	0.138±0.004	0.042±0.002	0.123±0.010	1.259±0.041	1.928±0.067	0.045±0.010	0.442±0.039	0.142±0.022	0.026±0.002	0.390±0.010
長野県	男女倉	119	0.223±0.026	0.102±0.010	0.059±0.006	1.189±0.081	0.701±0.018	0.409±0.053	0.128±0.024	0.026±0.002	0.026±0.002	0.354±0.008
	大石沢	81	0.222±0.014	0.099±0.006	0.058±0.008	1.189±0.060	0.748±0.075	0.392±0.031	0.110±0.022	0.046±0.021	0.025±0.005	0.346±0.009
長野県	貝口	49	0.155±0.007	0.068±0.003	0.102±0.018	1.302±0.077	1.033±0.063	0.862±0.030	0.285±0.035	0.104±0.040	0.030±0.003	0.356±0.011
	養老峠	97	0.274±0.017	0.136±0.010	0.051±0.012	1.397±0.099	0.542±0.058	0.736±0.044	0.110±0.024	0.043±0.017	0.031±0.003	0.383±0.013
長野県	遊子池	83	0.252±0.027	0.129±0.007	0.059±0.010	1.630±0.179	0.669±0.052	0.802±0.058	0.111±0.024	0.037±0.032	0.027±0.007	0.401±0.011
	冷山	87	0.267±0.011	0.134±0.006	0.048±0.013	1.382±0.065	0.546±0.034	0.727±0.036	0.109±0.031	0.045±0.022	0.031±0.004	0.381±0.011
長野県	大塚沢	42	1.481±0.117	0.466±0.021	0.042±0.006	2.005±0.135	1.182±0.011	0.841±0.044	0.105±0.010	0.009±0.008	0.033±0.005	0.459±0.012
	横川	41	3.047±0.065	1.071±0.026	0.115±0.015	7.390±0.365	0.158±0.016	0.833±0.040	0.186±0.015	0.023±0.012	0.045±0.005	0.513±0.021
新潟県	佐渡第一群	34	0.228±0.013	0.078±0.006	0.020±0.005	1.492±0.079	0.821±0.047	0.688±0.018	0.142±0.018	0.029±0.017	0.024±0.004	0.338±0.013
	佐渡第二群	12	0.263±0.032	0.097±0.018	0.020±0.006	1.501±0.053	0.717±0.106	0.326±0.029	0.091±0.022	0.038±0.015	0.025±0.002	0.338±0.009
新潟県	上三川	45	0.321±0.007	0.070±0.003	0.069±0.011	2.051±0.070	0.981±0.042	0.773±0.034	0.182±0.023	0.046±0.027	0.026±0.007	0.395±0.009
	斑山	44	0.232±0.011	0.068±0.003	0.169±0.017	2.178±1.110	1.772±0.086	0.772±0.046	0.374±0.047	0.154±0.034	0.027±0.002	0.355±0.009
新潟県	木白川	22	0.569±0.012	0.142±0.007	0.033±0.005	1.608±0.045	0.261±0.012	0.332±0.011	0.150±0.015	0.033±0.011	0.036±0.003	0.491±0.014
	金	46	0.331±0.011	0.097±0.037	0.030±0.007	1.711±0.066	0.818±0.027	0.283±0.012	0.181±0.016	0.035±0.018	0.027±0.009	0.402±0.027
石川県	羽根川	55	0.163±0.019	0.053±0.005	0.099±0.011	1.354±0.058	1.615±0.063	0.084±0.012	0.309±0.036	0.100±0.028	0.023±0.007	0.340±0.030
	比羅	17	0.370±0.014	0.087±0.004	0.060±0.009	2.699±0.167	0.639±0.028	0.534±0.023	0.172±0.028	0.052±0.018	0.032±0.002	0.396±0.017
福井県	安曇	21	0.407±0.007	0.123±0.005	0.038±0.006	1.628±0.051	0.643±0.041	0.675±0.030	0.113±0.020	0.061±0.016	0.032±0.002	0.450±0.010
	三上山	21	0.350±0.018	0.123±0.008	0.036±0.006	1.561±0.081	0.608±0.031	0.798±0.039	0.099±0.020	0.062±0.013	0.028±0.002	0.381±0.008
兵庫県	香住第一群	30	0.216±0.005	0.062±0.002	0.045±0.007	1.828±0.056	0.883±0.034	0.265±0.012	0.097±0.021	0.139±0.018	0.024±0.007	0.365±0.008
	香住第二群	40	0.278±0.012	0.100±0.004	0.048±0.009	1.764±0.066	0.813±0.045	0.397±0.020	0.112±0.026	0.138±0.024	0.026±0.012	0.446±0.012
兵庫県	南粟(待集)	28	0.123±0.004	0.056±0.002	0.083±0.012	1.967±0.061	1.171±0.040	1.57±0.013	0.183±0.044	0.221±0.021	0.026±0.025	0.316±0.006
	加茂	20	0.166±0.006	0.093±0.008	0.014±0.003	0.899±0.031	0.278±0.017	0.009±0.003	0.061±0.015	0.154±0.018	0.020±0.001	0.429±0.016
鳥根県	海井	30	0.161±0.008	0.132±0.182	0.015±0.003	0.840±0.041	0.301±0.014	0.015±0.006	0.060±0.013	0.144±0.008	0.020±0.002	0.244±0.009
	久見	31	0.145±0.006	0.061±0.003	0.021±0.004	0.980±0.023	0.386±0.011	0.007±0.003	0.109±0.013	0.238±0.011	0.023±0.002	0.315±0.006

表6-3 各黒曜石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値

原産地原石群名	分析 個数	元素比									
		Ca/K	Ti/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Al/K	Si/K
岡山県	豊島	0.268±0.009	0.078±0.003	0.077±0.018	1.927±0.150	1.721±0.113	0.808±0.060	0.244±0.051	0.083±0.036	0.031±0.004	0.367±0.009
	奥津第一群	1.202±0.077	0.141±0.010	0.032±0.008	3.126±0.170	0.686±0.065	1.350±0.082	0.026±0.026	0.065±0.019	0.041±0.004	0.507±0.011
	奥津第二群	1.585±0.126	0.194±0.018	0.035±0.007	2.860±0.160	0.423±0.058	1.044±0.077	0.024±0.019	0.042±0.013	0.045±0.004	0.507±0.013
香川県	藤山	1.274±0.081	0.144±0.011	0.035±0.012	3.138±0.163	0.689±0.078	1.335±0.091	0.023±0.027	0.061±0.020	0.041±0.003	0.500±0.012
	持合・南山	1.185±0.057	0.143±0.008	0.038±0.012	3.202±0.163	0.707±0.061	1.366±0.088	0.029±0.025	0.073±0.021	0.041±0.005	0.500±0.014
	大岡山青雲第一群	1.467±0.120	0.203±0.023	0.042±0.009	3.176±0.178	0.494±0.080	1.010±0.073	0.038±0.023	0.047±0.013	0.041±0.003	0.487±0.016
	大岡山青雲第二群	1.018±0.043	0.116±0.012	0.043±0.014	3.305±0.198	0.895±0.048	1.256±0.059	0.029±0.030	0.072±0.018	0.038±0.004	0.476±0.012
徳島県	八女肥前遺産	0.261±0.010	0.211±0.007	0.033±0.003	0.798±0.027	0.326±0.013	0.283±0.015	0.071±0.009	0.034±0.008	0.024±0.006	0.275±0.009
	中野第一群	0.267±0.007	0.087±0.003	0.027±0.005	1.619±0.083	0.248±0.028	0.348±0.015	0.103±0.018	0.075±0.018	0.023±0.007	0.321±0.011
佐賀県	中野第二群	0.345±0.007	0.104±0.003	0.027±0.005	1.535±0.039	0.455±0.017	0.397±0.014	0.069±0.016	0.059±0.014	0.026±0.008	0.328±0.008
	柳野	0.367±0.014	0.202±0.006	0.071±0.013	4.239±0.205	1.046±0.065	1.269±0.058	0.104±0.032	0.380±0.047	0.026±0.005	0.345±0.008
	藤島	0.411±0.009	0.031±0.005	0.075±0.019	2.572±0.212	1.600±0.086	0.414±0.042	0.311±0.046	0.256±0.043	0.025±0.002	0.335±0.008
	推葉川	0.214±0.009	0.071±0.003	0.101±0.017	2.947±0.142	1.253±0.081	2.015±0.099	0.147±0.035	0.255±0.040	0.030±0.007	0.388±0.009
	坂津第一群	0.600±0.067	0.153±0.029	0.125±0.018	4.692±0.369	1.170±0.114	2.023±0.122	0.171±0.032	0.255±0.037	0.032±0.003	0.376±0.008
	坂津第二群	0.953±0.027	0.307±0.010	0.126±0.013	6.656±0.342	0.856±0.070	1.907±0.119	0.147±0.029	0.194±0.028	0.033±0.008	0.383±0.010
大分県	観音崎	0.273±0.010	0.046±0.005	0.409±0.086	6.631±0.878	1.805±0.757	1.562±0.231	0.344±0.087	0.679±0.126	0.039±0.003	0.400±0.011
	高瀬第一群	0.726±0.011	0.045±0.003	0.411±0.066	6.743±0.900	1.845±0.286	1.553±0.230	0.318±0.087	0.560±0.144	0.036±0.004	0.401±0.012
	*高瀬第二群	0.649±0.044	0.141±0.010	0.186±0.046	4.355±0.683	0.310±0.025	3.017±0.459	0.142±0.050	0.188±0.056	0.041±0.004	0.427±0.014
	*高瀬第三群	1.038±0.131	0.211±0.024	0.110±0.027	3.367±0.617	0.311±0.058	3.756±0.688	0.105±0.030	0.094±0.037	0.042±0.007	0.442±0.021
	*ネオイ崎	1.059±0.143	0.214±0.030	0.120±0.043	3.598±1.035	0.335±0.106	4.000±1.162	0.118±0.048	0.092±0.036	0.044±0.004	0.449±0.018
	*新橋	0.680±0.061	0.145±0.013	0.168±0.037	4.397±0.776	0.612±0.095	3.080±0.476	0.147±0.046	0.194±0.050	0.041±0.005	0.431±0.015
	源島	0.313±0.023	0.127±0.009	0.065±0.010	1.489±0.124	0.600±0.051	0.686±0.082	0.175±0.018	0.102±0.020	0.028±0.002	0.317±0.009
	萩谷台	0.515±0.042	0.670±0.013	0.096±0.008	5.509±0.269	0.284±0.031	1.526±0.053	0.097±0.016	0.032±0.018	0.032±0.005	0.310±0.011
	郷方下崖平	0.482±0.036	0.286±0.015	0.051±0.008	1.311±0.095	0.303±0.019	0.712±0.043	0.089±0.018	0.055±0.021	0.012±0.010	0.288±0.016
	徳島県	久喜/津	0.172±0.009	0.066±0.002	0.030±0.005	1.176±0.043	0.385±0.012	0.611±0.004	0.135±0.018	0.354±0.014	0.023±0.002
高瀬/津		0.174±0.007	0.065±0.002	0.033±0.006	1.174±0.035	0.389±0.012	0.613±0.005	0.139±0.014	0.356±0.012	0.023±0.003	0.275±0.008
貝原		0.146±0.009	0.038±0.002	0.039±0.003	1.276±0.030	0.426±0.035	0.635±0.008	0.071±0.004	0.374±0.003	0.023±0.002	0.276±0.007
貝原		0.135±0.010	0.037±0.002	0.055±0.009	1.746±0.073	0.534±0.054	0.622±0.013	0.334±0.046	0.714±0.040	0.021±0.009	0.339±0.015
坂津第一群		0.215±0.018	0.032±0.008	0.072±0.016	2.545±0.181	1.538±0.176	0.429±0.026	0.271±0.064	0.254±0.046	0.025±0.002	0.340±0.008
坂津第二群		0.183±0.011	0.031±0.005	0.071±0.024	2.288±0.319	1.523±0.193	0.309±0.083	0.244±0.074	0.204±0.049	0.024±0.002	0.337±0.010
坂津第三群		0.249±0.023	0.062±0.006	0.051±0.016	1.936±0.231	0.856±0.112	0.405±0.093	0.148±0.052	0.139±0.031	0.025±0.002	0.333±0.014
坂津第四群		0.284±0.022	0.066±0.008	0.045±0.012	1.890±0.157	0.774±0.179	0.454±0.036	0.120±0.044	0.132±0.036	0.026±0.002	0.343±0.010
深津		0.334±0.014	0.080±0.004	0.044±0.009	1.744±0.069	0.533±0.030	0.485±0.039	0.094±0.022	0.119±0.017	0.027±0.002	0.353±0.011
中野第一群		0.243±0.019	0.059±0.007	0.067±0.015	1.849±0.104	0.811±0.089	0.398±0.028	0.135±0.035	0.147±0.023	0.026±0.002	0.345±0.009
長崎県	0.322±0.034	0.081±0.015	0.045±0.011	1.788±0.108	0.654±0.085	0.485±0.042	0.118±0.025	0.099±0.016	0.026±0.002	0.338±0.015	
	0.202±0.012	0.029±0.004	0.076±0.018	2.628±0.214	1.695±0.146	0.403±0.060	0.319±0.073	0.233±0.074	0.030±0.003	0.342±0.011	
	0.423±0.016	0.075±0.007	0.089±0.017	2.797±0.274	1.148±0.133	1.814±0.192	0.103±0.060	0.038±0.053	0.034±0.003	0.367±0.009	
	0.265±0.032	0.064±0.008	0.066±0.010	1.931±0.143	0.399±0.110	0.433±0.049	0.122±0.041	0.119±0.044	0.031±0.003	0.347±0.010	
	0.194±0.026	0.064±0.005	0.040±0.008	1.686±0.114	0.833±0.058	0.251±0.025	0.192±0.032	0.124±0.039	0.018±0.011	0.331±0.017	
	0.176±0.017	0.063±0.002	0.041±0.012	1.710±0.081	0.912±0.036	0.181±0.022	0.202±0.029	0.133±0.024	0.023±0.002	0.319±0.010	
	0.317±0.023	0.127±0.005	0.063±0.007	1.441±0.070	0.611±0.032	0.703±0.044	0.175±0.033	0.097±0.017	0.023±0.002	0.320±0.007	
	0.261±0.016	0.214±0.007	0.034±0.003	0.788±0.033	0.326±0.012	0.278±0.015	0.089±0.012	0.031±0.009	0.021±0.002	0.243±0.008	
	0.258±0.009	0.214±0.006	0.033±0.005	0.794±0.078	0.329±0.017	0.275±0.010	0.066±0.011	0.033±0.009	0.020±0.003	0.243±0.008	
	0.534±0.139	0.665±0.035	0.075±0.008	4.494±0.460	0.494±0.040	1.236±0.092	0.090±0.018	0.041±0.012	0.030±0.003	0.292±0.010	
熊本県	0.261±0.012	0.211±0.008	0.032±0.003	0.780±0.038	0.324±0.011	0.279±0.017	0.064±0.011	0.037±0.006	0.025±0.002	0.277±0.009	
	5.599±0.107	0.722±0.046	0.085±0.011	6.205±0.305	0.256±0.018	1.154±0.055	0.103±0.014	0.047±0.013	0.027±0.004	0.247±0.016	
	0.791±0.082	0.279±0.009	0.045±0.005	1.208±0.023	0.279±0.018	0.811±0.046	0.046±0.012	0.029±0.014	0.031±0.009	0.366±0.033	
	1.668±0.165	0.694±0.036	0.090±0.010	4.977±0.387	0.253±0.019	1.335±0.104	0.098±0.016	0.040±0.008	0.031±0.003	0.398±0.012	
	1.471±0.136	0.602±0.041	0.078±0.011	4.838±0.344	0.252±0.016	1.288±0.124	0.104±0.013	0.023±0.013	0.027±0.003	0.265±0.020	
	1.558±0.146	0.661±0.030	0.075±0.011	4.571±0.972	0.257±0.016	1.252±0.112	0.091±0.016	0.040±0.009	0.030±0.004	0.291±0.010	

表6-4 各黒曜石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値

原産地原石群名	分析 個数	元素比										
		Ca/K	Ti/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Al/K	Si/K	
白浜	78	0.208±0.021	0.101±0.009	0.024±0.006	1.382±0.086	1.021±0.099	0.351±0.037	0.162±0.027	0.027±0.022	0.022±0.007	0.317±0.009	
宮崎県	47	0.207±0.015	0.094±0.006	0.070±0.009	1.521±0.075	1.080±0.048	0.418±0.020	0.266±0.034	0.063±0.024	0.020±0.003	0.134±0.011	
	33	0.261±0.015	0.094±0.006	0.066±0.010	1.743±0.095	1.242±0.060	0.753±0.039	0.205±0.029	0.047±0.036	0.022±0.002	0.323±0.019	
	36	0.158±1.118	5.001±0.175	0.041±0.002	0.038±0.002	0.009±0.004	0.155±0.005	0.036±0.019	0.000±0.000	0.035±0.019	0.446±0.022	
原野ヶ平第一群	45	0.186±0.010	0.083±0.005	0.047±0.008	1.611±0.079	0.948±0.055	0.340±0.032	0.281±0.031	0.041±0.032	0.022±0.008	0.358±0.014	
	45	0.247±0.018	0.106±0.006	0.047±0.008	1.488±0.074	0.768±0.034	0.428±0.049	0.236±0.020	0.039±0.027	0.024±0.008	0.378±0.013	
	42	0.584±0.012	0.176±0.005	0.032±0.007	1.484±0.087	0.749±0.031	0.675±0.049	0.143±0.023	0.036±0.022	0.023±0.014	0.390±0.019	
原野ヶ平第二群	42	0.262±0.018	0.143±0.006	0.022±0.004	1.178±0.040	0.712±0.028	0.408±0.025	0.100±0.018	0.029±0.013	0.019±0.001	0.275±0.006	
鹿児島県	37	0.266±0.021	0.140±0.005	0.019±0.003	1.170±0.064	0.705±0.027	0.405±0.021	0.108±0.015	0.028±0.013	0.019±0.001	0.275±0.006	
	41	1.629±0.098	0.804±0.037	0.053±0.006	3.342±0.215	1.188±0.013	1.105±0.056	0.087±0.009	0.022±0.009	0.036±0.002	0.391±0.011	
	34	1.944±0.054	0.912±0.028	0.062±0.005	3.975±0.182	1.184±0.011	1.266±0.049	0.093±0.010	0.021±0.010	0.038±0.003	0.408±0.010	
	48	0.533±0.029	0.167±0.006	0.061±0.013	1.494±0.093	0.611±0.039	0.688±0.052	0.127±0.023	0.069±0.022	0.033±0.003	0.494±0.011	
	30	0.553±0.032	0.137±0.006	0.065±0.010	1.815±0.062	0.544±0.028	0.553±0.029	0.146±0.021	0.066±0.020	0.037±0.003	0.524±0.012	
	37	0.510±0.010	0.198±0.007	0.038±0.007	1.862±0.079	0.353±0.019	0.519±0.017	0.123±0.012	0.024±0.017	0.029±0.007	0.407±0.010	
台湾	72	0.473±0.012	0.126±0.007	0.046±0.007	1.572±0.059	0.199±0.011	0.497±0.016	0.126±0.011	0.009±0.014	0.009±0.010	0.460±0.030	
	50	0.154±0.009	0.067±0.003	0.018±0.005	1.081±0.028	0.530±0.013	0.081±0.008	0.151±0.015	0.338±0.012	0.027±0.003	0.306±0.008	

表6-5 各黒曜石の原産地における黒曜石製造物群の元素比の平均値と標準偏差値

原産地原石群名	分析 個数	元素比										
		Ca/K	Ti/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Al/K	Si/K	
北海道	H S 1 遺物群	67	0.241±0.021	0.107±0.005	0.018±0.006	1.296±0.077	0.430±0.016	0.153±0.009	0.140±0.015	0.008±0.013	0.018±0.012	0.325±0.042
	H S 2 遺物群	60	0.453±0.011	0.135±0.008	0.041±0.008	1.765±0.075	0.448±0.021	0.419±0.019	0.130±0.015	0.015±0.019	0.034±0.010	0.500±0.015
	F R 1 遺物群	51	0.643±0.018	0.124±0.008	0.052±0.007	2.547±0.143	0.530±0.032	0.689±0.032	0.155±0.015	0.004±0.008	0.029±0.011	0.407±0.044
	F R 2 遺物群	59	0.535±0.061	0.106±0.012	0.053±0.009	2.545±0.138	0.557±0.051	0.685±0.029	0.165±0.021	0.016±0.022	0.027±0.009	0.373±0.043
	F R 3 遺物群	37	0.390±0.037	0.084±0.007	0.052±0.009	2.548±0.145	0.586±0.056	0.681±0.033	0.137±0.017	0.017±0.021	0.027±0.009	0.373±0.043
	F R 4 遺物群	44	0.261±0.043	0.074±0.010	0.051±0.008	2.500±0.117	0.679±0.032	0.155±0.021	0.007±0.017	0.118±0.008	0.258±0.036	0.383±0.015
	F H 1 遺物群	32	0.898±0.032	0.221±0.007	0.054±0.006	2.500±0.101	0.426±0.018	0.802±0.023	0.109±0.013	0.017±0.021	0.037±0.003	0.447±0.011
	K T 1 遺物群	56	1.103±0.050	0.146±0.007	0.081±0.008	2.942±0.133	0.314±0.053	0.775±0.082	0.133±0.016	0.019±0.021	0.043±0.007	0.516±0.015
	K T 2 遺物群	38	0.959±0.027	0.154±0.005	0.085±0.010	2.882±0.092	0.542±0.028	1.111±0.040	0.107±0.015	0.012±0.016	0.042±0.008	0.519±0.010
	K S 1 遺物群	32	0.275±0.007	0.107±0.005	0.047±0.010	1.751±0.051	0.836±0.038	0.468±0.021	0.180±0.019	0.023±0.028	0.025±0.007	0.345±0.010
	K S 2 遺物群	62	0.244±0.011	0.070±0.004	0.056±0.013	1.749±0.168	1.080±0.108	0.424±0.036	0.327±0.042	0.037±0.031	0.023±0.011	0.379±0.011
	K S 3 遺物群	48	0.184±0.008	0.041±0.002	0.080±0.013	2.565±0.126	1.460±0.057	0.162±0.019	0.389±0.042	0.069±0.028	0.024±0.002	0.337±0.015
	K S 9 遺物群	48	0.185±0.007	0.049±0.003	0.081±0.013	2.162±0.122	1.031±0.041	0.435±0.025	0.263±0.028	0.050±0.019	0.023±0.002	0.260±0.009
	H Y 遺物群	31	0.238±0.011	0.131±0.006	0.048±0.008	1.836±0.066	0.418±0.028	1.441±0.015	0.482±0.024	0.029±0.028	0.020±0.015	0.481±0.068
	S N 1 遺物群	33	0.287±0.006	0.087±0.004	0.033±0.005	1.959±0.037	0.244±0.011	0.258±0.011	0.281±0.012	0.009±0.012	0.021±0.006	0.329±0.008
S N 2 遺物群	29	0.209±0.006	0.116±0.006	0.016±0.006	1.571±0.062	0.716±0.035	0.292±0.017	0.264±0.029	0.026±0.030	0.023±0.009	0.383±0.015	
秋田県	K N 遺物群	107	0.351±0.011	0.121±0.006	0.053±0.007	1.581±0.071	0.347±0.020	0.219±0.014	0.216±0.015	0.054±0.017	0.029±0.011	0.475±0.040
	T B 遺物群	60	0.252±0.014	0.113±0.007	0.124±0.015	1.805±0.088	0.875±0.056	0.683±0.038	0.272±0.029	0.083±0.037	0.026±0.008	0.378±0.021
	H R 遺物群	48	0.259±0.008	0.093±0.003	0.067±0.011	2.055±0.067	0.741±0.028	0.293±0.016	0.331±0.021	0.064±0.019	0.036±0.003	0.444±0.010
	A 1 1 遺物群	41	1.519±0.026	0.277±0.010	0.078±0.006	2.849±0.073	0.167±0.010	0.526±0.017	0.251±0.013	0.009±0.012	0.056±0.017	0.929±0.024
	A 1 2 遺物群	61	3.141±0.074	0.552±0.021	0.080±0.008	4.752±0.062	0.094±0.009	0.716±0.019	0.242±0.011	0.008±0.014	0.083±0.029	1.353±0.049
	A 1 3 遺物群	61	0.950±0.013	0.215±0.004	0.117±0.009	2.306±0.100	0.114±0.008	0.909±0.028	0.488±0.012	0.014±0.016	0.028±0.006	0.360±0.009
岩手県	A 1 4 遺物群	122	1.850±0.059	0.474±0.025	0.067±0.007	2.055±0.077	0.083±0.006	0.531±0.030	0.177±0.010	0.011±0.013	0.064±0.025	1.061±0.105
	A 1 5 遺物群	122	3.167±0.092	0.696±0.027	0.101±0.009	3.787±0.108	0.114±0.010	0.892±0.026	0.241±0.012	0.006±0.012	0.091±0.020	1.234±0.052
	F S 遺物群	45	0.272±0.090	0.097±0.029	0.053±0.007	1.711±0.083	0.327±0.019	0.453±0.024	0.207±0.018	0.029±0.027	0.017±0.011	0.339±0.011
	S D 遺物群	48	2.900±0.050	0.741±0.016	0.118±0.010	3.922±0.077	0.117±0.012	0.906±0.025	0.246±0.013	0.008±0.011	0.083±0.018	1.195±0.029
	A C 1 遺物群	63	0.479±0.014	0.192±0.006	0.054±0.008	1.561±0.075	0.490±0.017	0.440±0.019	0.167±0.019	0.05±0.015	0.033±0.005	0.427±0.016
新潟県	A C 2 遺物群	48	0.251±0.007	0.081±0.003	0.112±0.013	1.081±0.076	0.904±0.035	0.446±0.020	0.409±0.024	0.108±0.023	0.038±0.003	0.419±0.007

表6-5 各黒曜石の原産地における黒曜石製遺物群の元素比の平均値と標準偏差値

原産地原石群名	分析 個数	元素比										
		Ca/K	Ti/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Al/K	Si/K	
新潟県	AC 3 遺物群	36	0.657±0.016	0.144±0.005	0.083±0.010	1.891±0.051	0.202±0.010	0.381±0.017	0.286±0.018	0.041±0.012	0.049±0.005	0.616±0.013
	IN 1 遺物群	48	0.326±0.012	0.078±0.004	0.066±0.010	2.056±0.177	0.901±0.048	0.751±0.045	0.172±0.030	0.068±0.016	0.028±0.030	0.338±0.007
	IN 2 遺物群	48	0.745±0.013	0.110±0.004	0.140±0.015	3.176±0.212	0.728±0.039	1.582±0.090	0.104±0.030	0.038±0.013	0.036±0.003	0.396±0.010
長野県	NK 遺物群	57	0.586±0.019	0.163±0.007	0.086±0.011	1.822±0.084	0.467±0.031	1.691±0.064	0.102±0.021	0.041±0.028	0.038±0.003	0.500±0.014
	Y M 遺物群	56	0.381±0.016	0.138±0.005	0.038±0.012	1.611±0.102	0.721±0.039	0.497±0.026	0.128±0.022	0.047±0.016	0.023±0.003	0.331±0.011
	N M 遺物群	40	0.330±0.010	0.103±0.003	0.042±0.012	1.751±0.083	1.048±0.057	0.518±0.034	0.196±0.037	0.058±0.018	0.022±0.003	0.326±0.013
山口県	M K 1 遺物群	48	0.687±0.008	0.059±0.002	0.010±0.003	0.677±0.023	0.370±0.097	0.006±0.002	0.125±0.012	0.292±0.010	0.022±0.002	0.337±0.010
	M K 2 遺物群	48	0.258±0.010	0.026±0.002	0.055±0.013	1.455±0.121	1.149±0.092	0.297±0.029	0.202±0.037	0.177±0.022	0.021±0.002	0.268±0.007
	H B 1 遺物群	54	0.794±0.020	0.202±0.009	0.091±0.013	1.774±0.132	0.380±0.030	1.350±0.096	0.076±0.032	0.079±0.022	0.040±0.004	0.434±0.015
富山県	H B 2 遺物群	48	0.197±0.035	0.754±0.055	0.068±0.042	7.099±0.844	0.434±0.062	0.975±0.130	0.368±0.079	0.126±0.079	0.093±0.022	6.312±0.525
	U T 2 遺物群	48	0.414±0.100	1.557±0.674	0.110±0.044	9.900±1.694	0.176±0.068	1.209±0.459	0.327±0.052	0.178±0.069	0.178±0.044	9.938±1.532
	J T 1 遺物群	46	0.297±0.013	0.107±0.005	0.053±0.010	1.638±0.104	1.012±0.056	0.736±0.039	0.168±0.027	0.034±0.028	0.024±0.011	0.380±0.014
鹿児島県	K U 4 遺物群	48	1.871±0.365	1.018±0.094	3.790±0.705	14.990±4.006	0.673±0.081	2.043±0.233	0.752±0.079	0.056±0.045	0.090±0.017	4.302±0.246
	K I 1 遺物群	45	0.383±0.012	0.101±0.005	0.061±0.024	1.913±0.158	0.985±0.057	0.527±0.038	0.197±0.030	0.079±0.028	0.028±0.002	0.409±0.009
	K I 2 遺物群	46	0.402±0.015	0.146±0.008	0.060±0.017	1.529±0.148	0.729±0.052	0.565±0.038	0.137±0.024	0.083±0.026	0.029±0.003	0.443±0.022
鹿児島県	S G 遺物群	48	1.668±0.034	0.778±0.038	0.882±0.100	4.106±0.222	0.202±0.014	0.699±0.025	0.133±0.013	0.015±0.019	0.027±0.001	0.553±0.033
	O K 遺物群	32	1.371±0.074	0.687±0.025	0.061±0.008	3.109±0.161	0.202±0.012	0.579±0.027	0.122±0.014	0.009±0.014	0.027±0.018	0.518±0.021
	K K 1 遺物群	48	0.347±0.010	0.080±0.003	0.081±0.012	3.085±0.155	0.887±0.036	1.487±0.065	0.119±0.036	0.184±0.023	0.027±0.002	0.265±0.009
鹿児島県	K K 2 遺物群	46	0.521±0.012	0.122±0.004	0.076±0.013	3.175±0.222	0.877±0.048	1.500±0.074	0.109±0.034	0.187±0.023	0.035±0.004	0.359±0.010
	H M 1 遺物群	44	0.683±0.024	0.861±0.021	0.063±0.013	8.678±0.663	0.642±0.039	0.739±0.054	0.127±0.034	0.065±0.018	0.037±0.005	0.282±0.008
	H M 2 遺物群	50	0.483±0.022	0.121±0.006	0.054±0.014	1.975±0.122	0.695±0.040	0.454±0.034	0.191±0.028	0.058±0.028	0.034±0.006	0.474±0.016
	O N 1 遺物群	54	0.303±0.012	0.167±0.006	0.038±0.007	1.157±0.044	0.447±0.020	0.435±0.016	0.126±0.025	0.039±0.016	0.052±0.004	0.376±0.012

表6-6 各黒曜石の原産地における黒曜石製遺物群の元素比の平均値と標準偏差値

原産地原石群名	分析 個数	元素比										
		Ca/K	Ti/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Al/K	Si/K	
北朝鮮	ON2 遺物群	56	0.276±0.019	0.053±0.004	0.084±0.017	2.491±0.128	1.492±0.088	0.667±0.046	0.211±0.032	0.108±0.028	0.030±0.004	0.345±0.011
	会率海外遺跡遺物群	70	0.185±0.012	0.062±0.006	0.017±0.003	1.118±0.051	0.585±0.036	0.068±0.019	0.150±0.022	0.372±0.035	0.025±0.004	0.319±0.012
	イリスダヤ	26	18.888±2.100	6.898±0.898	0.293±0.032	27.963±2.698	0.056±0.017	27.16±0.162	0.163±0.019	0.036±0.030	0.173±0.029	1.874±0.249
ロシア	A 分1カ1	56	0.706±0.048	0.225±0.011	0.048±0.010	1.851±0.180	0.246±0.014	0.752±0.070	0.075±0.016	0.015±0.006	0.041±0.004	0.482±0.022
	A 分1カ2	40	0.717±0.018	0.289±0.006	0.031±0.006	1.964±0.043	0.119±0.007	0.398±0.016	0.095±0.008	0.016±0.006	0.031±0.003	0.402±0.010
	A 分1カ3	48	0.384±0.008	0.097±0.004	0.043±0.007	1.642±0.053	0.262±0.011	0.753±0.026	0.056±0.026	0.013±0.002	0.017±0.003	0.176±0.009
	A 分1カ4	48	0.141±0.007	0.074±0.003	0.029±0.004	1.069±0.025	0.203±0.007	0.150±0.006	0.106±0.009	0.024±0.006	0.016±0.002	0.146±0.004
	ナチキ	48	0.220±0.008	0.104±0.004	0.099±0.016	1.261±0.062	0.608±0.028	0.500±0.026	0.122±0.030	0.064±0.023	0.024±0.003	0.340±0.006
樺太材料	A 分1カヤ	40	0.255±0.007	0.160±0.005	0.029±0.004	1.121±0.034	0.192±0.007	0.151±0.008	0.106±0.009	0.024±0.007	0.026±0.003	0.303±0.007
	J G - 1(A)	127	0.755±0.010	0.202±0.005	0.076±0.011	3.759±0.111	0.993±0.036	1.331±0.046	0.251±0.027	0.105±0.017	0.028±0.002	0.342±0.004

M群=森ノ木湖湖群1群、F群=UT遺物群、HS 2群=崖戸・崖戸山群、FR 2群=アケシヨマップ第一群にそれぞれ一致 平均値±標準偏差値、* : ガラス質安山岩、NK 遺物群 : 中津原遺跡、HY 遺物群 : 日和山遺跡、SN 遺物群 : 三内丸山遺跡出土、KN 遺物群 : 北沢沢遺跡、HS 遺物群 : 北沢沢遺跡、K 1 遺物群 : 柳木遺跡、UT 遺物群 : 内蔵原遺跡、A 1 遺物群 : 相ノ沢遺跡、FS 遺物群 : 真ノ沢遺跡、SD 遺物群 : 下飯沼遺跡、FR 遺物群 : 東飯沼 1、2 遺跡、F H 遺物群 : 東9線8 遺跡、KT 遺物群 : 北沢 1 遺跡、KS 遺物群 : 牛ノス4 遺跡 A-R 地区、S G 遺物群 : 志志遺跡、OK 遺物群 : 奥名野遺跡、TB 遺物群 : 芦平川遺跡、NM 遺物群 : 長野遺跡、MK 遺物群 : 南方遺跡、YM 遺物群 : 南方、麻屋、岩上遺跡、AC 1、2、3 遺物群 : アチャ平遺跡、IN 1、2 遺物群 : 岩野西遺跡、K 19 遺物群 : K 9 遺跡、KK 1、2 遺物群 : 針志加屋遺跡、HB 1、2 (フリント様) : 八久保第2遺跡、HR 遺物群 : 飯室遺跡、HM 遺物群 : 香ノ山遺跡、KU 4 (硬質岩質様) : 久木野遺跡、ON 1.2 : 大原野遺跡など出土遺物の産地不明の原石群、ウラジオストク付近 : イリスダヤ遺跡、南カムチャッカ : パラトウシカ、ナチキ、A 分1カ遺跡。

a) : Ando,A, Kurasawa,H, Ohmori,T, & Takeda,E.(1974), 1974 compilation of data on the GJS geochemical reference samples JG-1 granodiorite and JB-1 basalt, Geochimical Journal Vol.8, 175-192.

表7 笹ノ沢(3)遺跡出土黒曜石製石器、剥片の元素比分析結果

分析番号	元 素 比									
	Ca/K	Ti/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Al/K	Si/K
85073	2.150	0.322	0.061	2.616	0.108	0.635	0.142	0.018	0.077	0.899
85074	0.269	0.073	0.112	2.297	0.989	0.425	0.282	0.049	0.026	0.364
85075	0.270	0.072	0.094	2.006	0.914	0.408	0.225	0.055	0.029	0.381
85076	0.268	0.070	0.081	2.383	1.048	0.438	0.253	0.035	0.033	0.379
85077	0.268	0.069	0.081	2.239	0.963	0.420	0.273	0.036	0.031	0.356
JG-1	0.788	0.215	0.065	3.435	0.855	1.152	0.250	0.085	0.028	0.319

JG-1: 標準試料-Ando, A., Kurasawa, H., Ohmori, T. & Takeda, E. 1974 compilation of data on the GJS geochemical reference samples JG-1 granodiorite and JB-1 basalt. *Geochemical Journal*, Vol.8 175-192 (1974)

表8 笹ノ沢(3)遺跡出土黒曜石製石器、剥片の原産地分析結果

分析番号	番号	遺物番号	出土遺構	出土グリッド	原産地(確率)	判 定	種別
85073	1	10096	SK-257	G-64	湯ノ倉(90%)	湯ノ倉	フレーク
85074	2	10102	SK-257	G-64	赤井川第1群(28%),赤井川第2群(8%)	赤井川	フレーク
85075	3	10109	SK-264	F-63	赤井川第1群(24%),赤井川第2群(15%)	赤井川	フレーク
85076	4	10117	SK-264	F-63	赤井川第1群(65%),十勝三股(3%),赤井川第2群(9%),大野池(2%),戸門第1群(9%)	赤井川	フレーク
85077	5	S-X	遺構外	A-38	赤井川第1群(95%),赤井川第2群(59%),大野池(0.8%),十勝三股(0.8%),戸門第1群(2%)	赤井川	石匙

注意: 近年産地分析を行う所が多くなりましたが、判定根拠が曖昧にも関わらず結果のみを報告される場合があります。本報告では日本における各遺跡の産地分析の判定基準を一定にして、産地分析を行っています。判定基準の異なる研究方法(土器様式の基準も研究方法で異なるように)にも関わらず、似た産地名のために同じ結果のように思われるが、全く関係(相互チェックなし)ありません。本研究結果に連続させるには本研究法で再分析が必要です。本報告の分析結果を考古学資料とする場合には常に同じ基準で判定されている結果で古代交流圏などを考察をする必要があります。

表9 笹ノ沢(3)遺跡出土黒曜石製剥片の非破壊分析による水和層測定結果

分析番号	遺跡名	遺物番号	判 定	水和速度 ($\mu\text{m}/1000\text{年}$)	水和層の厚さ3ヶ所測定(μm)			ABCそれぞれの経過年代(BP)			経過年代(BP)A,B,C の平均値(年)	経過年代(BP)A,B,C の標準偏差(年)	遺物種名
					A	B	C	A	B	C			
					85074	笹ノ沢(3)	10102	赤井川	19167	25458			

B.P.: 1950年を基点とした経過年代

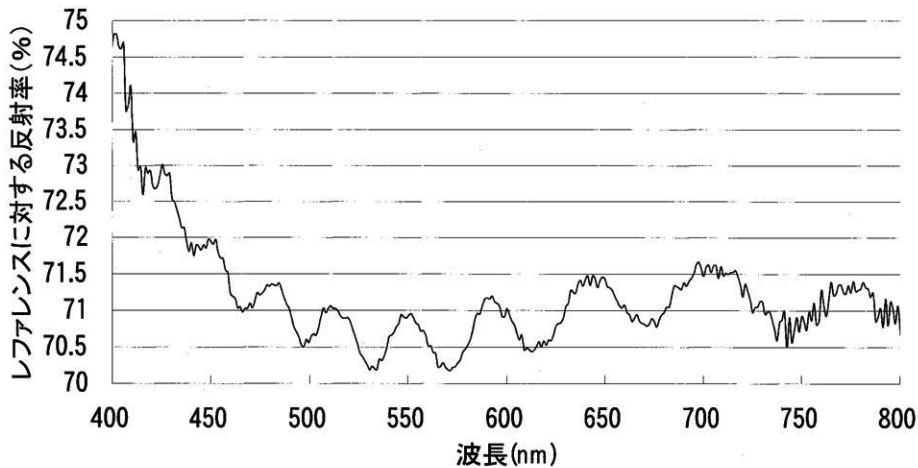


図121 笹ノ沢(3)遺跡出土黒曜石剥片(8507)の非破壊分析水和層の干渉波スペクトル(A)

第2節 第261号土坑出土炭化材の放射性炭素年代測定

青森県埋蔵文化財調査センター

様

隼地球科学研究所

作名: 笹ノ沢(3)遺跡放射性炭素年代測定

放射性炭素年代測定の依頼を受けました試料について、別表の結果を得ましたのでご報告申し上げます。

報告内容の説明

14C age (yBP) : ¹⁴C年代^{*)} measured radiocarbon age^{*)}

試料の14C/12Cの比から、単純に現在(1950年AD)から何年前(BP)かを計算した年代、半減期はリビークの5568年を用いた。

補正14C age : 補正14C年代^{*)} conventional radiocarbon age^{*)}(yBP) 試料の炭素安定同位体比(13C/12C)を測定して試料の炭素の同位体分別を知り14C/12Cの測定値に補正値を加えた上で、算出した年代。
試料の13C値を-25(%)に標準化することによって得られる年代値である。
暦年代を得る際にはこの年代値をもちいる。

δ 13C (permil) : 試料の測定14C/12C比を補正するための13C/12C比。

この安定同位体比は、下式のように標準物質(PDB)の同位体比からの千分偏差(‰)で表現する。

$$\delta 13C (\text{‰}) = \frac{(13C/12C) [\text{試料}] - (13C/12C) [\text{標準}]}{(13C/12C) [\text{標準}]} \times 1000$$

ここで13C/12C [標準] = 0.0112372である。

暦年代 : 過去の宇宙線強度の変動による大気14C濃度の変動に対する補正により、暦年代を算出する。
具体的には年代既知の樹木年輪の14Cの測定、サンゴのU-Th年代と14C年代の比較により、補正曲線を作成し、暦年代を算出する。最新のデータベース("NTCAL98 Radiocarbon Age Calibration" Stuiver et al., 1998, Radiocarbon 40 (3))により約19000yBPまでの換算が可能となった。*

*直し10000yBP以前のデータはまだ不完全であり今後も改善される可能性が高いので、補正前のデータの保管を推奨します。

"The calendar calibrations were calculated using the newest calibration data as published in Radiocarbon, Vol. 40, No.3, 1998 using the cubic spline fit mathematics as published by Talma and Vogel, Radiocarbon, Vol. 35, No.2, pg 317-322, 1993: A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates. Results are reported both as cal BC and cal BP. Note that calibration for samples beyond about 10,000 years is still very subjective. The calibration data beyond about 13,000 years is a "best fit" compilation of modeled data and although an improvement on the accuracy of the radiocarbon date, should be considered illustrative. It is very likely that calibration data beyond 10,000 years will change in the future. Because of this it is very important to quote the original BP dates and these references in your publications so that future refinements can be applied to your results."

測定方法などに関するデータ

測定方法 AMS: 加速器質量分析

Radiometric: 液体シンチレーションカウンタによるβ-線計数法

処理・調整・その他 : 試料の前処理、調整などの情報

前処理 acid-alkali-acid: 酸-アルカリ-酸洗浄

acid washes: 酸洗浄

acid etch: 酸によるエッチング

none: 未処理

調整・その他

Bulk-Low Carbon Material: 低濃度有機物処理

Bone Collagen Extraction: 骨、歯などのコラーゲン抽出

Cellulose Extraction: 木材のセルロース抽出

Extended Counting: Radiometric による測定の際、測定時間を延長する

分析機関 BETA ANALYTIC INC.

4985 SW 74 Court, Miami, FL, U.S.A 33155

C14年代測定結果

青森県埋蔵文化財調査センター 様 200678

試料データ	C14年代 (y BP) (Measured C14 age)	$\delta^{13}\text{C}$ (permil)	補正C14年代 (y BP) (Conventional C14 age)
Beta-162509	1710 \pm 40	-26.7	1680 \pm 40

試料名 (19180) 01SSS-1

測定方法、期間 AMS-Standard

試料種、前処理など charred material

acid /alkali/acid

年代値はRCYBP(1950 A.D.を0年とする)で表記。モダン リファレンススタンダードは国際的な慣例としてNBS Oxalic AcidのC14濃度の95%を使用し、半減期はリビーの5568年を使用した。エラーは1シグマ(68%確率)である。

藤地球科学研究所 〒468名古屋市天白区種田本町1-608 TEL052-802-0703

CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

(Variables: C13/C12=-26.7;lab,mult=1)

Laboratory number: **Beta-162509**

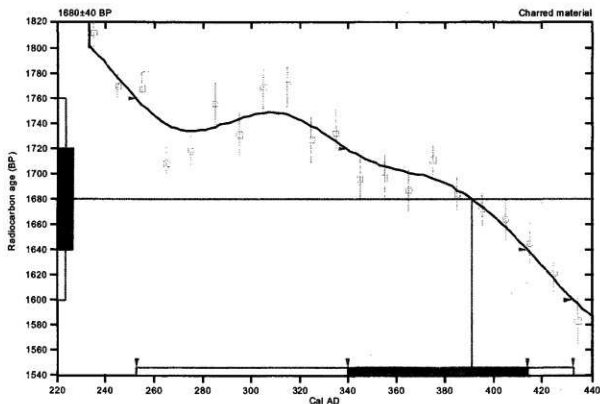
Conventional radiocarbon age: **1680±40 BP**

2 Sigma calibrated result: Cal AD 250 to 430 (Cal BP 1700 to 1520)
(95% probability)

Intercept data

Intercept of radiocarbon age
with calibration curve: **Cal AD 390 (Cal BP 1560)**

1 Sigma calibrated result: Cal AD 340 to 410 (Cal BP 1610 to 1540)
(68% probability)



References:

Database used

Calibration Database

Editorial Comment

Suiter, M., van der Plicht, H., 1998, *Radiocarbon* 40(3), pxi-xiii

INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration

Suiter, M., et al., 1998, *Radiocarbon* 40(3), p1041-1083

Mathematics

A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates

Talma, A. S., Vogel, J. C., 1993, *Radiocarbon* 35(2), p317-322

Beta Analytic Inc.

4985 SW 74 Court, Miami, Florida 33155 USA • Tel: (305) 667 5167 • Fax: (305) 663 0964 • E-Mail: beta@radiocarbon.com

図122 放射性炭素年代の暦年校正グラフ

第3節 笹ノ沢(3)遺跡検出遺構の内容物について

パリオ・サーヴェイ株式会社

はじめに

笹ノ沢(3)遺跡は、青森県八戸市尻内町に所在し、東北地方土木地質図編纂委員会(1988)に基づくと、馬淵川左岸に発達する高位段丘面上に位置する。これまでの発掘調査により、縄文時代前期中頃の住居跡、フラスコ状ピット、土器埋設遺構などが検出されている。このうち、土器埋設遺構の中には、付近に大型の土器片が多く検出される状況もみられることから、土器埋設遺構だけでなく、捨て場となっていた可能性があることも想定されている。今回、このような遺存状態の事例も含めて、土器埋設遺構の内容物について検証することにした。そこで、土壌のリン含量および炭素含量の測定、残留脂肪酸の調査を実施する。

1. 試料

試料が採取された遺構は、SR-05、SR-06、SR-11、SR-15、SR-247である。SR-05は、基本土層Ⅲ層を掘り込んだ土器埋設遺構である。覆土は、1層、2層、A-2層に分層される。この内の1層が土器内土壌にあたり、ここから柱状に土壌が採取され、送付された。この柱状試料の上部と下部の2点(試料番号1・2)、分析試料として抽出した。また、土器外のA-2層から対照試料が採取された。本試料は、試料番号が付されていないが、便宜的に試料番号10とした。

SR-06は土器埋設遺構であり、土器内に底部が落ち込んだ状態で確認された。試料は、土器内に落ち込んだ底部の下部より1点(試料番号3)採取された。

SR-11は、土坑埋め戻しの最終段階において土器を埋設したと考えられているフラスコ状土坑である。土器内の土壌から柱状に試料が採取された。この柱状試料の上部と下部の2点(試料番号4・5)を、分析試料として抽出した。

SR-15は、基本土層Ⅲ層を掘り込んで構築された土器埋設遺構であり、人為堆積層が上面に堆積するとされている。土器内土壌が1・2層に分層され、ここから柱状に土壌が採取された。この上部と下部の2点(試料番号6・7)を、分析試料として抽出した。

SR-247は、土器片を多量に含むフラスコ状土坑であり、覆土に焼土も混じる。7層上面で倒立状態に設置され、5層がかぶっていた土器(P-108)の内部に充填した土壌(試料番号8)が採取された。また、7層の中にレンズ状にみられた焼土の下部からも、土壌(試料番号9)が採取された。

これらの分析試料は、褐色～黒色を呈する砂壤土(SL:粘土0～15%、シルト0～35%、砂65～85%)ないし埴壤土(CL:粘土15～25%、シルト20～45%、砂30～65%)よりなる。なお、土色はマンセル表色系に準じた新版標準土色帖(農林省農林水産技術会議監修,1967)に、また土性は土壌調査ハンドブック(ペドロジスト懇談会編,1984)の野外土性に基づく。

2. 分析方法

(1) 土壌理化学分析

今回測定する成分は、得に動物の体組織や骨に多く含まれるリン酸の含量測定を行う。リン酸は土壌中に固定されやすい性質を持つ。遺体が埋葬されると土壌中にリン酸の富化が認められることから、

遺体あるいは遺骨の痕跡を推定することができる。ところで、リン酸の供給源としては植物体もあげられる。植物由来のリン酸成分が供給された場合、リン酸含量よりも腐植含量が高くなる。そのため、土壌中の腐植含量を測定し、これら両成分について統計的な処理を行うことで、リン酸含量が低い場合でも遺体埋納について検証できる場合がある(例えば、中根・馬場,1995;バリノ・サーヴェイ株式会社,1999など)。よって、植物体の影響を調べるために腐植含量も測定する。

リン酸は硝酸・過塩素酸分解-バナドモリブデン酸比色法、腐植はチューリン法でそれぞれ行った(土壌養分測定法委員会,1981)。以下に各項目の具体的な操作工程を示す。

試料を風乾後、軽く粉砕して2.00mmの篩を通過させる(風乾細土試料)。風乾細土試料の水分を、加熱減量法(105℃,5時間)により測定する。風乾細土試料の一部を粉砕し、0.5mmφのふるいを全通させる(微粉砕試料)。

風乾細土試料2.00gをケルダール分解フラスコに秤量し、硝酸約5mlを加えて加熱分解する。放冷後、過塩素酸約10mlを加えて再び加熱分解を行う。分解終了後、水で100mlに定容してろ過する。ろ過の一定量を試験管に採取し、リン酸発色液を加えて分光光度計によりリン酸(P_2O_5)濃度を測定する。この測定値と加熱減量法で求めた水分量から、乾土あたりのリン酸含量(P_2O_5 mg/g)を求める。

また、微粉砕試料0.100~0.500gを100ml三角フラスコに正確に秤り、0.4Nクロム酸・硫酸混液10mlを正確に加えて、約200℃の砂浴上で正確に5分間煮沸する。冷却後、0.2%フェニルアントラニル酸液を指示薬に0.2N硫酸第1鉄アンモニウム液で滴定する。滴定値および加熱減量法で求めた水分量から、乾土あたりの有機炭素量(Org-C乾土%)を求める。これに1.724を乗じて腐植含量(%)を算出する。

(2) 脂肪酸分析

分析は、坂井ほか(1996)に基づき、脂肪酸およびステロール成分の含量測定を行う。試料は100g程度秤量し、試料が浸るに十分なクロロホルム:メタノール(2:1)を入れ、超音波をかけながら脂質を抽出する。ロータリーエバポレーターにより、溶媒を除去し、抽出物を塩酸-メタノールでメチル化を行う。ヘキサンにより脂質を再抽出し、セップバックシリカを使用して脂肪酸メチルエステル、ステロールを分解する。脂肪酸のメチルエステルの分離は、キャピラリーカラム(ULBON,HR-SS-10,内径0.25mm,長さ30m)を装着したガスクロマトグラフィー(GC-14A,SHIMADZU)を使用した。注入口温度は250℃、検出器は水素炎イオン化検出器を使用する。ステロールの分析は、キャピラリーカラム(J&W SCIENTIFIC, DB-1, 内径0.36mm,長さ30m)を装着する。注入口温度は320℃、カラム温度は270℃で恒温で分析を行う。キャリアガスは窒素を、検出器は水素炎イオン化検出器を使用する。

3. 結果

(1) 土壌理化学分析

結果を表10に示す。両成分は、腐植含量が1.37~7.24%(平均:3.51%)、リン酸含量が1.29~2.87 P_2O_5 mg/g(平均:2.09 P_2O_5 mg/g)を示す。各試料間におけるリン酸含量・腐植含量の変動をみると、リン酸含量が高い試料において、腐植含量が高い傾向がある。

(2) 脂肪酸分析

脂肪酸組成をみると(表11)、すべての試料でパルミチン酸(C16)とオレイン酸(C18:1)の割合が高く、その他ミリスチン酸(C14)、パルミトレイン酸(C16:1)、ステアリン酸(C18)などが検出される。また、高級脂肪酸(炭素数20以上)もわずかに含まれ、アラキジン酸(C20)ベヘン酸(C22)、リグノセリン酸(C24)等がみられる。

ステロール組成(図123)は、ほとんどの試料で5~6種類検出される。どの試料も20~30%前後の割合を示し、際だって多い試料は認められない。

表10 土壌化学分析結果

遺構名	試料番号	採取部位	層位	土性	土色	腐植含率(%)	P ₂ O ₅ (mg/g)	
SR-05	1	土層内上部	土層内1層	SL	10YR3/4 暗褐	2.52	1.91	
	2	土層内下部	土層内1層	SL	10YR3/4 暗褐	2.30	2.04	
	10	土層外	遺構層土A-2層	CL	10YR2/3 黒褐	2.46	1.29	
SR-06	3	土層内	土層内2層	SL	10YR2/1 黒	3.53	2.72	
SR-11	4	土層内上部	土層内1層	CL	10YR4/4 褐	3.53	1.73	
	5	土層内下部	土層内1層	CL	10YR4/4 褐	5.11	2.19	
SR-13	6	土層内上部	土層内1層	SL	10YR2/3 黒褐	1.37	1.61	
	7	土層内下部	土層内2層	SL	10YR2/2 黒褐	2.43	1.80	
SR-247	8	D-108内	土層内覆土	CL	10YR2/2 黒褐	7.24	2.87	
	9	検土下7層	遺構層土7層	CL	10YR2/2 黒褐	4.59	2.72	
						最小値	1.37	1.29
						最大値	7.24	2.87
						平均値	3.51	2.09

表11 脂肪酸分析結果

種類	試料番号	SR-05 土層内		土層外	SR-06		SR-11		SR-13		SR-247	
		1	2	10	3	4	5	6	7	8	9	
脂肪酸組成												
ミリスチン酸(C14)		3.36	4.20	2.99	4.04	6.84	5.71	2.25	2.73	3.63	3.81	
パルミチン酸(C16)		34.67	38.34	32.05	41.91	35.51	30.55	34.88	30.29	49.70	41.95	
パルミトレイン酸(C16:1)		5.37	5.07	7.53	3.88	9.98	10.52	3.00	1.72	2.74	3.08	
ステアリン酸(C18)		8.46	15.56	6.35	10.13	9.78	6.67	7.87	7.64	10.99	14.28	
オレイン酸(C18:1)		32.86	23.68	30.92	21.85	13.81	27.10	37.57	41.16	22.46	19.35	
リノール酸(C18:2)		7.19	4.62	8.74	5.67	8.25	11.16	8.66	8.16	3.13	5.16	
マリノレン酸(C18:3)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
αリノレン酸(C18:3)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
アラキジン酸(C20)		2.25	2.71	3.32	3.31	3.22	1.88	1.11	1.31	2.08	2.76	
イコセン酸(C20:1)		1.14	1.05	1.12	-	0.59	1.19	-	0.64	-	-	
アラキドン酸(C20:4)		-	-	-	-	0.47	-	-	-	-	-	
ベヘン酸(C22)		2.62	2.83	3.30	5.12	5.62	2.88	2.30	2.34	3.37	4.27	
ドコセン酸(C22:trans)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
エルカ酸(C22:cis)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.05	
イコサペンタエン酸(C20:5)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
リグノセリン酸(C24)		2.07	1.94	3.67	4.10	4.67	2.34	1.77	2.84	1.91	4.29	
テトラコセン酸(C24:1)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ドコサヘキサエン酸(C22:6)		-	-	-	-	1.26	-	0.58	1.17	-	-	
ステロール組成												
コプロスタノール		12.74	7.93	25.54	21.71	23.78	8.51	13.64	14.11	13.92	-	
コレステロール		19.75	14.94	20.16	22.53	12.50	16.58	33.22	38.20	-	33.76	
エルゴステロール		17.85	17.46	19.40	20.90	13.53	10.18	37.01	25.62	23.63	29.21	
カンベステロール		12.38	16.47	8.31	11.53	6.44	34.90	-	-	35.11	-	
スティグマステロール		15.32	11.90	26.59	23.34	32.93	12.71	8.82	11.66	14.33	15.11	
シトステロール		21.97	31.30	-	-	10.83	17.11	7.32	10.41	13.01	21.91	
分析試料の重量(g)		102	105	117	101	80	75	36	52	90	102	

* 分析試料の重量は土壌は湿重量、*は未検出を示す。

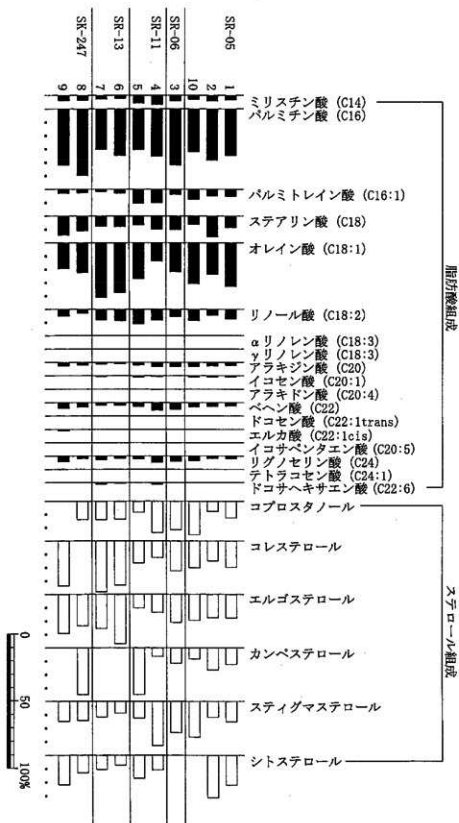


図123 脂防酸・ステロール組成

4. 考察

リン酸が土壌に普通に含まれる量、すなわち天然賦存量については、川崎ほか(1991)、天野ほか(1991)、Bowen(1983)、Bolt & Bruggenwert(1980)などの調査例があり、これらの事例から推定される天然賦存量の上限は約 $3.0P_2O_5$ mg/g程度と考えられる(なお、各調査例の記載単位が異なるため、ここでは P_2O_5 mg/gで統一している)。分析を行った10試料は、天然賦存量の上限を超える試料が認められない。土器内土壌と土器外で採取された試料を比較すると、SR-05で土器内土壌が若干高いが、遺体埋納を示唆するほど著しい差でない。また、SR-247では土器内土壌と土器外でほぼ同様な値を示す。さらに、上部と下部を比較すると、各土器内土壌とも下部でリン酸含量が高い傾向にある。ただし、これらの試料では、概して腐植含量が高い傾向にある。そこで、腐植とリン酸の相関関係を調べると、相関係数が0.75と正の相関関係にある。これはリン酸含量が土壌腐植の影響を受けていることを示している。

一方、検出された脂肪酸組成をみると、中級脂肪(ミリスチン酸、パルミチン酸、ステアリン酸、オレイン酸など)が大部分を占めるが、その中でもパルミチン酸とオレイン酸が高い。考古学的な発掘に伴って行われた脂肪酸分析では、パルミチン酸の分布割合が高い割合が多い。これは、長い年月の間にオレイン酸・リノール酸といった不飽和脂肪酸の一部が酸化されて、パルミチン酸を生成するためであり、主として植物遺体の土壌化に伴う腐植物体から来していると推定されている(中野ほか,1993)。また、坂井・小林(1995)は、既存の基礎実験結果を検討し、熟や経年変化によりオレイン酸に対するパルミチン酸の割合が増加することなどから、解析の際に脂肪酸組成の経年変化について考慮する必要性を指摘している。対照試料として採取した試料番号10は、パルミチン酸とオレイン酸それぞれ約30%検出されている。SR-13を除く遺構や埋設土器は、対照試料と比較してオレイン酸に対するパルミチン酸の割合が高い。これらは埋設土器と考えられているが、いずれも破片となっており、攪乱等による破壊や、はじめから割った(あるいは割れた)ものを埋めたなどの状況が考えられる。このため、仮に中心部に埋納物が存在していたとしても、痕跡が拡散したり流亡し、対照試料よりも分解が進んだ状態になっていると考えられる。一方、SR-15は底が失われているが、胴部はほぼ完形に近い。他の遺構と比較してオレイン酸の割合が若干高いのは、内容物の痕跡が残っていることに由来する可能性もあるが、その差が微量であることから、確実にはいえない。なお、オレイン酸は、動物油、植物油ともに多く含まれる脂肪酸であるため(島鷹,1988)、この結果から内容物の種類を検討することは難しい。

微量検出されるアラキジン酸、ベヘン酸、リグノセリン酸は動物の脳や神経に多く含まれる脂肪酸とされ(中野,1993)、これが検出されるので動物の関与が推定できるとされている(中野,1995)。またアラキドン酸、テトラコセン酸、イコサペンタエン酸、ドコサヘキサエン酸なども、動物の脳や神経に認められる物質である(例えば小林,1987など)。青森県南津軽郡尾上町の李平下安原遺跡では、成人の骨骨を伴う古代の土坑墓において脂肪酸分析が行われている(小山,1995)。この分析成果によると、アラキジン酸、ベヘン酸、リグノセリン酸、テトラコセン酸(報文中では別名のネルボン酸となっている)が検出されるが、その割合は4種類あわせて30%以上とかなり高い。今回の場合、これと比較するとかなり低率であり、また対照試料と遺構試料との間に差はほとんどない。筒木・近藤(1997,1998)は泥炭の成因と脂肪酸組成に関する調査を行い、泥炭層中に含まれるC20以上の脂肪を

分解されにくいワックスや樹脂に由来するとしている。このことから、今回土壌中に含まれているC20以上の脂肪酸は、樹脂やワックスなどの植物由来である可能性もある。また、ドコサヘキサエン酸など、グラフ上で右側に位置する近い脂肪酸ほど、検出器に到達するまでに時間がかかる。このためピークの分解能や到達時間の誤差により、同定の信頼度が低くなる。このため、高級脂肪酸に同定されたものの中には、これと類似する到達時間を持った何らかの(脂肪酸ではない)脂溶性成分が混じっている可能性もある。

以上のことから、今回分析を行った試料中は、経年変化等により本来の組成が変化し、分解されにくいもののみが残存している可能性が高く、脂肪酸の組成から、埋納された内容物種類を特定することは難しい。

一方、ステロールは生物によって固有な種類を持ち、コレステロールは動物、エルゴステロールはキノコ類などの菌類、カンベステロールやスティグマステロール、シトステロールは植物に由来するとされている(菅原ほか,1987)。また、コプロスタノールは、コレステロールが腸内細菌によって分解されて生じるステロールとされる(中野,1995)。動物遺体埋納を推定する場合、アラキジン酸、ベヘン酸、リグノセリン酸の検出、コレステロールの多産が遺体埋納の指標と考えられている(中野,1995)。今回の場合、コレステロールが多産する試料は存在せず、対照試料と遺構試料を比較しても大きな差がみられない。コレステロールは、動物由来のステロールであるが、森林土壌や泥炭層中からも検出された報告があり、土壌生物等の代謝に由来することが指摘されている(筒木・近藤,1988)。今回検出されたコレステロールは、割合が低率で、対照試料との差もあまりみられない。SR-15は対照試料と比べ、コレステロール値が若干高いことから、動物遺体埋納に由来する可能性があるものの、土壌生物等の代謝などにより組成が変化していることも考えられる。

以上、今回、分析を行った土器試料では、いずれも遺体埋納の痕跡を顕著に認めることができない。この背景としては、いずれも土器が割れた状態であり、周辺から土壌の流れ込みの影響を反映している可能性がある。また、覆土・地山土を含め、堆積物の砂分が非常に高いため、残留成分が保持されにくい条件であったことも想定される。したがって、土器内土壌だけでなく、土器自体と付近の地山や覆土の上位層との比較・検討が今後さらに必要であろう。また、微細遺物分析(洗い出し)など、他の方法で検証することも、今後現地調査などを通して模索したい。

引用文献

- 天野洋司・太田 健・草場 敬・中井 信(1991)中部日本以北の土壌型別蓄積リンの形態別計量。農林水産省農林水産技術会議事務局編「土壌蓄積リンの再生循環利用技術の開発」, p.28-36。
- Bowen,H.J.M.(1983)「環境無機化学-元素の循環と生化学-」, 浅見輝男・茅野充男訳,297p,博友社。
- [Bowen,H.J.M.(1979) Environmental Chemistry of Elements]。
- Bolt,G.H. & Bruggenwert,M.G.M.(1980)「土壌の化学」, 岩田進午・三輪審太郎・井上隆弘・陽捷行訳, 309p, 学会出版センター [Bolt,G.H. and Bruggenwert,M.G.M.(1976)SOIL CHEMISTRY], p.235-236。
- 土壌養分測定法委員会編(1981)「土壌養分分析法」, 440p,養賢堂。
- 川崎 弘・吉田 滯・井上恒久(1991)九州地域の土壌型別蓄積リンの形態別計量, 農林水産省農

- 林水産技術会議事務局編「土壌蓄積リンの再生循環利用技術の開発」, p23-27.
- 小林哲幸 (1997) 脂肪酸と脳の働き。「脂質栄養学シリーズ1 脳の働きと脂質」, 日本脂質栄養学会監修/沖山治美・安藤 進編,p7-26.
- 小山陽造 (1995) 東北地方の脂肪酸分析結果.考古学ジャーナル,386,p.17-21
- 中根秀二・馬場健司 (1995) 周溝内における埋葬位置について. 北区埋蔵文化財調査報告第16集「豊島馬場遺跡(本文編)」, p.314-325,東京都北区教育委員会生涯学習推進課.
- 中野益男 (1993) 脂肪酸分析法。「第四紀試料研究法2 研究対象別分析法」, p.388-403
.東京大学出版会.
- 中野益男 (1995) 脂肪酸分析の現状と課題.考古学ジャーナル,386,p.2-8
- 中野益男・福島道広・中野寛子・明瀬雅子・長田正宏 (1993) 西隆寺跡から出土した土器に残存する脂肪の分析「奈良国立文化財研究所学報52 西隆寺発掘調査報告書,p.94-100.」奈良県国立文化財研究所.
- 島蘭順雄 (1988) 標準栄養化学・生化学. 205p.医歯薬出版株式会社.
- 農林省農林水産技術会議事務局監修 (1967) 新版標準土色帖.
- バリノ・サーヴェイ株式会社 (1999) 豊島馬場遺跡の自然科学分析.北区埋蔵文化財調査報告第25集「豊島馬場遺跡Ⅱ」, p.312-331,東京都北区教育委員会生涯学習推進課.
- ベドロジスト懇談会編 (1984)「土壌調査ハンドブック」. 156p.博友社.
- 坂井良輔・小林正史 (1995) 脂肪酸分析の方法と問題点.考古学ジャーナル,386,p.9-16
- 坂井良輔・小林正史・藤田邦雄 (1996) 灯明皿の脂質分析.富山県文化振興財団文化財発掘調査報告第7集「梅原胡摩堂遺跡発掘調査報告(遺物編)第二分冊」, p.24-37,財団法人 富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所.
- 東北地方土木地質図編纂委員会 (1988)「東北地方土木地質図(20万分の1)」.(財) 国土開発技術研究センター.
- 筒木 潔・近藤連三 (1997) 泥炭地植物のフェノール性化合物,脂肪酸,ステロール組成.日本土壌肥科学雑誌,68,p.37-44.
- 筒木 潔・近藤連三 (1998) 泥炭地の乾燥化と植生変化に伴う泥炭の脂質組成の変化.日本土壌肥科学雑誌,69,p.12-20.

第5章 まとめ

第1節 縄文時代の遺構・遺物について

笹ノ沢遺跡は平成10～13年度の調査で縄文時代の遺構配置がある程度把握できたと考えられ、ここでは、平成13年度の成果を中心に縄文時代の遺構配置やその変遷について予察を行う。

平成13年度調査の遺構の配置状況について述べる。竪穴住居跡は尾根頂部からやや下った南・北両斜面に5軒が立地する。時期は、炉体土器と覆土土器の間に取まるので、すべて円筒上層a式である。いずれも土坑と重複しSI-16以外は竪穴住居跡が新しい。遺物が堆積土中から多量に出土したもの(SI-16・17・22)と、あまり出土しなかったもの(SI-20・21)がある。南側の一群では、標高がより高い竪穴住居跡が遺物が少ない傾向がある。土坑は、前期末に遡る可能性が高いもの(SI-231~233・279・284・286)が検出された。北側斜面の標高61~63mの間に並んでいる。遺物が出土しなかった土坑や、覆土中から少量の前期の土器片が出土しただけの土坑もあるので、前期の土坑の配置が北側斜面に偏っていたかどうかの判断は留保する。土坑の深さと分布の関係を検討すると、斜面下方に位置する土坑がより深い傾向がある。これは、遺構の地山を構成する火山灰土の種類と関連している可能性がある。粘土化が進み、緻密な高節火山灰が浅い位置にある尾根頂部と、地表下2m以上の深さまで比較的柔らかい八戸火山灰(特にⅠ・Ⅱ層)が存在する斜面下部では、ある深度以上の土壌の掘削に要する労力が相当に異なることが一因として考えられる。尾根頂部にも比較的深く、底面径の大きい遺構(SK-283)があるので、火山灰土の深度のみが決定要因とはいええないが、主因である可能性が高い。覆土の形成要因は人為堆積・自然堆積後人為堆積・自然堆積の3者が認められる。平成10・11年度調査の報告で指摘された人為堆積後自然堆積したものは認められない。尾根頂部には人為堆積のもの、斜面には人為堆積のもの、自然堆積後人為堆積のものが位置する。遺物は尾根頂部の土坑で少なく、斜面部に位置する土坑に多い。SK-247のように尾根頂部で多量の遺物が特異な状況で出土した例を除けば、ほとんどの遺物は廃棄された可能性が高く、今回の報告では触れていないが、人為堆積層との関連が考えられる。楕円形や隅丸長方形の土坑は検出されず、形態から墓の機能を特定できるものは無い。ただし、尾根頂部に深さ1m以下の浅い土坑があり、土坑の中に機能・用途の差があることも想定される。リン酸等の分析では埋葬の可能性を支持する結果は得られなかった。

今回の調査では前期の竪穴住居跡が検出されなかった。平成10・11年度の調査でも検出されず、両者の調査区の間には存在するとは考えにくい。一方土坑は前期末葉の可能性が高いものがある。以上から、平成13年度調査区の東側に前期の集落が広がっている可能性が高い。その意味で、遺構群が東からへ西と時間的に変遷するという指摘(新山2001、小田川 2001)は、土器型式レベルの時間幅においては正鵠を射ている。ただし、ここで詳述する余裕はないが、土坑堆積土の形成要因を時間差に変換し、その空間的分布を集落全体の盛衰と関連づける解釈や、竪穴住居跡の型式学的検討を即時時間差に結びつける解釈は論理的前提や分類の再検討が必要であり、「東から西へ」の変遷観を一土器型式内での時間差レベルで適用するためには更なる検討が必要である。その一手段として遺物の遺構間接合の検討が挙げられる。SI-21炉体土器とSI-22堆積土から出土した口縁部片3片が接合した。このことからSI-21がSI-22より新しかったことがわかる。他にも堆積土出土土器が遺構間で接合した事例はあるが、その解釈には多くの検討が必要であり、今後の課題である。(中村・葛城・浅田)

第2節 古墳時代の遺構と遺物

1 検出地点の概要 (図4・124)

笹ノ沢 (3) 遺跡ではこれまで当該期の遺構、遺物は検出されておらず、今回が初めての事例となる。当遺跡では縄文時代中期初頭を中心に確認されているが、遺構が数多く展開する主体部分は馬の背状の尾根部に存在する。そこから80m程南側、尾根からの傾斜が緩やかに変化する緩傾斜地が存在する。今回の古墳時代の遺構と遺物が検出されたのは、調査区の中で最も低いこの緩斜面部分に限定される。南側は東西に流れる沢によって区切られており、遺跡の南端部となっている。

2 検出遺構

この地点では標高56mから57mの等高線に沿うように12基の土坑が検出されている。縄文時代の溝状土坑も4基検出されているが、いずれも標高56mの等高線より下方に存在する。また柱穴様のピットも数基検出されたが、規則性は確認されなかった。12基の土坑の規模は直径80cm前後、いずれもほぼ円形を呈し、底面形も同様である。遺構検出は基本層序Ⅱ層上面で行なわれた。覆土の堆積は1～2層で、基本層序Ⅱ層由来の層が主体となる。明瞭に人為堆積と判断できるものは確認されなかった。その内、土師器と黒曜石剥片が共伴したのはSK-257、SK-261で、約7m離れている。SK-257は土器、石とともに土坑内に散在するような状況で出土している。SK-261は底面に位置する石礫から若干浮いた状況で土師器や黒曜石等が出土している。いずれもほぼ同レベルから遺物が出土しており、大きな時期差無く遺物が入り、その後埋没したものと思われる。壁面や底面に袋状土坑、柱穴等の特殊施設は確認されなかった。その他土師器や縄文土器が出土した遺構もあるが、覆土形成時に流入したものと思われる。また遺物の出土は無いが、後述のように自然礫がまとまって出上る例がある。形態等の状況も含め、その他の土坑に関しても上述の2基とほぼ同時期の所産である可能性が考えられる。なお、SK-261出土の炭化材を用いた放射性炭素年代測定の結果は、2 Sigmaで3世紀中葉～5世紀前葉との結果を得た。

3 出土遺物 (図125)

(1) 土器 SK-257からは1点出土している。617は坏で内外面共に4～5本単位のハケメ調整後ヘラミガキを施しているが、ハケメは全て消されず明瞭に確認できる部分が多い。外面にはよりハケメの痕跡が多く残存する。体部は丸みを持って立ち上がり、口唇部は短く外反する。口唇部の断面形態は角状を呈し、外側に殺ぎ落とすような角度で平坦面が形成されるのが特徴である。底面は残存しないが、恐らく若干平坦面を持つような形態と思われる。内黒処理は行なわれていない。SK-261からは4点出土している。621、624は小型の鉢で、口縁部は波状口縁となっている。口唇部断面形はいずれも角状で、平坦面が作られる。器面調整には相違があり、621が内外面ナデ調整であるのに対し、624は口唇部のナデ以外はハケメ調整が明瞭に確認できる。621の底面にはハケメ調整の痕跡が確認できる。622は小片であるため詳細は不明であるが、平口縁を呈する鉢と推測する。内外面とも口唇部はナデ、体部はハケメ調整が施されている。口唇部断面形は角状を呈する。623は土師器甕の胴部破片と思われる。内外面ともハケメ調整を行なっているが、外面は縦方向、内面は横方向の調整が施される。外面の調整に一部ナデ調整が見られることから頸部に近い部分とも考えられるが、詳細な位置を把握することが困難であるため、断面図の角度調整は行なっていない。SK-221から出土した甕431も、内面は器面荒れが顕著であるが623と同様に内外面ハケメ調整が確認できる。胎土

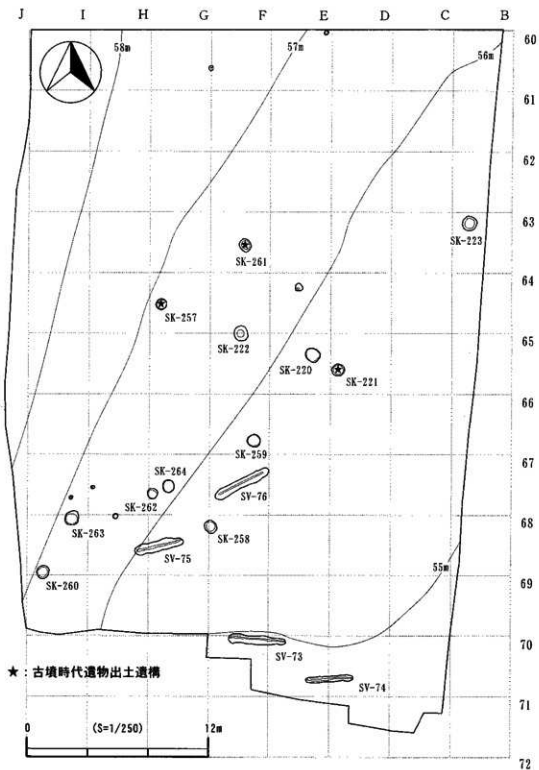


図124 調査区南側遺構配置図

は基本的に共通して小礫、砂粒を比較的多く含み、やや軟質な感を受けるが、624だけは混入物が少なく若干硬質感がある。色調は埴617と甕623は明るい褐色を呈するが、その他は暗褐色等と暗い。

これらの土器は出土状況等から、ほぼ同一時期の所産と思われる。特徴としては以下の点が挙げられる。1：口唇部に平坦面を作出するため断面形が角状を呈する。この特徴は盛岡市安倍館遺跡出土の土師器甕に見られる。口唇部形態は断面角状を呈し、全面ヘラミガキが施されている。東北地方南部の土師器とは器形や調整が異なることから、東北地方北部の在地の土器とされる。そして統縄文土器の後北C2・D式と伴って出土しており、4世紀代の所産とされている。器種が異なるが、埴617は器面最終調整にヘラミガキ調整が行われる点で共通点を持つ。器形は東北地方南部の南小泉式に類似するものがあるが、口唇部断面形態やハケメ調整は該当するものが見られず、東北地方北部の在地の土器として捉えることが可能であると思われる。2：鉢の口縁部が波状を呈する。これは土師器では確認することができない。この特徴は統縄文土器の注口土器や片口土器に見られることから、当遺跡の土器も類する器形になる可能性がある。統縄文土器は時期が新しくなると波状口縁よりも平口縁の割合が多くなる事から、波状口縁は古い要素であると言える。統縄文土器の無文化が進むのは北大Ⅲ式の段階であるが、この時期には波状口縁を伴うものは極めて少ない。また、天間林村森ヶ沢遺跡で北大Ⅰ式に後続するとされる無文の甕の存在もあり、統縄文土器全体の無文化が進行する前段階から土師器と統縄文土器の製作技法が融合したような土器が製作されていた可能性が考えられる。他の土器と胎土に大きな差が見られないことから、在地で統縄文土器を模倣して作られたと見ることも可能であろう。3：器面調整にハケメとナデを多用する。八戸市田向冷水遺跡では竅穴住居跡から5世紀末～6世紀初め頃の土師器と統縄文土器の北大Ⅰ式が共存している。その内、土師器埴、甕にはヘラミガキが、北大Ⅰ式の甕はナデ調整が施されている。鉢622は内外面ナデ調整、埴617にヘラミガキが見られるが、その前段階にハケメ調整が施されている。甕は2点とも内外面ハケメ調整である。器面調整にハケメが施されるのは五所川原市隠川（11）遺跡から出土した塩釜式の土師器甕に見られるが、田向冷水遺跡では一部の鉢、甕に見られるのみで、南小泉式の段階では減少する傾向にあるようである。

以上のように笹ノ沢（3）遺跡出土土器の様相は、土師器の東北地方北部で在地化、変容した土器、土師器と統縄文土器の要素を併せ持った土器であると言える。現在これらを比較対照する資料がなく、詳細な検討は資料の増加を待たなければならない。所産時期は上述の内容や、SK-261での放射性炭素の年代測定を行なった炭化材は出土土器に伴う可能性が高く、出土遺物の年代観と大きくかけ離れた数値では無いものと思われることから、4～5世紀代の所産と思われる。

(2) 黒曜石 SK-257、SK-261両遺構とも半載した段階で黒曜石や土師器の出土を確認している。その後は覆土の全量回収を行い、整理作業の段階で水洗選別を試み、土師器片や黒曜石の剥片、チップを回収することができた。しかし半分の覆土に関しては回収できなかったため、より多くの剥片、チップが存在した可能性がある。出土した黒曜石は肉眼観察によって2つに大別することが可能である。Ⅰ：不透明で表面に縞模様を観察される。この縞模様は宮城県湯ノ倉産の特徴として挙げられている。SK-257から剥片619が1点出土している。Ⅱ：透明度の高い部分をもち、黒色を呈するものである。気泡や不純物は観察されない。SK-257から剥片618が、SK-261から剥片627、628他3点と、覆土の土壌サンプルから回収したチップもこちらに分類できるものが多い。蛍光X線分析によ

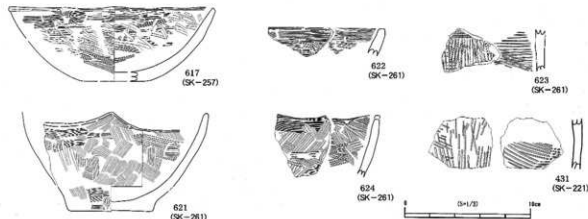


図125 古墳時代土器集成

る原材産地分析ではⅠが宮城県湯ノ倉産、Ⅱが北海道赤井川産である可能性が高いという結果が出た。これは肉眼観察の結果と矛盾するものではない。以上の結果を考慮すると、これらの黒曜石は、南北の原産地から持ち込まれたものと解釈することが可能である。八戸市域では七世紀頃まで黒曜石製の石器が伴っており、田向冷水遺跡、八戸城跡では湯ノ倉産、根城跡、丹後平古墳では赤井川産がそれぞれ主体的に用いられている（宇部2002）。また統縄文土器に伴い、ラウンドスクレイパーと呼ばれる石器が伴うことが知られている。しかし笹ノ沢(3)遺跡においてはこれらの石器は確認されていない。またこの石器には礫皮が残される例が多いことから、出土遺構周辺で原石から石器を作成した場合、礫皮も少なからず確認されるものと思われるが、水洗選別の資料でも確認することはできなかった。

(3) 剥片石器 SK-261から石鏃626が1点出土している。これは形態等から北側尾根上に展開する縄文時代の所産と考えられる。このような所産時期の古い遺物が同時に出土した場合、単純に後世の構築遺構に混入したと判断することが最も妥当である。しかし土坑周辺は縄文時代の遺構密度が薄く、石鏃も底面から出土していることから、当時の人々が偶然拾った石鏃を意図的に土坑内に入れた可能性も考慮する必要があるものと思われる。

(4) 礫 SK-257とSK-261からは自然礫も他の遺物と共存する形で出土している。周辺に礫を産出する層は確認されておらず、遺跡外から搬入されたものと思われる。SK-257からは板状の自然礫が、SK-261では台石と思われる625以外にも垂円礫が出土している。上記以外でも周辺の土坑で自然礫がまとめて出土しており、同様の状況を示している。統縄文土器に伴って方割石と呼称される、板状の礫を直線的に割った礫が出土することはあるが、SK-257の礫のように板状の礫でも、意図的に直線状に割られたような状況は確認できなかった。また、出土礫に被熱の痕跡は見られなかった。

4 小結

青森県内で7世紀以前の上師器を伴う遺構検出例は極めて少ない。天間林村森ヶ沢遺跡では土坑墓が、八戸市田向冷水遺跡では竪穴住居跡が検出されている。当遺跡のような土坑は県内に類例が無い。形態や分布、出土遺物が非常に類似する土坑が検出された例として、岩手県盛岡市安倍館遺跡を挙げることができる。円形を呈するRD022土坑と、そこから約4m離れたRD029、隣接するRD030土坑から土師器、後北C2・D式土器、赤穴式土器等が出土している。いずれも直径は70cm前後で、確認面からの掘り込みは21～26cm前後となっている。RD022土坑は人為堆積であるが、その他の遺構

は自然堆積とされている。また遺物は出土していないが、形態等の類似から4基の土坑が同時期の可能性を持つとされている。土器の特徴の部分で土師器甕の口唇部断面形が類似することを述べたが、被熱を受けているものの自然礫がまとめて出土している点なども類似する点である。このことから安倍館遺跡と笹ノ沢(3)遺跡の事例はほぼ同様の性格を持つものと推測される。詳細な検討に関しては今後の課題としたい。

(浅田智晴)

引用・参考文献

- 青森県教育委員会 1999 『隠川(11)Ⅰ・隠川(12)遺跡Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書第260集
- 小田川哲彦 2001 「第5節 竪穴住居跡について」『笹ノ沢(2)・(3)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第305集
- 宇部則保 2002 「東北北部型土師器にみる地域性」『海と考古学とロマン—市川金丸先生古希記念献呈論文集—』
- 木村高 1999 「東北地方北部における弥生系土器と古式土師器の並行関係—統縄文土器との共存事例から—」『研究紀要』第4号 青森県埋蔵文化財調査センター
- 木村高 2002 「岩手県を取り巻く統縄文文化…青森県域」『岩手考古学会第29回研究大会発表要旨』
- 滝沢村教育委員会 1993 『大石渡遺跡』岩手県滝沢村文化財調査報告書第24集
- 中村 哲也 2001 「第5章 まとめ」『松ヶ崎遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第291集 青森県教育委員会
- 新山珠美 2001 「第4節 フラスコ状土坑について」『笹ノ沢(2)・(3)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第305集
- 八戸市教育委員会 2000 「市子林遺跡第4次A～C地点」『八戸市内遺跡発掘調査報告書12』八戸市埋蔵文化財調査報告書第83集
- 八戸遺跡調査会 2001 『田向冷水遺跡Ⅰ』八戸遺跡調査会埋蔵文化財調査報告書第1集
- 八戸市教育委員会 2002 『盲塚(3)遺跡』八戸市埋蔵文化財調査報告書第92集
- 盛岡市教育委員会 1999 『安倍館遺跡—厨川城跡の調査—』
- (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2002 『中半入遺跡・蝦夷塚古墳発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財長沙報告書第380集
- 山内清男 1976 『日本先史土器の縄文』先史考古学会



遺跡全景



第16号竪穴住居跡土層堆積状況1



第16号竪穴住居跡土層堆積状況2



第16号竪穴住居跡堆積土中石棒出土状況



第16号竖穴住居跡完掘



第16号竖穴住居跡炉



第17号壙穴住居跡確認状況



第17号壙穴住居跡上位土層と遺構堆積土の関係



第17号竪穴住居跡土層堆積状況1



第17号竪穴住居跡土層堆積状況2



第17号竖穴住居跡完掘状況



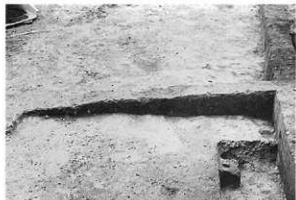
第17号竖穴住居跡炉



第20号竪穴住居跡土層堆積状況1



第20号竪穴住居跡土層堆積状況2



第20号竪穴住居跡土層堆積状況3



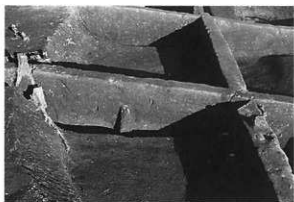
第20号竪穴住居跡土層堆積状況4



第20号竪穴住居跡完備状況



第20号竖穴住居跡炉土層堆積状況



第21号竖穴住居跡南北土層堆積状況 1



第21号竖穴住居跡南北土層堆積状況 2



第21号竖穴住居跡南北土層堆積状況 3



第21号竖穴住居跡南北土層堆積状況 4



第21号竪穴住居跡東西土層堆積状況1



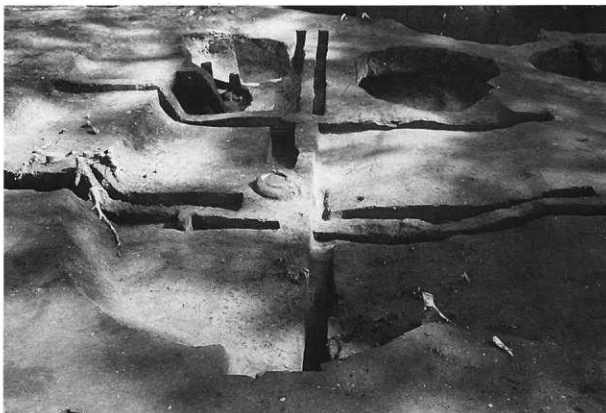
第21号竪穴住居跡東西土層堆積状況2



第21号竪穴住居跡土層堆積状況全景



第21号竪穴住居跡炉



第21号竪穴住居跡完掘状況



第22号竖穴住居跡土層堆積状況 1



第22号竖穴住居跡土層堆積状況 2



第22号竪穴住居跡完掘状況



第22号竪穴住居跡炉内土器出土状況



第220号土坑土層堆積状況



第220号土坑完翻状況



第221号土坑土層堆積状況



第221号土坑完翻状況



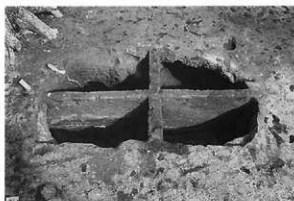
第222号土坑土層堆積状況



第222号土坑遺物出土状況



第223号土坑土層堆積状況



第224号土坑土層堆積状況



第224号土坑土層堆積状況



第224号土坑完掘状況



第225号土坑土層堆積状況 1



第225号土坑土層堆積状況 2



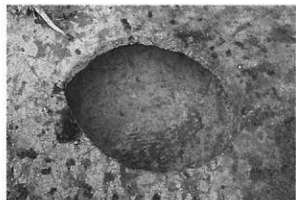
第225号土坑完掘状況



第226号土坑土層堆積状況



第226号土坑完掘状況



第227号土坑完掘状况



第228号土坑完掘状况



第229号土坑土层堆积状况



第229号土坑完掘状况



第230号土坑土层堆积状况



第230号土坑完掘状况



第231号土坑土层堆积状况



第231号土坑完掘状况



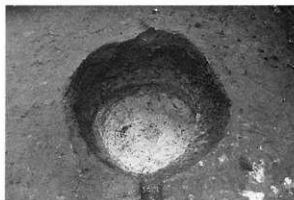
第232号土坑土層堆積状況



第232号土坑完掘状況



第233号土坑土層堆積状況



第233号土坑完掘状況



第235号土坑土層堆積状況



第235号土坑完掘状況



第236号土坑土層堆積状況



第236号土坑完掘状況



第237号土坑土層堆積状況



第237号土坑完掘状況



第238号土坑土層堆積状況



第238号土坑完掘状況



第252号土坑土層堆積状況



第252・239号土坑土層堆積状況



第251・252号土坑土層堆積状況



第252・239・251号土坑完掘状況



第240号土坑土層堆積状況



第240A号土坑完掘状況



第241号土坑土層堆積状況



第241号土坑完掘状況



第243号土坑完掘状況



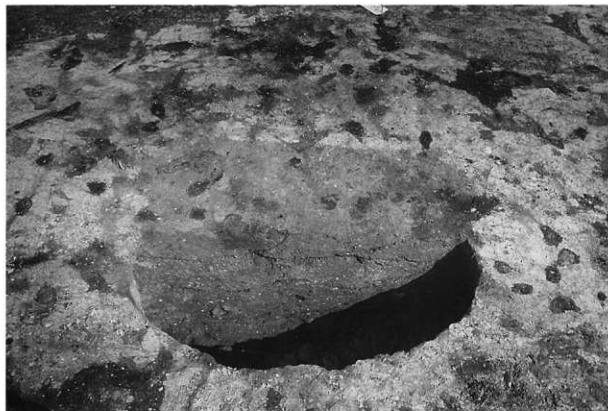
第245号土坑土層堆積状況



第246号土坑完掘状況



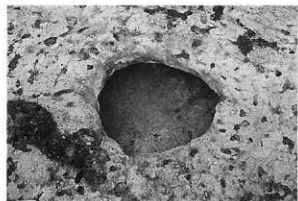
第245号土坑完掘状況



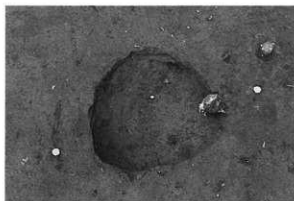
第247号土坑上半土層堆積状況



第247号土坑遺物出土状況



第247号土坑完掘状況



第248号土坑完掘状況



第249号土坑土層堆積状況



第249号土坑完掘状況



第243号土坑土層堆積状況



第246号土坑土層堆積状況



第250号土坑土層堆積状況



第250号土坑完掘状況



第255号土坑土層堆積状況



第256号土坑土層堆積状況 1



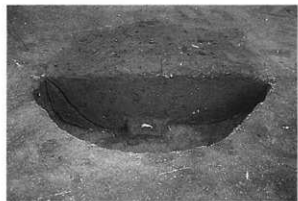
第256号土坑土層堆積状況 2



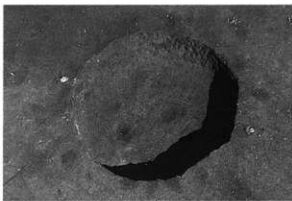
第256号土坑完掘状況



第257号土坑遺物出土状況



第257号土坑土層堆積状況



第257号土坑完掘状況



第258号土坑完掘状況



第259号土坑完掘状況



第260号土坑完掘状況



第261号土坑完掘状況



第261号土坑遺物出土状況



第261号土坑完掘状況



第262号土坑土层堆积状况



第262号土坑完掘状况



第263号土坑完掘状况



第264号土坑完掘状况



第266号土坑土层堆积状况



第266号土坑完掘状况



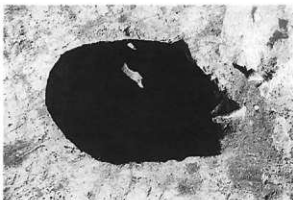
第267号土坑土层堆积状况



第267号土坑土层堆积状况



第268号土坑土層堆積状況



第268号土坑完掘状況



第270号土坑土層堆積状況



第270号土坑完掘状況



第273号土坑土層堆積状況



第273号土坑完掘状況



第274号土坑土層堆積状況



第274号土坑完掘状況



第276号土坑土層堆積状況



第276号土坑完掘状況



第277号土坑完掘状況



第278号土坑完掘状況



第279号土坑土層堆積状況



第279号土坑完掘状況



第280号土坑土層堆積状況



第280号土坑完掘状況



第281号土坑下半部土層堆積狀況



第281号土坑下半部完掘狀況



第282号土坑完掘狀況



第283号土坑完掘狀況



第284号土坑土層堆積狀況



第284号土坑完掘狀況



第285号土坑土層堆積狀況



第285号土坑完掘狀況



第286号土坑完掘状况



第287号土坑完掘状况



第288号土坑土层堆积状况



第288号土坑完掘状况



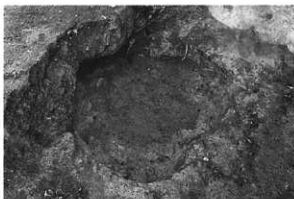
第289号土坑土层堆积状况



第289号土坑完掘状况



第290号土坑土层堆积状况



第290号土坑完掘状况



第291号土坑土層堆積状況



第291号土坑完掘状況



第292号土坑土層堆積状況



第292号土坑完掘状況



第293号土坑土層堆積状況



第293号土坑完掘状況



第295号土層堆積状況



第295号土坑完掘状況



第296号土坑土層堆積状況



第296号土坑完掘状況



第297号土坑土層堆積状況



第297号土坑遺物出土状況



第297号土坑完掘状況



第298号土坑土層堆積状況



第299号土坑土層堆積状況



第299号土坑完掘状況



第16号竪穴住居跡・倒木痕、第300・301号土坑完掘状況



第301号土坑土層堆積状況



第302号土坑土層堆積状況



第302号土坑底面ピット・第17号竪穴住居跡柱穴検出状況



第302号土坑完掘状況



第303号土坑土层堆积状况



第303号土坑完掘状况



第304号土坑土层堆积状况



第304号土坑完掘状况



第305号土坑土层堆积状况



第305号土坑完掘状况



第306号土坑土层堆积状况



第306号土坑完掘状况



第307号土坑土層堆積状況



第307号土坑完掘状況



第308号土坑土層堆積状況



第309号土坑土層堆積状況



第310号土坑土層堆積状況



第310号土坑完掘状況



第4号埋設土器検出状況



第4号埋設土器断面



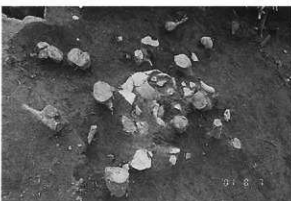
第5号埋設土器検出状況



第5号埋設土器断面



第5号埋設土器柱状サンプル



第6号埋設土器検出状況



第6号埋設土器断面



第7号埋設土器断面



第8号埋設土器断面



第9号埋設土器検出状況



第9号埋設土器断面



第11号埋設土器断面



第12号埋設土器断面



第13号埋設土器断面



第15号埋設土器埋設状況



第72号溝状土坑土層堆積状況



第73号溝状土坑土層堆積状況



第74号溝状土坑土層堆積状況



第72号溝状土坑完掘状況



第73号溝状土坑完掘状況



第74号溝状土坑完掘状況



第75号溝状土坑土層堆積状況



第75号溝状土坑完掘状況



第76号溝状土坑土層堆積状況



第76号溝状土坑完掘状況

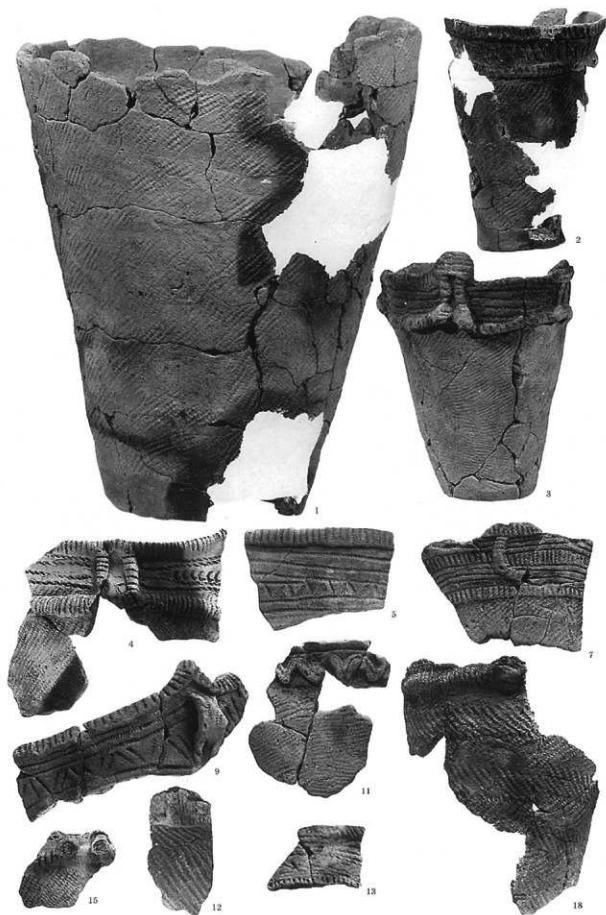


第77号溝状土坑土層堆積状況

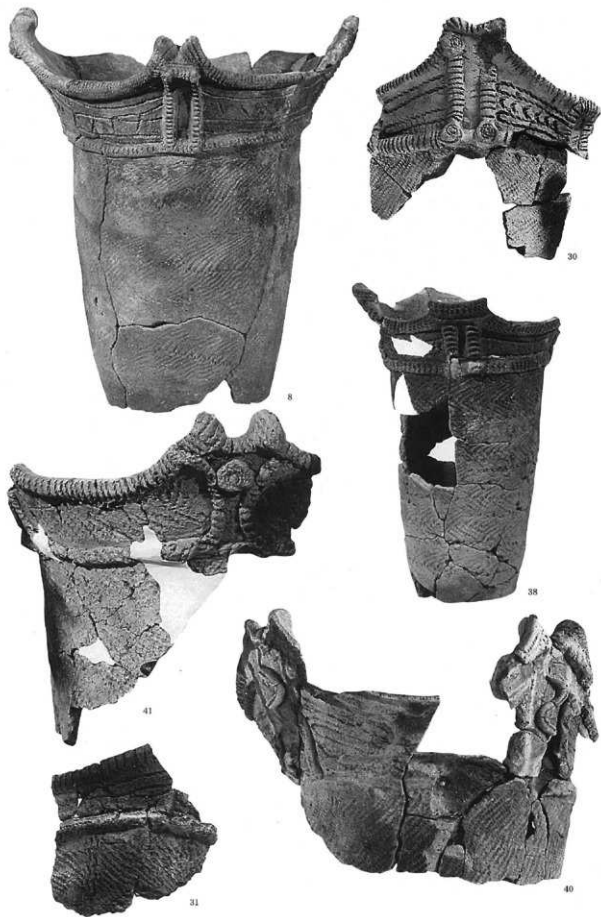


第77号溝状土坑完掘状況

写真図版 35



写真図版36 第16号竪穴住居跡出土遺物(1)



写真図版37 第16号竪穴住居跡出土遺物(2)



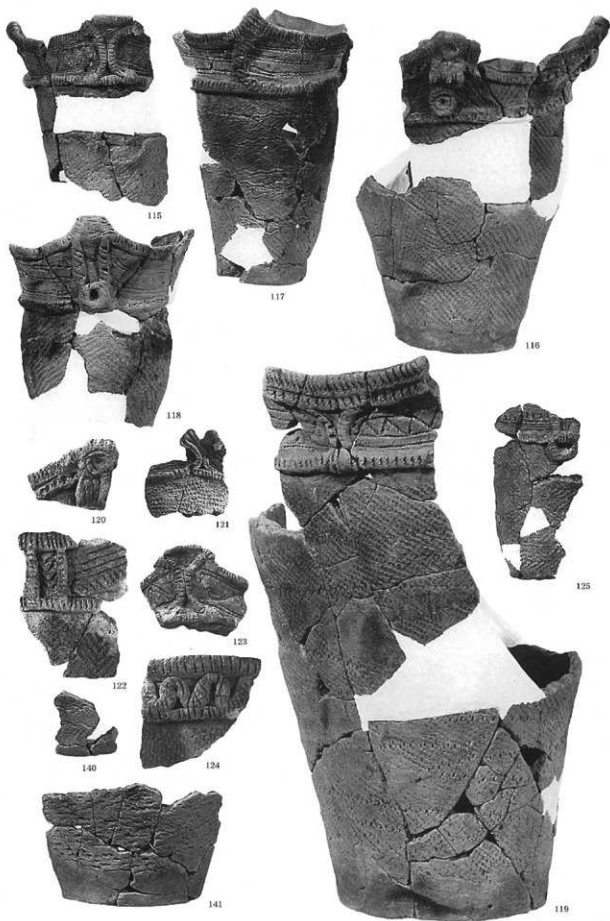
写真図版38 第16号竪穴住居跡出土遺物(3)



写真図版39 第16号竪穴住居跡出土遺物（4）



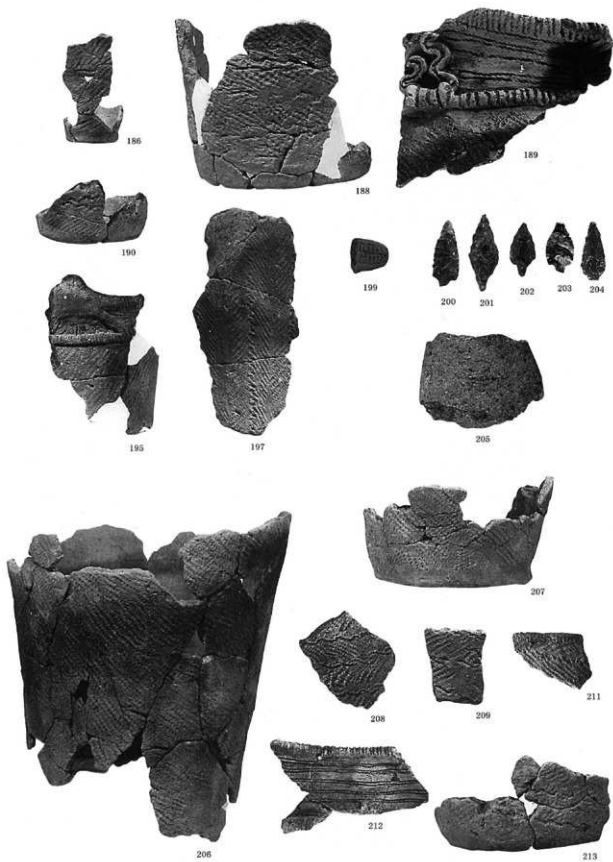
写真図版40 第16・17号竪穴住居跡出土遺物



写真図版41 第17号竪穴住居跡出土遺物(1)



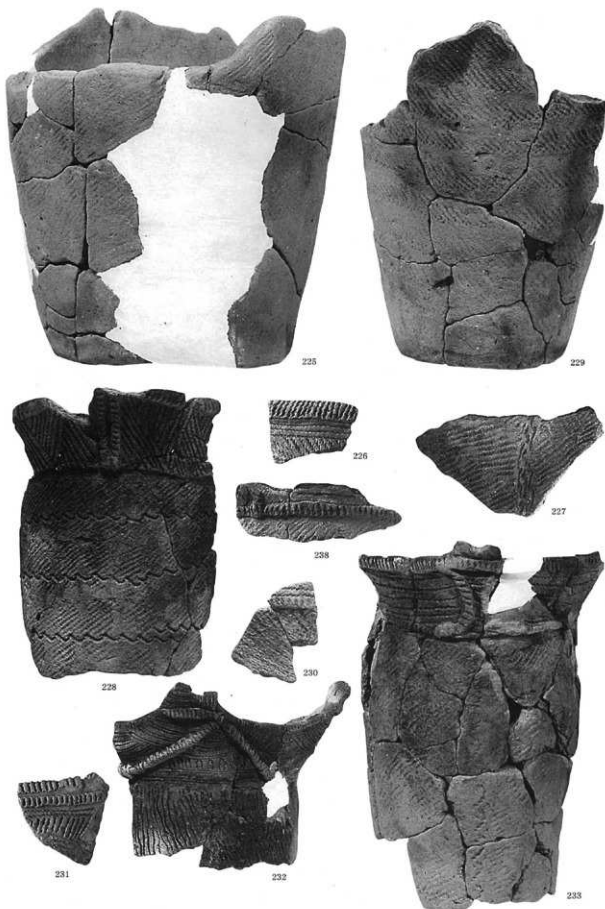
写真图版42 第17号竖穴住居跡出土遺物(2)



写真図版43 第17・20号竪穴住居跡出土遺物



写真図版44 第21号竪穴住居跡出土遺物



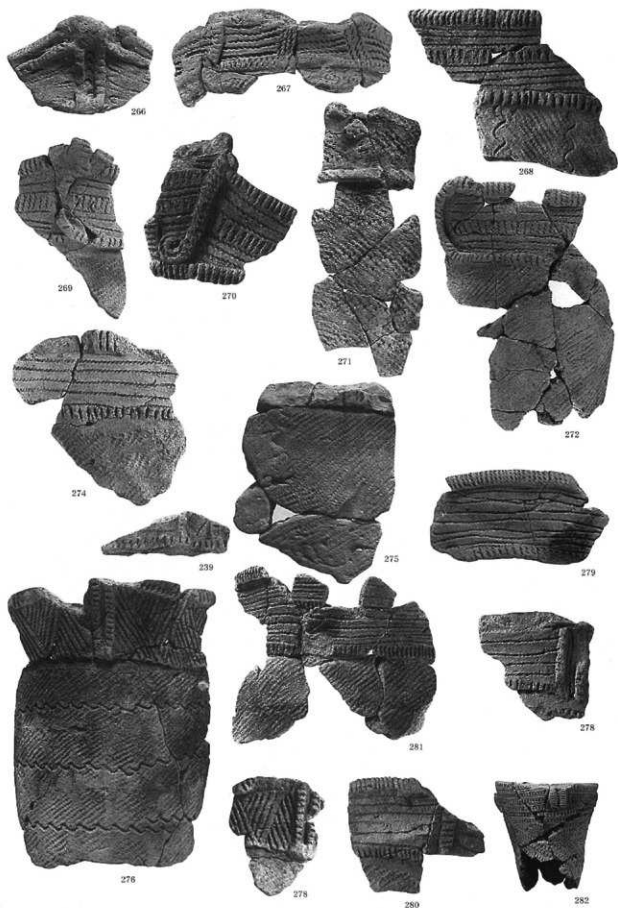
写真図版45 第22号竪穴住居跡出土遺物(1)



写真図版46 第22号竪穴住居跡出土遺物(2)



写真図版47 第22号壑穴住居跡出土遺物(3)



写真図版48 第22号竪穴住居跡出土遺物(4)



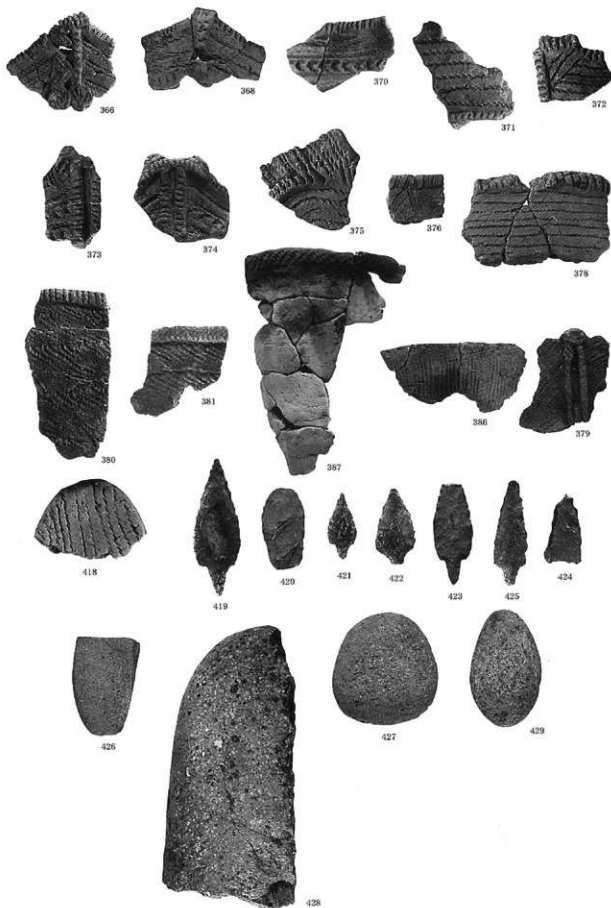
写真図版49 第22号竖穴住居跡出土遺物（5）



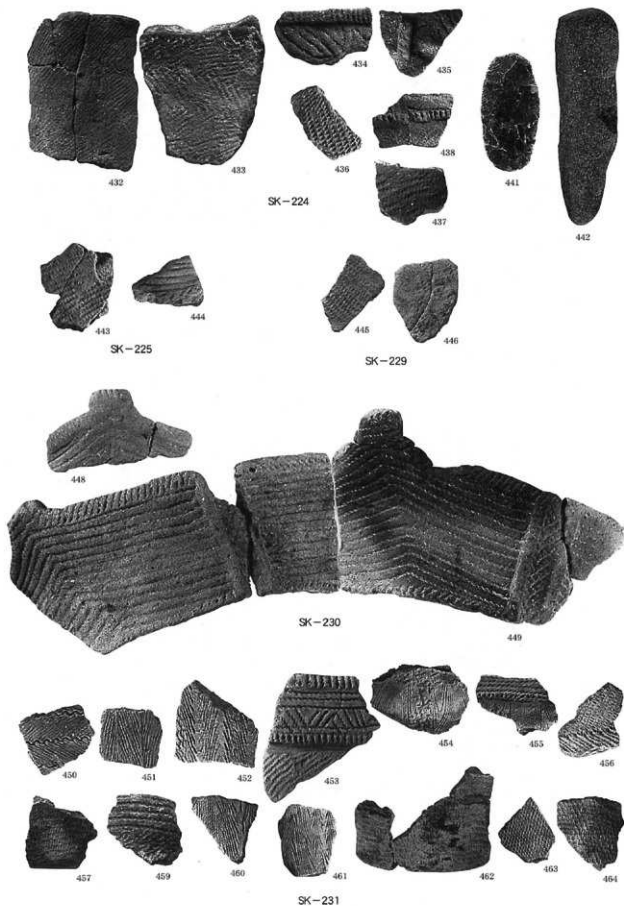
写真図版50 第22号竪穴住居跡出土遺物 (6)



写真図版51 第22号竖穴住居跡出土遺物（7）



写真図版52 第22号竖穴住居跡出土遺物(8)



写真图版53 土坑出土遗物(1)



SK-231

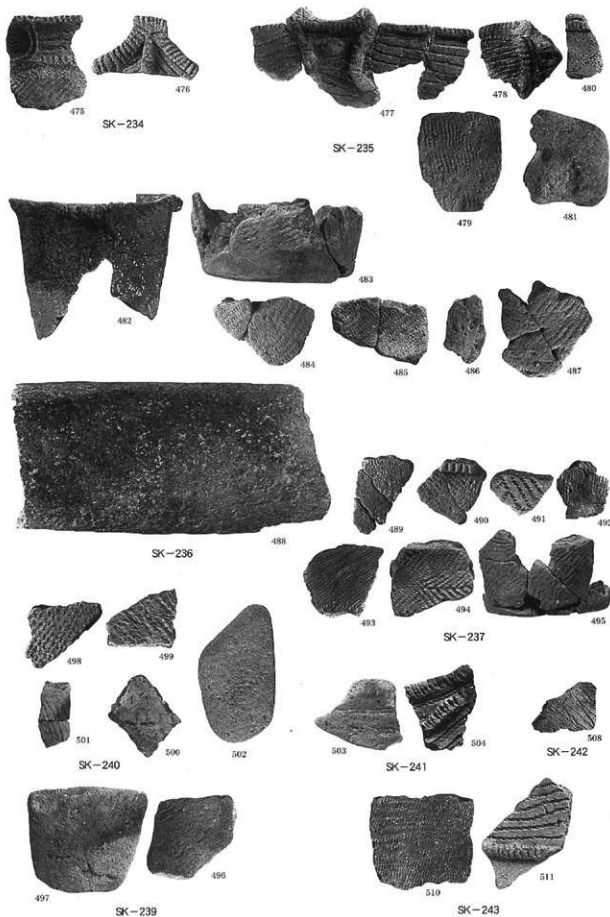


SK-232

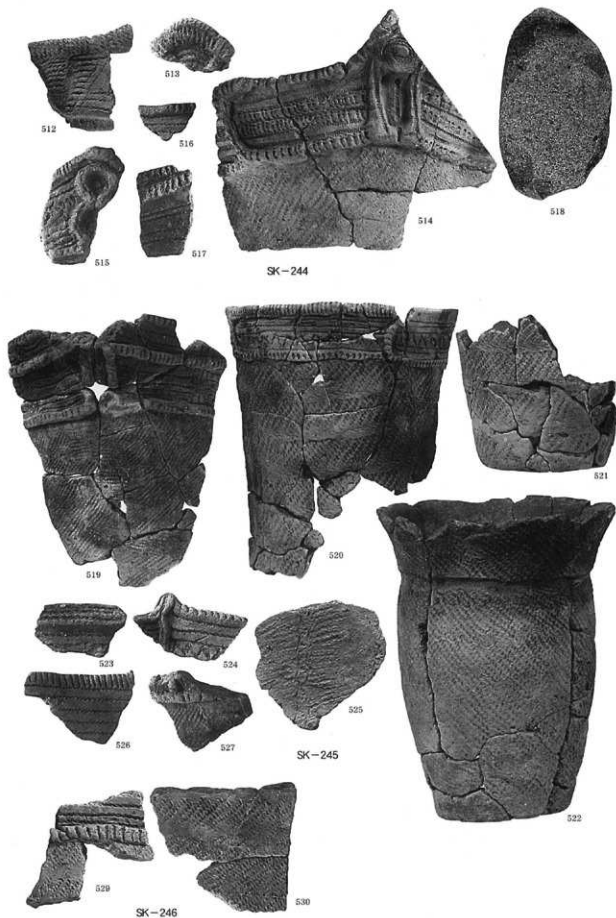


SK-233

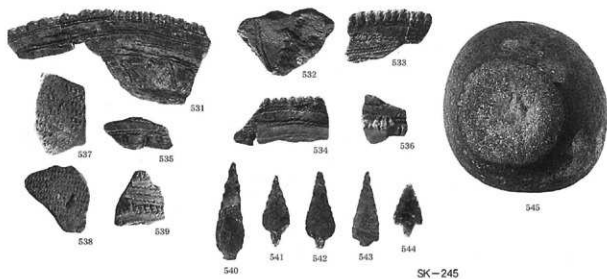
写真図版54 土坑出土遺物(2)



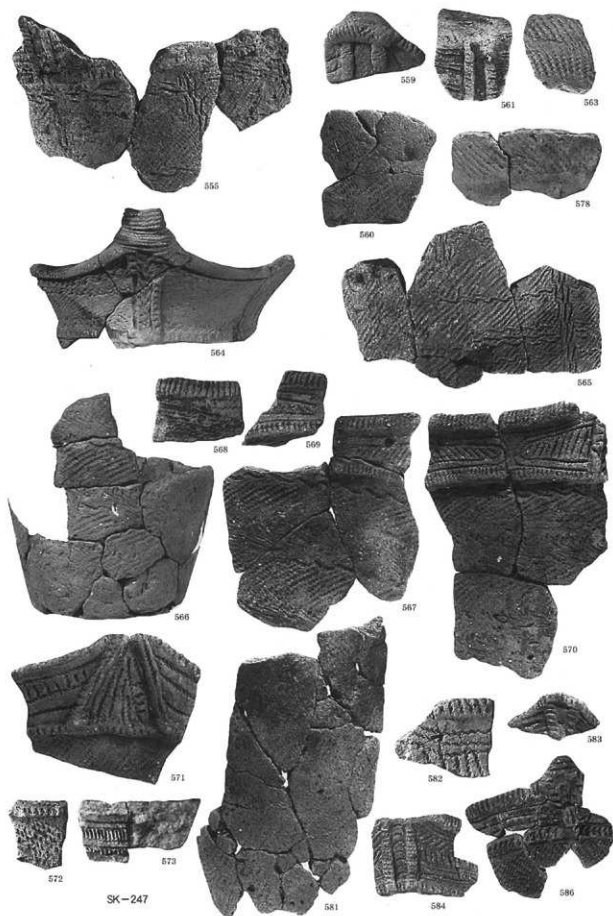
写真図版55 土坑出土遺物(3)



写真図版56 土坑出土遺物(4)

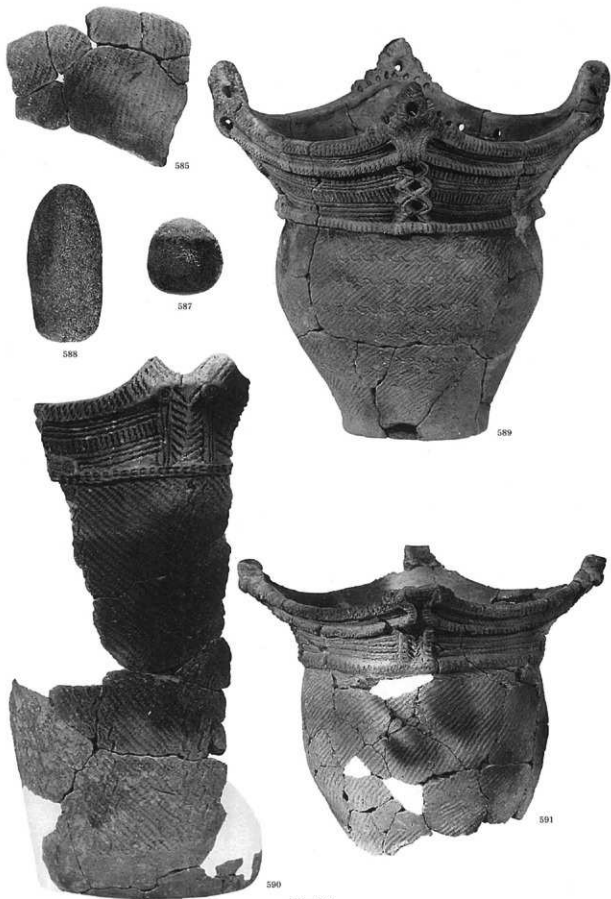


写真图版57 土坑出土遗物(5)

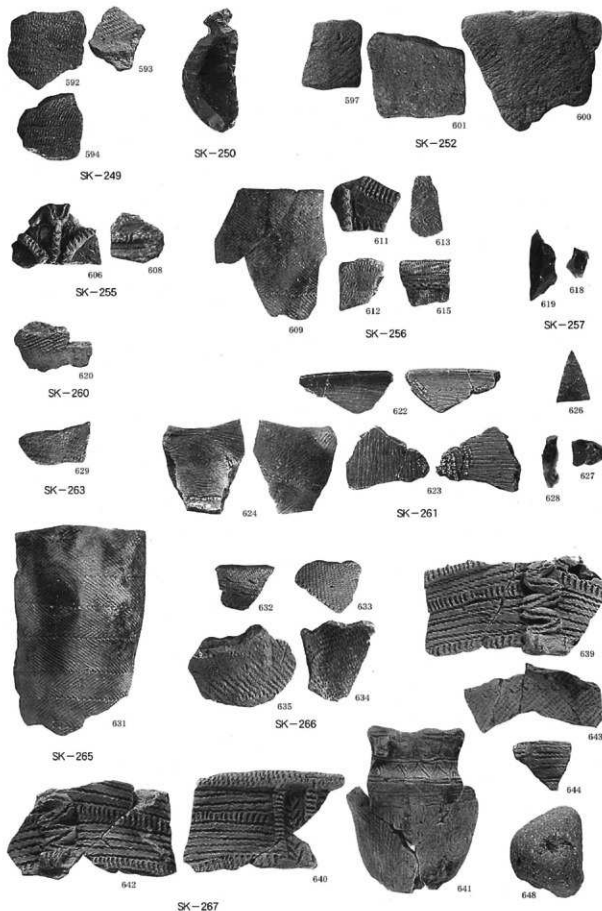


SK-247

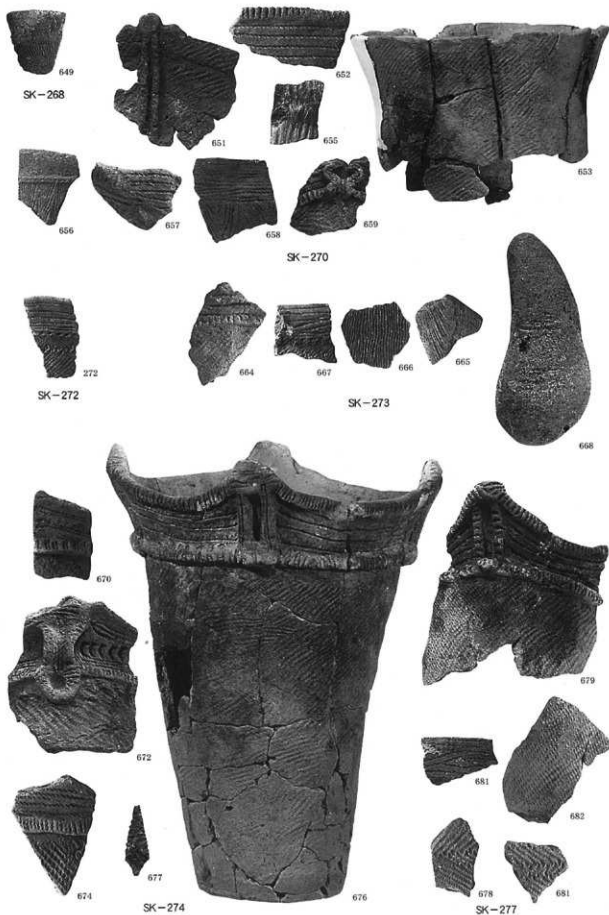
写真図版58 土坑出土遺物(6)



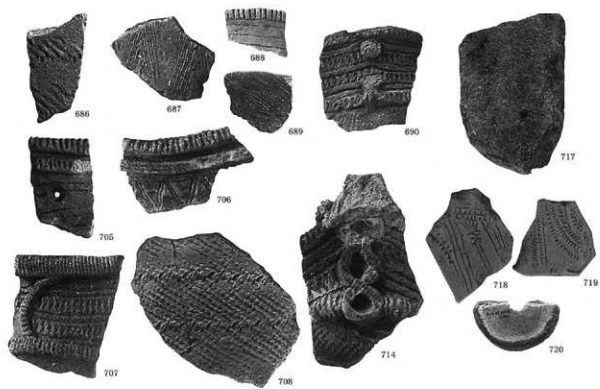
写真图版59 土坑出土遗物(7)



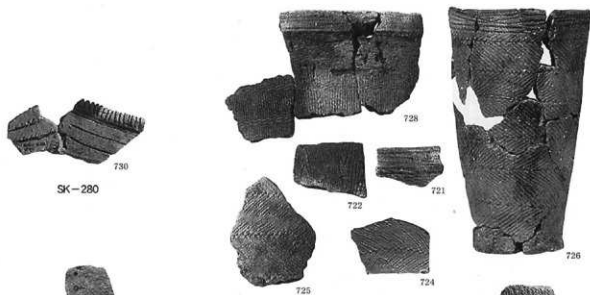
写真図版60 土坑出土遺物(8)



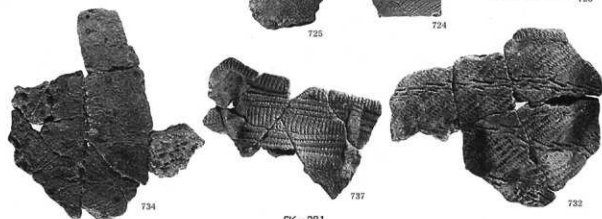
写真図版G1 土坑出土遺物(9)



SK-278

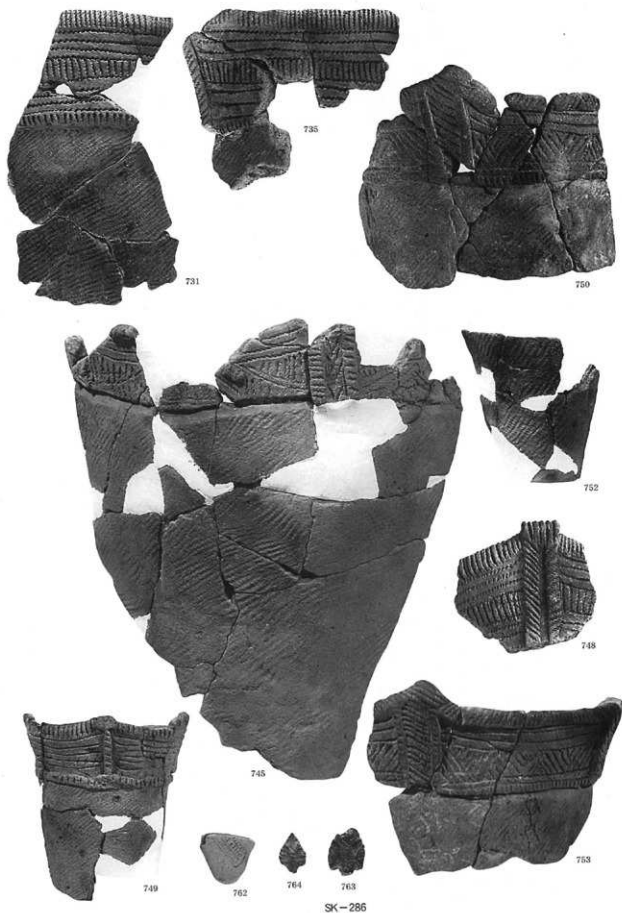


SK-280

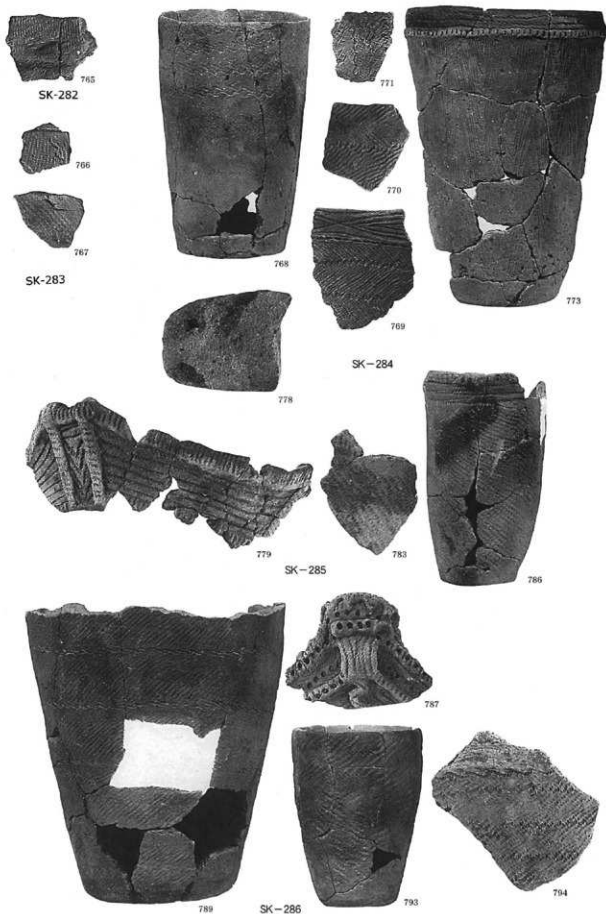


SK-281

写真図版62 土坑出土遺物(10)



写真図版63 土坑出土遺物 (11)



写真図版64 土坑出土遺物(12)

報告書抄録

書名		さきのまわのつこさんいぼ 笹ノ沢(3) 遺跡Ⅲ						
副書名		八戸環状道路建設事業に伴う遺跡発掘調査報告						
シリーズ名		青森県埋蔵文化財調査報告書						
シリーズ番号		第346集						
編著者名		中村 哲也 葛城 和徳 浅田 智晴						
編集機関		青森県埋蔵文化財調査センター						
所在地		〒038-0042 青森市新城市天田内152-15 TEL 017-788-5701 FAX 017-788-5702						
発行年月日		平成15年3月31日						
所収遺跡名	所在地	コード		旧日本測地系 (Tokyo Datum)		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
さきのまわのつこさん 笹ノ沢(3) 遺跡	あおもりけんはちのへし 青森県八戸市 おねあざしろうちまちあざ 大字尻内町字 しもけあしのみず 下毛清水、外	02-203	03-042	40°	141°	000618	4.200㎡	八戸環状道路建設事業に伴う発掘調査
				30′	08′			
				03″	53″	001109		
				日本測地系 2000(GD2000)				
北緯	東経	40°	141°					
				30′	08′			
				03″	53″			
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
さきのまわのつこさん 笹ノ沢(3) 遺跡	集落跡	縄文時代	竪穴住居跡	5軒	土器・石器			
		前期末～中期初頭	フラスコ状土坑	62基	土偶・石製品			
		縄文時代後期以降	埋設土器	11基				
			溝状土坑	6基				
			土坑	12基	土師器			

青森県埋蔵文化財調査報告書第346集

笹ノ沢(3)遺跡Ⅲ

—八戸環状道路建設事業に伴う遺跡発掘調査報告—

発行年月日 平成15年3月28日

発行 青森県教育委員会

〒030-0801 青森市新町二丁目3-1

編集 青森県埋蔵文化財調査センター

〒038-0042 青森市新城字天田内152-15

TEL 017-788-5701 FAX 017-788-5702

印刷 株式会社 サンエイ

〒030-0121 青森市妙見三丁目2-19

TEL 017-738-0040 FAX 017-738-0880



活彩あおもり
— 暮らしの文化 —